

# 立花寺B遺跡 2

—都市高速道路5号線建設に伴う埋蔵文化財調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第702集



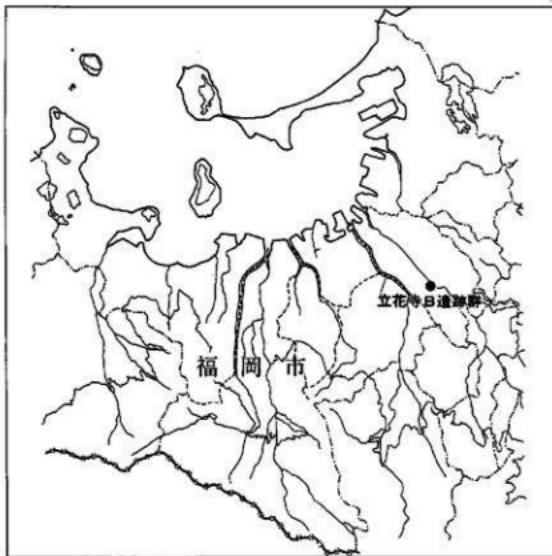
2002

福岡市教育委員会

り ゆ う げ じ  
**立花寺B遺跡 2**

—都市高速道路5号線建設に伴う埋蔵文化財調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第702集



調査番号 9730・9810・9915  
遺跡略称 RGB-4・5・6

2002  
福岡市教育委員会

## 序

古くから大陸文化を受け入れる窓口として栄えてきた福岡市には、数多くの文化財が存在しています。福岡市教育委員会では、開発に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について、事前に発掘調査を実施し、記録による保存に努めているところです。

本書で報告いたします立花寺B遺跡群は、平成4年に発見された遺跡で、平成6年から8年に都市高速道路2号線建設に伴い初めて本格的に調査されました。その結果、東側の丘陵に位置する立花寺遺跡とともに古代の官衙的性格をもった重要な遺跡であることがわかりました。

今回の調査は都市高速道路5号線建設に伴うもので、これまでの成果を裏付けるとともに、福岡市内では数少ない古墳時代の5世紀後半から6世紀はじめにかけての集落が発見されました。当時の生活用具である土師器の壺、甕、椀、高杯や、このころ生産が始まった須恵器が多量に出土しました。それとともに当時の祭祀具であった子持勾玉が5点出土し、当時の人々の精神生活を示す貴重な発見となりました。

本書が市民の皆様の埋蔵文化財に対するご理解を深める一助となりますとともに、学術研究の分野で役立つことができれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査にご協力をいただきました福岡北九州高速道路公社と国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所をはじめとする関係各位の方々には、心から謝意を表します。

平成14年3月5日

福岡市教育委員会

教育長 生田征生

## 例 言

1. 本書は、福岡市博多区西月隈4丁目地内における都市高速道路5号線月隈JCT建設に伴い、福岡市教育委員会が1997(平成9)年から2000(平成12)年にかけて発掘調査を実施した立花寺(りゅうげじ)B遺跡群第4次~6次調査の報告書である。
2. 遺構の呼称は記号化し、柵→SA、掘立柱建物→SB、竪穴住居→SC、溝・河川→SD、井戸→SE、土坑→SK、その他→SX、ピット→SPとした。遺構番号は各調査次ごとに一括して通し番号を付した。6次調査についてはピット以外を種類に関係なく連番とした。
3. 本書に使用した遺構実測図は井上繩子(4次調査)、瀧本正志(5次調査)、井上里織、坂口剛毅、坂本幸子、佐藤信、高木誠、羽方誠、春田城二、藤野雅基、田上勇一郎(6次調査)が作成した。遺物実測図は井上繩子(4次調査)、中村智子(5次調査)、田中壽夫、井上里織、上方高弘、田中克子、西山めぐみ、藤野雅基、田上勇一郎(6次調査)が作成した。また、製図には井上繩子(4次調査)、中村智子(5次調査)、田中克子、西山めぐみ、丸井節子、田上勇一郎(6次調査)があつた。
4. 本書に使用した写真は井上繩子(4次調査)、瀧本正志(5次調査)、上方高弘、田上勇一郎(6次調査)が撮影した。また、6次調査の空中写真を株式会社ダイワと写測エンジニアリング株式会社に委託した。
5. 本書に使用した標高は海拔高である。
6. 本書に使用した方位は磁北である。本地域では真北に対し $6^{\circ} 18'$ 西偏する。
7. 出土した須恵器の編年は中村浩氏の「和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年」(芙蓉書房出版2001)による。陶磁器の分類は「博多出土貿易陶磁分類表」(福岡市高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告IV-博多-福岡市埋蔵文化財調査報告書第105集別冊 福岡市教育委員会1984)による。
8. 本書の執筆はIIを井上繩子、IIIを瀧本正志が行い中間千衣子の協力を得た。IV-5(1)~(4)の自然科学分析は株式会社パレオ・ラボに委託し、IV-5(5)の須恵器の产地推定は三辻利一氏に玉稿をいただいた。その他の執筆と編集は田中克子と西山めぐみの協力を得て田上勇一郎が行なった。
9. 本調査にかかわるすべての遺物・記録類は、福岡市埋蔵文化財センターにおいて、収蔵・公開される予定である。

調査番号	遺跡略号	開発面積	対象面積	調査面積	調査期間
9730	R G B - 4	144m <sup>2</sup>	144m <sup>2</sup>	198m <sup>2</sup>	1997年7月14日~1997年8月2日
9810	R G B - 5	150m <sup>2</sup>	150m <sup>2</sup>	150m <sup>2</sup>	1998年5月7日~1998年5月12日
9915	R G B - 6	21,700m <sup>2</sup>	11,200m <sup>2</sup>	8,074m <sup>2</sup>	1999年4月21日~2000年3月24日

## 目 次

Iはじめに	1
1. 調査にいたる経緯	1
2. 調査の組織	2
3. 調査地点の立地と環境	4
II 4次調査の記録	7
1. 調査の経過	7
2. 遺構と遺物	8
(1) 遺構	8
(2) 遺物	8
3. 小結	9
III 5次調査の記録	14
1. 調査概要	14
2. 遺構	14
3. 遺物	16
4. 小結	16
IV 6次調査の記録	17
1. 調査の経過	17
2. 調査の概要	18
3. 調査地点の層序	19
4. 発見された遺構と遺物	21
(1) A-1区1面・2面	21
(2) A-1区3面	29
(3) A-2区	134
(4) B区1面	147
(5) B区2面	150
(6) C区1面	158
(7) C区2面	162
(8) C区3面	174
5. 自然科学分析	183
(1) 立花寺B遺跡6次調査試料のプラント・オパール	183
(2) 立花寺B遺跡の花粉化石	186
(3) 堆積物中の珪藻化石群集	195
(4) 立花寺B遺跡6次調査の竪穴住居出土炭化材の樹種同定	204
(5) 立花寺B遺跡出土初期須恵器の蛍光X線分析	209
Vまとめ	215

## 挿図目次

Fig. 1	立花寺 B 遺跡群の位置	1	Fig.53	SC27実測図	48
Fig. 2	立花寺 B 遺跡群と周辺の遺跡	4	Fig.54	SC27出土遺物実測図	48
Fig. 3	立花寺 B 遺跡群調査地点位置図	5	Fig.55	SC28実測図	49
Fig. 4	調査区位置図	6	Fig.56	SC28出土遺物実測図	49
Fig. 5	第4次調査地点位置図	7	Fig.57	SC30実測図	51
Fig. 6	調査区造構分布図	9	Fig.58	SC30出土遺物実測図 1	52
Fig. 7	調査区南西壁土礫図	9	Fig.59	SC30出土遺物実測図 2	53
Fig. 8	SD06西側断面土礫図	9	Fig.60	SC31実測図	54
Fig. 9	SD06杭列実測図	10	Fig.61	SC31出土遺物実測図	54
Fig.10	出土遺物実測図 1	11	Fig.62	SC32実測図	55
Fig.11	出土遺物実測図 2	12	Fig.63	SC32出土遺物実測図	56
Fig.12	第1調査区造構分布図	15	Fig.64	SC33・34実測図	57
Fig.13	第2調査区造構分布図	15	Fig.65	SC33・34出土遺物実測図	59
Fig.14	SK01実測図	15	Fig.66	SC36実測図	60
Fig.15	出土遺物実測図	16	Fig.67	SC36出土遺物実測図	61
Fig.16	土層トレンチ配置図	19	Fig.68	SC37実測図	62
Fig.17	トレンチ土層図 1	20	Fig.69	SC37出土遺物実測図	63
Fig.18	トレンチ土層図 2	折り込み	Fig.70	SC38実測図	64
Fig.19	トレンチ土層図 3	折り込み	Fig.71	SC38出土遺物実測図	64
Fig.20	トレンチ土層図 4	折り込み	Fig.72	SC39実測図	65
Fig.21	トレンチ土層図 5	折り込み	Fig.73	SC39出土遺物実測図	66
Fig.22	A - 1 区 1面全体図	22	Fig.74	SC40実測図	67
Fig.23	A - 1 区 2面全体図	折り込み	Fig.75	SC40出土遺物実測図	67
Fig.24	SE02実測図	23	Fig.76	SC41実測図	68
Fig.25	SE07・09実測図	24	Fig.77	SC41出土遺物実測図	70
Fig.26	SE02・09出土遺物実測図	25	Fig.78	SC42実測図	72
Fig.27	SK04実測図	25	Fig.79	SC42出土遺物実測図	73
Fig.28	SK04出土遺物実測図	26	Fig.80	SC43実測図	75
Fig.29	SD03・05・08・10・11・13 出土遺物実測図	26	Fig.81	SC43出土遺物実測図	75
		27	Fig.82	SC44実測図	76
Fig.30	SX12出土遺物実測図	27	Fig.83	SC44出土遺物実測図	77
Fig.31	2面土器集中出土遺物実測図	28	Fig.84	SC45実測図	78
Fig.32	A - 1 区 3面全体図	折り込み	Fig.85	SC45出土遺物実測図	79
Fig.33	SB51・54・55・56実測図	33	Fig.86	SC46実測図	79
Fig.34	SC16実測図	34	Fig.87	SC46出土遺物実測図	80
Fig.35	SC16出土遺物実測図	34	Fig.88	SC49実測図	80
Fig.36	SC17実測図	35	Fig.89	SC49出土遺物実測図	81
Fig.37	SC17出土遺物実測図	36	Fig.90	SC50実測図	82
Fig.38	SC18実測図	36	Fig.91	SC50出土遺物実測図	82
Fig.39	SC19実測図	37	Fig.92	SD14実測図 1	折り込み
Fig.40	SC19出土遺物実測図	37	Fig.93	SD14実測図 2	折り込み
Fig.41	SC20実測図	38	Fig.94	SD14土礫図	折り込み
Fig.42	SC20出土遺物実測図	39	Fig.95	SD14出土遺物実測図 1	88
Fig.43	SC21実測図	39	Fig.96	SD14出土遺物実測図 2	90
Fig.44	SC21出土遺物実測図	40	Fig.97	SD14出土遺物実測図 3	91
Fig.45	SC22実測図	40	Fig.98	SD14出土遺物実測図 4	92
Fig.46	SC22出土遺物実測図	41	Fig.99	SD14出土遺物実測図 5	93
Fig.47	SC24実測図	42	Fig.100	SD14出土遺物実測図 6	95
Fig.48	SC24出土遺物実測図	43	Fig.101	SD14出土遺物実測図 7	96
Fig.49	SC25実測図	44	Fig.102	SD14出土遺物実測図 8	97
Fig.50	SC25出土遺物実測図	45	Fig.103	SD14出土遺物実測図 9	99
Fig.51	SC26実測図	46	Fig.104	SD14出土遺物実測図 10	100
Fig.52	SC26出土遺物実測図	47	Fig.105	SD14出土遺物実測図 11	101

Fig.106 SD14出土遺物実測図	12.....103
Fig.107 SD14出土遺物実測図	13.....104
Fig.108 SD14出土遺物実測図	14.....105
Fig.109 SD14出土遺物実測図	15.....106
Fig.110 SD14出土遺物実測図	16.....107
Fig.111 SD14出土遺物実測図	17.....108
Fig.112 SD14出土遺物実測図	18.....109
Fig.113 SD14出土遺物実測図	19.....111
Fig.114 SD14出土遺物実測図	20.....112
Fig.115 SD14出土遺物実測図	21.....113
Fig.116 SD14出土遺物実測図	22.....114
Fig.117 SD29・47・48・52土層図	115
Fig.118 SD29・52出土遺物実測図	115
Fig.119 SK23実測図	115
Fig.120 SK23出土遺物実測図	115
Fig.121 SX15実測図 1	折り込み
Fig.122 SX15土層図・実測図 2	折り込み
Fig.123 SX15出土遺物実測図 1	117
Fig.124 SX15出土遺物実測図 2	119
Fig.125 SX15出土遺物実測図 3	121
Fig.126 SX15出土遺物実測図 4	122
Fig.127 SX15出土遺物実測図 5	123
Fig.128 SX15出土遺物実測図 6	124
Fig.129 SX15出土遺物実測図 7	125
Fig.130 SX53出土遺物実測図	126
Fig.131 SX53実測図	127
Fig.132 ミニチュア土器・土製小玉実測図	128
Fig.133 滑石製品遺物実測図	129
Fig.134 木製品遺物実測図	131
Fig.135 A-1区遺構外出土遺物実測図 1	.....132
Fig.136 A-1区遺構外出土遺物実測図 2	.....133
Fig.137 A-2区全体図	.....折り込み
Fig.138 SB101出土遺物実測図	.....135
Fig.139 SB101・125実測図	.....136
Fig.140 SB126実測図	.....137
Fig.141 SD115土層図・実測図	.....138
Fig.142 SD115出土遺物実測図 1	.....139
Fig.143 SD115出土遺物実測図 2	.....140
Fig.144 SD115出土遺物実測図 3	.....141
Fig.145 SD115出土遺物実測図 4	.....142
Fig.146 SD104・108・109・113・114 出土遺物実測図	.....145
Fig.147 SK110・118・119出土遺物実測図	.....145
Fig.148 A-2区の他の遺構・ 遺構外出土遺物実測図	.....146
Fig.149 B区1面全体図	.....148
Fig.150 SD203・205・208・209 出土遺物実測図	.....149
Fig.151 SK201出土遺物実測図	.....149
Fig.152 B区2面全体図	.....151
Fig.153 SB245実測図	.....152
Fig.154 SE211実測図	.....152
Fig.155 SE231・232・233・244実測図	.....153
Fig.156 SE244出土遺物実測図	.....154
Fig.157 SK239出土遺物実測図	.....155
Fig.158 SD212・236出土遺物実測図	.....156
Fig.159 SK225・229・230・234・235 出土遺物実測図	.....157
Fig.160 B区遺構外出土遺物実測図	.....157
Fig.161 C区1面全体図	.....159
Fig.162 SD303・327・304・333土層図	.....160
Fig.163 SD303・304・305出土遺物実測図	.....160
Fig.164 SK307出土遺物実測図	.....161
Fig.165 C区2面全体図	.....折り込み
Fig.166 SD321土層図	.....163
Fig.167 SD321出土遺物実測図	.....163
Fig.168 SD327出土遺物実測図	.....164
Fig.169 SE308実測図	.....165
Fig.170 SE308出土遺物実測図	.....166
Fig.171 SK309実測図	.....166
Fig.172 SK309出土遺物実測図	.....167
Fig.173 SK323土層図・実測図	.....168
Fig.174 SK323出土遺物実測図 1	.....169
Fig.175 SK323出土遺物実測図 2	.....170
Fig.176 SD310・311・313・318・320 出土遺物実測図	.....173
Fig.177 SK315・322出土遺物実測図	.....173
Fig.178 C区3面全体図	.....175
Fig.179 SB334・335・337・338実測図	.....177
Fig.180 SB341実測図	.....178
Fig.181 SD340土層図	.....179
Fig.182 SD340出土遺物実測図	.....180
Fig.183 SD333・343出土遺物実測図	.....181
Fig.184 SX342出土遺物実測図	.....182
Fig.185 C区の他の遺構・遺構外 出土遺物実測図	.....182
Fig.186 Cトレントの プラント・オバール分布図	.....184
Fig.187 Cトレント試料の 主要花粉化石分布図	.....190
Fig.188 Lトレント試料の 主要花粉化石分布図	.....191
Fig.189 Pトレント試料の 主要花粉化石分布図	.....191
Fig.190 SD14試料の主要花粉化石分布図	.....192
Fig.191 SD52試料の主要花粉化石分布図	.....192
Fig.192 SD304・333試料の 主要花粉化石分布図	.....193
Fig.193 SD340試料の主要花粉化石分布図	.....193
Fig.194 SD14堆積物中の珪藻化石分布図	.....200
Fig.195 SD52堆積物中の珪藻化石分布図	.....200
Fig.196 SD304・333堆積物中の 珪藻化石分布図	.....201
Fig.197 SD340堆積物中の珪藻化石分布図	.....201
Fig.198 立花寺B遺跡出土初期須恵器の 両分布図	.....212
Fig.199 立花寺B遺跡出土初期須恵器の クラスター分析	.....213
Fig.200 立花寺B遺跡出土初期須恵器の 产地推定	.....213
Fig.201 分析須恵器実測図	.....214

## 写真目次

Ph. 1	調査区全景	13
Ph. 2	SD06	13
Ph. 3	調査区南西壁土層	13
Ph. 4	第1調査区全景	15
Ph. 5	第2調査区全景	15
Ph. 6	SK01	15
Ph. 7	A-1区2面全景	21
Ph. 8	A-1区2面全景	21
Ph. 9	A-1区2面南側	21
Ph.10	SE02	23
Ph.11	SE02	23
Ph.12	SE07	24
Ph.13	SE09	24
Ph.14	SK04	26
Ph.15	A-2区3面全景	29
Ph.16	A-2区3面全景	30
Ph.17	A-2区3面南側	31
Ph.18	A-2区3面南側	31
Ph.19	SB51	32
Ph.20	SC16	34
Ph.21	SC17	35
Ph.22	SC17遺物出土状況	36
Ph.23	SC18	36
Ph.24	SC19	37
Ph.25	SC20	38
Ph.26	SC21	40
Ph.27	SC22	41
Ph.28	SC24	41
Ph.29	SC24カマド	41
Ph.30	SC25	45
Ph.31	SC25遺物出土状況	45
Ph.32	SC25遺物出土状況	45
Ph.33	SP265遺物出土状況	46
Ph.34	SC26	47
Ph.35	SC27	48
Ph.36	SC28	49
Ph.37	SC28遺物出土状況	49
Ph.38	SC30	50
Ph.39	SC30遺物出土状況	50
Ph.40	SC30カマド	50
Ph.41	SC31	54
Ph.42	SC32遺物出土状況	55
Ph.43	SC32	55
Ph.44	SC33・34	58
Ph.45	SC33	58
Ph.46	SC33遺物出土状況	58
Ph.47	SC34遺物出土状況	58
Ph.48	SC34遺物出土状況	58
Ph.49	SC36	61
Ph.50	SC36遺物出土状況	61
Ph.51	SC36遺物出土状況	61
Ph.52	SC37	62
Ph.53	SC38	64
Ph.54	SC39	65
Ph.55	SC40	66
Ph.56	SC41	69
Ph.57	SC41遺物出土状況	69
Ph.58	SC41遺物出土状況	69
Ph.59	SC41遺物出土状況	69
Ph.60	SC42	71
Ph.61	SC42遺物出土状況	71
Ph.62	SC42遺物出土状況	71
Ph.63	SC43	74
Ph.64	SC43遺物出土状況	74
Ph.65	SC44	77
Ph.66	SC44遺物出土状況	77
Ph.67	SC45	78
Ph.68	SC46	80
Ph.69	SC49	81
Ph.70	SC49遺物出土状況	81
Ph.71	SC50	82
Ph.72	SD14調査状況	83
Ph.73	SD14遺物出土状況①	84
Ph.74	SD14遺物出土状況②	84
Ph.75~82	SD14遺物出土状況③~⑩	85
Ph.83~90	SD14遺物出土状況⑪~⑯	86
Ph.91~98	SD14遺物出土状況⑯~㉖	87
Ph.99~102	SX15遺物出土状況①~④	116
Ph.103	SX53	126
Ph.104	SX53遺物出土状況	126
Ph.105	A-2区全景	134
Ph.106	SB101	135
Ph.107	SB125	135
Ph.108	SB126	135
Ph.109	SD115	137
Ph.110	SD115IV区遺物出土状況	137
Ph.111	B区1面全景	147
Ph.112	B区1面全景	147
Ph.113	B区1面全景	147
Ph.114	B区2面全景	150
Ph.115	SE211	152
Ph.116	SE232・233	152
Ph.117	SE233	152
Ph.118	SE231・244	154
Ph.119	SE244井筒	154
Ph.120	SK239	154
Ph.121	C区1面全景	158
Ph.122	SD304	158
Ph.123	C区2面全景	162
Ph.124	SD327	164
Ph.125	SE308	164
Ph.126	SK309	166
Ph.127	SK323	167
Ph.128	SK323遺物出土状況	167
Ph.129	C区3面全景	174
Ph.130	建物群	176
Ph.131	SB334	176
Ph.132	SB335	176
Ph.133	SB337	176
Ph.134	SB338	176
Ph.135	SB341	176
Ph.136	SD340	180
Ph.137	立花寺B遺跡の プラント・オペール	185
Ph.138	立花寺B遺跡の花粉化石	194
Ph.139	堆積物中の珪藻化石顯微鏡写真	202
Ph.140	立花寺B遺跡 6次調査 堅穴住居跡出土炭化材樹種	205
Ph.141	立花寺B遺跡 6次調査 堅穴住居跡出土炭化材樹種	206

# I はじめに

## 1. 調査にいたる経緯

1989（平成元）年から1991（平成3）年にかけて建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所より一般国道202号福岡外環状道路線内の埋蔵文化財事前審査願が福岡市教育委員会埋蔵文化財課（以下、埋文課とする）に提出された。外環状線は福岡市西南部地域の慢性的な交通渋滞緩和のため、博多区立花寺から西区拾六町までの総延長16.2kmで計画されていた。埋文課では用地買収が終了した部分から隨時試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認された地点については記録保存のための発掘調査を行ってきた。

外環状道路の始点である博多区大字立花寺では、都市高速道路2号線建設に伴い1992（平成4）年に試掘調査がおこなわれており、立花寺B遺跡が新たに発見されていた。今回の計画道路用地内が立花寺B遺跡群の範囲にかかるため、埋文課では、1995（平成7）年1月17・18日に試掘調査を実施した。その結果2～4mの客土があり、下層の観察が難しいところもあったが、都市高速2号線寄りの部分にピットや溝、土坑を検出した。また、御笠川寄りの部分では水田面かと思われる面とその下層に包含層が存在することが判明した。

その後、1997（平成9）年3月26日、福岡北九州高速道路公社より埋文課に対して、外環状線と同一地である博多区大字上月隈・立花寺（現西月隈4丁目）地内における都市高速道路ジャンクション建設に伴う埋蔵文化財事前調査願が提出された。外環状線の上を高架で通る都市高速5号線計画のためである。先の試掘成果を受けて福岡北九州高速道路公社と埋蔵文化財課は文化財保護に関する協議

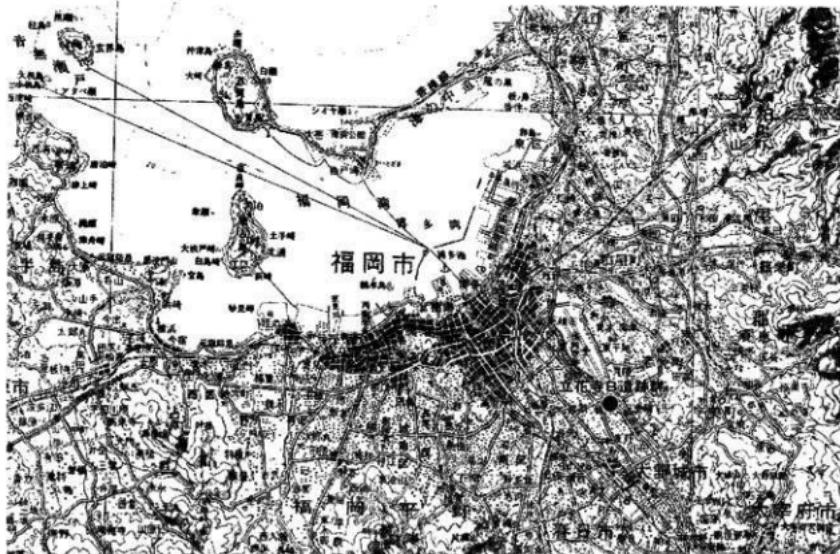


Fig.1 立花寺B遺跡群の位置 (1/200,000)

をもち、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

調査はジャンクション建設に伴い移転するポンプ場について1997（平成9）年7月14日より8月2日まで（4次調査）と1998（平成10）年5月7日より5月21日まで（5次調査）おこなった。続いてジャンクション建設地に対して、1999（平成11）年4月21日より2000（平成12）年3月24日まで（6次調査）実施した。また、整理作業と報告書の刊行は2000年度から2001年度（平成12年度から13年度）におこなった。

## 2. 調査の組織

発掘の調査・整理にあたっての組織は以下の通りである。

調査委託 福岡北九州高速道路公社

建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所（～平成13年度）

国土交通省九州地方整備局福岡国道工事事務所（平成13年度）

調査主体 福岡市教育委員会 教育長 町田英俊（～平成10年度）

西憲一郎（平成11年度）

生田征生（平成12年度～）

調査総括 埋蔵文化財課 課長 荒巻輝勝（～平成9年度）

柳田純孝（平成10年度）

山崎純男（平成11年度～）

第2係長 山口謙治（～平成10年度）

力武卓治（平成11年度～）

調査庶務 埋蔵文化財課第1係 小森彰（平成9年度）

文化財整備課 岩屋（河野）淳美（平成10年度～12年度）

中岳圭（平成13年度）

試掘調査 埋蔵文化財課第2係 山崎龍雄（平成7年度）

埋蔵文化財課第1係 井澤洋一（平成8年度）

### 4次調査

調査担当 埋蔵文化財課第2係 井上繭子

調査作業 秋山温 伊藤美伸 高着一夫 志堂寺堂 柴田博 林厚子 吹春憲治 薩原直子

前山政義 森本良樹 萬スミヨ

整理作業 穴井加菜子 大賀順子 坂井かおり 佐々木涼子 藤信子 山口とし子

### 5次調査

調査担当 埋蔵文化財課第2係 薩本正志

調査作業 甲斐康完 河野一一 酒井次憲 真田弘二 世利陽子 豊丸秀仁 別府俊美 吉田博昭  
渡辺淑子

整理作業 上野裕子 末次由紀恵 長浦美美子 中間千衣子 中村智子 持原良子 山野祥子

## 6次調査

調査担当 埋蔵文化財課調査第2係 田上勇一郎  
調査補助 井上里織 坂本幸子 佐藤信 高木誠 羽方誠 春田城二 藤野雅基  
調査作業 青木史彦 浅井伸一 阿部幸子 荒牧幸子 荒牧テルオ 有田恵子 安藤峰正 池田省三  
石井雅之 石川洋子 石丸大輔 泉本たみこ 井上利弘 井上直幸 井上英子 井料国彦  
岩崎良隆 上野龍夫 植松雅子 浦伸英 江嶋光子 大浦成子 大賀一 大塙皓  
大嶋健司 大橋由美子 岡部静江 小川秀雄 萩野雅徳 萩原陽太 奥田弘子 小野千佳  
甲斐正耕 金子健太郎 金子二三枝 上方高弘 川上藤幸 河野一一 川村昭二  
唐島栄子 北川貴洋 北原由紀子 木村文子 草場恵子 倉掛正一 黒瀬千鶴 幸田信乃  
香田信子 古賀典子 古賀義博 小島キサエ 後藤源助 後藤タミ子 米田理恵子  
斎藤博文 酒井次彌 坂口剛毅 坂下達男 佐藤アイ子 真田弘二 篠崎伝三郎  
嶋ヒサ子 世利陽子 副田澄子 園田豊 薭部保寿 大長正弘 高崎秀巳 高手よし子  
高野瑛子 田崎アヤ子 武田潤子 立山清二 田中茂孝 田中トミ子 田中フキ子  
谷英二 谷正則 田上智雄 塚本よし子 堤正了 寺園恵美子 薮重治 徳永栄彦  
徳永静雄 徳守広宣 豊田厚子 豊丸秀仁 中尾良藏 永田八重子 永田律子 中野裕子  
中野雄策 中村桂子 中村尚美 夏秋弘子 鍋山治子 西田文子 二宮白人 布江孝子  
野口リュウ子 野口りん平 野村道夫 平野美紀 廣田安平 吹春哲男 福嶋大  
福田吉伸 福場真由美 別府俊美 北条こず江 前田勉 前山政義 松井一美  
宮川ヤエ子 宮崎雅秀 宗像正勝 村井藤衣 室英二 持丸玲子 森田祐子 森本勇夫  
森山恭助 森山タツ江 安田光代 安高精一 山下智子 山田政治 吉住政光 吉田一寛  
吉田恭子 吉田博昭 吉田浩之 吉田米男 吉村智子 渡辺淑子  
整理補助 井上里織 上方高弘 田中克子 西山めぐみ 藤野雅基  
整理作業 尾崎君枝 加集和子 木村良子 清永啓子 丸井節子 山本良子

その他、発掘調査にいたるまでの様々な条件整備、調査中の調整などについて福岡北九州高速道路公社、建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所（現国土交通省九州地方整備局福岡国道工事事務所）、施工の鹿島・太平建設工事共同企業体都市高速月隈JCT下部工工事事務所をはじめとする皆様には多大なご理解とご協力をいただき、調査が円滑に進行し、無事終了することができた。また、資料整理については中村勝氏にご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。

### 3. 調査地点の立地と環境

牛頸・四王寺山地に端を発する御笠川は福岡平野の東部を北流して博多湾に流れいく。立花寺B遺跡群はこの御笠川により形成された沖積地の東岸に立地している。東側には三郡山地より派生する月隈丘陵が北西方向に伸びており、福岡平野を画している。

立花寺B遺跡群は御笠川東岸沿いの北西-南東方向に細長い範囲を占め、長軸800m、短軸300mを測る。北北西に流れる御笠川の流路が西に折れ曲がっており、この部分が微高地であることを物語っている。周辺では月隈丘陵上の遺跡は古くから知られていたが、沖積平野部の遺跡はほとんど知られていなかった。しかし、近年、福岡空港とその周辺の整備が進められ、雀居遺跡や下月隈C遺跡など、これまで知られていなかった遺跡が存在することが明らかになった。立花寺B遺跡も都市高速道路2号線建設に先立つ試掘調査によって1992年に発見された遺跡である。

まず、周辺の遺跡を平野部からみていく。立花寺B遺跡の北側に接して下月隈C遺跡が存在する。近年の調査で弥生時代前期・後期の集落が微高地上に広がることがわかつた。旧河川から弥生時

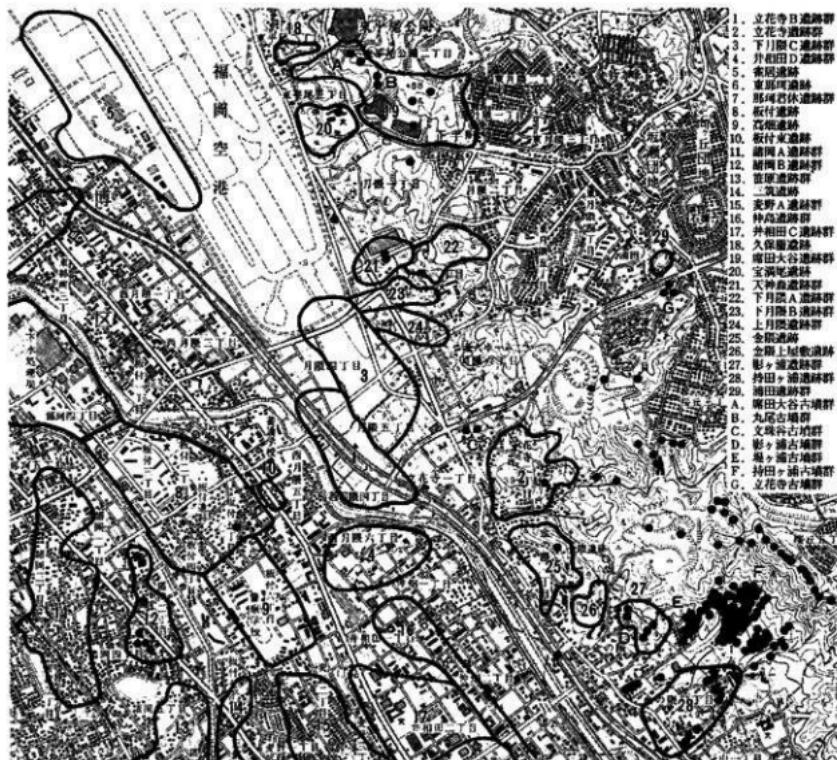


Fig.2 立花寺B遺跡群と周辺の遺跡（1/25,000）

代後期の建築部材が多数出土している。古墳時代以降はおもに水田として利用されていた。古代の水田は条里の方向とほぼ一致している。北方2kmには雀居遺跡がある。弥生時代前期、中期～後期、古墳時代前期、古代の集落と古代の水田が調査された。弥生時代後期の集落は環濠を持っており、環濠からは多量の土器とともに木製の短甲、桶、沓、組み合わせ式の机などが出土している。古代の遺構からは木簡や墨書き土器が出土している。御笠川の対岸には井相田D遺跡がある。古代から中世の水田が調査された。また、绳文時代と考えられる埋没林が発見されている。

続いて月隈丘陵上の遺跡に目を転じると、立花寺B遺跡東方800mには立花寺遺跡がある。奈良時代から平安時代前期の掘立柱建物群が大規模な造成地の上につくられている。越州窯系青磁や邢窯系白磁、綠釉陶器、瓦などが出土しており、官衙的施設の存在が考えられている。古代の「篠田駅」に関連する施設ではないかと想定されている。その南には弥生時代墓塚墓地として著名な金隈遺跡がある。更に南東の丘陵中には影ヶ浦古墳群、堤ヶ浦古墳群、持田ヶ浦古墳群といった古墳時代後期の群集墳が存在する。

古墳時代中期の山墳は立花寺B遺跡より北東から東の丘陵上にある。貝花尾1、2号墳、天神森1、

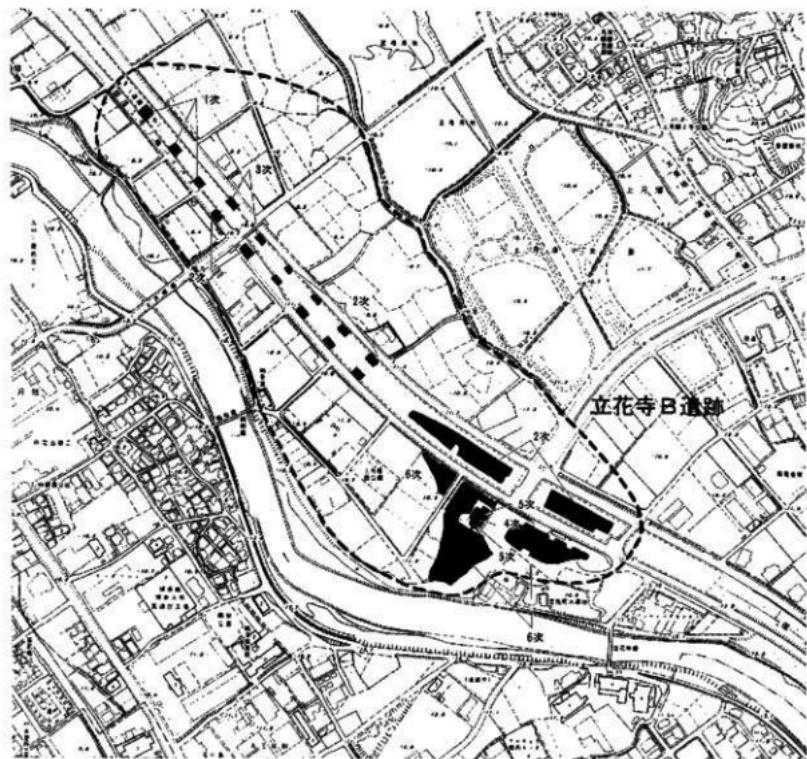


Fig.3 立花寺B遺跡群調査地点位置図 (1/6,000)

2号墳、立花寺1号墳などがあるが後期古墳と違い群集していない。この周囲の丘陵は弥生時代の墳墓が多く検出されている。上月隈遺跡や下月隈B遺跡、宝満尾遺跡で要棺墓、天神森遺跡で木棺墓が調査された。上月隈遺跡では中細形銅劍、宝満尾遺跡では異体字銘帶鏡といった青銅器の副葬がみられる。墳墓以外では久保園遺跡で弥生時代中期後半の大形掘立柱建物、席田大谷遺跡（赤穂浦遺跡）で銅鐸鉄型などが発見されている。

さて、立花寺B遺跡ではこれまで都市高速道路2号線建設に伴う調査が3次にわたって調査されている。ちょうど遺跡の中央を縦断する形で調査が行われたが、北西部については高速道路の橋脚部分しか調査が行われていない。調査の結果、古代から中世にかけて建物、井戸、土坑、土壙墓、溝などが検出され、多数の土器、陶磁器が出上した。越州窯系青磁や白磁、綠釉陶器などがまとめた量出土し、何らかの官衙的施設の存在が想定された。同時期の官衙的性格の立花寺遺跡との関係も指摘されている。また、9世紀後半～10世紀の造構群が遺跡の中央部、12～14世紀の造構群が遺跡の南半部に集中することが判明している。

今回の調査地点は立花寺B遺跡群の最南部にあたり、御笠川に接する部分から200m程離れた部分にかけてである。近年盛り土がなされており、調査前の標高は11～12.5mである。盛り土がなされる以前の標高は10～10.5mであった。

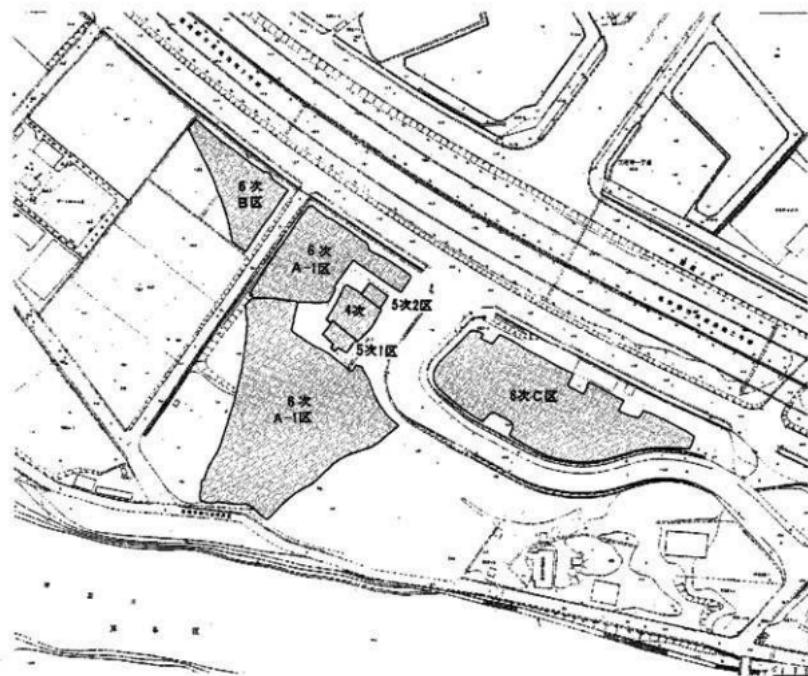


Fig.4 調査区位置図 (1/2,000)

## II 4次調査の記録

### 1. 調査の経過

4次調査の調査区は、立花寺B遺跡群の南西、御笠川が西に屈曲する地点の東側に立地する。都市高速道路月隈ジャンクション建設に伴い移転するポンプ場建設のための事前調査である。現標高は盛土がなされ、11.7m程を測る。調査対象面積は144m<sup>2</sup>であるが、遺構面まで深く、法をつけて掘削したため、掘削上面での面積は198m<sup>2</sup>となった。

遺構面は、旧耕作土から約70cm下、標高約9.6mの赤みを帯びた灰褐色粘質土層である。上面に弥生時代～中世の遺物を含む包含層が堆積していた。

調査は、1997年7月14日、バックホーによる表土剥ぎから開始した。盛土の下は現代の耕作土層、赤みを帯びた灰褐色砂質土層が堆積しており、これを除去すると弥生時代～中世の遺物を含む砂粒、小石混じりの暗赤褐色土層となる。この包含層の上面で止め、人力により包含層を除去した。包含層の下面は赤みを帯びた灰褐色粘質土層で、遺構が検出された。後に埋め戻しの際重機によりトレッセを入れたところ、約1m下で灰褐色砂質土層となり水が湧いてきた。遺構は少ない。遺構検出・掘削の後に写真撮影、遺構実測を行い、1997年8月1日に撤収し、2日に埋め戻しおこない、調査を終了した。

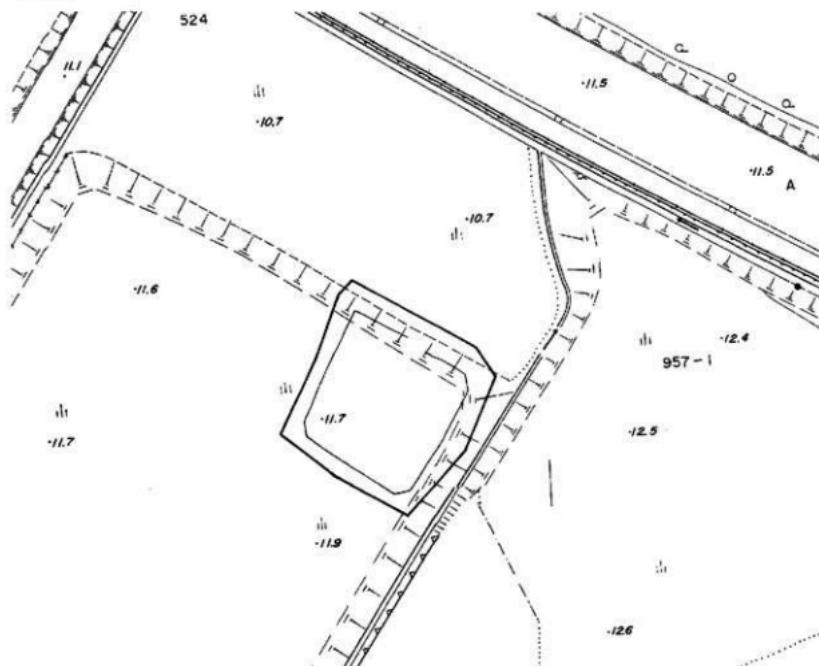


Fig.5 第4次調査地点位置図 (1/500)

## 2. 遺構と遺物

遺構は少なく、ピットと河川が一条検出された。遺物は河川や、遺構面上層の包含層から出土している。

### (1) 遺構

#### SD06 (Fig. 6・9・Ph. 2)

調査区北西壁付近に位置し、壁に切られる。ほぼ西→東方向で走る。河川の南側の肩のみが検出されたが、東側はどう伸びるか不明であった。河川の流れに平行するように杭列が並んでいた。杭はある程度規則的に打ち込まれていたがその機能やSD06との関係は不明である。

### (2) 遺物

#### ①SD06出土遺物 (Fig. 10)

1~7は須恵器である。1、2は蓋である。1は口縁端部をやや丸く仕上げる。復元口径は14.0cmを測り、青灰色を呈する。2は口縁部にかえりのついた器形で、復元口径は13.0cmを測り、回転ナデと回転ヘラケズリで仕上げられ、やや背みを帯びた灰褐色を呈する。7世紀後半頃か。3は小型長頸壺の底部付近であろう。底径は7.3cm、底面はヘラ切りで内外面はナデで仕上げられる。胎土には金雲母を含み、外面に自然釉がかかり、淡青灰色を呈する。9世紀頃であろうか。4~7は壺の胸部であろう。4、5は内面に青海波の当て具痕、6、7は条痕が、5、6は外面に布目状のタタキ痕、4は平行条痕、7は格子目状のタタキ痕が、それぞれ残る。4は胎土に金雲母を含み、暗青灰色を呈する。5は胎土に金雲母を含み、暗青灰色~灰褐色を呈する。6は灰褐色~黄褐色を呈する。7は胎土に金雲母を含み黄褐色を呈する。

8、9は黒色土器の碗である。8は両黒土器で、口縁部のみの残存である。復元口径16.0cmを測り、内外面にミガキが施される。9は内黒土器で、底部のみの残存である。底径7.3cmを測り、高台はやや高めで胴部と底部の境目に外反してつく。外面は淡黄褐色を呈する。いずれも10世紀代であろう。10、11は土師器である。10は壺の口縁部である。口縁部内面にはヨコハケが施され、胎土には金雲母を含む。11は土師皿で底径は7.0cmを測り、胎土には金雲母を含む。底面は回転ヘラケズリのあと板状圧痕がつき、黄褐色~赤褐色を呈する。12は白磁の碗である。復元口径は14.0cmを測り、口縁端部はややくぼませて仕上げ、口縁部はほぼまっすぐに開く。淡灰白色を呈する。12世紀頃であろうか。13は滑石製石鍋の口縁部である。内面は刃渡りの広いのみで成形され、外面は刃渡りの狭いのみで削り出し、成形される。復元口径は25cmを測る。15、16は平瓦である。15はナデ調整で、内面に格子目状のタタキ痕が残る。16はナデ調整で、外面に格子目状のタタキ痕らしきものが残る。

#### ②包含層出土遺物 (Fig. 11)

16~25は須恵器である。16~18は壺の底部である。16は断面逆台形の高台が胴部と底部の境目にやや開き気味につく。復元底径は10.0cmで、外面はにぶい赤褐色、内面は灰褐色を呈する。17は胴部と底部の境目にやや開き気味に高台がつく。復元底径は10.0cmで、淡灰褐色を呈する。18は断面逆台形の高台が底部のやや内側につく。器壁は開き気味に立ち上がる。復元底径は8.0cmで、外面灰褐色、内面赤褐色を呈する。19は蓋の一部である。かえりがつく。灰褐色~暗灰褐色を呈する。以上はいずれも8世紀初頭頃であろう。20~25は壺の胴部であろう。20~22、24は内面に青海波の当て具痕、外面には繩目状ないし網目状のタタキ痕がつく。23は内外面ともに条痕、25は内面に条痕、外面に網状痕が残る。20は頸部付近で、外面青灰色、内面黄褐色を、21は青灰色を、22は外面赤褐色、内面黄褐色を、23は青灰色、24は外面淡赤褐色、内面黄褐色、25は灰褐色~青灰色を呈する。

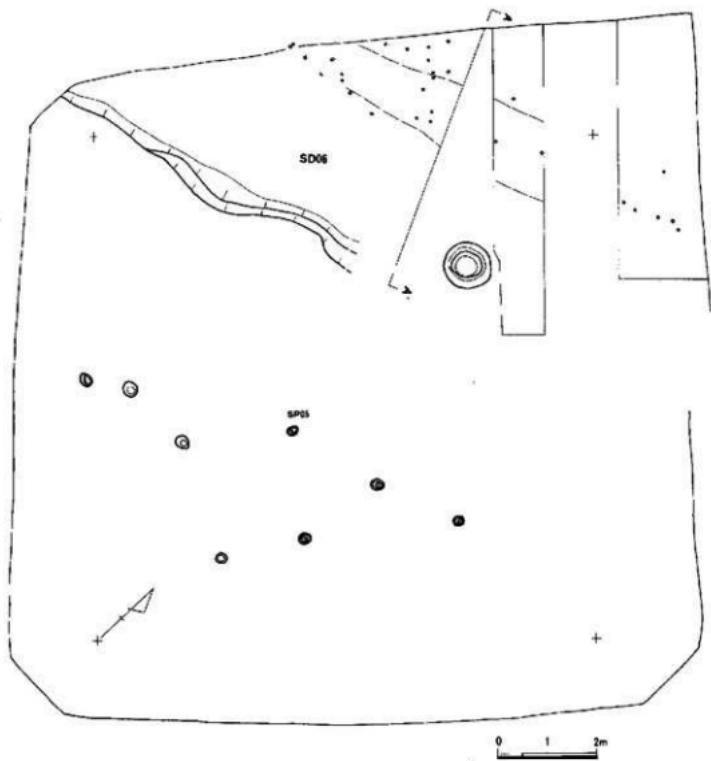


Fig.6 調査区遺構分布図 (1/100)



Fig.7 調査区南西壁土層図 (1/100)



Fig.8 SD06西側断面土層図 (1/50)

26~28は白磁碗である。26、27は断面三角形の口縁部を呈し、各々淡灰白色、淡灰褐色を呈する。26は復元口径18.0cm、27は14.0cmを測る。28は底部である。底面が幅広の低めの高台がつき、底面は露胎となり、内面には施釉される。復元底径6.0cmを測る。29~33は青磁である。29は碗の口縁部である。口縁端部は薄く仕上げ、やや凹凸を作る。内面には片切彫りや柳描による施文がなされ、オリーブ色の釉がかかる。同安窯系であろう。30~32は碗の底部である。30は、底部に上底の高台がつき、内面に灰緑色の釉が施される。残存部分の外表面は露胎となる。復元底径5.4cmを測る。31は平底の高台がつき、底面はカキ取りによる露胎となる。内外面には淡緑色の釉が施される。復元底径4.7cmを測る。32は断面三角形の高台がつき、内面にのみオリーブ色の釉が施される。復元底径は7.0cmを測る。33は平底皿である。復元口径は12.0cmで、内外面ともにオリーブ色の釉が施される。片切彫りによる文様が一部見られる。おそらく龍泉窯系と思われる。34は瓶の把手である。残存部分は9.0cmで、断面の長径は3.2cmである。35は平瓦である。内面に布目状タタキ痕が見られる。

### 3. 小 結

本調査区の北側には第2次調査地点A II区が位置する。この地点では、9世紀後半~10世紀前半、12~14世紀の遺構が多く検出され、当該期の集落が形成されていたとしている。本調査区ではわずかなピットと河川のみの検出であったが、出土遺物を見てみると、ほぼこれらの時期に対応するようである。河川出土の遺物では、須恵器で若干古墳時代にさかのぼるもののがみられるものの、9世紀代と思われる須恵器の長頸壺や10世紀代と思われる黒色土器、12世紀頃の白磁碗や石鍋などが検出された。また、遺構面上層の包含層からは、8世紀頃の須恵器の蓋坏や、12世紀代の白磁や青磁などが出土している。このことから、本調査区は、第2次調査地点A II区で検出された集落の一端ではあるものの、旧河川により近く、氾濫源となっていた地点であったと推定される。

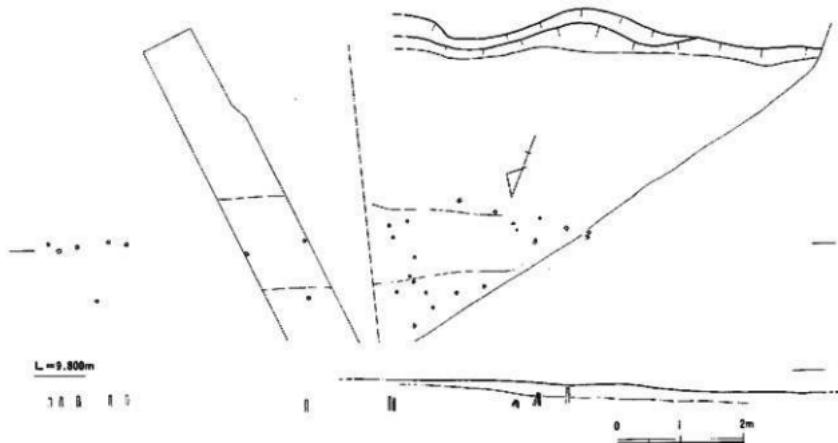


Fig.9 S D06杭列実測図 (1/80)

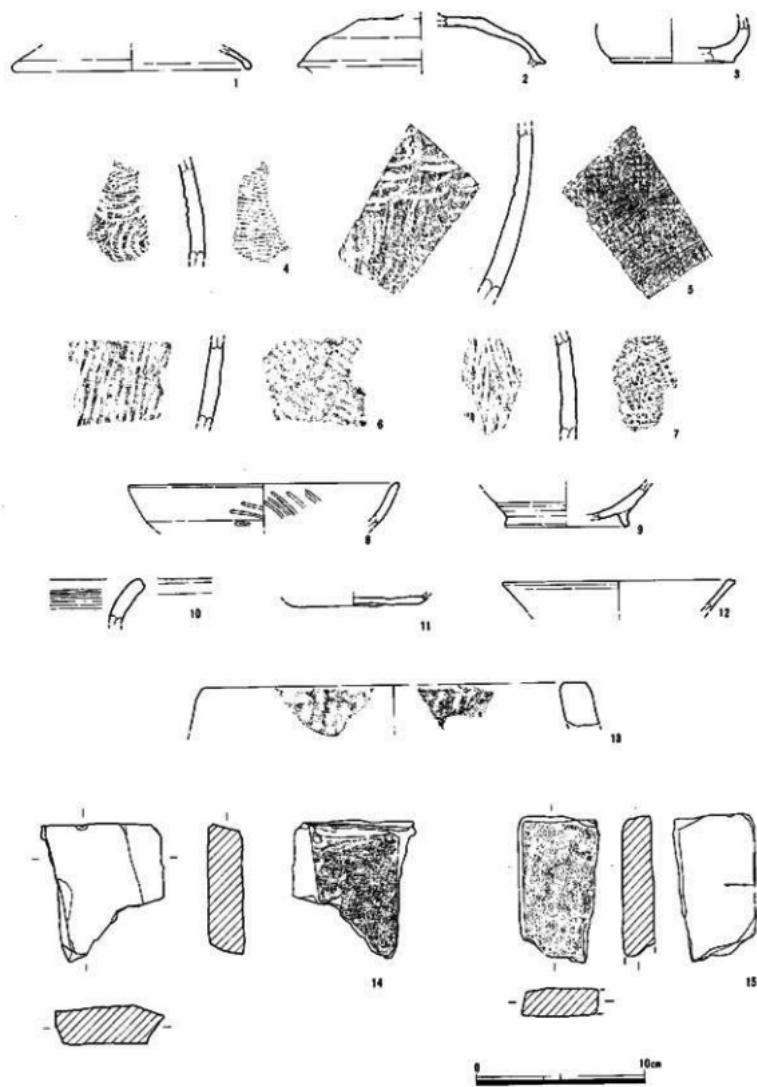


Fig.10 出土遺物実測図 1 (1/3)

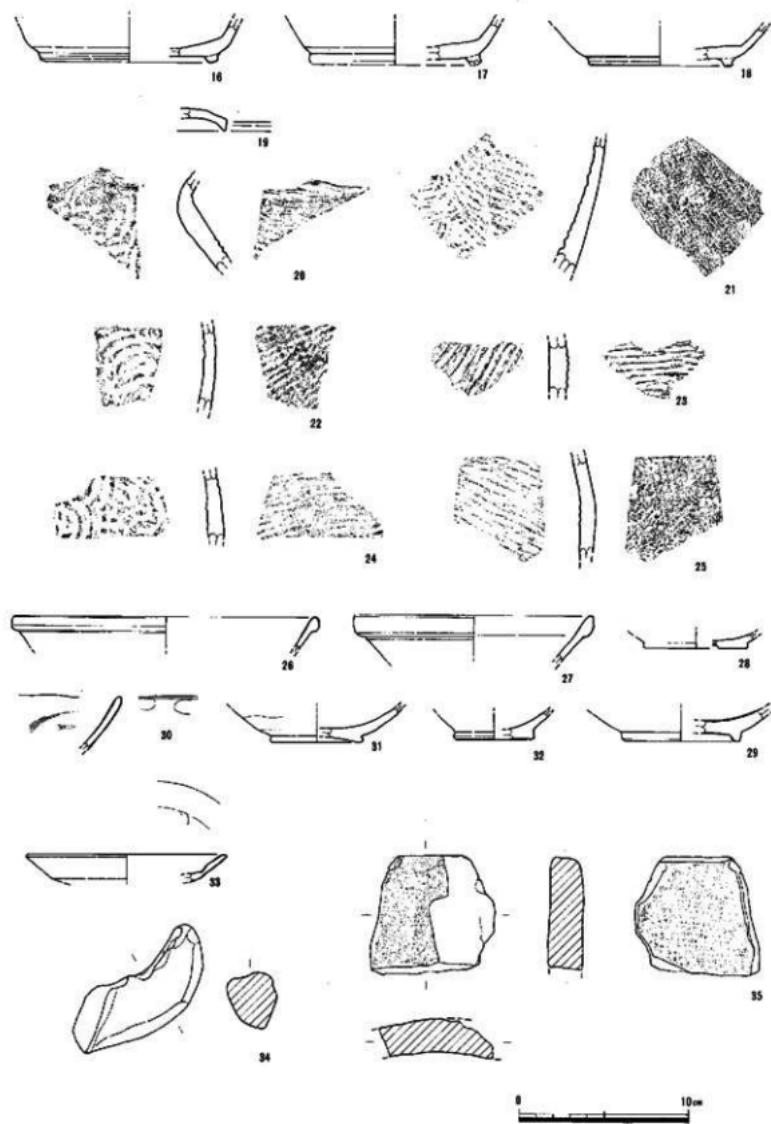
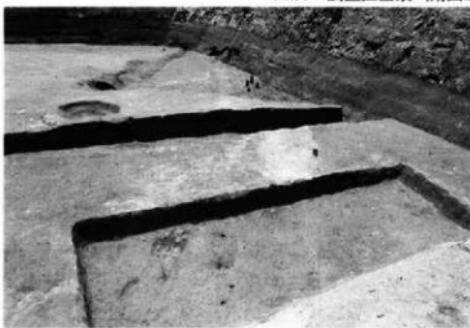


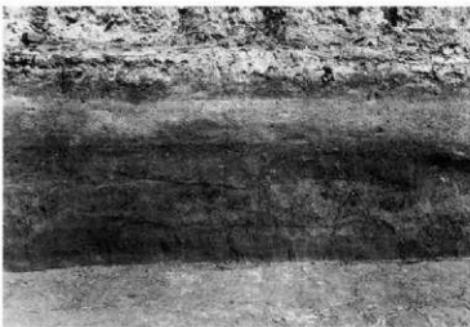
Fig.11 出土遺物実測図 2 (1/3)



Ph.1 調査区全景（南西から）



Ph.2 S D06  
(北東から)



Ph.3 調査区南西壁土層  
(北東から)

### III 5次調査の記録

#### 1. 調査概要

第5次調査地は、工事の関係からFig.4に示すように第4次調査地の西辺に接する第1調査区と東辺に接する第2調査区の2か所からなる。調査は平成10年5月7日に着手し、同月12日に終了した。

調査地における土層の基本的層序は、地表からマサ土の盛り土、旧耕作土、旧床土、暗青灰色～暗灰色砂質土、暗茶灰色粘性砂質土、茶灰色粘性砂質土である。各土層がほぼ水平に堆積し、その性質がシルト質であることから、調査地を含む周辺地域は御笠川の氾濫により地形形成されたと理解するのが妥当であろう。

遺構検出面は地表下1.8mに位置し、標高9.5mを測る茶灰色粘性砂質土層面である。検出した遺構は、杭列と土壤状遺構である。本調査地に挟まれる第4次調査においても顕著な遺構は認められてはいないことから、本調査においても遺構の希薄度はある程度は予想されていた。

出土遺物の大半は、遺構検出面である茶灰色粘性砂質土層の直上層である暗茶灰色粘性砂質土層から出土している。遺物の年代は、古代から中世に比定されるものである。この遺物包含層である暗茶灰色粘性砂質土層は、第2調査区では認められず、第1調査区においてもその場所によって層厚に差がある。このことから、調査地および周辺地においては、中世以降に削平がおこなわれていることを知る。

#### 2. 遺構

##### (1) 第1調査区

第1調査区で検出した遺構は、土壤状遺構SK01と杭列SX02である。

土壤状遺構SK01は調査区の南辺中央部に位置する。調査当初には遺構の一部だけが認められたため、調査区を拡張して全体を検出した。平面形は長径1.5m、短径1.1mを測る楕円形を呈し、残存する深さは0.9mを測る。断面形は裾広がりの逆釣り鐘形を呈し、底面は狭い丸底である。壁面は下半部が垂直的に立ち上がるのに対して、上半部はやや外反しながら直線的に立ち上がる。遺構の覆土には、中央部と底面近くで黒色灰層が認められる。この灰層は植物の灰である。同様な事例は、本調査地の北50mで実施された立花寺B遺跡第2次調査のA-II調査区においても数例が認められた。灰を覆土の一部とする土壤状遺構の規模および灰の堆積状況も極めて似ている。

覆土からは黒色土器碗、土師器碗・坏の破片が10点出土している。

杭列SX02は、径10cm前後を測る二列の杭跡で、調査区中央部を北東方向から南西方向に直線的に継続するようである。杭列の幅は30cm前後、杭間の距離は30cm～50cmを測る。杭の方向は真北に対して西に約79°偏するが、この値は調査地近くの下月隈C遺跡第4、5次調査で検出された古代水田の畦畔方向が真北に対して西に約35°偏する値と大きく異なる。下月隈C遺跡第4、5次調査で検出された水田の畦畔が古代条理に結びつくと考えられていることから、今回検出した杭列の年代は、中世以降もしくは極めて新しい時期が想定される。

##### (2) 第2調査区

第2調査区での土層状況は、砂質土を中心とした土砂が水平堆積するものの、第1調査区とは異なり、暗茶灰色粘性砂質土層は認められない。調査地の大半は擾乱を受けしており、遺構は認められない。擾乱の全てが現代期のものであることを投棄されていたタイヤなどから知る。遺物は、擾乱の土壤などから青磁碗、白磁碗、陶器壺、土師器壺、平瓦の破片が出土している。

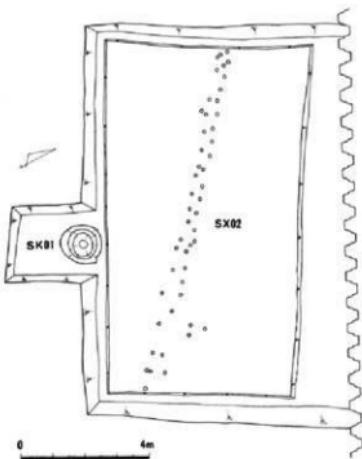


Fig.12 第1調査区遺構分布図（1／150）



Ph.4 第1調査区全景（西から）



Ph.5 第2調査区全景（西から）

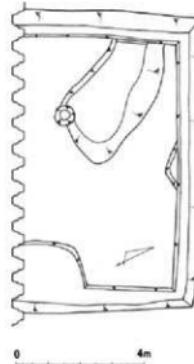


Fig.13 第2調査区遺構分布図（1／150）

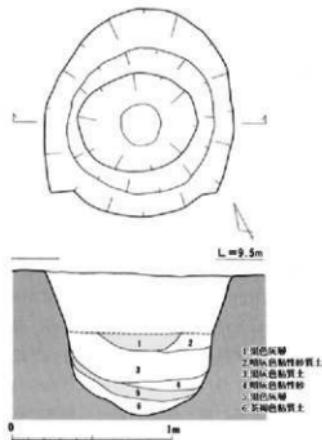


Fig.14 SK01実測図（1／30）



Ph.6 SK01（南から）

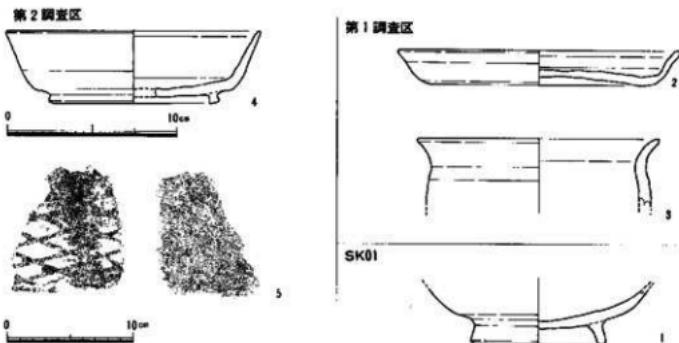


Fig. 15 出土遺物実測図 (1/3・1/4)

### 3. 遺 物

遺物は、出土総量がコンテナ箱に半分弱と少なく、大半が遺構検出面の直上層である暗茶灰色砂質土層から出土している。また、2か所の調査区別の出土比較では、第1調査区からの出土量が大半を占める。内容的には須恵器壺・蓋・皿・甕、土師器碗・小皿・甕、黒色土器碗・青磁碗、白磁碗、滑石製石鍋、平瓦である。

第1調査区からは、須恵器壺・蓋・皿・甕、土師器碗・小皿・甕、黒色土器碗・青磁碗、滑石製石鍋等が遺物包含層と土壤状遺構SK01から出土している。1はSK01出土の黒色土器の碗である。口縁部を欠失するが、高台径8cmを測る。胎土は灰白色を呈し緻密である。内面には密にヘラ磨きが施され、見込み部分には「×」がヘラ磨き後に線刻されている。2は須恵器の壺で、口径16.4cm、底径13.5cm、器高2.1cmを測る。胎土は僅かに1mmほどの砂粒を含むものの緻密で、暗青灰色を呈する。口縁は外反しながら直線的に立ち上がり、端部は横ナデ調整により丸みを持つ。底部外周はヘラ切り離しの後にナデ調整をしている。3は土師器の甕で、口径14cmを測るが胴部と底部とを欠く。口縁は「く」の字に外反し、口縁端部は丸みを持つ。胎土は僅かに1mmほどの砂粒を含むものの緻密で、暗褐色を呈する。滑石製の石鍋は口縁部の破片である。

第2調査区からは青磁碗、白磁碗、陶器壺、土師器甕、平瓦が出土している。4は須恵器の壺で、口径15cm、高台径10cm、器高4.3cmを測る。胎土は緻密で暗青灰色を呈する。口縁は外反しながら直線的に立ち上がり、端部は横ナデ調整により丸みを持つ。高台は付け高台。5は平瓦で凸面に斜格子叩き目を凹面には布目をそれぞれ残す。

### 4. 小 結

今回の調査では古代から中世における遺物と中世の遺構を検出した。調査地周辺におけるこれまでの調査成果から、中世の集落が調査地まで廻開していたと考えられる。しかしながら、その存続期間は短いことが出土遺物から知ることができる。しかしながら、集落の規模や性格は不明であることから、今後の周辺地における調査成果を行って検討したい。

## IV 6次調査の記録

### 1. 調査の経過

6次調査の対象地は都市高速道路5号線から2号線へ接続するジャンクション部分で、対象地は約10,000m<sup>2</sup>であるが、間に既存の道路を挟むため、3区に分割して調査を行うこととなった。5号線へ向かう部分をA区、5号線から2号線の上り方面へ分岐する方をB区、下り方面へ分岐する方をC区とした。そのうちA区はポンプ場からのパイプが西へ伸びているため、更に2分割して南側をA-1区、北側をA-2区として調査した。調査は4月から10月までの7ヶ月で、A-1区を6月半ばまでに、A-2区を6月半ばから7月に、B区を8月、C区を9月から10月に調査する予定を立てた。調査区にはこれまで産業廃棄物が埋め込まれていたので事前に汚染土壌の持ち出しと処理を施工業者が行うことになった。

調査はA-1区から着手した。厚さ2m程の汚染土壌を取り除くと旧水田面が現れる。この作業がある程度進行した1999年4月21日バックホーによる遺構面までの掘削を開始した。施工業者が掘削した法面下端から更に1m程の引きをとって掘削を行った。南側から、試掘で水田と想定された面を広げ始めたが、北側で、これより上の面で溝と杭列を検出したので、残っていた半分ほどはこの上の面で掘削をやめ、第1面の調査を行うことにした。5月10日より作業員が入り本格的に調査が開始された。まず第1面の遺構検出を試みたが、最初に発見された溝1条と杭列以外発見されなかつたため、再びバックホーにより、水田面まで下げ、第2面として調査を行った。第2面水田面の残りは悪く、明瞭な水田造構は検出できなかつたが、この面で、井戸、溝、土坑を検出することができた。

A-1区は遺構が予想以上に少なく、時間がかかりそうにないと予想されたため、A-1区と並行して5月17日には予定を変更してB区の表土除去を開始した。B区は産業廃棄物がなく、遺構面まで浅かった。表土は産業廃棄物除去後のA-2区へ置いた。B区も遺構が少なく、統いてA-2区を東側より遺構面の検出に入った。A-1区の調査終了後にA-2区とB区の廃土をA-1区へ移動させる予定であった。ここまで予想以上に順調に作業が進んでいた。

しかし、B区では、2ヶ所の試掘トレンドで検出していた遺構面が同一ではなく、更に下層に遺構があることがわかつた。そのころA-1区でも、旧河川を一部深掘りした部分から土器が多量に出土し始めていた。このためA-1区の調査終了は6月半ばとしていたが、7月末までの延長を5月27日に了承してもらった。B区第1面は5月26日に全景写真を撮影し、第2面の調査へすすんだ。同時並行のA-1区も6月1日には全景写真を撮り、とりあえず第2面の調査を終了させた。6月4日よりB区とA-2区の廃土をA-1区へ移動を開始した。しかしA-1区で下層から土器が出土するため、並行して土層確認のトレンドを西壁際に4ヶ所設けた。その内の1ヶ所のBトレンドから土器が多量に出土することがわかり、A-1区では旧河川と性格不明の土器だまりがあり、更にもう少しの調査が必要であることがわかつた。廃土をA-1区の北側に集め、A-2区とB区第2面とA-1区第3面の3ヶ所を同時に調査することになってしまった。

再びA-1区にバックホーを入れ、Bトレンド周囲を掘り始めると、土器だまりの南側から竪穴住居が検出され始めた。更に広げていくと全域に竪穴住居が広がり、河川から大量の土器が出土することがわかつた。調査面積が一番広がっていたこの時期の6月29日に福岡市を集中豪雨が襲い、すべての調査区が冠水してしまった。御笠川のすぐ脇で、深く掘削していたため、川が決壊するのではないかと心配した。30m上流では土手を越えて水があふれていたが大事には至らなかった。排水を続け、一

週間後に水が引いたが、この後9月まで雨が多く、作業の進行に影響を与えた。結局この雨以降、A-1区は幾度か復旧を試みたが、9月まで調査ができなかった。予想外の遺構の検出と天候の不順により8月6日には更なる延期の願いを了承していただいた。

7月から10月にかけては幾度か調査事務所の鍵が壊され、食料が盗まれていたが、8月4日にはカメラとレベルが盗まれてしまった。幸い犯人は逮捕され11月にはカメラとレベルが戻ってきた。

7月はA-2区とB区2面を集中的に調査し、8月11日には2ヶ所同時に空撮を行った。A-2区終了後、9月6日にはバックホーによりA-1区北側の廃土をA-2区に戻し、A-1区第3面を全面に広げ、A-1区の本格的な調査を再開した。多数の堅穴住居と多量の出土遺物を検出して11月5日に空撮を行い、11月半ばにようやくA-1区の調査を終えた。

A-1区に集中していたため、手つかずで残っていたB区2面の井戸の調査と上層確認のトレンチ調査は、12月半ばに終了させた。

最後のC区は廃土を場内反転させて2区に分けて調査する予定であったが、施工業者のご協力により産業廃棄物と汚染土壌の処理の後、廃土をA-1区へ移動していただき、1回で調査を済ませることができた。12月15日より作業員が入り調査を開始したが、東側と西側でまたも調査面の食い違いがみられ、東側の一部を第1面としてまず調査を行った。2000年1月11日には第1面を終了し、西側の調査面に合わせ第2面の調査を行った。第2面は2月10日に空撮を行った。東側では更に下層に遺構面がみられたため、第3面の調査を行なった。3月22日にすべての調査を終了し、24日に撤収した。

## 2. 調査の概要

調査区毎に検出された遺構とその時期を示す。

A-1区は今回の調査区の中で最も御笠川寄りに位置し、調査面積も最大である。調査面積は3,533m<sup>2</sup>である。遺構面は3面あり、1面は中世と思われる時期の溝1条と杭列を検出した。2面は古墳時代後期から中世初頭の溝6条、河川1条、井戸3基、土坑1基を検出した。3面は古墳時代中期末から後期初頭の掘立柱建物3棟、堅穴住居30軒、溝4条、河川1条、谷頭2ヶ所を検出した。

A-2区は調査面積1,163m<sup>2</sup>を測り、古代から中世の掘立柱建物3棟、溝12条、土坑11基を検出した。

B区は調査面積822m<sup>2</sup>で、2枚の遺構面を調査し、上面は溝8条、土坑2基を調査した。中世前半の遺構群である。下面では樋2条、掘立柱建物1棟、溝16条、井戸5基、土坑11基を検出した。おもに古代の遺構群である。

C区は調査面積2,556m<sup>2</sup>を測る。3面の調査をおこなった。1面は中世前半の溝3条、土坑5基と杭列を検出した。2面は溝15条、井戸1基、土坑6基を調査した。古代から中世前期の遺構群である。

3面は古墳時代中期末から後期初頭の掘立柱建物5棟、溝・河川5条、性格不明遺構1基を調査した。

以上の調査成果は21ページからの発見された遺構と遺物の項で詳しく触れるが、ページ数の関係ですべてを説明することができなかった。遺構については、本文で触れることができなかつたものは表に概要を記した。また、遺物についてはほとんど本文で説明できなかつたため、観察表を作成した。法量の数字に（ ）がついているものは復元値、〔 〕がついているものは現存値を示す。遺物については写真も掲載することができなかつた。福岡市埋蔵文化財センターに収蔵されるので活用されたい。

### 3. 調査地点の層序

立花寺B遺跡は沖積地に位置するため、複雑な上層堆積を見せる。遺構検出面も一様でない。土層堆積状況を確認するためにトレンチを設定した。トレンチはFig.16に示すとおり、A-1区に5ヶ所（A～D・Lトレンチ）、A-2区に4ヶ所（E～Hトレンチ）、B区に3ヶ所（I～Kトレンチ）、C区に4ヶ所（M～Pトレンチ）設定した。その結果、土層の堆積が大まかに5分類できることができた。

①はA-1区の南側と東側、C区の東側に分布する。締まりのあるシルト層の下に黒色～暗灰色の粘土があり、涌水点では粗砂になる。Lトレンチの黒色粘土中から縄文時代後晚期頃とみられる黒曜石製の石器が出土した。

②はA-1区中央部に分布する締まりのないシルト～細砂層である。涌水点では粗砂層となる。南側と西側は①を削っており、河川が次第に埋まり、最終的に西寄りで河川（SD14）として残り、古墳時代後期のはじめ頃埋没していった状況である。南側の小河川と思われる、覆土がシルト層の溝（SD52）より古墳時代前期の土器が出土している。

③はA-2区北側とB区、C区中央から北寄りに広がる砂層である。下層まで粒子の異なる砂が幾層にもなって堆積している。A-2区、B区の遺構検出面では粗砂がかたく締まっている。Oトレンチから7世紀代の須恵器が出土している。

④はA-1区北側とA-2区南側、B区南側に分布するシルト層で、涌水点では粗砂になる。Eトレンチから③を削った後に堆積していることがわかる。調査時、A-1区では河川（SD14）として掘削してしまった。

⑤はA-1区南東の発掘区壁際とC区南西部に分布する粗砂層である。これは河川（SD13）が一気に埋まった状況を示し、涌水点まで締まりのない単一の粗砂が続いている。この粗砂をもって立花寺B遺跡の南端とすることができる。産業廃棄物で埋められる前の昭和60年頃まで、この流れに沿って堤防が残っていた。また、この部分の小字名は汐井川という。

②にあたるCトレンチと①にあたるLトレンチ西側、Pトレンチで花粉分析を依頼したが、花粉の残りが悪く、ほとんど検出されなかった。

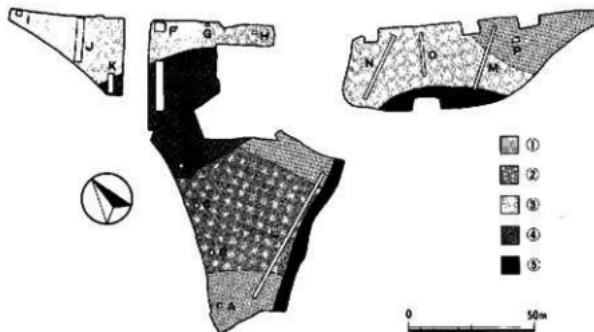


Fig.16 土層トレンチ配置図 (1/2,000)

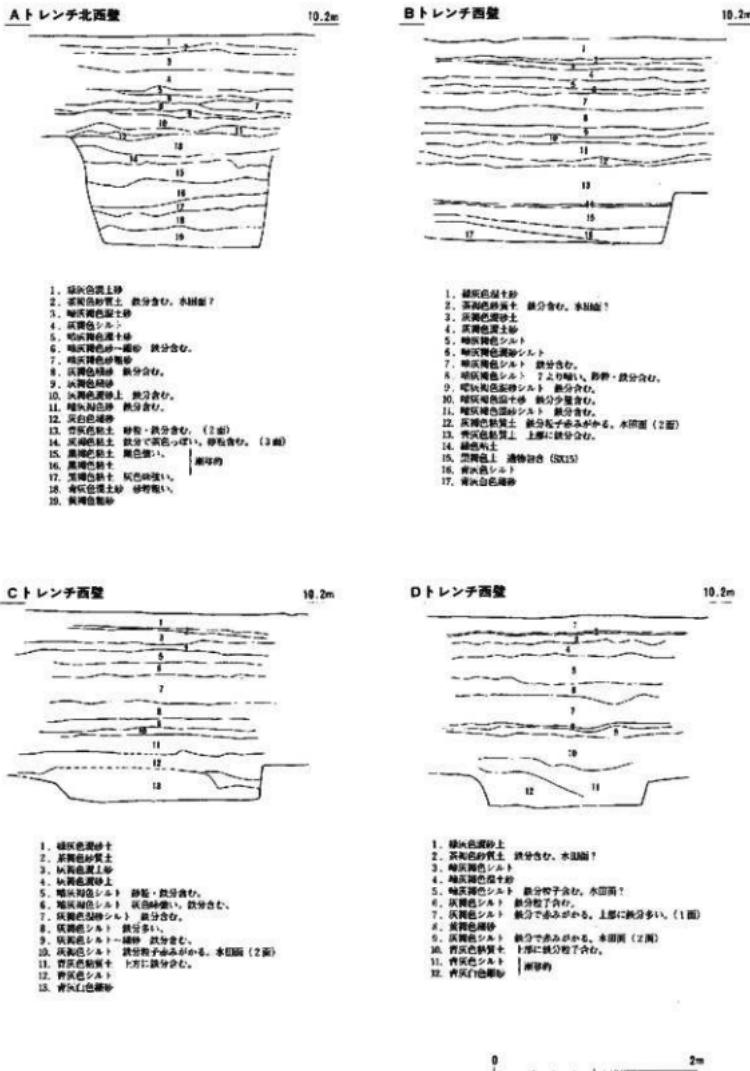
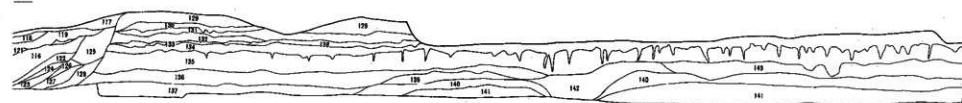
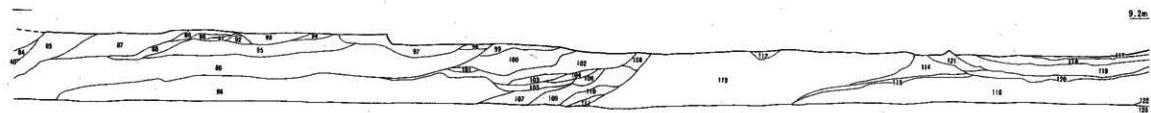
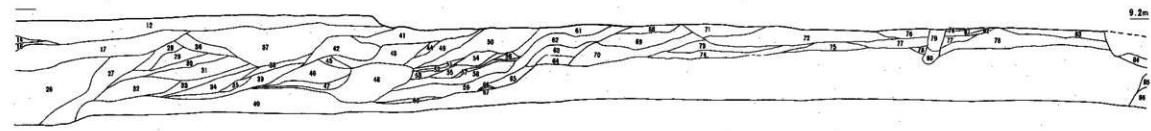
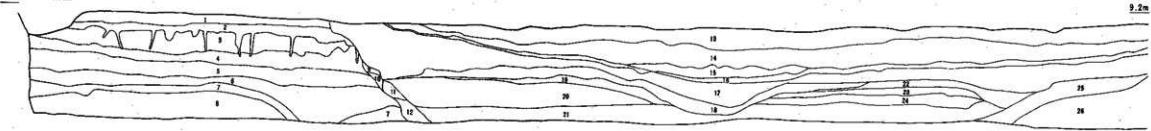


Fig.17 トレンチ土層図 1 (1/50)

上トレンチ南壁



1. 黄褐色シルト 分含む。  
2. 黄褐色シルト 砂分含む。  
3. 黄褐色粘土 砂分含む。  
4. 黄褐色土  
5. 黄褐色粘土 砂分含む。  
6. 白色粘土  
7. 白色砂質粘土  
8. 白色砂質土  
9. 黄褐色粘土  
10. 黄褐色土  
11. 黄褐色粘土  
12. 黄褐色砂  
13. 黄褐色砂 砂分含む。  
14. 黄褐色砂 砂分含む。  
15. 黄褐色土 砂分含む。  
16. 黄褐色土 砂分含む。  
17. 黄褐色土  
18. 黄褐色砂  
19. 黄褐色砂  
20. 黄褐色砂  
21. 黄褐色砂  
22. 黄褐色砂  
23. 黄褐色砂  
24. 黄褐色砂  
25. 黄褐色砂
26. 黄褐色砂 砂分含む。  
27. 黄褐色砂 砂化物含む。  
28. 黄褐色砂  
29. 棕褐色砂  
30. 棕褐色砂  
31. 棕褐色砂  
32. 棕褐色砂  
33. 棕褐色砂  
34. 棕褐色砂  
35. 棕褐色砂  
36. 棕褐色砂  
37. 棕褐色砂  
38. 棕褐色砂  
39. 棕褐色砂  
40. 棕褐色砂  
41. 棕褐色砂  
42. 棕褐色砂  
43. 棕褐色砂  
44. 棕褐色砂  
45. 棕褐色砂  
46. 棕褐色砂  
47. 棕褐色砂  
48. 棕褐色砂  
49. 棕褐色砂  
50. 棕褐色砂

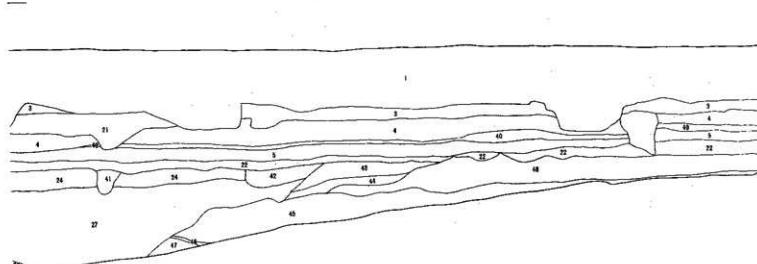
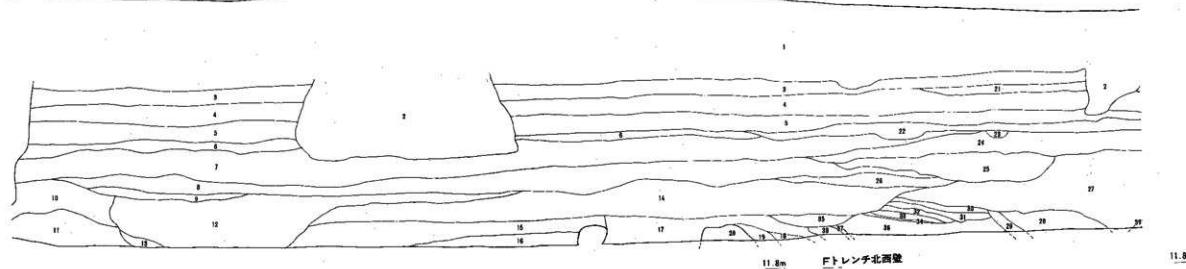
51. 白色砂  
52. 白色シルト  
53. 白色砂  
54. 棕褐色砂  
55. 棕褐色砂  
56. 棕褐色砂  
57. 棕褐色砂  
58. 棕褐色砂  
59. 棕褐色砂  
60. 棕褐色砂  
61. 棕褐色砂  
62. 棕褐色砂  
63. 棕褐色砂  
64. 棕褐色砂  
65. 棕褐色砂  
66. 棕褐色砂  
67. 棕褐色砂  
68. 棕褐色砂  
69. 棕褐色砂  
70. 棕褐色砂  
71. 棕褐色砂  
72. 棕褐色砂  
73. 棕褐色砂  
74. 棕褐色砂  
75. 棕褐色砂
76. 黄色シルト 黄色細砂含む。  
77. 黄色シルト  
78. 黄色シルト  
79. 黄色シルト  
80. 黄色シルト  
81. 黄色シルト  
82. 黄色シルト  
83. 黄色砂 黄色シルト含む。  
84. 黄色砂  
85. 黄色シルト  
86. 黄色砂  
87. 黄色砂  
88. 黄色砂  
89. 黄色砂  
90. 黄色砂  
91. 黄色砂  
92. 黄色砂  
93. 黄色シルト  
94. 黄色シルト  
95. 黄色砂  
96. 黄色砂  
97. 黄色砂  
98. 黄色砂  
99. 黄色砂  
100. 黄色砂  
101. 黄色砂

102. 黄色砂 黄褐色砂多く含む。  
103. 黄色シルト  
104. 黄色シルト  
105. 黄色シルト  
106. 黄色シルト  
107. 黄色シルト  
108. 黄色シルト  
109. 黄色シルト  
110. 黄色シルト  
111. 黄色シルト  
112. 黄色シルト  
113. 黄色シルト  
114. 黄色砂  
115. 黄色砂  
116. 黄色砂  
117. 黄色砂  
118. 黄色砂  
119. 黄色砂  
120. 黄色砂  
121. 黄色砂  
122. 黄色シルト  
123. 黄色シルト  
124. 黄色砂  
125. 黄色砂

Fig.18 トレンチ土壌図 2 (1/50)

0 2m

Eトレンチ北西壁

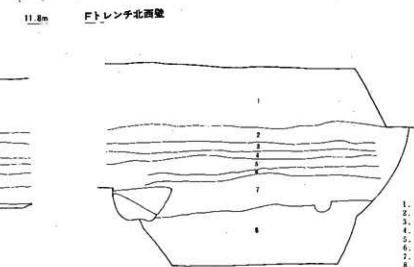


1. 砂土  
2. 砂質土  
3. 砂質土、砂粒含む。  
4. 黄褐色土、鉄分多く含む。砂粒含む。  
5. 黄褐色土、鉄分多く含む。砂粒含む。  
6. 黄褐色土、鉄分多く含む。砂粒含む。  
7. 黄褐色土、鉄分多く含む。  
8. 黄褐色土、鉄分多く含む。  
9. 黄褐色土、鉄分多く含む。  
10. 黄褐色シルト  
11. 黄褐色粘土  
12. 黄褐色一暗灰色シルト 下層粘土質。

13. 暗灰色粘土  
14. 黄褐色シルト  
15. 黄褐色土  
16. 黄褐色土  
17. 黄褐色土  
18. 黄褐色土  
19. 黄褐色土  
20. 黄褐色土  
21. 黄褐色土  
22. 黄褐色土  
23. 黄褐色土  
24. 黄褐色土  
25. 黄褐色土  
26. 黄褐色土  
27. 黄褐色シルト  
28. 黄褐色土  
29. 黄褐色土  
30. 黄褐色土  
31. 黄褐色シルト  
32. 黄褐色土  
33. 黄褐色土  
34. 黄褐色土  
35. 黄褐色土  
36. 黄褐色土  
37. 黄褐色土  
38. 黄褐色土  
39. 黄褐色土  
40. 黄褐色土  
41. 黄褐色土  
42. 黄褐色土  
43. 黄褐色土  
44. 黄褐色土  
45. 白色一黃褐色土  
46. 黄褐色土  
47. 黄褐色土  
48. 黄褐色土

0 2m

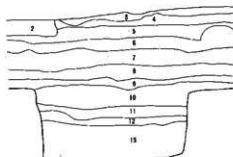
Fig.19 トレンチ土層図 3 (1/50)



1. 砂土  
2. 黄褐色土、砂粒含む。  
3. 黄褐色土、鉄分多く含む。砂粒含む。  
4. 黄褐色土、鉄分多く含む。  
5. 黄褐色土、鉄分、マンゴン等、鉄分含む。  
6. 黄褐色シルト  
7. 黄褐色土  
8. 黄褐色土

Hトレンチ北東壁

12.0m



1. 砂土  
2. 黄褐色土  
3. 黄褐色土  
4. 黄褐色土  
5. 黄褐色土  
6. 黄褐色土  
7. 黄褐色土  
8. 黄褐色土  
9. 黄褐色土  
10. 黄褐色土  
11. 黄褐色土  
12. 黄褐色土  
13. 黄褐色土  
14. 黄褐色土  
15. 黄褐色土

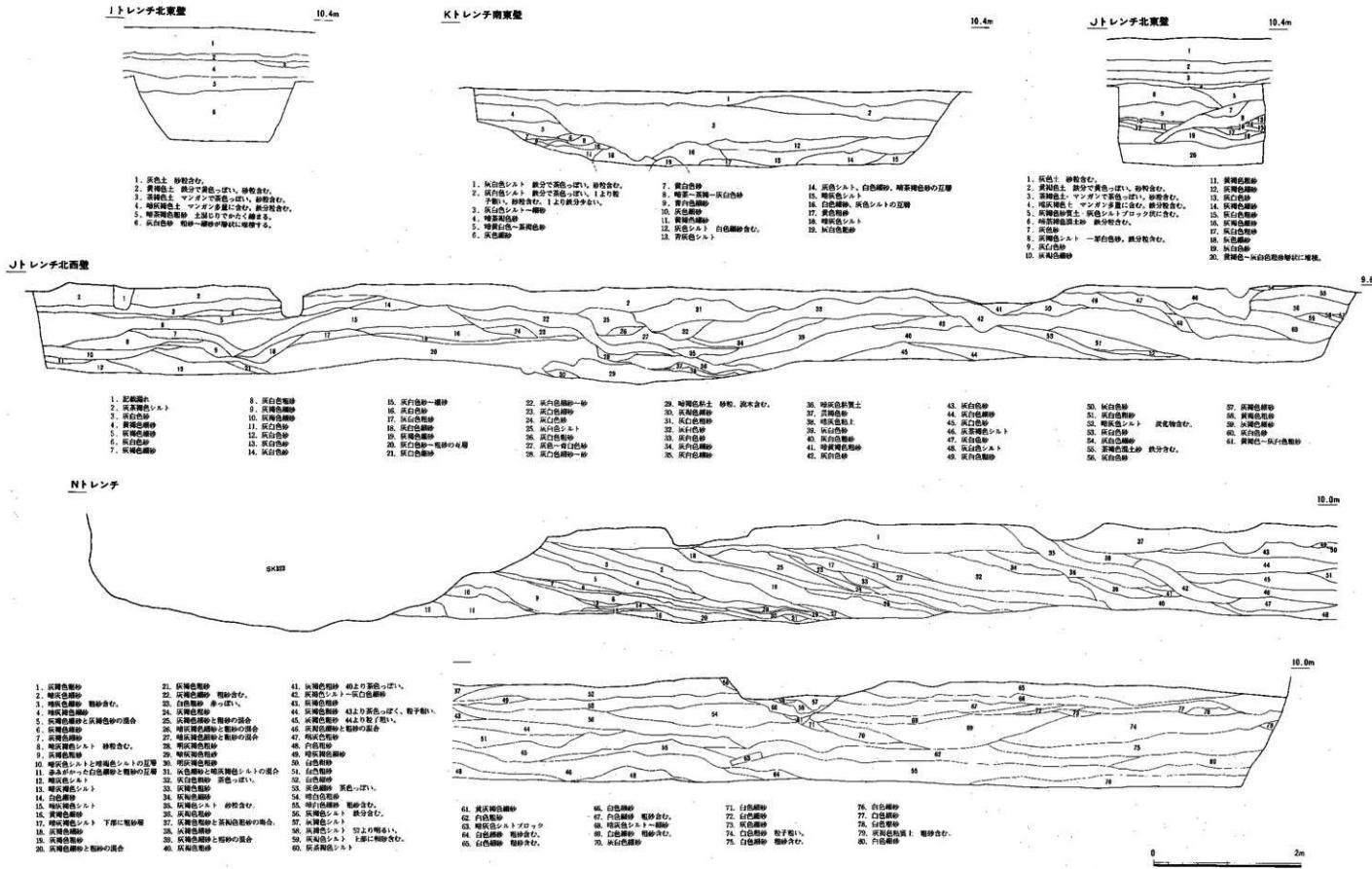
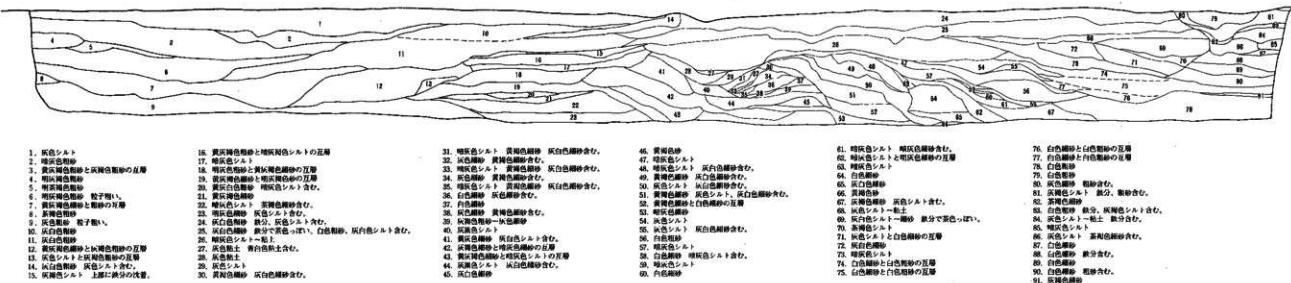
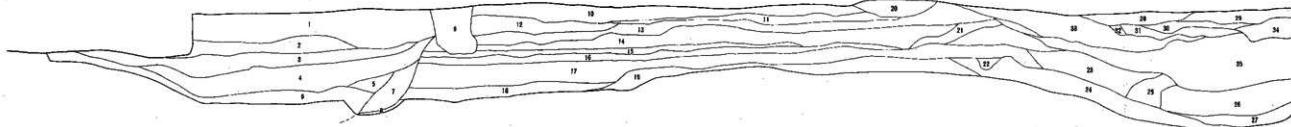


Fig.20 トレンチ土層図 4 (1/50)

Oトレント北壁



Mトレント北壁



Pトレント北東壁

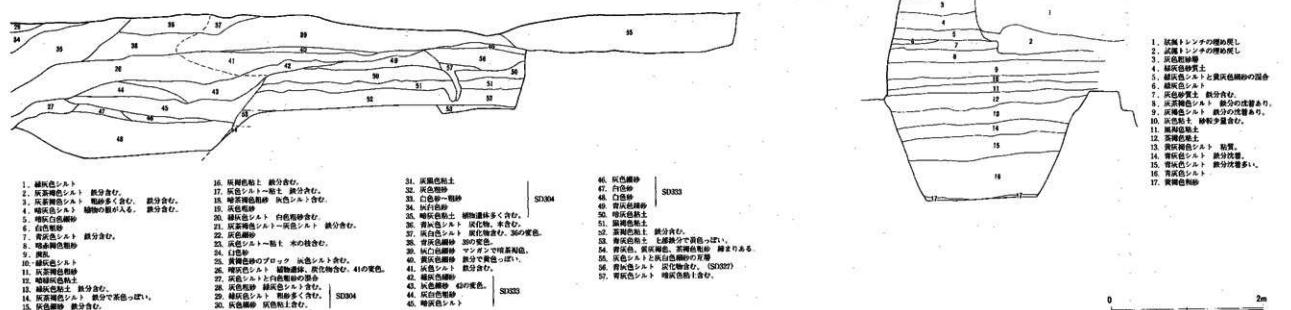


Fig.21 トレント土層図 5 (1/50)

#### 4. 発見された遺構と遺物

##### (1) A-1区1面・2面

A-1区1面では溝1条と杭列を検出した。1面での遺構存在を気づいたのが遅く、南側と東側はすでに2面まで下げてしまっていたのでこのほかにも遺構が存在した可能性がある。しかし、溝を検出した以降、調査区西側で遺構検出に努めたが、その他には発見できなかった。溝の時期は出土遺物がなく不明であるが、中世であろう。

2面は試掘結果から水田面の存在が想定されていたので、薄く粗砂をかぶった直下のシルト層で調査をおこなった。調査面積は遺構検出面で2,580m<sup>2</sup>である。畦かと思われる部分、部分的に足跡かと思える窪みや稲株痕かと思える窪みがあったが、明瞭な水田遺構はみられなかった。水田の存在はプロントオパール分析で確認することにした。

この面では溝6条、河川1条、井戸3基、土坑1基を調査した。古墳時代の後期から中世初頭の遺構群である。南側に遺構が集中するが、かなり希薄な遺構分布である。



Ph.7 A-1区2面全景（南東から）



Ph.8 A-1区2面全景（南西から）



Ph.9 A-1区2面南側（東から）

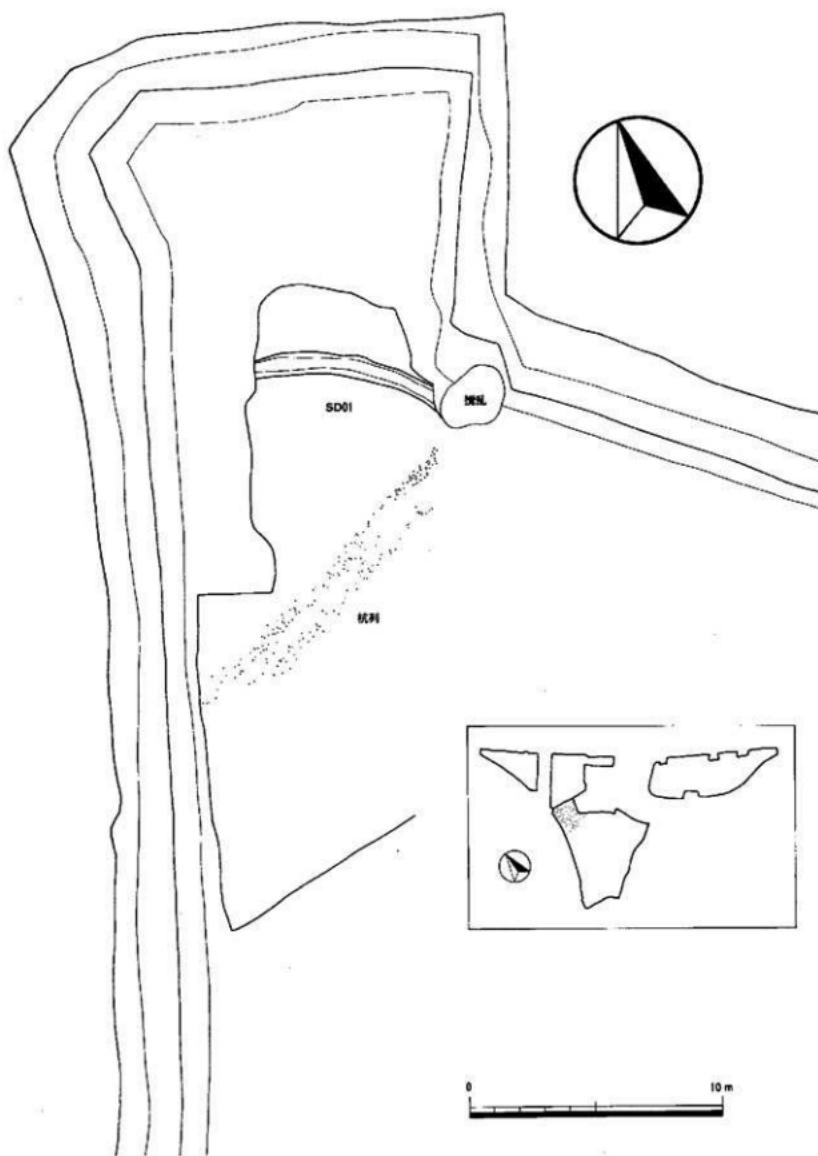


Fig.22 A-1区1面全体図 (1/200)

SE02 (Fig. 23, Ph. 10・11・25, Tab. 1)

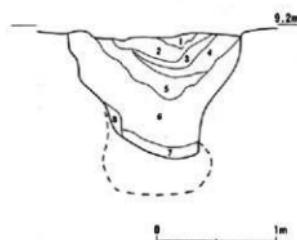
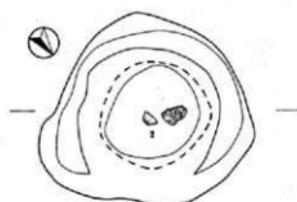
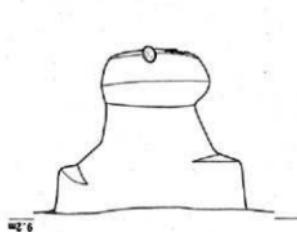
調査区南西寄りで検出した円形素掘井戸である。確認面での上端は径1.6m程度であるが、北側がやや広い。40cm程掘り込んだところで一段テラスをつける。深さは1.3m。暗灰褐色粗砂層に達している。底面の径は80cmであるが、涌水で粗砂層がえぐれている。

出土遺物をFig. 25とTab. 1に示す。黒色土器A 2は井戸の底から完形で出土した。

10世紀中頃から11世紀初頭の井戸である。

SE07 (Fig. 24, Ph. 12)

調査区南寄りで検出した円形素掘井戸である。SD08を切っている。確認面での上端は径14mである。50cm程掘り込んだところで一段テラスをつける。深さは1.0m。暗灰褐色粗砂層に達している。底面の



1. 青色褐色土 砂粒含む。

2. 黒褐色シルト

3. 青灰褐色土 砂粒含む。

4. 5. 壁面に細かなシルトの互層。

6. 青灰褐色土 砂粒含む。

7. 青灰褐色粘土

8. 暗灰褐色土

Fig.24 SE02実測図 (1/40)



Ph.10 SE02 (北から)



Ph.11 SE02 (東から)

径は70cmである。

図示できる出土遺物はない。他の井戸と同様古代の井戸と考えられる。

SE09 (Fig. 24・25, Ph. 13, Tab. 1)

調査区南寄りで検出した円形素掘井戸である。東側の上部を擾乱されている。確認面での上端は径2.6mである。北側と南側は40cm程掘り込んだところで、西側は100cm程掘り込んだところで一段テ

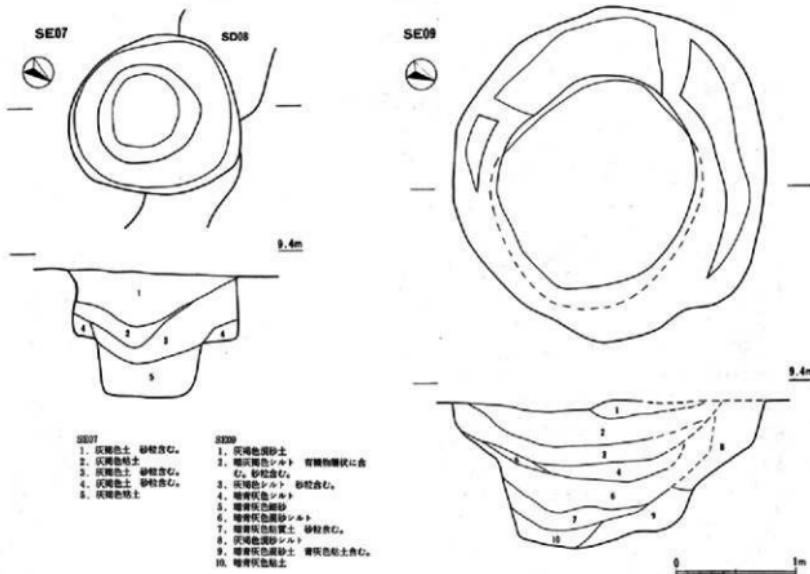


Fig.25 SE07・09実測図 (1/40)



Ph.12 S E 07 (北西から)



Ph.13 S E 09 (北東から)

ラスをつける。深さは1.2m。暗灰褐色粗砂層に達している。底面の径は1.3m程度であったが、涌水で粗砂層がえぐれて1.8m程に拡大してしまった。

出土遺物をFig. 25とTab. 1に示す。

出土遺物より古代の井戸と考えられる遺物が少なく細かな時期は不明。

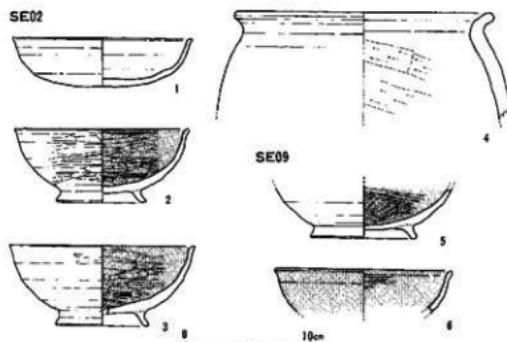


Fig. 26 SE02・09出土遺物実測図 (1/4)

Tab. 1 SE02・09出土遺物観察表

番号	種類	出土量	寸法 (cm)			断面/裏面	色/質 内面/外面	造成	備考
			口径	底径	底深				
1	「鍋器」・環	SE02 (14.4)	—	(11.0)	3.5	円柱形/内輪丸ナガ	灰褐色/質灰	良好	ヘラ切り、板状鉄
2	黒色土器 A・焼	SE02 (13.9)	—	7.2	6.0	1ガキ/1ガキ	墨/墨	良好	
3	黒色土器 A・焼	SE02 (14.8)	—	(7.7)	6.4	1ガキ/1ガキ	墨/灰褐色	良好	
4	土師器・甕	SE02 (20.7)	—	—	(8.8)	ケズリ/内輪ナガ	灰褐色/灰褐色	良好	
5	黒色土器 A・焼	SE09 (20.7)	—	(8.5)	(4.0)	1ガキ/内輪ナガ	暗褐色/灰褐色	良好	
6	黒色土器 B・焼	SE09 (14.2)	—	—	(3.5)	1ガキ/内輪ナガ	暗褐色	良好	

SK04 (Fig. 27・28, Ph. 14, Tab. 2)

調査区南西寄りで検出した隅丸長方形土坑である。長軸2.5m、短軸1.3m、深さ50cmである。底面は平坦。南隅にほぼ完形の土師器の施7が据えてあった。上塙墓であろうか。6世紀代の遺構。

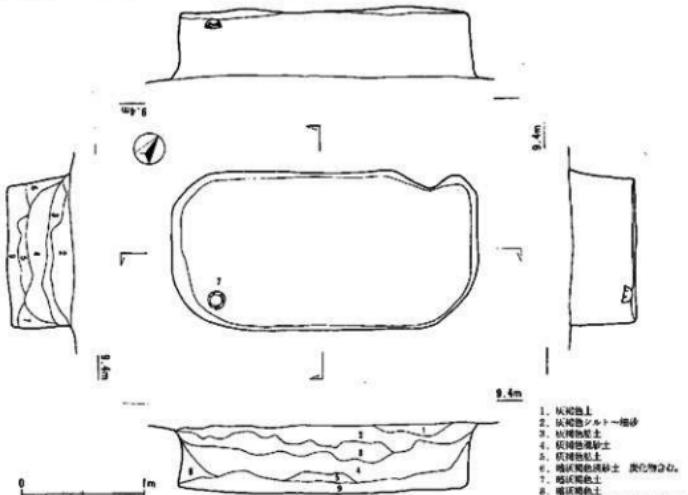


Fig. 27 SK04実測図 (1/40)



Ph.14 SK04 (北西から)

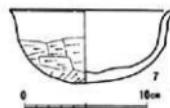


Fig.28 SK04出土遺物  
実測図 (1/4)

Tab. 2 SK04出土遺物観察表

品名	種類	出土位置	直 径 (m)	内面/外面	内面/外面	地 城	備 考
1 土師器・柄	SK04	14.2	-	内面/外面 摩滅/ケズリ	内面/外面 底深め	不詳	

その他の遺構 (Fig. 30・31、Tab. 3・4)

A-1区1面・2面のその他の遺構の概要をTab. 3に示し、出土遺物をFig. 29・30・31とTab. 4に示す。

溝は出土遺物が少なく、また、一部掘りすぎてしまったため、下層の土器の混入もあり、時期決定が難しいが、南寄りに位置する溝群は古墳時代後期の遺構群であると考えられる。SD10は10世紀中頃～11世紀初頭、SD11は11世紀後半～12世紀初頭と考えられる。河川SD13は古墳時代の遺物を多く含むが、黒色土器A27より、古代以降に埋没した河川と考えられる。

SD12は周囲と土が違ったため掘り下げていったものである。土器が出土するので遺構かと思ったが、結局明瞭な壁と床面を確認することができなかった。弥生時代終末～古墳時代前期の遺物が混じっている。

2面土器集中は2面から3面へ重機で掘り下げたときに土師器の集中を調査区東寄りで検出したものである。

Tab. 3 その他のA-1区1・2面の遺構

遺構番号	種類	遺構の概要	時 期
SD01 東西南	調査区北寄りに位置する。幅0.7～0.9m、深さ10～15cm。8m分確認した。ゆるく湾曲する。		中世？
SD03 南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.4～1.3m、深さ10～15cm。7m分確認した。南側は調査区外に伸びる。SD06に切られる。		
SD05 南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.4～1.4m、深さ10～20cm。13m分確認した。南側は調査区外に伸びる。SD06に切られる。		古墳時代後期
SD06 南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.2～0.6m、深さ5～20cm、長さ6m。SD05を切る。		
SD08 南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.5～0.8m、深さ15～30cm、長さ12m。北側は湾曲する。SE07に切られる。		
SD10 区画溝？	調査区中央部に位置する。幅0.6～1.7m、深さ20～50cm。50m分確認した。直角に屈曲する。SD13に切られる。		10C中頃～11C初
SD11 東西南	調査区北寄りに位置する。幅0.9～1.1m、深さ10～20cm、長さ6m。		11C後半～12C初
SX12 地盤の乱れ？	調査区中央部西寄りに位置する。長軸10m以上、短軸5.5m。SD10に切られる。		
SD13 河川	調査区東南部に位置する。北岸を確認。杭が打ち込まれている。粗砂で埋まっている。		古代以降

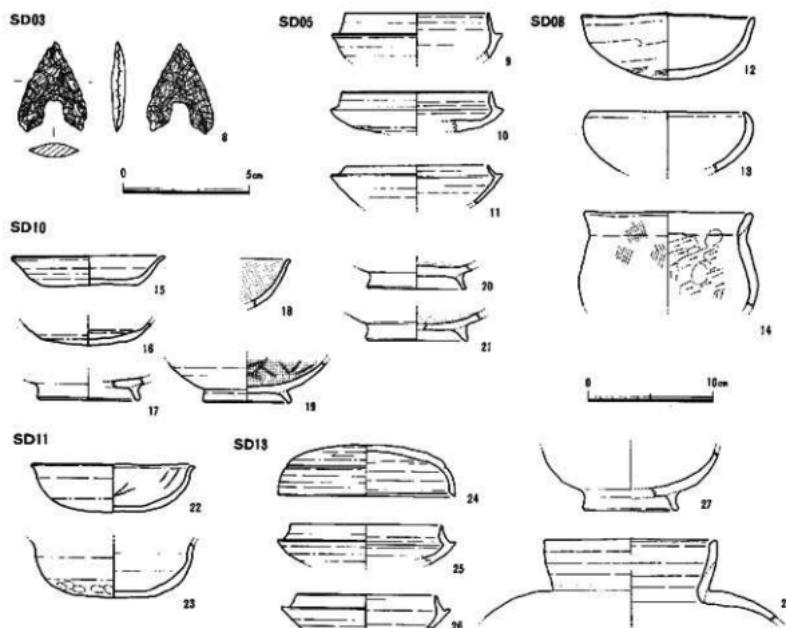


Fig.29 SD03・05・08・10・11・13出土遺物実測図 (1/2・1/4)

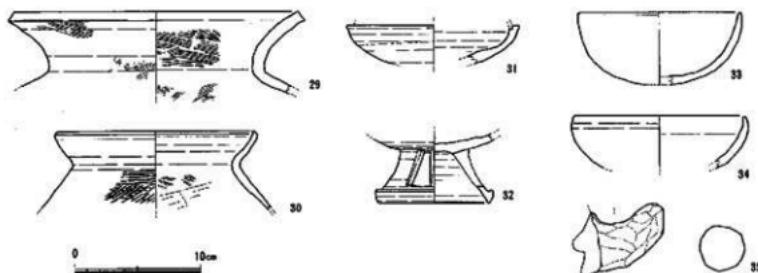


Fig.30 SX12出土遺物実測図 (1/4)

Tab.4 その他のA-1・2面出土遺物観察表

番号	種類	出土層	寸法	厚さ (mm)			備考
				幅	高さ	幅	
8	石器	SD03	3.6	2.6	0.5	3.2	黒縞石、刃凹式
9	須恵器・环身	SD05 ([11.4])	-	-	[3.6]	[3.2]	切欠ナデ/開拓ナデ、内輪ヘラケズリ 須灰
10	須恵器・环身	SD05 ([12.0])	-	-	[3.2]	[3.2]	田耕ナデ/開拓ナデ、ヘラ切り未調査 須灰/灰~難灰
11	須恵器・环身	SD05 ([11.4])	-	-	[3.1]	[3.1]	田耕ナデ/開拓ナデ、ヘラ切り未調査 古灰
12	土器器・縁	SD05	13.7	-	-	5.3	ナダ?/ハケ?
13	土器器・縁	SD06 ([2.3])	-	-	[4.8]	-	浅黄緑~緑 ナダ?/ハケ?
14	土器器・縁	SD06 ([19.4]) ([14.3])	-	-	[7.6]	-	ケズリ、指擦え/ハケ 根~灰黄地/縁 やや良好

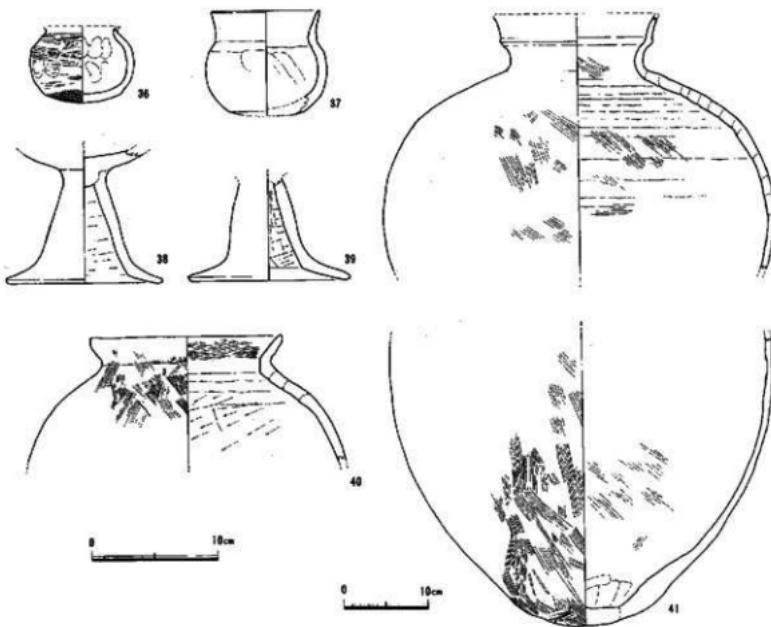


Fig.31 2面土器集中出土遺物実測図 (1/4・1/6)

番号	種類	土質	底盤 (cm)				内壁/外壁	内面/外面	地紋	地紋	備考	
			口径	側厚	底厚	底径						
15	土師器・环	SD10 (12.0)	-	(7.6)	2.3		回転ナデ、ナデ/回転ナデ	灰斑	良好	へきり、板状痕		
16	土師器・环	SD10	-	-	1.2 [1.9]		回転ナデ/回転ナデ	灰斑/灰斑	良好	へきり		
17	土師器・盆	SD10	-	-	(3.2)	[1.9]			浅灰斑	良好	へきり	
18	黒色土器 A・盆	SD10	-	-		[3.8]	ミガキ/回転ナデ	黑斑/灰斑	良好			
19	黒色土器 A・盆	SD10	-	-	7.0	[3.4]	ミガキ/回転ナデ	黑斑/灰斑	やや不良			
20	黒色土器 A・盆	SD10	-	-	7.8	[2.1]	ミガキ/回転ナデ	黑斑/浅灰斑	やや不良			
21	黒色土器 A・盆	SD10	-	-	(8.0)	[2.3]	ミガキ/回転ナデ	黑斑/浅灰斑	良好			
22	土師器・丸环	SD11 (12.0)	-	-	3.8		ミガキ/回転ナデ	黄斑/灰斑	良好	へきり		
23	土師器・丸环	SD11	-	-		[4.6]	回転ナデ/回転ナデ	黄斑/灰斑	良好	へきり、押し出し、板状痕		
24	埴生器・环	SD13 (14.0)	-	-	4.1	4.1	回転ナデ、ナデ/回転ナデ、回転ヘタリ	明吉灰/明灰	良好	B-2~B-3		
25	埴生器・环	SD13 (12.0)	-	-	[3.1]		回転ナデ/回転ナデ、回転ヘタリ	淡青灰	良好	B-2~B-3		
26	埴生器・环	SD13 (11.1)	-	-	[2.7]		回転ナデ/回転ナデ	素灰/灰	良好	B-2~B-3		
27	黒色土器 A・盆	SD13	-	-	(7.7)	[5.0]	ミガキ/回転ナデ	暗黒灰/深灰斑	良好			
28	土師器・盆	SD13 (13.0)	-	-	[6.0]		ナデ/回転ナデ	浅灰	良好			
29	埴生土器・盆	SX12 (22.5)	-	-	[6.5]		ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	黄灰/灰斑	良好	海生後期後半		
30	土師器・盆	SX12 (16.1)	-	-	[6.2]		窓形ナデ、脚附ナズリ/ナタキ	黄灰/素灰	良好	住内土器		
31	埴生器・高环	SX12	-	-	[3.1]		回転ナデ/回転ナデ、回転ヘタリ	吉灰/灰	良好			
32	埴生器・高环	SX12	-	-	(9.3)	[5.5]	球底形、脚附回転ナデ/球底形回転ヘタリ	灰/明白灰	良好	I-5、3方透かし		
33	土師器・碗	SX12 (13.0)	-	-	5.7		ナデ/ナデ	明礫灰	良好			
34	土師器・碗	SX12 (13.0)	-	-	[4.1]		ナデ/ナデ	明礫灰	良好	やや不良		
35	土師器・高环	SX12	-	-	-		ナデ、脚附え	礁灰	良好			
36	土師器・高环	SX12	-	-	-		ナデ、脚附え/ハケ、脚附え	灰斑	良好			
37	土師器・小瓶	土器集中 (6.0)	-	-	[6.0]		ナデ、脚附え/脚附	灰斑	良好			
38	土師器・小瓶	土器集中 (6.0)	-	-	[6.0]	8.3		ナデ/脚附	灰斑	良好		
39	土師器・高环	土器集中	-	-	(12.0)	-	回転ヘタリ/厚壁	灰斑/厚壁	良好	明礫	不良	
40	土師器・高环	土器集中 (15.2)	-	-	[10.0]		口縁部ハケ、脚附ケリ/ハケ	灰斑	良好			
41	土師器・盆	土器集中 (19.0)	-	-	-		ハケ、ナデ、底部脚附え/ハケ、ナデ	淡灰/素灰	良好			

## (2) A-1区3面

2面調査終了後、土層の確認のため設定したトレンチの1つから土器が多量に出土し、また、調査区東側にある自然河川と思われる部分からも土器が多量に出土することから3面目の調査面を設定した。最初は土器が出る部分のみを対象にするつもりであったが、広げていくうちに竪穴住居が多数検出され、最終的には全面を調査することになった。調査面積は遺構検出面で2,540m<sup>2</sup>である。当初想定していなかった面の調査であったが、この部分が今回の調査の中心となった。河川からの涌水は激しく、ポンプの調子が悪いとすぐ水没してしまい調査を困難にした。

遺構検出面は標高9.0m前後である。しかし遺構面がやわらかいシルト～細砂であった中央付近は若干下げすぎてしまった。この部分の遺構はプランが見分けにくく調査が難しかった。その他の南西部と東部は比較的安定した緑灰色の綺まりのあるシルトが遺構検出面である。

検出した遺構は掘立柱建物3棟、竪穴住居30軒、溝4条、河川1条、谷頭2ヶ所である。溝1条を除いて古墳時代中期の終りから後期の初めにかけて（5世紀後半～6世紀初頭）の遺構群である。この時期の集落が発見されるのは福岡市内ではきわめて珍しい。

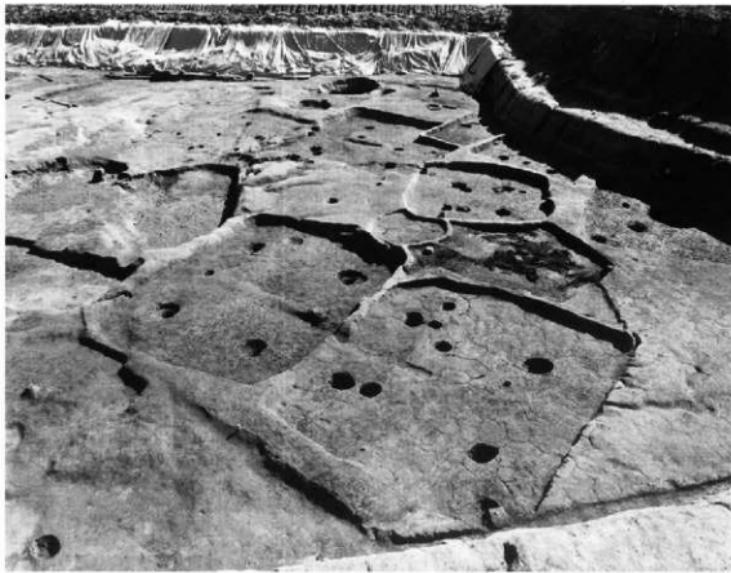
遺物は河川SD14、谷頭SX15を中心に須恵器・土師器・石製品などが多量に出土した。特に第1型式後半の定型化した初期の須恵器の出土は貴重である。また、滑石製子持勾玉5点や我が国最古級の木製鞍など重要な出土品がみられた。



Ph.15 A-2区3面全景（南西から）



Ph.16 A-2区3面全景（上が北東）



Ph.17 A - 2 区 3 面南側（西から）



Ph.18 A - 2 区 3 面南側（南東から）

#### SB51 (Fig. 33 Ph. 19)

調査区北寄りに位置する2間×2間の総柱の掘立柱建物である。粗砂層を掘り込んでいる。建物規模は1辺4.0mである。柱穴掘方は径30~40cmの円形である。南北の中央の柱筋には中間に補助の柱穴と思われる小ピットがある。

#### SB54 (Fig. 33)

調査区中央西寄りで検出された掘立柱建物である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。南北は東側で2間分、東西は南側で1間分確認された。西側は発掘区外に伸びると考えられる。SC45と重複している。SC45に切られていると思われる。東西方向中央の柱筋が歪んでいる。建物規模は南北4.0m、東西は1間分で0.9mである。SB51とほぼ同規模である。柱穴の掘方は径40~60cmの円形である。SP18は柱材が残存していた。

#### SB55 (Fig. 33)

調査区南西寄りで検出された掘立柱建物である。灰黒色粘土層を掘り込んでいる。2間の東側の柱筋を確認ただけである。西側は発掘区外に伸びると考えられる。SX15と重複している。SX15調査後に検出したが、SX15を切っているかもしれない。建物規模は南北3.4mで他の2棟より小規模である。柱穴の掘方は20~40cmの円形である。SP21とSP22には柱材が残存していた。

#### SC16 (Fig. 34・35, Ph. 20, Tab. 5)

調査区南西寄りで検出した方形豊穴住居である。縦まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は調査区外に伸びる。東西5.6m、南北は調査区内の東辺で4.7m確認できた。残存壁高は25cmである。西側はSC17を切っている。また、2面検出の遺構SE02に切られる。柱穴は北側2穴を検出した (SP 161・162)。4本柱の住居であると考えられる。そのほか住居に付随するものか不明であるが、4基のピットを床面上で確認した。

出土遺物をFig. 35とTab. 5に示す。このほかミニチュア土器872が出土している。

#### SC17 (Fig. 36・37, Ph. 21・22, Tab. 6)

調査区南西寄りに位置する方形豊穴住居である。縦まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は調査区外に伸びる。東側はSC16に切られている。西側はSC18を切る。東西は北辺で3.4m、南北は西辺で3.2m確認できる。南辺が東側で大きく南へ開いており、プランの確認ミスか、SC16もしくは別の遺構の切り合いかがあったかもしれない。ただし北辺も柱筋に比べて若干東側が開いており、元々いびつであった可能性もある。残存壁高は10cmである。柱穴は4ヶ所確認できた (SP 171・172・173・174)。柱穴の位置から東西規模は3.7m程度と想定される。また、北辺東寄りに土師器甕49が落ち込んでいた浅いピット (SP175) を1基検出した。

出土遺物をFig. 37とTab. 6に示す。



Ph. 19 SB51 (北東から)

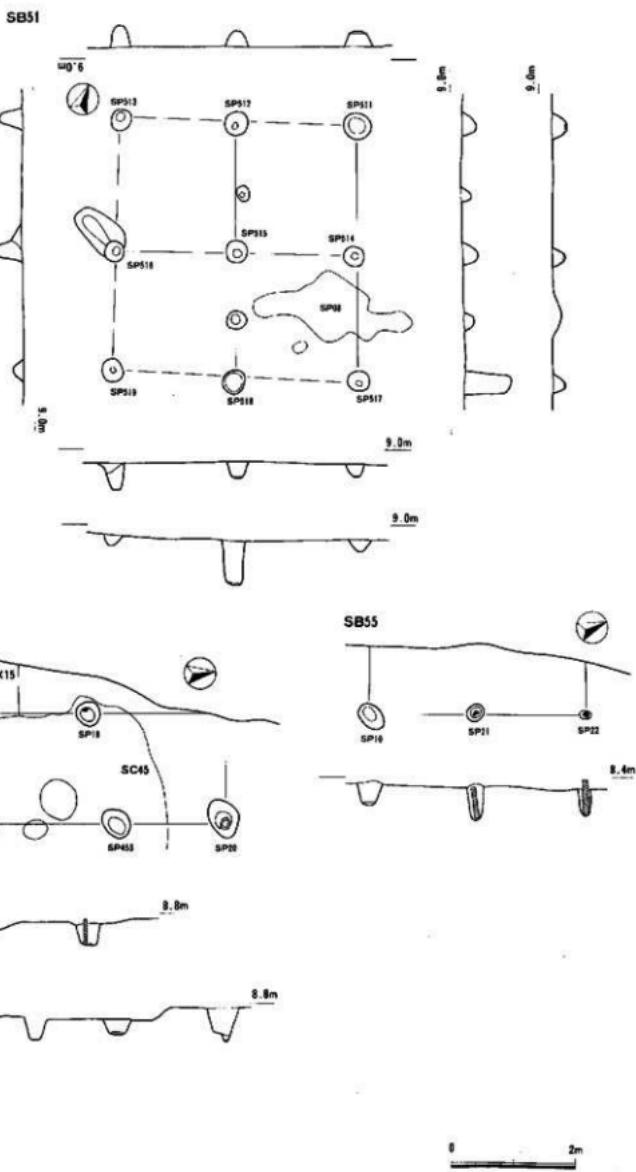


Fig.33 SB51・54・55実測図 (1/80)

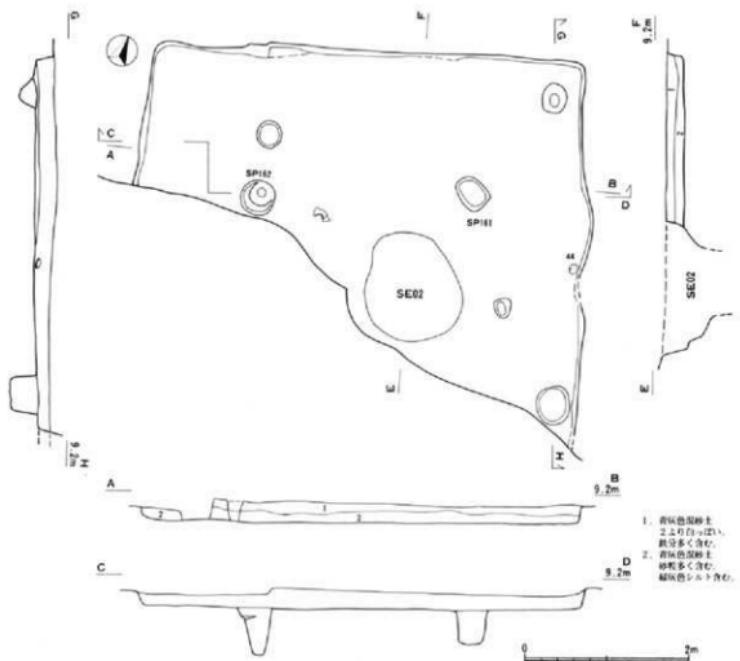


Fig.34 SC16実測図 (1/60)



Ph.20 SC16 (北西から)

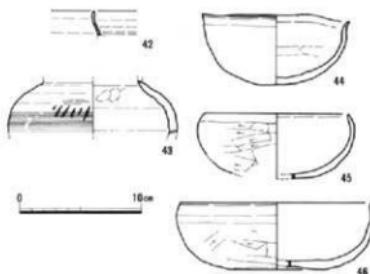


Fig.35 SC16出土遺物実測図 (1/4)

Tab.5 SC16出土遺物観察表

番号	種類	出土地点	寸法 (cm)			調査者	内面/外面	施成	備考
			直径	幅	厚さ				
42	埴造器・环身	SC16	—	—	—	回転ナデ/回転ナデ	灰	良好	II-1~
43	埴造器・罐	SC16	—	(13.9)	—	[4.4] 隣接ナデ・回押え、全体回転ナデ/回転ナデ、斜め火文、カキ目	灰	良好	
44	土師器・碗	SC16	11.5~	—	—	5.8	子テ/摩滅	初期~中期	やや不良
45	土師器・碗	SC16	11.8	—	—	[5.3]	摩滅/ケズリ	蒸周	良好
46	土師器・碗	SC16	(15.6)	—	—	5.5	ナテ?/ケズリ	法縫~培縫	やや不良

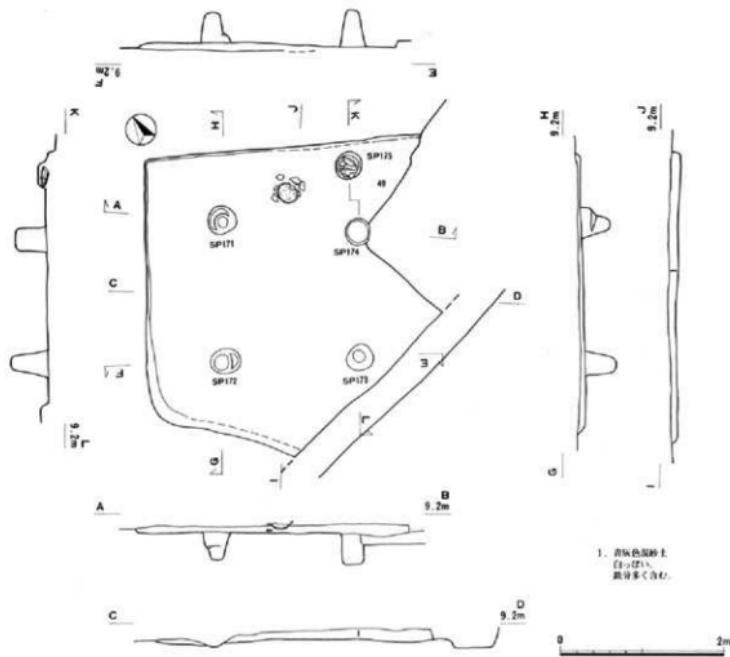


Fig.36 SC17実測図 (1/60)



Ph.21 SC17 (北から)



Ph.22 SC17遺物出土状況（西から）

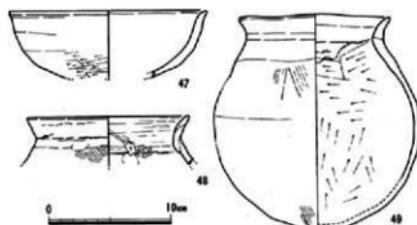


Fig.37 SC17出土遺物実測図（1／4）

Tab. 6 SC17出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	口径	底径	高さ(cm)	表面	内面/外面	色調	地成	備考
47	土師器・碗	SC17	(16.1)	-	[5.5]	ナデ/上部ナデ、下部ケズリ	灰青-青	中や良好		
48	土師器・瓶	SC17	(13.2)	-	[4.1]	ナデ/ハゲ、ナデ	褐色-灰褐色	中や良好		
49	土師器・瓶	SC17	12.3	16.8	-	17.7	強烈ナデ、弱部ケズリ/ハケ	表面-褐色	良~良好	褐色

SC18 (Fig.38, Ph.23)

調査区南西寄りで検出した方形堅穴住居である。縦まりのあるシルト層を掘り込んでいる。大半が調査区外に伸びる。東側はSC17に切られる。発掘区内では東西は北辺で4.0m、南北は東辺で1.2mが確認できた。残存壁高は10cm。西側は削平が著しく、壁が残っていない。柱穴は1ヶ所しか確認できなかった。北西の柱穴が調査区内で確認できていないので東西の規模は4.4m以上ある。

図示できる遺物は出土しなかった。

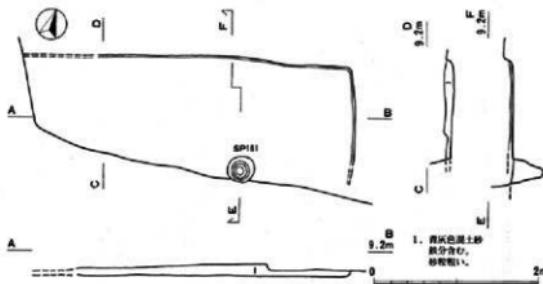


Fig.38 SC18実測図（1／60）



Ph.23 SC18 (北西から)

SC19 (Fig. 39・40、  
Ph. 24、Tab. 7)

調査区南西寄りに位置する方形堅穴住居である。縁まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は調査区外に伸びる。SC20・SC21を切る。東西4.0m、南北は東辺で3.0m確認できる。残存壁高は25cmである。柱穴は北側2ヶ所を確認した。

北西の柱穴 (SP191) は浅く、掘り足りなかったかもしれない。南東の発掘区際でピットの一部を確認しており、柱穴の可能性が高い。そうすると南北の

規模は3.6mと想定される。東壁際に梢円形の深さ7cmの深い土坑を検出した。

出土遺物をFig. 40とTab. 7に示す。

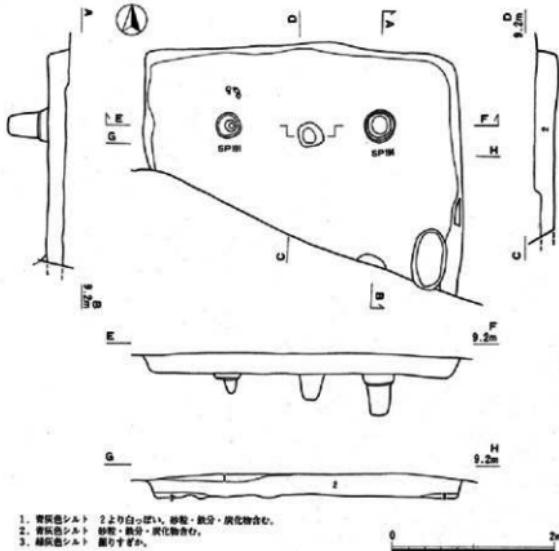


Fig.39 SC19実測図 (1/60)

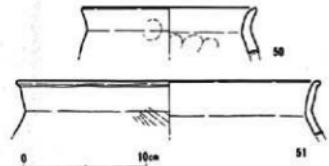


Fig.40 SC19出土遺物実測図 (1/4)



Ph.24 SC19 (南から)

Tab. 7 SC19 出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	口径	深さ	底径	高さ	内面/外面		色	内面/外面	施成	備考
							内面	外面				
50	土器器・甌	SC19 (14.0)	-	-	[3.7]		ナゲ?、指印入?、底部拘束丸?		黒褐色/洗面板~板	やや良好		
51	土器器・甌	SC19 (24.0)	-	-	[4.5]		ケズリ?/ハケ		黄褐色~灰白/板~洗	やや良好	黄褐色	

SC20 (Fig.41・42, Ph.25, Tab.8)

調査区南西寄りで確認した隅丸方形の堅穴住居である。縫まりのあるシルト層を掘り込んでいる。東側は2面の造構SK04、南側はSC19に切られ、北側はSK23、西側はSC26を切る。規模は北西-南東4.1m、北東-南西4.0mである。残存壁高は30cmである。柱穴は6ヶ所で確認した。東側と南側の柱穴が2ヶ所あり、建て替えがあったものと思われる。

そのほかにもピットがみられるが、



Ph.25 SC20 (北東から)

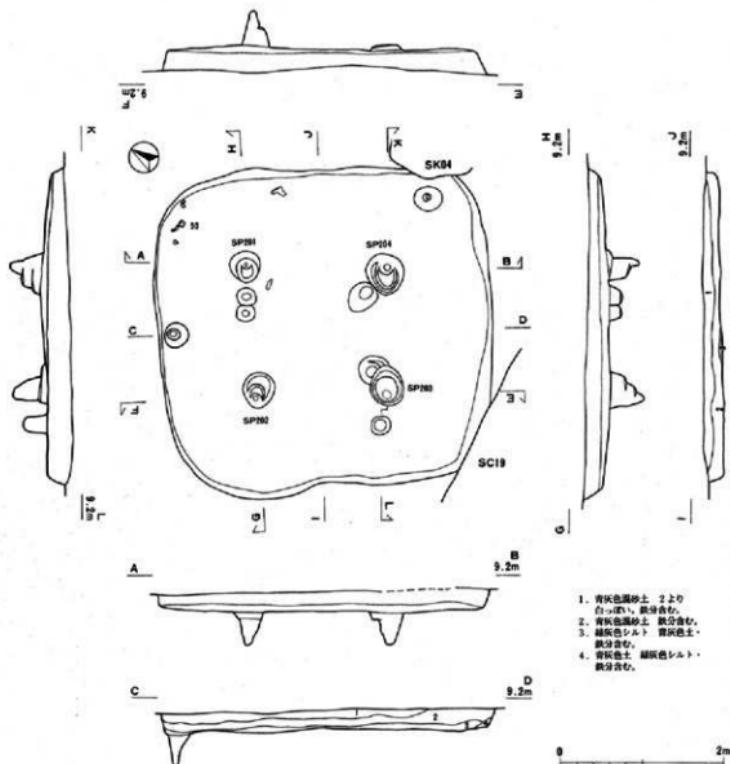


Fig.41 SC20実測図 (1/60)

SC20に付随するものか不明である。北西壁際中央のピットはSC26の柱穴(SP267)と同位置であり、SC26の柱穴の一部を掘ったのかもしれない。

出土遺物をFig.42とTab.8に示す。このほか滑石製臼玉901が出土している。

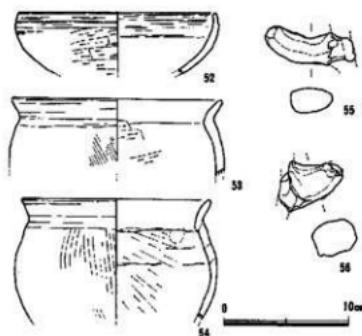


Fig.42 SC20出土遺物実測図 (1/4)

Tab.8 SC20出土遺物観察表

番号	種類	出土層	口部	断面	底	(cm)	内面/外面	色	測定	備考
52	土器器・甌	SC20 (G5.T)	-	-	[4.5]		ナデノケズリ	黄褐色～褐色	白籽	
53	土器器・甌	SC20 (G6.T)	-	-	[5.0]		ケズリ／ハケ	灰褐色～棕	やや良好	
54	土器器・甌	SC20 (G5.O)	(16.0)	-	[9.5]		ケズリ／ハケ	灰褐色～棕	やや良好	
55	上部器・底把手	SC20	-	-	-		ナデ	淡黃褐色(灰白)	やや良好	
56	上部器・底把手	SC20	-	-	-		ナデ	白	白籽	やや良好

SC21 (Fig.43・44, Ph.26,

Tab.9)

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は発掘区外に伸びる。SC19に切られ、SC22・30を切っている。確認された規模は北辺2.1m、東辺4.4mである。残存壁高は15cmである。柱穴は北側2ヶ所が確認された (SP211・212)。北西柱穴SP212はSC19の床面で確認した。柱穴の位置関係から東西の規模は4.6mと想定される。また、南東の柱穴が調査区内で見つかっていないことから南北規模は5.0m以上と想定される。東壁際に深さ10cmの浅い土坑を確認した。

出土遺物をFig.44とTab.9に示す。

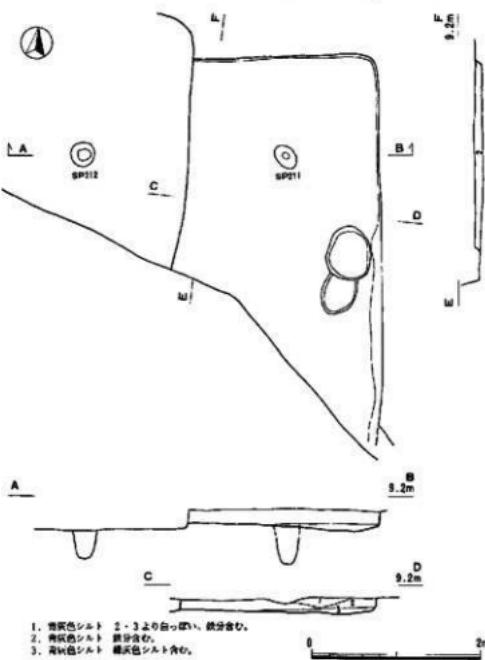


Fig.43 SC21実測図 (1/60)



Ph.26 SC21 (北東から)

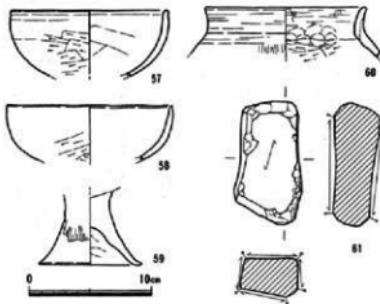


Fig.44 SC21出土遺物実測図 (1/4)

Tab.9 SC21 出土遺物観察表

番号	種類	出土地	寸法	形質	(cm)	寸法	形質	色調	構成	備考
			幅3.5	幅3.5		幅3.5	幅3.5	内面/外面		
57	土器部・輪	SC21	(12.9)	—	—	(5.5)	ナゲノケズリ	灰青～黄褐色	板状	やや良好
58	土器部・輪	SC21	(13.6)	—	—	(4.6)	ナゲノケズリ	黄褐色	板状	やや良好
59	土器部・輪	SC21	(13.6)	—	(8.5)	(6.0)	ナゲノ板ケズリ	板	やや不良	
60	土器部・縁	SC21	(13.1)	—	(4.2)	—	頂部捺印、側面部ケズリ／ハケ	黄褐色～灰黃褐色／板	板状	やや良好
61	礫石	SC21	10.1	5.5	3.8	283	砂岩、5面使用			

SC22 (Fig.45・46、Ph.27、Tab.10)

調査区南寄りで確認された造構で、方形の堅穴住居であると思われる。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。南側は発掘区外へ伸びる。西側はSC21に、南側は2面で確認した河川SD-13に切られる。SD29を切る。北東部のコーナーはプランが確認できなかった。確認された規模は北辺で東西4.2m、東辺で南北2.1mである。残存壁高は10cmである。柱穴は確認できなかつた。

出土遺物をFig.46とTab.10に示す。

SC24 (Fig.47・48、Ph.28・29、Tab.11)

調査区南西寄りで検出した方形堅穴住居である。締まりのあるシルト層とその下層である暗褐色粘質土を掘り込んでいる。規模は東西4.8m、南北6.0mの長方形を呈する。残存壁高は20cmである。SK23に切られ、SC25を切る。柱穴は4ヶ所確認した。すべて2段掘りになっている。東側の柱穴間の中央に小ピットが確認された。西壁際の中央に白色粘土を確認した。カマドの構築材かと考えられる。この付近に遺物の集中

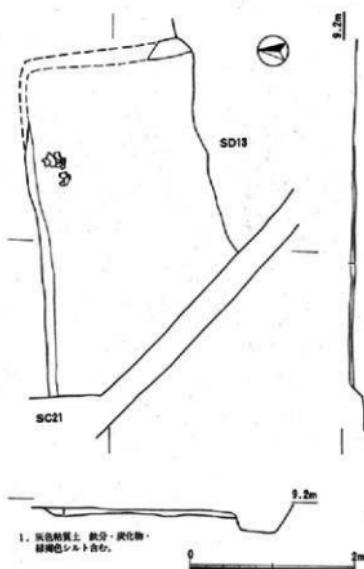


Fig.45 SC22実測図 (1/60)



Ph.27 SC22 (北東から)

Tab.10 SC22 出土遺物観察表

番号	種類	出土層	法面 (cm)			内面/外面	色/質	構成	備考
			口径	幅	底径				
62	須恵器・环身	SC22	(11.3)	-	-	5.0	回転ナデ/回転ナダ、回転ヘラケズリ	灰色	直付 I-5~(II-1)
63	土師器・飴把手	SC22	-	-	-	ナダ	灰白~黄櫻	やや良好	
64	土師器・飴把手	SC22	-	-	-	ナダ	灰白~黄櫻	やや良好	



Ph.28 SC24 (北東から)

もみられた。

出土遺物をFig.48とTab.11に示す。

須恵器環身66はSC40出土須恵器と接合した。



Ph.29 SC24カマド (東から)

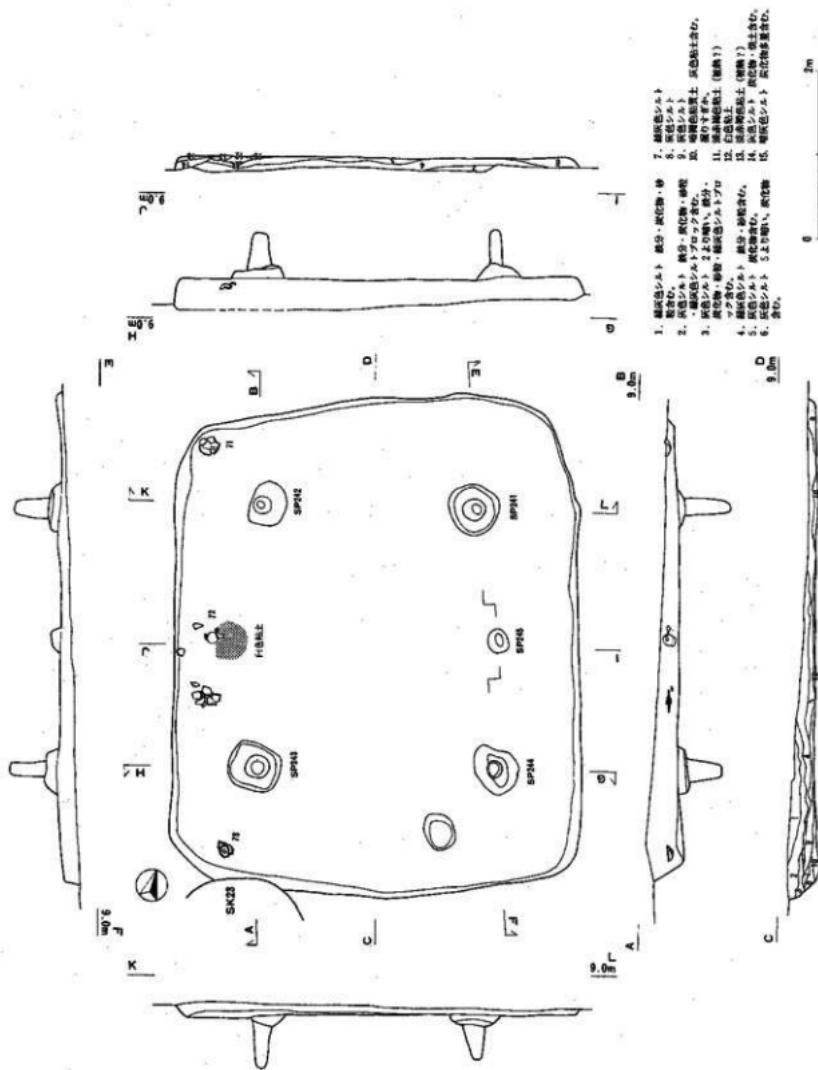


Fig.47 SC24実測図 (1/60)

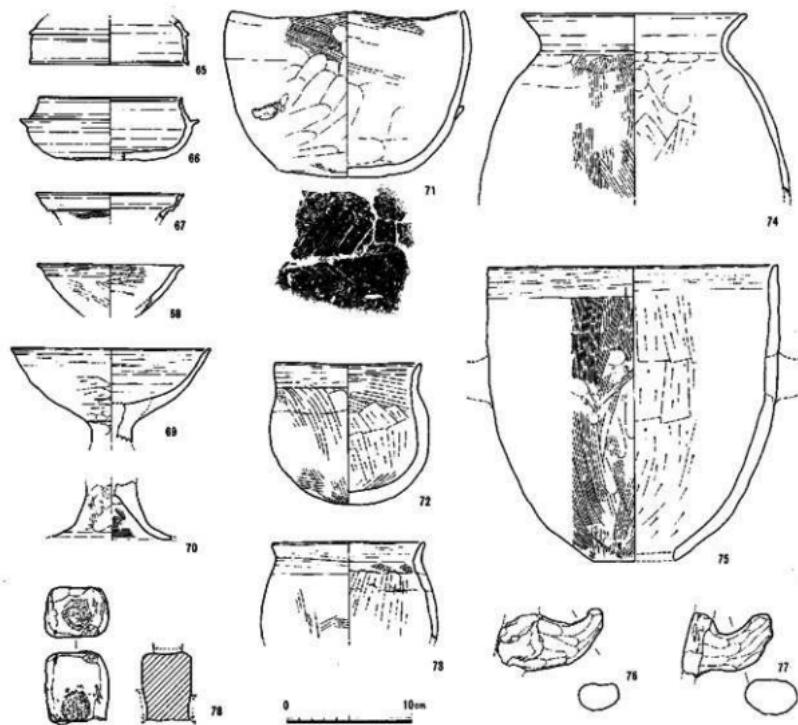


Fig.48 SC24出土遺物実測図 (1/4)

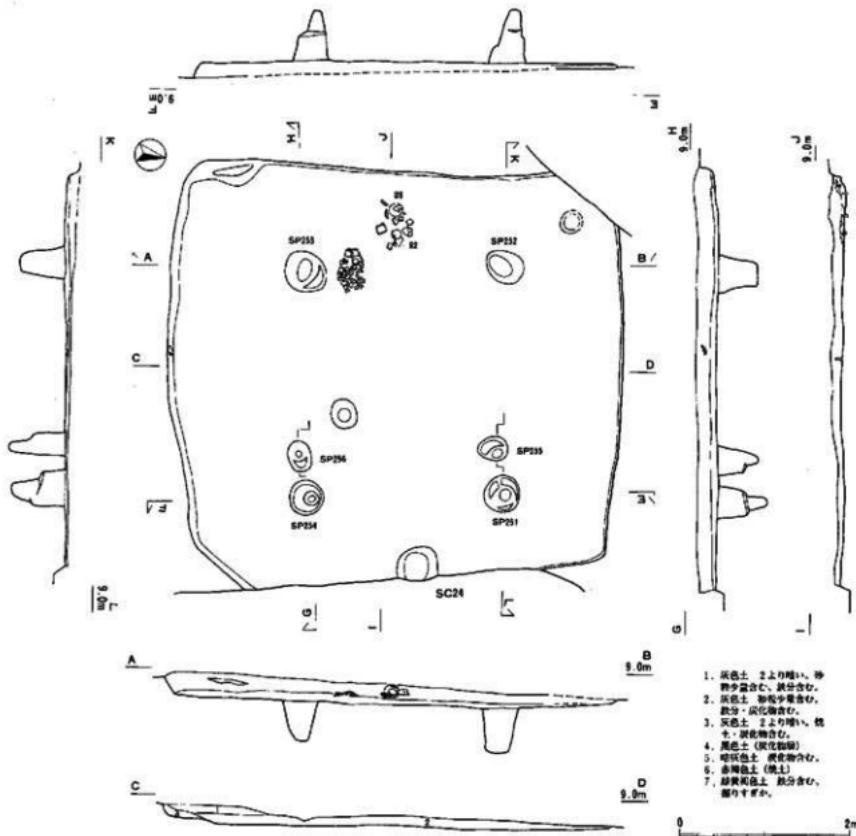
Tab.11 SC24 出土遺物観察表

番号	種類	出土地	形質	口径	腹径	側面	底	高さ (cm)	測定	測定		備考
										内面/外面	内面/外面	
65	環底器・环蓋	SC24	(12.6)	-	-	[3.7]	内板ナデ/内板ナデ	灰	良好	1-3		
66	復底器・环身	SC24	(11.5)	-	-	[5.0]	内板ナデ/内板ナデ、内板ヘラケメリ	灰灰	良好	1-5	SC40と接合	
67	復底器・底	SC24	(11.0)	-	-	[2.1]	内板ナデ/内板ナデ、波状文	灰~灰白	良好			
68	土師器・底	SC24	(11.7)	-	-	[4.0]	ミガキ/ミガキ	灰	良好			
69	上部器・凸环	SC24	(17.8)	-	-	[7.5]	板ナデ/ケズリ、頸部ナデ	浅黄青~青/浅青~	良好			
70	上部器・凸环	SC24	-	-	-	[4.1]	板ナデ/ハケ、ナデ	淡赤褐	良好			
71	土師器・底	SC24	(18.7)	-	-	13.2	ハケ、ナデ/ハケ、ナデ	灰白~浅黄褐/青~	赤褐	やや良好	外底本瓦底	
72	土師器・底	SC24	11.8	-	-	11.3	頸部ハケ、胴部ケメリ/ハケ	褐色~灰青褐/青~	青	やや良好		
73	土師器・底	SC24	12.3	-	-	[7.8]	頸部ハケ、胴部ケメリ/ハケ	褐色~灰青褐/青~	青	やや良好		
74	土師器・底	SC24	(18.1)	-	-	[25.0]	頸部ナデ、胴部ケメリ/頸部ナデ、胴部	黄青~灰青/黄青~	青	やや良好		
75	上部器・瓶	SC24	(23.3)	-	-	[23.5]	頸部ナデ、胴部ケメリ/頸部ナデ、胴部	黄青~灰口/灰白	一灰	やや良好	半丸	
76	土師器・瓶把手	SC24	-	-	-	-	ナデ	青灰~青褐	青	良好		
77	土師器・瓶把手	SC24	-	-	-	-	ナデ	灰白~褐灰	青	良好		
番号	種類	出土地	形質	口径	腹径	側面	底	高さ (cm)	測定	備考		
78	陶石	SC24	3.8	5.1	14.0	195	花崗岩、3面使用					

SC25 (Fig. 49・50, Ph. 30~32, Tab. 12)

調査区南西寄りで検出した方形堅穴住居である。縫まりのあるシルト層とその下層である黒褐色粘土層を掘り込んでいる。北西隅が発掘区外に伸びる。東壁はSC24に切られる。規模は東西が北辺付近で4.7m、南北付近で5.1m以上、南北が5.4mである。残存壁高は残りのよい南西隅で20cmである。柱穴は6ヶ所確認した (SP251~256)。住居は4本柱と思われ、東側に拡張がおこなわれたと考えられる (SP255→SP251・SP256→SP254)。西壁際中央部に遺物の集中がみられ、土層も炭化物や焼土を含んでいる。カマドの痕跡と考えられる。

出土遺物をFig. 50とTab. 12に示す。





Ph.30 SC25 (北東から)



Ph.31 SC25遺物出土状況 (南東から)



Ph.32 SC25遺物出土状況 (北西から)

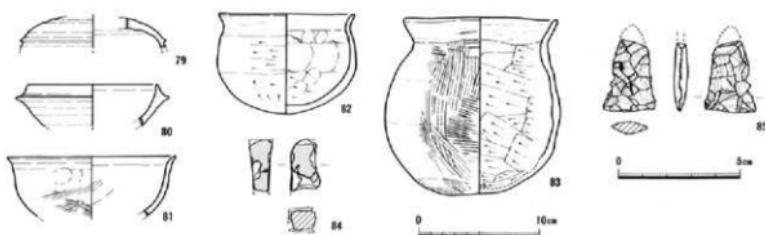
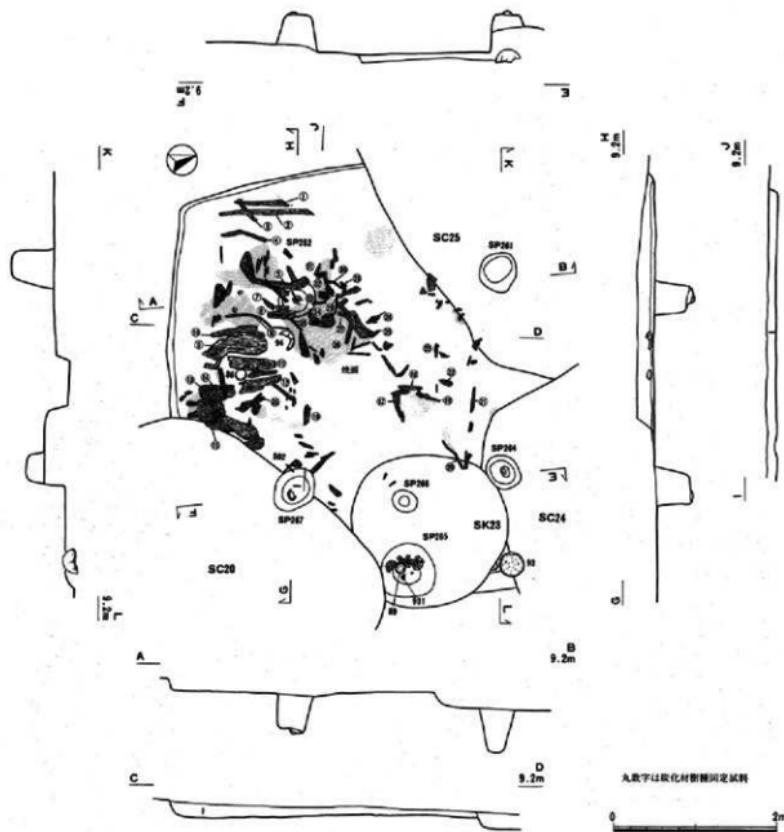


Fig.50 SC25出土遺物実測図 (1/2 + 1/4)

Tab.12 SC25出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法面			深さ (m)	裏面/裏面 内面/外面	色調	調査 内面/外面	度成	備考
			右面	左面	底面						
79	埴毛器・环高	SC25	—	—	—	—	同軸ナデ/同軸ナデ、同軸ヘラケズリ	灰白	良好	良好	
80	土師器・环身	SC25 (10.7)	—	—	[3.4]	同軸ナデ/同軸ナデ	浅灰	やや良好			
81	土師器・輪	SC25 (11.9)	—	—	[6.0]	ハケ?、ナデ/ハケ、ナデ	褐/浅黄	浅黄	良好	良好	
82	土師器・鉢	SC25 (11.1)	—	—	8.3	指押え、板ナデ/ケズリ、ナデ	褐~褐灰	浅黄	良好	良好	
83	土師器・盤	SC25 (12.8)	14.5	—	14.7	ケズリ、ナデ/タタキ、ハケ	灰白	やや良好			
84	砾石	SC25	(4.3)	2.4	1.9	21	砂岩、3面使用				
85	石器	SC25	(3.0)	2.2	0.5	2.6	泥凝岩?平基式				



ピット (SP266) がある。また、東壁際中央に浅いピット (SP265) が検出された。床面上に炭化材が散乱しており、焼失家屋であると思われる。炭化材を35点採取し、樹種同定を依頼した (204ページ参照)。床面から滑石製白玉902がSP265から滑石製紡錘車931が出土している。

出土遺物をFig.52とTab.13に示す。このほかミニチュア土器2点873・874が出土している。



Ph.34 SC26 (東から)

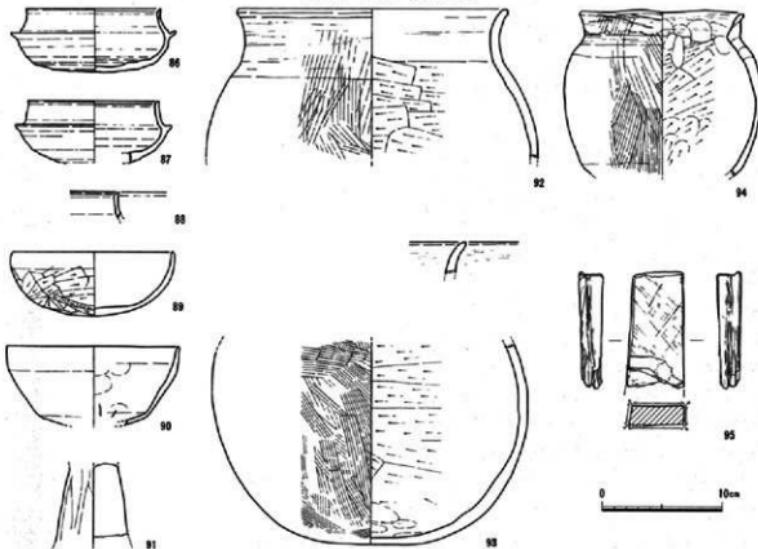


Fig.52 SC26出土遺物実測図 (1/4)

Tab.13 SC26出土遺物観察表

番号	種類	出土 位置	法 長 (cm)	幅 幅 (cm)	高 度 (cm)	面 内面/外 面	色 内面/外 面	成 形	備 考	
									内面	外 面
86	須恵器・环身	SC26	11.1	-	-	5.3	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰~褐灰	良好	網目、(1~4)~1~5
87	須恵器・环身	SC26	10.8	-	-	[5.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	褐灰~褐灰	良好	(1~4)~1~5
88	須恵器・环身	SC26	-	-	-	-	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~褐灰	良好	1~4~1~5
89	土師器・筒	SC26	13.1	-	-	5.4	回転ナゲ/ヘラケズリ	淡褐色	やや良好	
90	土師器・筒	SC26	(14.0)	-	-	[6.5]	ナゲ、板ナゲ/ヘラケズリ?、ナゲ?	黄橙~橙	やや良好	
91	土師器・高筒	SC26	-	-	-	[5.7]	ケズリ	黄橙~橙	やや良好	
92	土師器・筒	SC26	22.0	-	-	[12.4]	ケズリ/ノケ	灰白~黄褐色/橙~	やや良好	
93	土師器・筒	SC26	-	-	-	[16.7]	胴部ケズリ、底部ナゲ・脚押え/ハケ	黄橙/脚部~橙	やや良好	
94	土師器・筒	SC26	12.1 (13.7)	-	-	[13.7]	脚部ナゲ、胴部ケズリ/ハケ	橙~褐色/灰黃褐色~	やや良好	

SC27 (Fig. 53・54、  
Ph.35, Tab.14)

調査区南寄りで検出された長方形の竪穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。東西3.1m、南北4.0mと小形の住居である。残存壁高は15cmである。2面の造構であるSE07・09に切られている。2本柱になると思われる北側の柱穴 (SP271) を確認した。その他にピットを南西隅 (SP276) と東壁際中央 (SP275) に確認した。

出土遺物をFig.54とTab.14に示す。このほかミニチュア土器875が出土している。

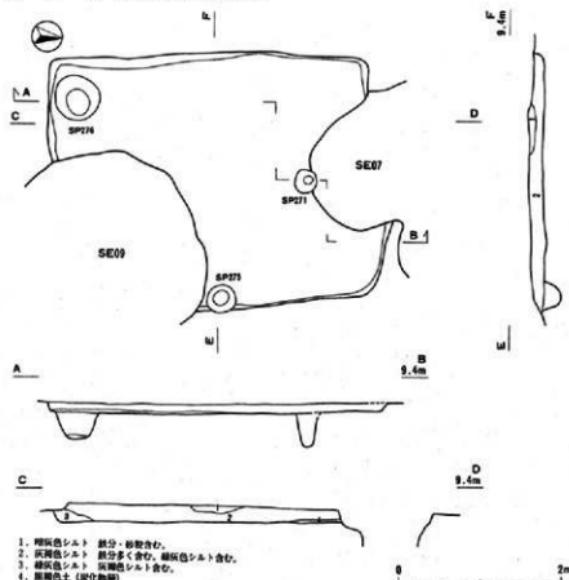
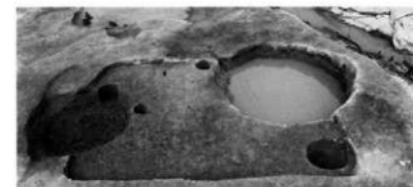


Fig.53 SC27実測図 (1/60)

Fig.54 SC27出土遺物実測図 (1/4)



Ph.35 SC27 (西から)

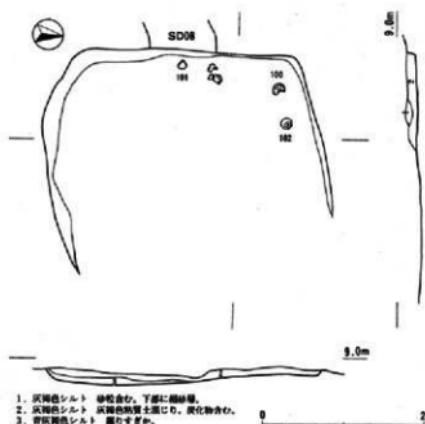
Tab.14 SC27出土遺物観察表

番号	種類	出土 位置	法 長 (cm)	幅 幅 (cm)	高 度 (cm)	面 内面/外 面	色 内面/外 面	成 形	備 考	
									内面	外 面
95	土師器・筒	SC27	(12.6)	-	-	[5.8]	ナゲ、ラズリ/ハケ	黒褐色~橙/橙~灰白	やや良好	

SC28 (Fig. 55・56, Ph. 36・37, Tab. 15)

調査区南寄りで確認した方形堅穴である。柔らかい細砂～シルト層を切り込んでいる。東壁は確認面を下すぎたので検出できなかった。東西は南辺で2.8m残存する。南北は3.4mである。残存壁高は西側で15cmである。2面の造構SD08に切られている。SC50・SD52を切る。柱穴は確認できなかった。

出土遺物をFig. 56とTab. 15に示す。



Ph. 36 SC28 (東から)

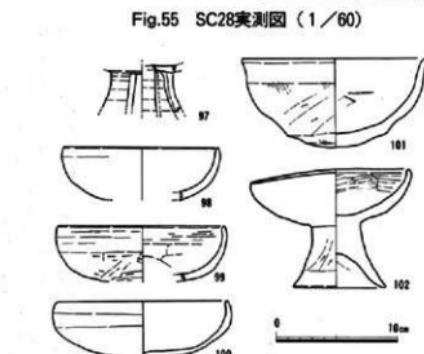


Fig. 56 SC28出土遺物実測図 (1/4)

Tab. 15 SC28出土遺物観察表

番号	種類	形状	基盤	基盤高 (m)	内・外	内・外	焼成	備考
					内/外	内/外		
87	環底器・高环	SC28	-	-	(4.0)	回転式ノブ/管状突起	灰	良好
88	上脚器・鉢	SC28 (11.8)	-	-	(4.4)	ナゲ・ノブ/カズリ	黄褐色/青褐色～灰	良好
89	上脚器・鉢	SC28 (11.7)	-	-	(4.0)	ナゲ・板ナゲ/カズリ	黄褐色/灰	やや不良
100	土脚器・鉢	SC28 (11.8)	-	-	4.6	脚底/カズリ	灰	やや不良
101	土脚器・鉢	SC28 (11.5)	-	-	7.3	板ナゲ/板ナゲ	灰	良好
102	土脚器・高环	SC28 (12.4)～ 13.2	-	7.8	9.8	環底ミギキ、脚部ミギキ/環底摩滅、脚部 カズリ	灰褐色～暗褐色	良好

SC30 (Fig. 57~59, Ph. 38~40, Tab. 16)

調査区南西寄りで検出した方形堅穴住居である。締まりのあるシルト層を掘り込んでいる。規模は東西6.2m、南北5.5mであり長方形を呈する。残存壁高は30cmである。北西部は2面の遺構SK04とSC20に、南西はSC21に切られている。北東はSC31に重複しており、SC31に切られていると判断したが、覆土が似ており確信が持てない。南西のSC21に切られている部分は方形の深い掘り込み (SP 306) があり、この住居の南西隅の形状をかすかに残している。柱穴は4ヶ所確認された (SP301~304)。その他床面にいくつかピットがみられるがこの住居に伴うものか判断がつかない。遺物が集中する西壁寄り中央に土製支脚122が立ったまま出土し、周辺に床面の焼け込みがみられた。この位置にカマドが存在したものと思われる。

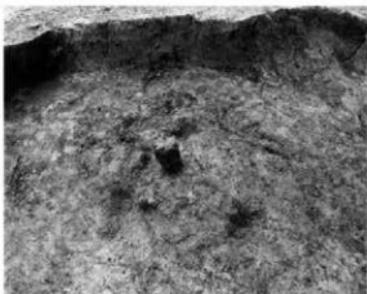
出土遺物をFig. 58・59とTab. 16に示す。このほかミニチュア土器876と土製小玉877と滑石製紡錘車932が出土している。



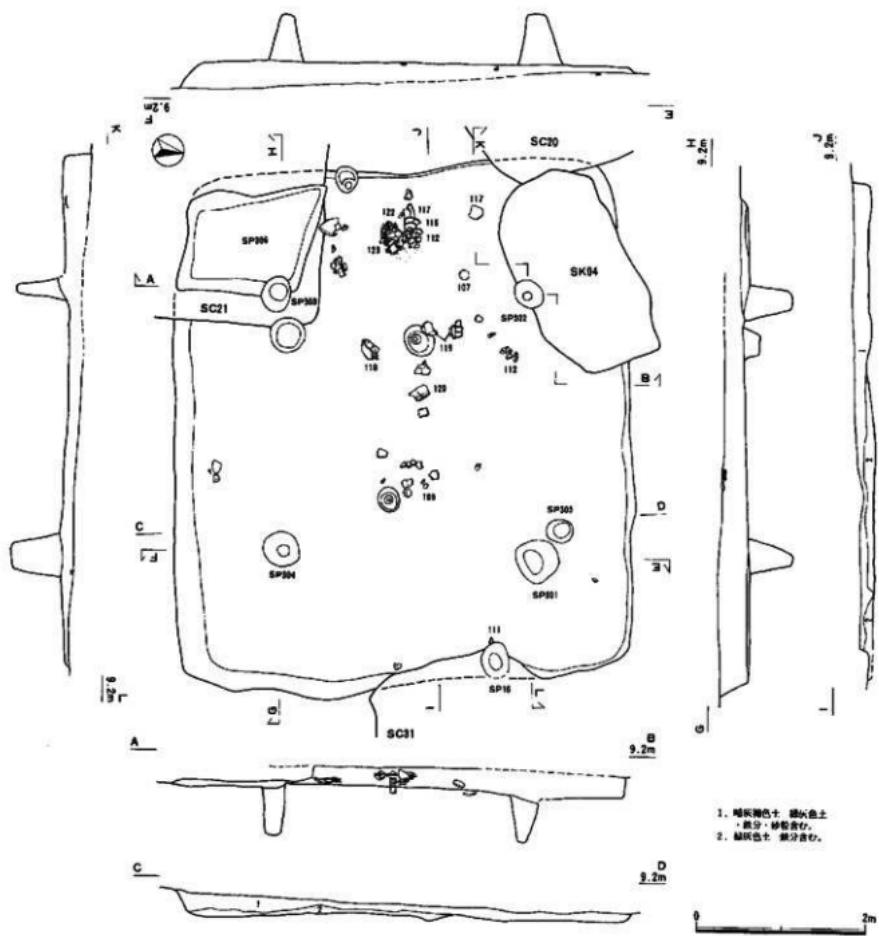
Ph.38 SC30 (東から)



Ph.39 SC30遺物出土状況 (北から)



Ph.40 SC30カマド (北東から)



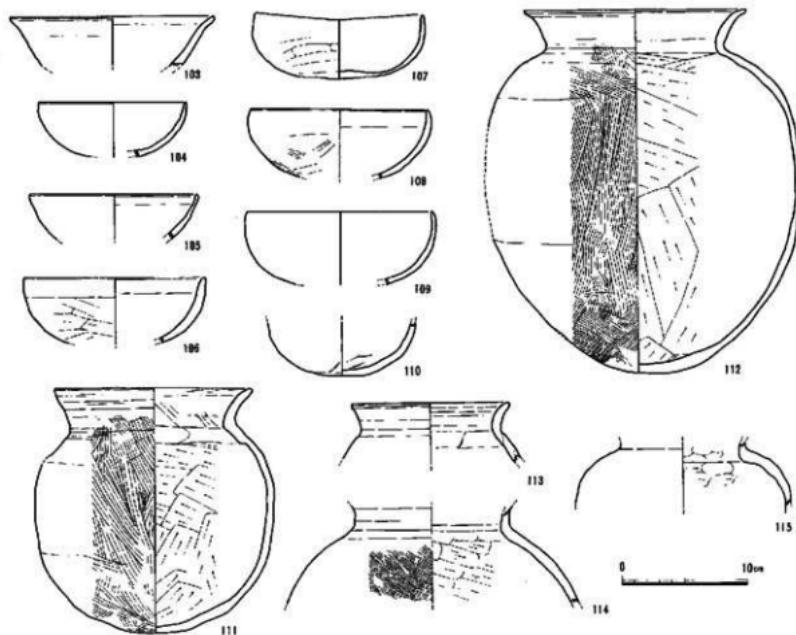


Fig.58 SC30出土遺物実測図 1 (1/4)

Tab.16 SC30出土遺物観察表

番号	種類	出土場所	寸法	底径	高さ	表面	内面・外面		色調	施成	備考
							内面	外面			
103	土師器・高杯	SC30	(16.2)	-	4.0	圓柱ナデ/円柱ナデ	黒褐色~暗灰	無	無	無	
104	土師器・瓶	SC30	(11.7)	-	4.3	ナデ/クズリ	成灰灰	不均			
105	土師器・瓶	SC30	(13.6)	-	3.6	ナデ/ナデ	褐灰~灰/健灰	やや不良			
106	土師器・瓶	SC30	(14.3)	-	5.0	ナデ/クズリ	灰褐色~灰褐色	不均			
107	土師器・瓶	SC30	12.4~	-	5.2	摩滅/クズリ	淡灰灰~暗灰	やや不良			
108	土師器・瓶	SC30	(14.2)	-	5.3	ナデ/ハケ	淡灰灰~暗灰	やや不良			
109	土師器・瓶	SC30	(15.1)	-	5.9	摩滅/摩滅	淡灰灰/灰褐色	やや不良			
110	土師器・瓶	SC30	-	-	4.3	ナデ、板ナデ/ナデ、板ナデ	細灰~淡灰灰	やや不良			
111	土師器・瓶	SC30	(16.6)	-	18.0	口縁部ハケ、瓶身ナデ、剥離ケズリ/ハケ	黃褐色~褐色	やや良好			
112	土師器・甕	SC30	(17.6)	(24.7)	29.0	壺部ナデ、堅筋ケズリ/ハケ	深灰~青褐色	やや良好			
113	土師器・甕	SC30	(12.6)	-	4.9	ナデ/ナデ	褐色/褐色	やや不良			
114	土師器・甕	SC30	-	-	[7.7]	難認ナデ、剥離ケズリ/ハケ	灰褐色~黑褐色/淡灰灰	無	無	無	
115	土師器・甕	SC30	-	-	[3.2]	壺部ナデ、堅筋ケズリ/ナデ	淡灰灰~茶褐色/褐色	不均			
116	土師器・瓶	SC30	28.6	-	(8.0)	上部板ナデ、下部ケズリ/ナデ/ハケ	淡褐色~暗灰	無	多孔		
117	土師器・瓶	SC30	25.6	-	27.0	壺部ケズリ/底部ナデ/ハケ	淡褐色~灰褐色	不均	多孔		
118	土師器・瓶	SC30	-	-	(16.0)	[17.1]	ナデ、堅筋え/ハケ	灰白~黃褐色	2孔	やや良好	
119	土師器・瓶	SC30	18.3	-	13.7	ケズリ、ナデ/ハケ/ナデ、底部擦痕え	褐色~青褐色	やや良好			
120	土師器・瓶	SC30	(18.4)	-	(6.0)	上部ナデ、下部ケズリ/ナデ/ハケ?	淡黃褐色~青	やや良好			
121	土師器・瓶把手	SC30	-	-	-	ナデ、堅筋え	褐色	不均			
122	土製支撑	SC30	7.4	-	[15.4]	ナデ	褐色	不均			

番号	種類	出土場所	寸法	底径	高さ	表面	内面・外面		色調	施成	備考
							内面	外面			
123	磁石	SC30	(12.0)	(8.0)	3.7	560	粘板岩、5面使用、刃なし板				

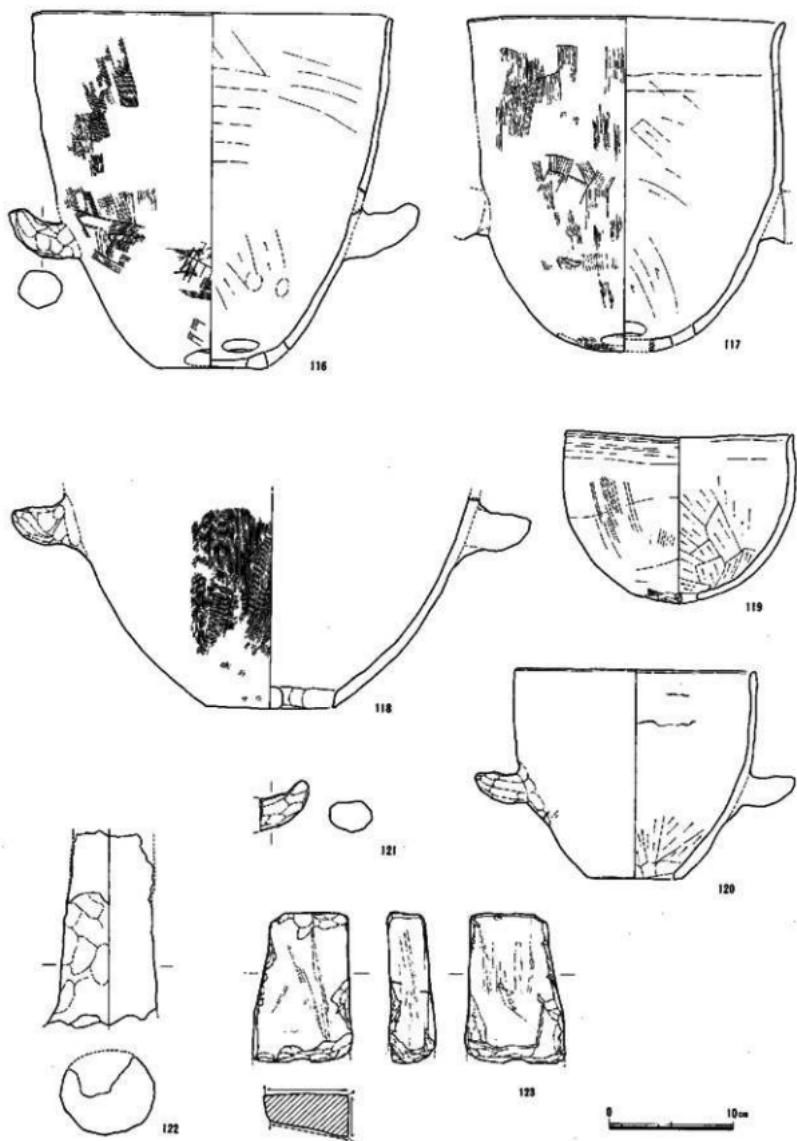
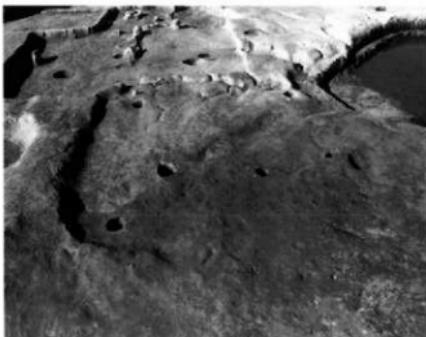


Fig.59 SC30出土遺物実測図 2 (1/4)

SC31 (Fig. 60・61, Ph. 41, Tab. 17)

調査区南西寄りで検出した方形竪穴住居である。南西側は締まりのあるシルト層、北東側は柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。北側は確認面を下げすぎたため検出できなかった。東西4.5mの規模で南側の残存壁高は10cmである。北側はSD52を切る。西側はSC30を切っていると思われるがはっきりしなかった。床面上にいくつかピットがみられるがどれが住居の柱穴かは判断がつかない。

出土遺物をFig. 61とTab. 17に示す。



Ph.41 SC31 (東から)

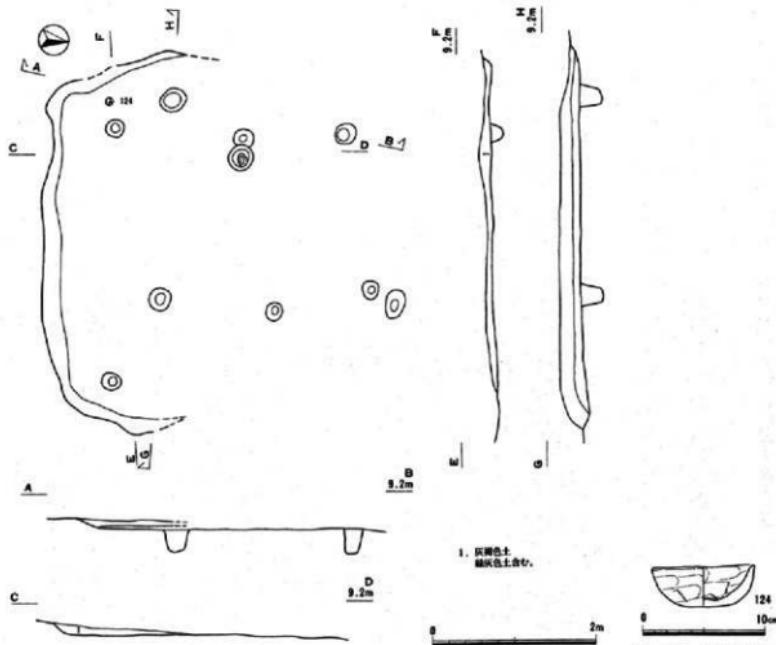


Fig.60 SC31実測図 (1/60)

Fig.61 SC31出土  
遺物実測図 (1/4)

Tab.17 SC31出土遺物観察表

番号	種類	出土層	口径	法	真	(φ)	断面		構成	備考
							内面	外面		
124	土師器・小網	SC31	8.4	-	-	3.5	ナデ、板ナデ、板押え/ナデ、板ナデ	板	やや良好	

SC32 (Fig. 62・63、Ph. 42・43、Tab. 18)

調査区南東寄りに位置する。柔らかい細砂～シルト層に掘り込んでいる。北側は地層の乱れ (SX 12) があり、検出できなかった。東西3.8m、南北は東辺で2.8m確認できる。残存壁高は15cmである。柱穴は南側で2ヶ所確認した (SP323・324)。

出土遺物をFig. 63とTab. 18に示す。



Ph.42 SC32遺物出土状況（南西から）

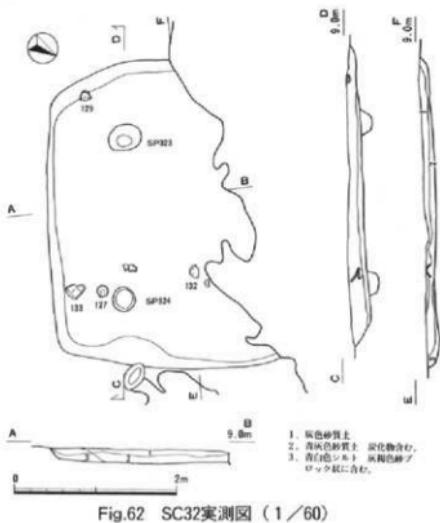


Fig.62 SC32実測図 (1/60)



Ph.43 SC32 (北西から)

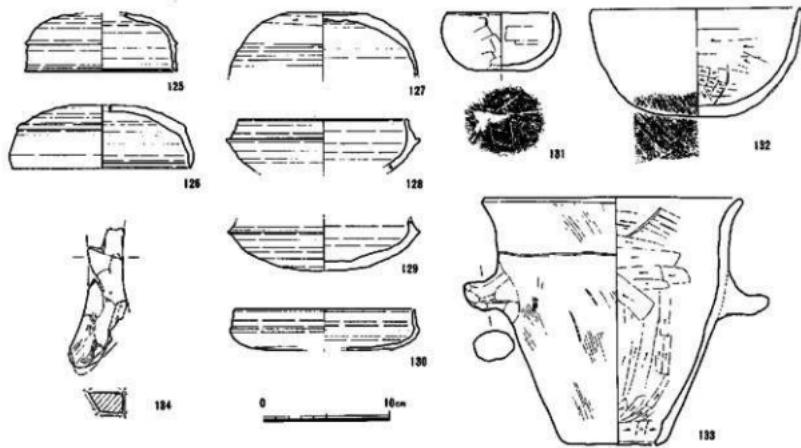


Fig.63 SC32出土遺物実測図 (1/4)

Tab.18 SC32出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	形 品	寸法 (mm)	厚 細	内 容	色 質	周 長	内面	外面	状 成	備考
125	須無器・环底	SC32	(12.0)	-	-	[4.6]	内軸ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰~紺灰	良好	I-4~(I-5)		
126	須無器・环底	SC32	(14.0)	-	-	5.0	タキ、回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラ	灰~暗灰	良好	产地不明、II-1		
127	須無器・环底	SC32	(14.0)	-	-	[5.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	褐	良好			
128	土師器・环身	SC32	(13.5)	-	-	[4.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡褐色~濃褐色	中や不良			
129	土師器・环身	SC32	-	-	-	[4.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	褐灰~暗灰褐色	中や不良			
130	土師器・环身	SC32	(14.0)	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	褐灰~褐色/灰褐色	良好			
131	土師器・小輪	SC32	(8.2)	-	-	4.6	タキ、ハケナゲ/ナゲ、ハケ	灰~紺灰	中や不良	外底ヘラ記号		
132	土師器・脚	SC32	(16.4)	-	-	8.6	ケズリ、ナゲ/タキ?	褐~紺灰	不良	外面タキ痕		
133	土師器・瓶	SC32	(26.2~26.5)	-	6.6	19.8	口縁部ハケ、腹部ケズリ/ハケ、ナゲ	褐	良好	單孔		
134	石器	SC32	(11.1)	3.1	2.1	60	粘板岩、刃面使用					

SC33・34 (Fig.64・65, Ph.44~48, Tab.19)

調査区南東寄りに位置する。柔らかい砂層～シルト層を掘り込んでいる。大形の方形窪穴住居SC33が切っている。SC33は一辺2.9mのほぼ正方形をなし、床面はレンズ状になっており、一番深い中央部では確認面から45cmである。南東隅に小ピットがあり、方形の木枠を据えていたようで、西側と南側の2辺で木材が残っていた。脇から発137が1個体出土した。柱穴は確認されなかった。

SC34は東西6.5m、南北6.3mの大形の竪穴住居で残存壁高は20cmである。南辺が膨らんでいる。柱穴は北東部をSC33との重複で欠く。北西、南西の柱穴は2ヶ所ずつあり (SP342とSP345、SP343とSP346)、住居の拡張が西側へなされたと考えられる。

出土遺物をFig.65とTab.19に示す。このほかにSC33から大形器台771の破片が出土している。

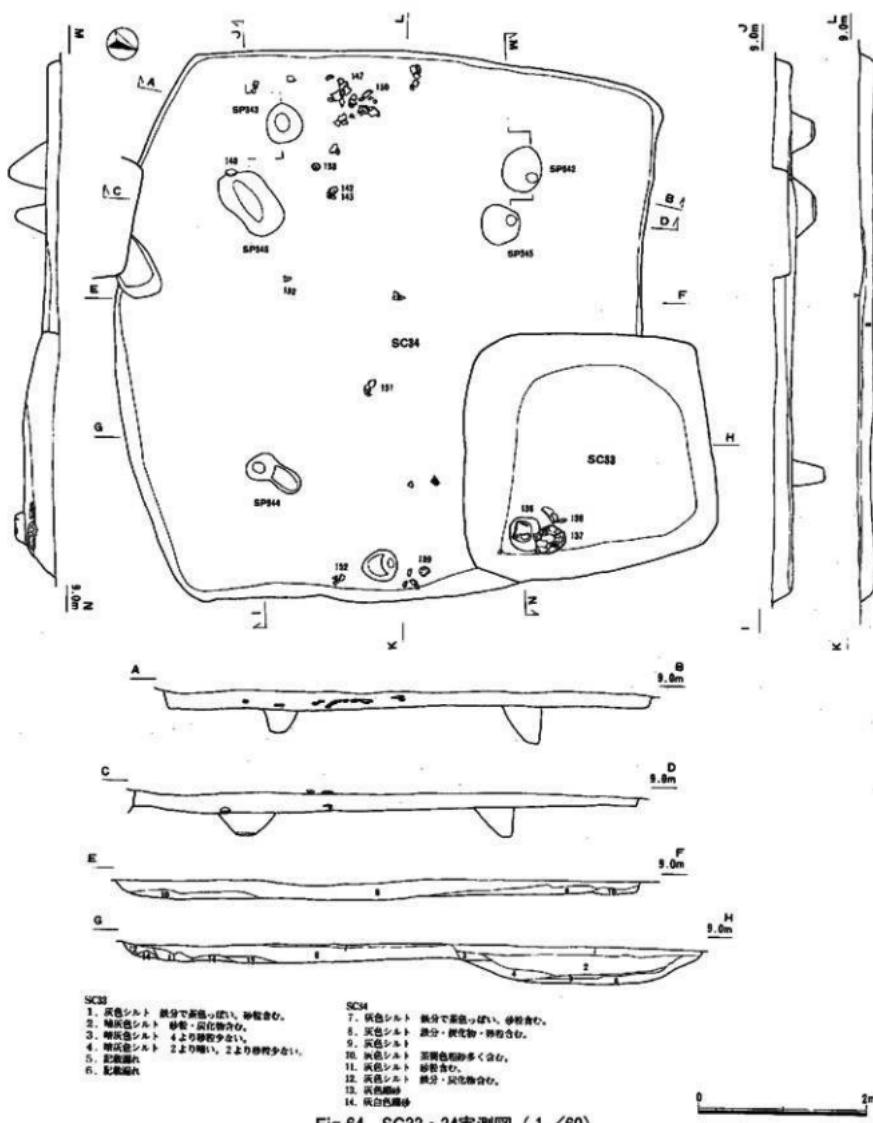


Fig.64 SC33・34実測図 (1/60)



Ph.44 SC33・34 (北西から)



Ph.45 SC33 (北西から)



Ph.46 SC33遺物出土状況 (東から)

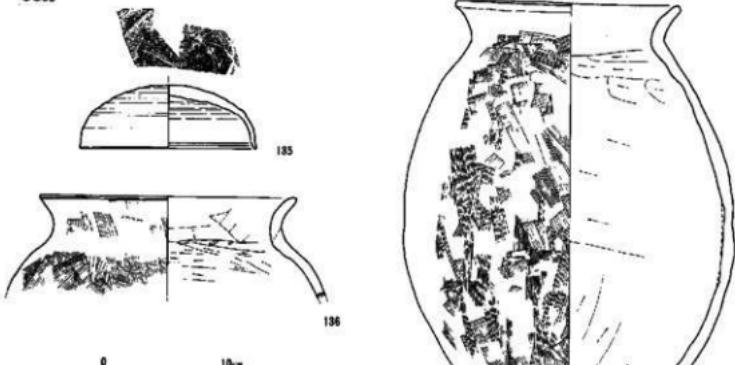


Ph.47 SC34遺物出土状況 (東から)

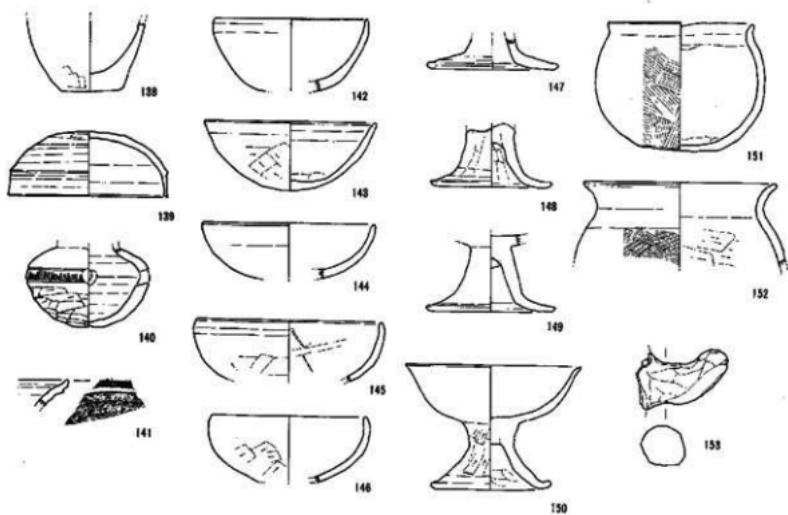


Ph.48 SC34遺物出土状況 (西から)

## SC33



## SC34



## SC33-34



Fig.65 SC33・34出土遺物実測図（1／4）

Tab.19 SC33・34出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法尺 (cm)			断面/裏面	色/調 内面/外玉	形状	備考	
			口径	厚度	底高					
135	復原器・环蓋	SC33 (14.0)	-	-	5.0	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗赤褐色/青灰~墨灰	良好	△△△△△ 新貝、Ⅱ-1	
136	土師器・蓋	SC33 (20.4)	-	-	[7.9]	口縁部板ナゲ、調節ケズリ/ハケ	墨灰~褐灰/灰褐色	良好		
137	土師器・蓋	SC33 17.4~ 15.0	-	25.0	-	ケズリ/ハケ	灰褐色~暗茶褐色/墨灰	良好		
138	帶状土器・甌	SC34	-	-	5.0	-	ナゲ?/ハケ、ナゲ	褐色	良好	
139	復原器・环蓋	SC34 12.6	-	-	5.2	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡灰/灰	良好	陶巴、I-5	
140	復原器・甌	SC34 -	-	-10	-	回転ナゲ/回転ナゲ、手持ちヘラケズリ、	淡灰	良好	朝倉、I-5	
141	復原器・甌	SC34 -	-	-	-	調節ナゲ/持枝文	灰白	良好		
142	土師器・碗	SC34 (12.2)	-	-	[5.8]	-	成形焼/燒灰	やや不良		
143	土師器・碗	SC34 (13.7)	-	-	[5.5]	ナゲ、底面指揮え/ケズリ	灰褐色~暗茶褐色/墨灰	良好		
144	土師器・碗	SC34 (13.8)	-	-	[4.4]	-	ナゲ/ケズリ	淡褐色	やや不良	
145	土師器・碗	SC34 (14.8)	-	-	[4.0]	板ナゲ/上部ナゲ、下部ケズリ	淡褐色~冰裂	良好		
146	土師器・碗	SC34 (12.2)	-	-	[5.2]	-	成形焼/ズリ?	淡褐色	やや不良	
147	土師器・高杯	SC34 -	-	-	(10.5)	[2.0]	ナゲ/ナゲ	明褐色~茶褐色	良好	
148	土師器・高杯	SC34 -	-	-	2.7	[3.0]	ケズリ/ナズリ	褐色	やや不良	
149	土師器・高杯	SC34 -	-	-	18.5	[5.1]	ナゲ/ナゲ	明褐色~茶褐色	やや不良	
150	土師器・高杯	SC34 (14.0)	-	-	9.5	9.9	環状解離、開口ナゲ・指揮え/环部ケズリ	明褐色~茶褐色	良好	
151	土師器・杯	SC34 (11.6)	-	-	10.2	-	ナゲ、底面ナゲ・指揮え/ハケ	褐色	良好	
152	土師器・甌	SC34 (15.0)	-	-	[6.6]	-	底部ナゲ、底部ケズリ/ハケ	暗茶褐色/褐色~茶褐色	良好	
153	土師器・瓶把手	SC34 -	-	-	-	-	ナゲ	灰褐色	良好	
154	復原器・甌	SC33 -	-	(8.0)	-	[5.4]	回転ナゲ/上部ナゲ、波状文、下部タタ	淡灰白	良好	I-3
155	復原器・甌	SC33 +34 (35.0)	-	-	[8.0]	-	ナゲ/ナゲ、波状文	淡素灰	やや不良	
156	土師器・高杯	SC33 +34 -	-	-	(10.7)	[3.2]	ナゲ/ナゲ	明褐色	良好	

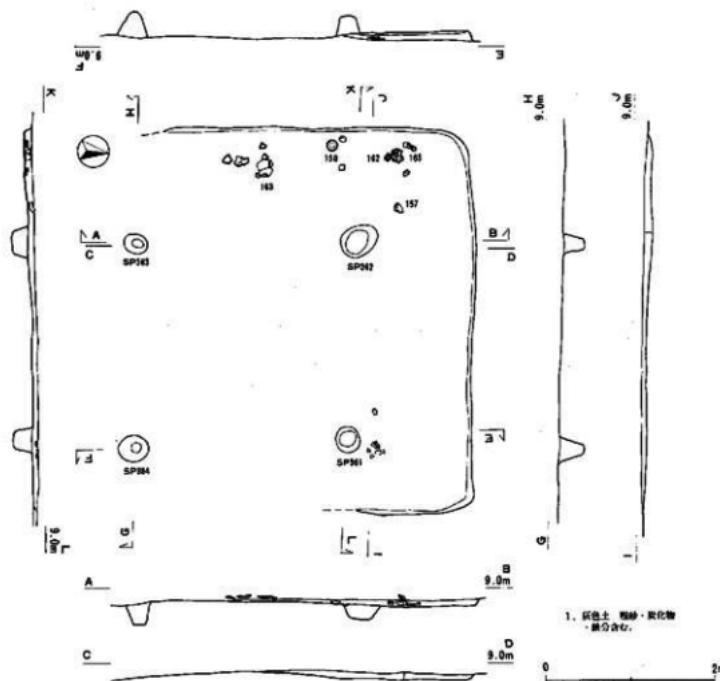


Fig.66 SC36実測図 (1 / 60)

SC36 (Fig. 66・67, Ph. 49~51,  
Tab. 20)

調査区南寄りに位置する方形堅穴住居である。粗砂を含んだ締まった層を掘り込む。東西4.6m、南北は西辺で3.7mを確認できる。北側の残存壁高は10cmで残存状況は非常に悪い。柱穴は4ヶ所確認できた (SP361~364)。柱穴位置から南北規模は5.4mと想定される。

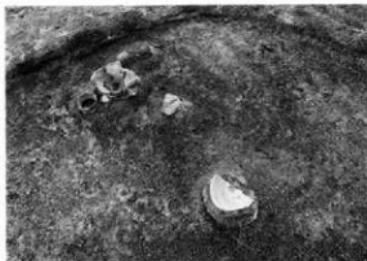
出土遺物をFig. 67とTab. 20に示す。



Ph.49 SC36 (南から)



Ph.50 SC36遺物出土状況 (東から)



Ph.51 SC36遺物出土状況 (東から)

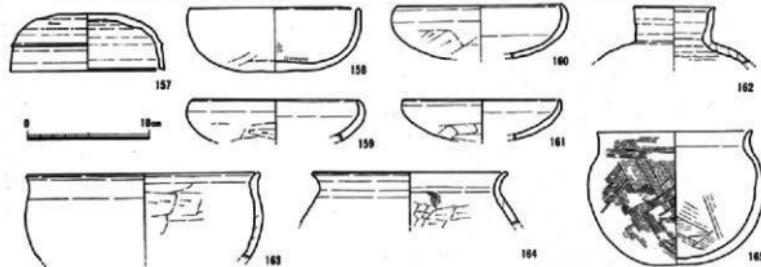


Fig.67 SC36出土遺物実測図 (1/4)

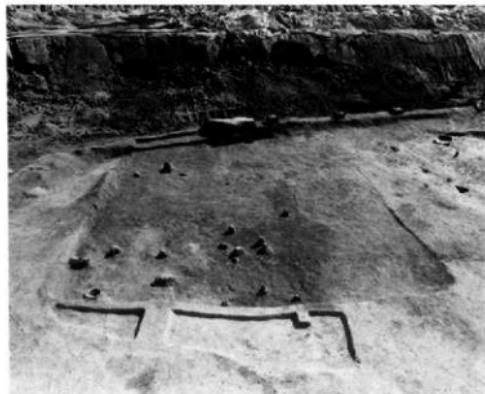
Tab.20 SC36出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法 (cm)			断面	内面/外面	色調	堆成	備考
			口径	幅	厚さ					
157	陶器器・环	SC36 (G2.7)	-	-	4.8	回転ナゲ/回転ナゲ/ナゲ	青灰	良好	新貝、1-3~1-4	
158	土器器・碗	SC36	13.5~	-	5.3	厚底/厚底	赤褐色/褐灰	良好		
159	土器器・碗	SC36	13.5	-	[3.5]	ナゲ/ケズリ	褐色/褐色~灰	良好		
160	土器器・碗	SC36	13.7	-	[4.4]	ナゲ/ケズリ	明褐色	中や不良		
161	土器器・碗	SC36 (H5.0)	-	-	[3.4]	ナゲ/ケズリ	褐色~黒褐色/褐色	良好		
162	土器器・碗	SC36 (6.0)	-	-	[4.8]	ケズリ/ナゲ	褐色	中や不良		
163	土器器・盆	SC36 (19.2)	-	-	[7.2]	隔壁ナゲ/隔壁ケズリ/ナゲ	灰褐色/褐色~褐色	良好		
164	土器器・盆	SC36 (16.1)	-	-	[4.5]	隔壁ナゲ/ナゲ、隔壁ケズリ/ナゲ	茶褐色/褐色	中や不良		
165	土器器・盆	SC36 (12.8)	-	-	11.1	ハケ、指揮え/ハケ	褐色~暗褐色	良好		

SC37 (Fig.68・69、Ph.52、  
Tab.21)

調査区南寄りに位置する方形堅穴  
住居である。柔らかい細砂～シルト  
層を掘り込んでいる。東西は北辺で  
5.5m、南北は東辺で5.1mを確認し  
た。遺物が出土したので南側はさら  
に伸びるかと思われる。残存壁高は  
25cmである。南西部の遺存状況は  
非常に悪い。柱穴は確認できなかっ  
た。

出土遺物をFig.69とTab.21に示  
す。このほかミニチュア土器878が  
出土している。



Ph.52 SC37 (北西から)

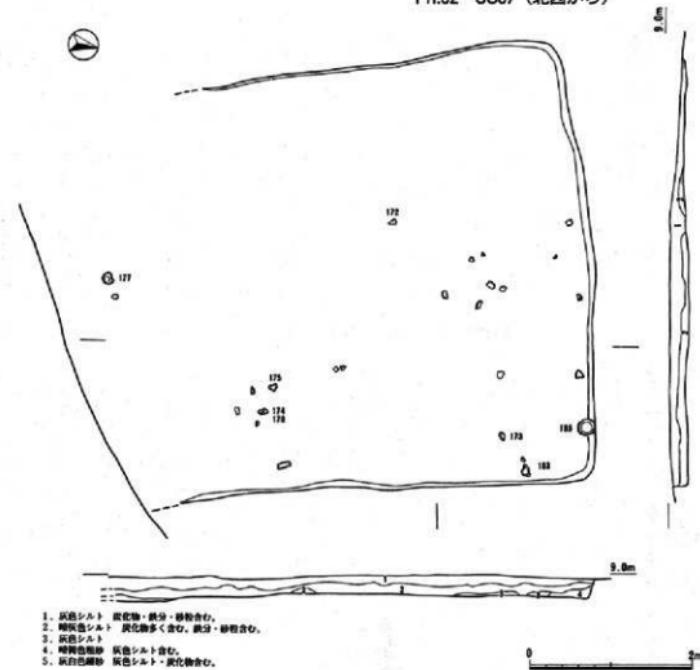


Fig.68 SC37実測図 (1/60)

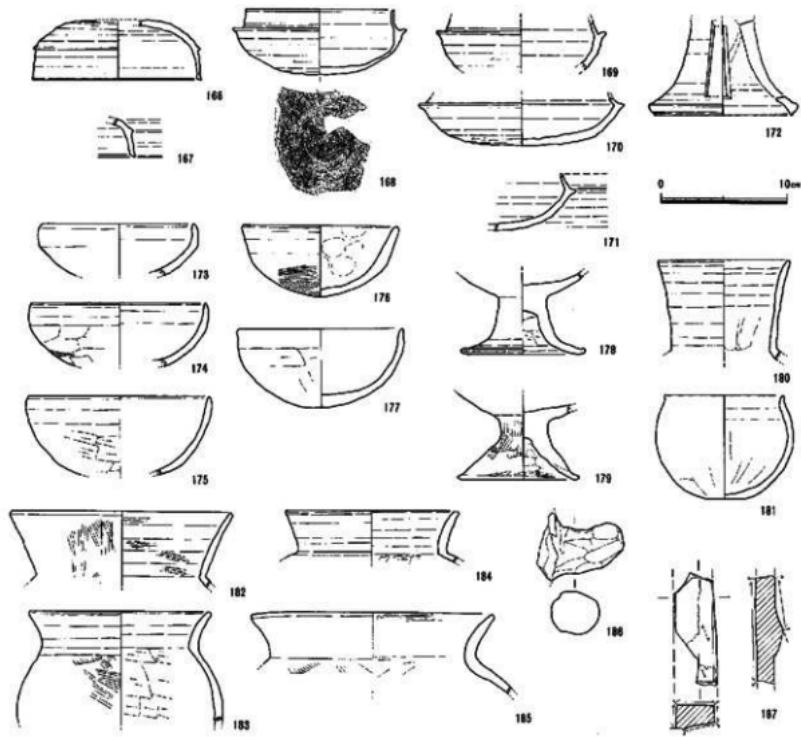


Fig.69 SC37出土遺物実測図 (1/4)

Tab.21 SC37出土遺物観察表

番号	種類	出土地	直徑 (cm)	幅径 (cm)	高さ (cm)	測定		内面/外面	内面/外面	内面/外面	検査	備考
						内面	外面					
165	須恵器・环蓋	SC37	(13.5)	-	-	[4.8]	[4.8]	内輪ナゲ/内縁ナゲ、内縁ヘラケズリ	青灰/緑灰	良好	1-3-1-1-4	
167	須恵器・环蓋	SC37	-	-	-	[3.2]	[3.2]	内輪ナゲ/内縁ナゲ、内縁ヘラケズリ	青灰	良好	1-3-1-1-1	
168	須恵器・环身	SC37	(11.4)	-	-	-	-	内輪ナゲ/内縁ナゲ、内縁ヘラケズリ	青灰/青灰	良好	ヘラ起号、II-1	
169	須恵器・环身	SC37	-	-	-	[4.0]	[4.0]	内輪ナゲ/内縁ナゲ、内縁ヘラケズリ	明灰	良好		
170	須恵器・环身	SC37	-	-	-	[3.8]	[3.8]	内輪ナゲ/内縁ナゲ、内縁ヘラケズリ	淡青灰	良好		
171	須恵器・环身	SC37	-	-	-	[4.4]	[4.4]	内輪ナゲ/内縁ナゲ、内縁ヘラケズリ	青灰/緑灰	良好		
172	須恵器・高环	SC37	-	-	(11.8)	[1.5]	[1.5]	内輪ナゲ/内縁ナゲ	青灰	良好	4方透かし、1-1-1-1	
173	土師器・环	SC37	(12.0)	-	-	[4.1]	[4.1]	ナゲ/ケズリ	淡灰灰/青灰	やや不良		
174	土師器・环	SC37	(13.0)	-	-	[5.0]	[5.0]	ナゲ/ケズリ	淡灰/淡灰弱	良好		
175	土師器・环	SC37	(14.5)	-	-	[6.2]	[6.2]	ナゲ/ケズリ	淡灰	良好		
176	土師器・环	SC37	(12.5)	-	-	5.7	5.7	ナゲ/ハケ、ナゲ	灰灰/淡灰-灰弱	良好		
177	土師器・环	SC37	13.2	-	-	6. 2	6. 2	摩擦/ケズリ?	淡灰灰-一灰	やや不良		
178	土师器・高环	SC37	-	-	(10.0)	[6.5]	[6.5]	环底ナゲ、脚部ケズリ? 指痕え/ナゲ	淡灰	良好		
179	土师器・高环	SC37	-	-	(8.4)	[6.8]	[6.8]	环底摩擦、脚部ハケ、ナゲ/外底摩擦、脚部ハケ、ナゲ	褐~暗褐	良好		
180	土師器・合	SC37	(16.5)	-	-	[8.0]	[8.0]	ナゲ/回転ナゲ	淡褐色/黄褐色	良好		
181	土師器・井	SC37	(9.6)	-	-	6.2	6.2	板ナゲ/ケズリ?	淡灰褐	良好		
182	土師器・合	SC37	(17.6)	-	-	[6.0]	[6.0]	ハケ、ナゲ/ハケ、ナゲ	淡灰褐	良好		
183	土師器・甕	SC37	(14.4)	-	-	[8.9]	[8.9]	ケズリ/ハケ、ナゲ	灰褐~茶褐、淡灰	やや不良		
184	土師器・甕	SC37	(13.7)	-	-	[4.1]	[4.1]	ケズリ/ナゲ	褐灰	良好		
185	土師器・甕	SC37	19.2	-	-	[6.4]	[6.4]	ケズリ/ハケ、ナゲ	褐~暗褐	不良		
186	土師器・甕把手	SC37	-	-	-	-	-	ナゲ	淡褐色~暗灰	良好		

番号	種類	出土地	直徑 (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重さ (kg)	備考
187	砾石	SC37	(19.0)	3.2	2.1	70	粘灰岩、4面削用



Ph.53 SC38 (南から)

SC38 (Fig. 70・71, Ph. 53, Tab. 22)

調査区南寄りで検出した方形堅穴住居である。柔らかい砂層～シルト層を掘り込んでいる。南側は2面で確認した河川SD13で削られ、東側は2面の造構SD10に切られている。東西は北辺で2.5m、南北は西辺で2.9m残存する。残存壁高は30cmである。柱穴は北側の2ヶ所が確認された(SP381・384)。北東の柱穴 (SP381) には柱材が残存していた。柱穴位置から東西規模は3.9mと想定できる。

出土遺物をFig. 71とTab. 22に示す。

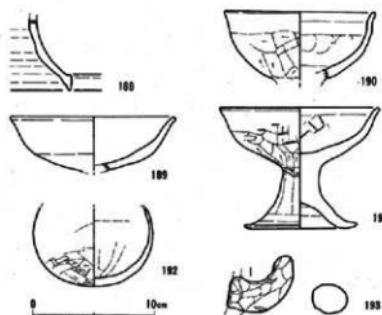


Fig.71 SC38出土遺物実測図 (1/4)

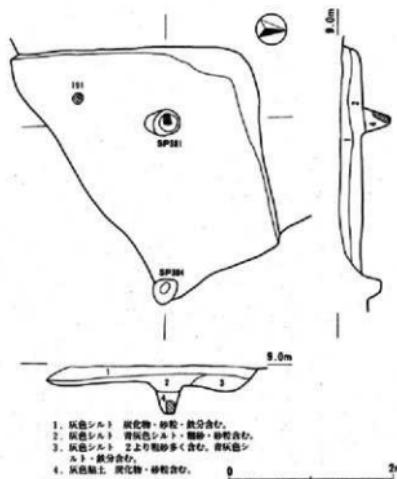


Fig.70 SC38実測図 (1/60)

Tab.22 SC38出土遺物観察表

番号	種類	基盤	寸法	内面	外面	色	質	機成	備考
				厚さ	幅	長さ	幅	長さ	
188	頭蓋骨・高年	SC38			[5.9]	回転ナデ/回転ナデ	灰/灰～黄褐	良好	
189	土師器・棒	SC38	(13.4)	—	[4.5]	摩滅/ケズリ	褐色	不良	
190	土師器・高年	SC38	12.5	—	[5.1]	ナデ、指跡ナデ/ケズリ	褐色/褐色～褐色	やや不良	
191	土師器・高年	SC38	13.2	—	[5.4]	環部ナデ/板ナデ/ケズリ	褐色/褐色灰～茶褐	良好	
192	土師器・棒	SC38	—	—	[5.4]	ナデ/板ナデ	褐色	やや不良	
193	土師器・瓶把手	SC38	—	—	—	ナデ	灰褐～灰	良好	

SC39 (Fig. 72・73, Ph. 54, Tab. 23)

調査区東寄りで検出した方形堅穴住居である。締まりのあるシルト層とその下層の灰黒色粘土層を掘り込んでいる。東側は発掘区外に伸びる。規模は南北4.6m、東西は北辺で2.9m確認できる。残存壁高は20cmである。柱穴は西側の2ヶ所が確認された (SP392・393)。東側の調査区外に2ヶ所存在すると思われる。中央付近に炭化材が多くみられ、樹種同定を依頼した。(204ページ参照)

出土遺物をFig. 73とTab. 23に示す。

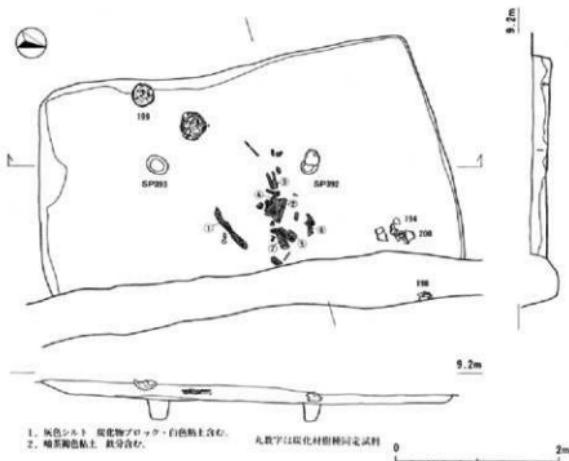


Fig.72 SC39実測図 (1/60)



Ph.54 SC39 (北東から)

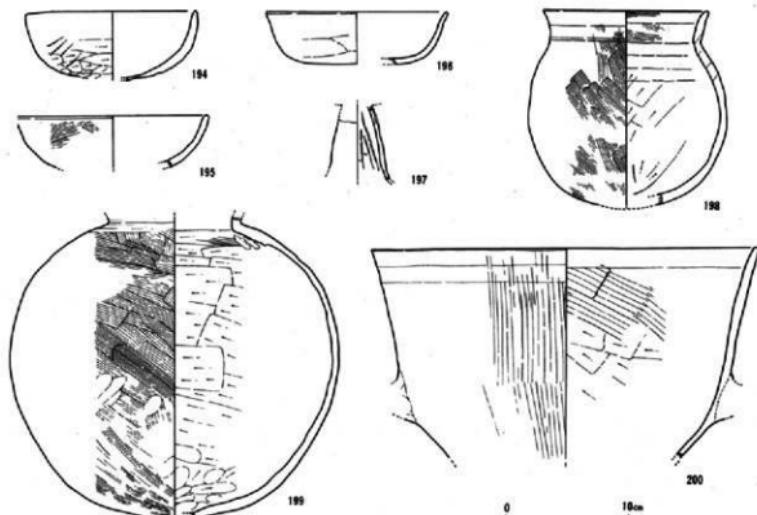


Fig.73 SC39出土遺物実測図（1／4）

Tab.23 SC39出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法長(2)	断面		内面/外面	色/調	構成	備考
				内面	外面				
194	土師器・柄	SC39	14.0	—	—	[5.7]	厚底ノケズリ	同	やや不良
195	土師器・柄	SC39	(15.8)	—	—	[4.8]	ナデノハケ、ナデ	黒褐／暗灰	やや不良
196	土師器・柄	SC39	(14.8)	—	—	[4.3]	厚底ノケズリ	淡褐	やや不良
197	土師器・高体	SC39	—	—	—	[6.3]	ケズリノ厚底	淡褐灰	やや不良
198	土師器・蓋	SC39	13.6	16.3	—	[11.1]	口縁部ハケ、頭部ノケズリ、側面部ケズリノ	褐灰／難灰～茶灰	やや不良
199	土師器・蓋	SC39	—	(26.8)	—	[24.8]	頭部ノケズリ、側面部ノケズリノハケ、ナデ	法褐灰	良好
200	土師器・蓋	SC39	31.7	—	—	[17.2]	上部ハケ、下部ケズリノハケ	褐灰～茶灰／難灰	良好

SC40 (Fig. 74・75, Ph. 55, Tab. 24)

調査区中央西寄りで検出した。試掘トレンチと擾乱に挟まれた狭い部分に遺物の集中がみられ、周囲を精査したところ、西壁と東壁の一部を確認した。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。東西6.2mの方形窪穴住居と思われる。柱穴は確認されなかった。

出土遺物をFig. 75とTab. 24に示す。このほかにSC24で出土した須恵器坏身66と接合する破片が出土している。



Ph.55 SC40 (北東から)

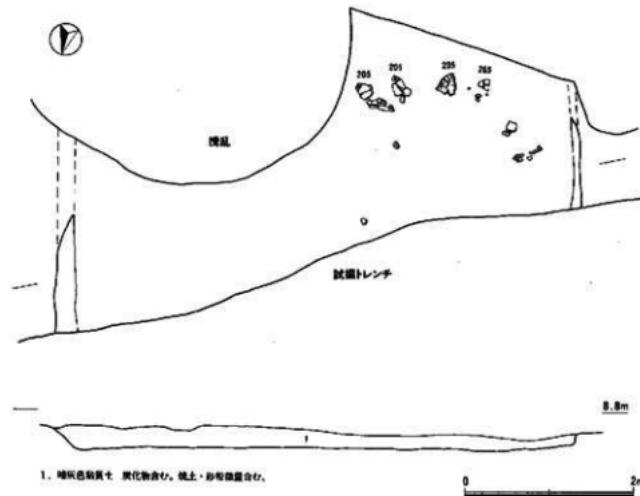


Fig.74 SC40実測図 (1/60)

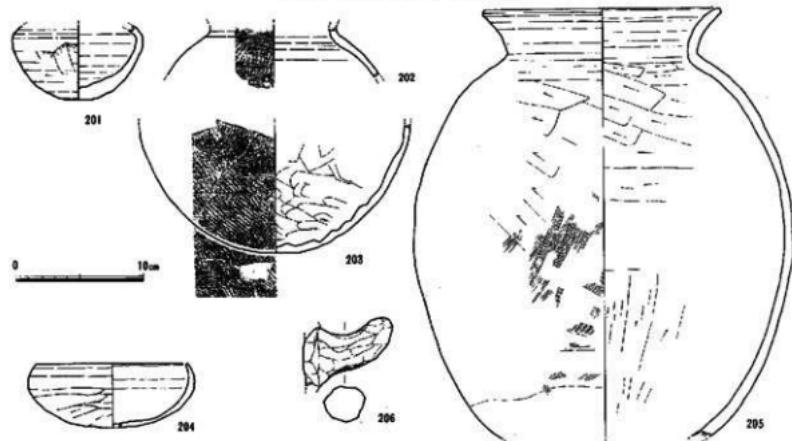


Fig.75 SC40出土遺物実測図 (1/4)

Tab.24 SC40出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	口径	周長	厚さ	(cm)	内面	外面	構成	備考
201	須恵器・盤	SC40	—	—	—	[10.2]	内輪ナデ/上部凹凸ナデ、下部凹凸ヘラ ケズリ・板ナデ	青灰/墨灰	良好	
202	須恵器・盤	SC40	—	—	—	[4.2]	当て具痕、ナデ/内輪ナデ、腹部タタキ、 内輪有	灰褐色/淡青灰	良好	
203	須恵器・盤	SC40	—	—	—	[16.2]	ケズリ/タタキ	淡褐色	良好	
204	土師器・鉢	SC40	(19.0)	—	—	[5.1]	ナデ/ケズリ	淡灰褐色/淡褐色	良好	
205	土師器・鉢	SC40	(18.9)	(34.0)	—	[34.2]	底部ナデ、内底ケズリ/ハケ、板ナデ ナデ	淡褐色	良好	
206	土師器・縦把手	SC40	—	—	—	—		淡褐色	良好	

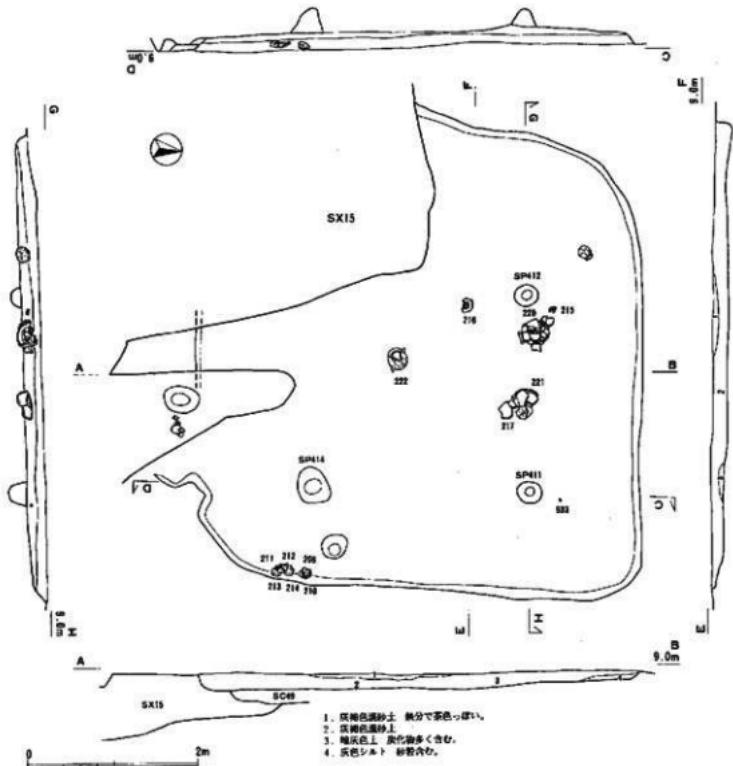


Fig.76 SC41実測図 (1/60)

SC41 (Fig. 76・77, Ph. 56~59, Tab. 25)

調査区中央部で確認した方形堅穴住居である。柔らかい細砂～シルト層とSC49を掘り込んで構築している。当初SX15の一部として調査していたが、床面が検出されたため、住居として調査を始めた。トレチを設定し土層観察をおこない、SX15との関係を調べたが、覆土が非常に似ており、分離することが難しかった。一応SX15を切り込んでいるように思え、この位置を南壁とした。規模は東西5.5m、南北5.3mとなる。残存壁高は15cmである。柱穴は3ヶ所確認した。南西の柱穴は確認しないままSX15とともに掘り下げてしまったと思われる。北側の柱穴の中間と南東隅に遺物の集中がみられる。住居中央では額222が伏せた状態で出土した。

出土遺物をFig. 77とTab. 25に示す。このほかに滑石製紡錘車933と大形器台771の破片が出土している。

SC42 (Fig. 78・79, Ph. 60~62, Tab. 26)

調査区中央部西寄りで検出した方形堅穴住居である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。SC43・44・SD47を切る。東西5.4m、南北6.4mの長方形を呈する。残存壁高は25cmである。柱穴は南側で2ヶ所 (SP423・424)、北側で4ヶ所 (SP421・422・426・427) 確認した。北側に拡張がおこな



Ph.56 SC41 (西から)



Ph.57 SC41遺物出土状況（北西から）



Ph.58 SC41遺物出土状況（西から）

われたと考えられる。その他にもピットがいくつか確認されているがこの住居に伴うものかどうか不明である。西壁際中央部に遺物の集中と粘土がみられ、カマドがこの位置にあったと考えられる。壁際には幅50~150cm、深さ20cmの周溝が巡り、東壁北側で途切れている。また、北壁には接していない。拡張前の施設であろうか。

出土遺物をFig.79とTab.26に示す。このほかにミニチュア土器880と大形器台771の破片が出土している。



Ph.59 SC41遺物出土状況（西から）

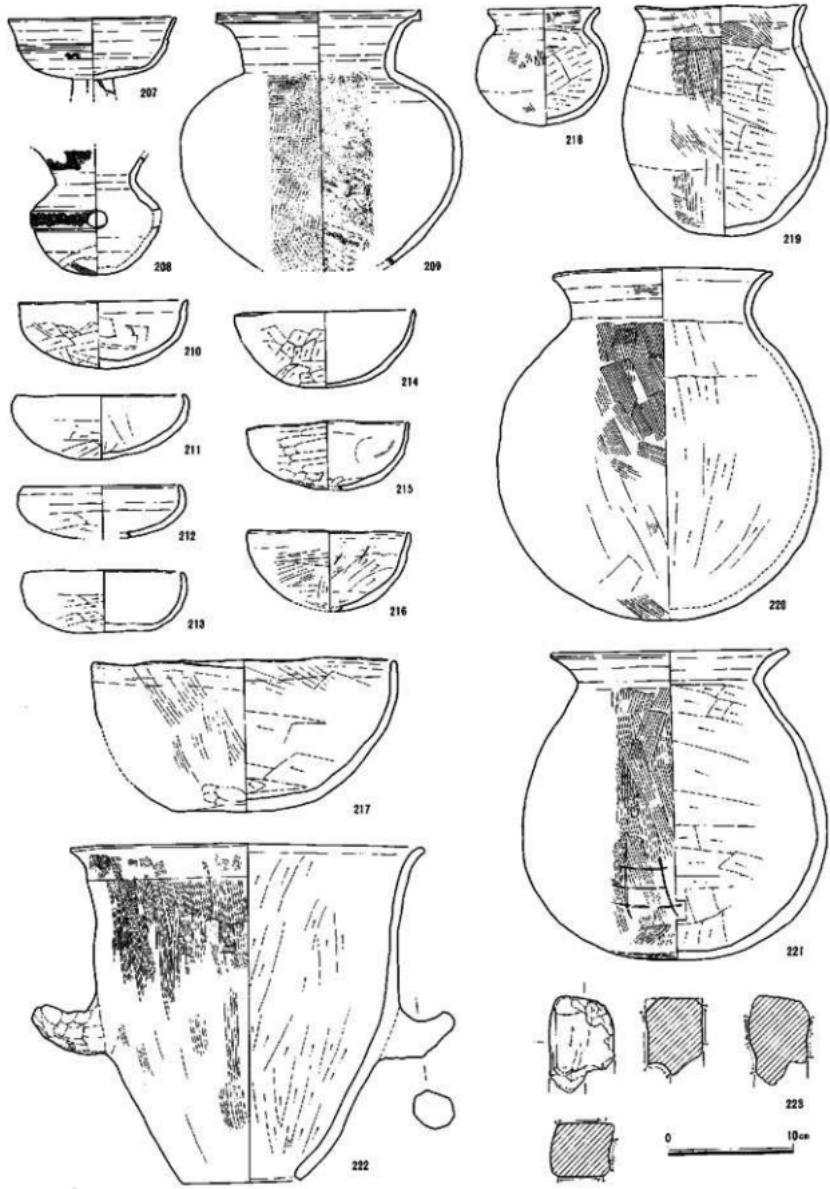


Fig.77 SC41出土遺物実測図 (1/4)

Tab.25 SC41出土遺物觀察表

番号	種類	出土位置	寸法	重 量 (g)	性 質	高さ (mm)	内面/外面		色/質 内面/外面	概 觀	備 考
							内面	外面			
207	須恵器・瓶	SC41	(13.3)	—	—	[6.1]	圓柱ナメ/環状凹凸ナメ・鋸歯ヘラケズナメ・直火文	灰青灰/褐色	良好	3方通かし、1-4-1-5	
208	須恵器・瓶	SC41	—	10.4	—	[10.1]	圓柱ナメ/環状凹凸ナメ・鋸歯ヘラケズナメ・直火文	灰青灰/褐色	良好	1-4	
209	須恵器・瓶	SC41	(16.3) (22.4)	—	[26.3]	当て具足、ナメ/ノタマ、カキ目ナメ、板ナメ?	灰/褐色	良好			
210	土師器・瓶	SC41	6.3~7.2	—	—	5.4	ナメ/ノタマ?、カキ目ナメ	灰/褐色	良好		
211	土師器・瓶	SC41	13.0	—	—	5.2	摩滅/ケズリ?	褐	不良		
212	土師器・瓶	SC41	(12.6)	—	—	[4.2]	ナメ/ケズリ	淡褐色~褐色	中や不良		
213	土師器・瓶	SC41	12.3	—	—	5.0	摩滅/ケズリ	淡褐色~褐	中や不良		
214	土師器・瓶	SC41	13.3~14.3	—	—	6.2	摩滅/ケズリ	淡褐色~褐	良好		
215	土師器・瓶	SC41	12.9	—	—	5.8	ハケ、ナメ/ハケ、ナメ	褐	良好		
216	土師器・瓶	SC41	16.1	—	—	5.5	ハケ、ナメ/ハケ	灰白~灰褐色	中や良好		
217	土師器・瓶	SC41	24.5	—	—	12.2	ハケ、板ナメ/ハケ、底部ナメ・施押丸口縁部ハケ、底部ナメ、網強ケズリ/ハケ	灰白~褐	中や良好		
218	土師器・瓶	SC41	8.8	16.3	—	9.4	口縁部ハケ、網強ケズリ/ハケ	褐~灰白	中や良好		
219	土師器・甕	SC41	13.6	16.2	—	18.5	口縁部ハケ、網強ケズリ/ハケ	灰白~褐灰/浅	中や良好		
220	土師器・甕	SC41	17.5	25.8	—	28.2	網強ナメ/ハケ、網強ケズリ/ハケ	淡褐色	良好		
221	土師器・甕	SC41	(19.0) (24.2)	—	—	24.8	ケズリ/ハケ、底部板ナメ	淡褐色~淡褐色	良好		
222	土師器・瓶	SC41	28.0	—	9.3	27.0	ケズリ/ハケ	淡褐色~淡褐色	良好	単孔	
番号	種類	出土位置	寸法	重 量 (g)	性 質	高さ (mm)	内面	外面	色/質 内面/外面	概 觀	備 考
223	磁石	SC41	(1.6)	5.2	4.2	239	砂岩、5面使用、磁石に転用?				



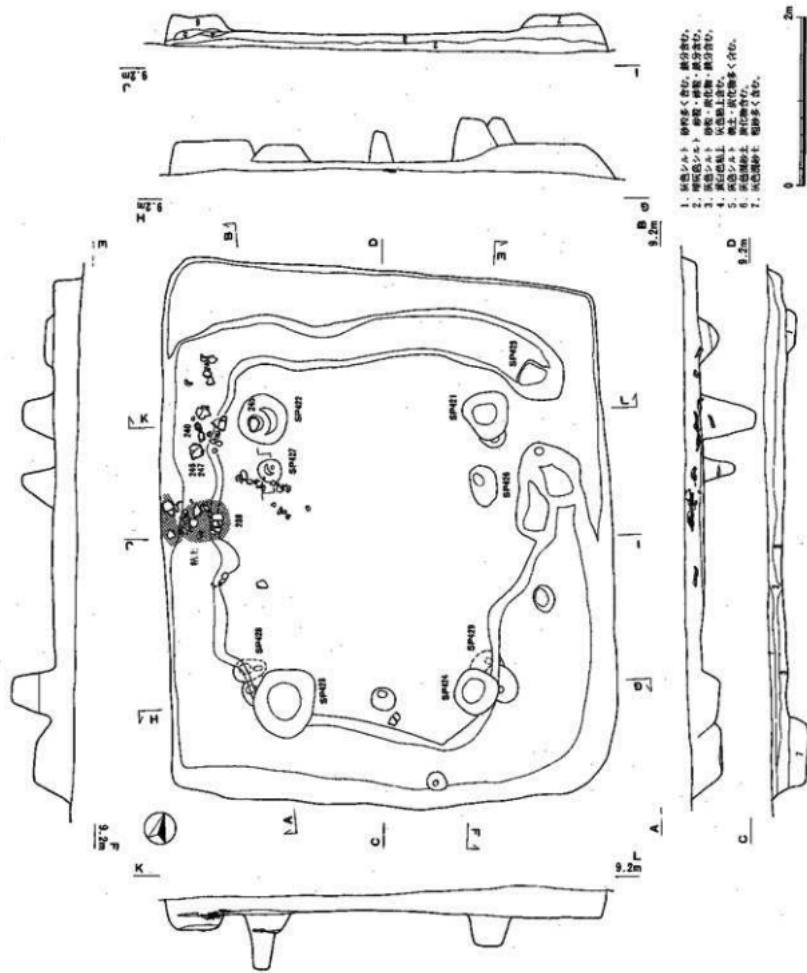
Ph.60 SC42 (東から)



Ph.61 SC42遺物出土状況（南東から）



Ph.62 SC42遺物出土状況（南東から）



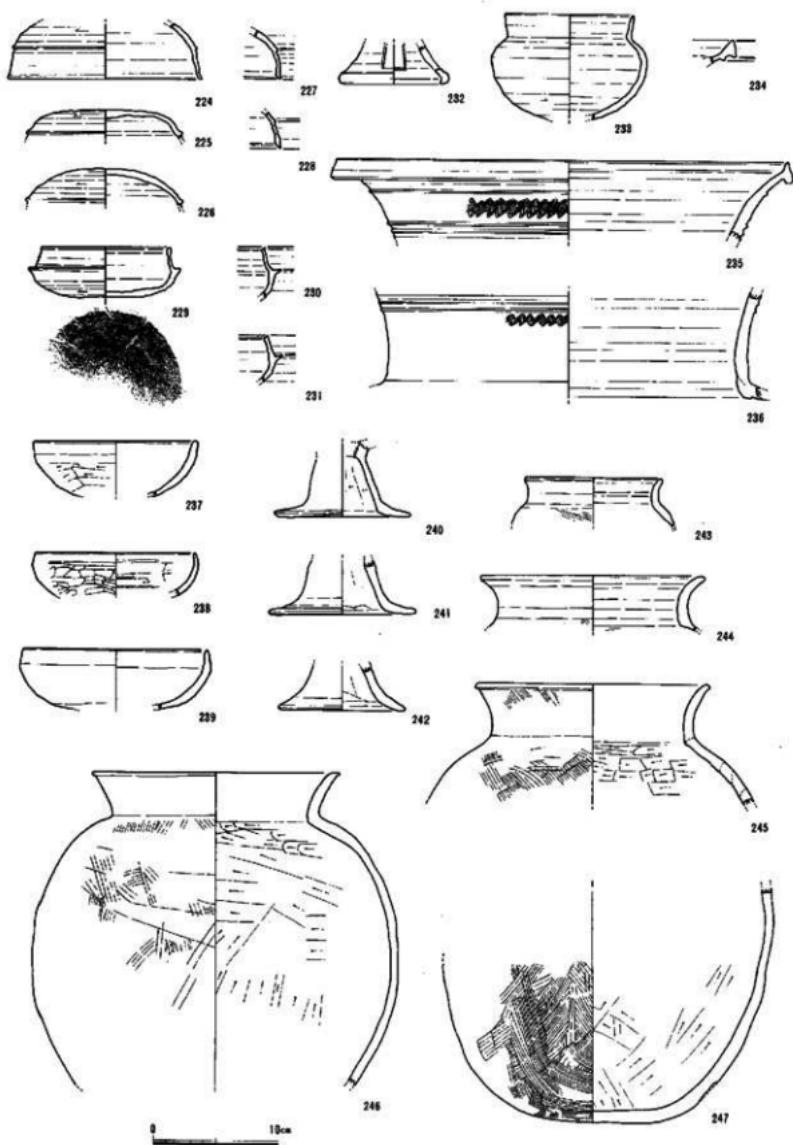


Fig.79 SC42出土遺物実測図 (1/4)

Tab.26 SC42出土遺物観察表

番号	種類	出土地	寸法	重量 (kg)	調査	測定	色調	地成	備考
							内面/外面	内面/外面	
234	陶器部・木製	SC42	(18.3)	-	-	(4.5)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	黒灰/青灰	良好
225	陶器部・木製	SC42	-	-	-	(2.0)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	黒灰/青灰	良好
226	陶器部・木製	SC42	-	-	-	(3.0)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	黒灰	良好
227	陶器部・木製	SC42	-	-	-	(3.0)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/淡灰	良好
228	陶器部・木製	SC42	-	-	-	(2.0)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰	良好
229	陶器部・木製	SC42	18.3	-	-	4.2	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰	良好
230	陶器部・木製	SC42	-	-	-	(4.1)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰	良好
231	陶器部・木製	SC42	-	-	-	(3.8)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/青灰	良好
232	陶器部・高环	SC42	-	-	(8.8)	(3.2)	回転ナゲ/回転ナゲ	暗灰/青灰	良好
233	陶器部・漆	SC42	(16.3) (12.5)	-	-	(8.4)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	黒灰/淡灰~暗灰	良好
234	陶器部・漆	SC42	-	-	-	(1.9)	回転ナゲ/回転ナゲ	青灰	良好
235	陶器部・漆	SC42	(8.9)	-	-	(8.4)	回転ナゲ/回転ナゲ、成灰文	灰白~黄灰/暗灰	良好
236	陶器部・漆	SC42	-	-	-	(8.5)	陶器部ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ ナゲ・カタ目・波状文、漆部分ナゲ	青灰/暗灰~青灰	良好
237	土師器・陶	SC42	(13.1)	-	-	(4.4)	ナゲ/ケズリ	暗灰	やや不良
238	土師器・陶	SC42	(12.8)	-	-	(3.5)	ミガキ/ミガキ	暗灰	良好
239	土師器・陶	SC42	(14.7)	-	-	(4.8)	ナゲ/ケズリ	淡灰暗~淡黒灰	やや良好
240	土師器・高环	SC42	-	-	10.9	(6.0)	タヌリ/感	淡灰暗~淡黒灰	やや不良
241	土師器・高环	SC42	-	-	(11.0)	(4.4)	タヌリ/ナデ	明褐色	不良
242	土師器・高环	SC42	-	-	(10.2)	(3.7)	タヌリ/ナデ	淡褐色	やや不良
243	土師器・漆	SC42	(11.1)	-	-	(3.9)	ナゲ/バケ	淡灰暗~淡黒灰	やや不良
244	土師器・漆	SC42	(18.0)	-	-	(4.4)	ナゲ/バケ	灰暗~灰/淡褐色	良好
245	土師器・漆	SC42	(18.0)	-	-	(9.5)	タヌリ/ハケ	淡灰暗~淡黒灰	やや不良
246	土師器・漆	SC42	(19.8)	-	-	(25.0)	タヌリ/ハケ	淡褐色~黒灰	やや不良
247	土師器・漆	SC42	-	-	-	(18.4)	タヌリ/ハケ	淡褐色~淡黒褐	やや不良

SC43 (Fig. 80・81, Ph. 63・64, Tab. 27)

調査区中央部西寄りに位置する方形堅穴住居である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。SC42に切られ、SC44を切る。南北6.2m、東西は南辺で3.2m残存する。残存壁高20cmである。柱穴は西側2ヶ所を確認している (SP431・432)。また、南東の柱穴はSC42の床面で確認したSP428ではないかと思われる。これが正しいとすると住居の東西規模は4.7m程になる。その他にピットがいくつか確認されているが、切り合っていいるSC42・44のピットの可能性がある。北東の柱穴は確認できなかった。遺物は南壁際に遺存状態のいいものがみられた。

出土遺物をFig. 81とTab. 27に示す。



Ph.64 SC43遺物出土状況（東から）



Ph.63 SC43（南から）

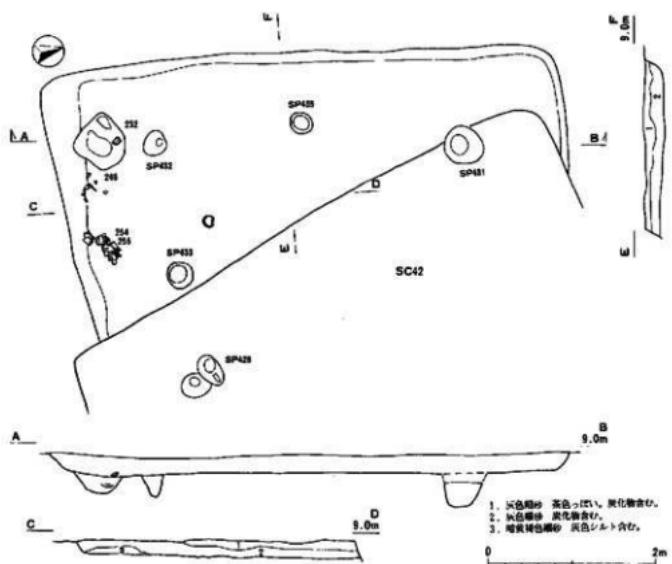


Fig.80 SC43実測図 (1/60)

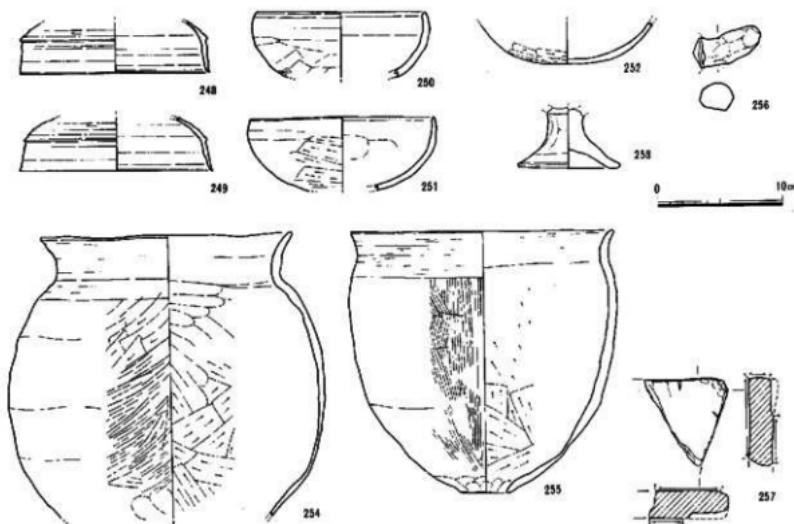
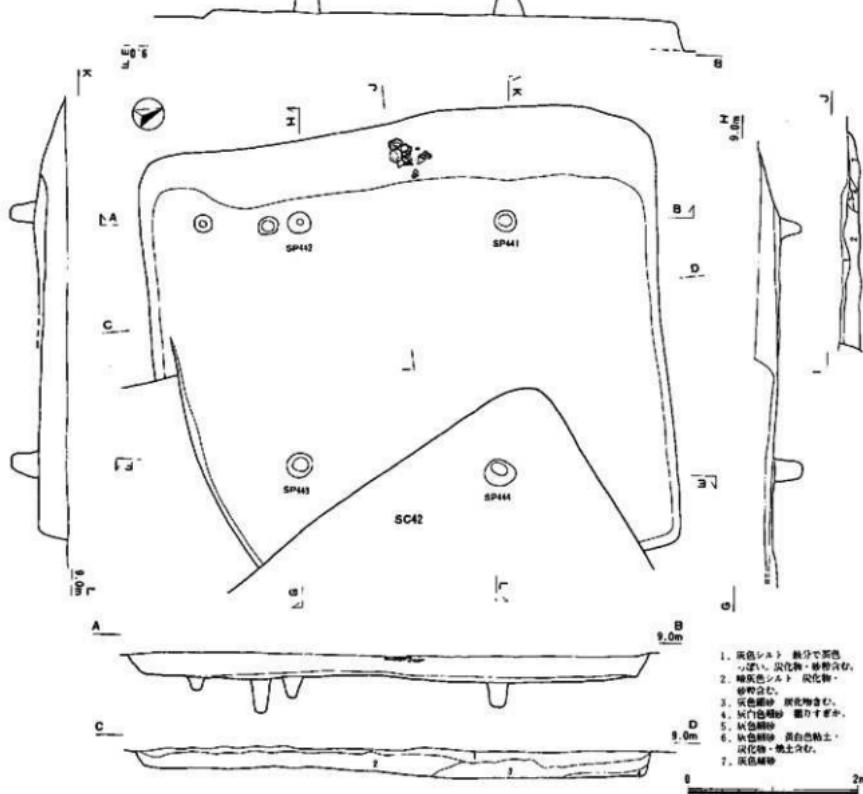


Fig.81 SC43出土遺物実測図 (1/4)

Tab.27 SC43出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	上標	下標	厚度	高さ	内面/外面	色/質	状成	備考
248	瓦敷器・环埴	SC43	(16.0)	-	-	(4.1)	内面ナデ/外側ナデ、凹凸ヘラケズリ	古灰	良好	(1~5)~Ⅱ~1
249	瓦敷器・环埴	SC43	(15.0)	-	-	(4.2)	内面ナデ/外側ナデ、凹凸ヘラケズリ	灰/古灰	良好	(1~5)~Ⅱ~1
250	土陶器・焼	SC43	(13.0)	-	-	(3.3)	ナデ/ケズリ	淡灰褐色~淡褐色	良好	
251	土陶器・焼	SC43	14.6	-	-	(3.9)	ナデ/ケズリ	黄褐色~灰白色	良好	
252	土陶器・焼	SC43	-	-	-	(3.4)	ナゾノケズリ、ナテ	黄褐色~灰白色	良好	
253	土陶器・环埴	SC43	-	-	8.2	(4.0)	ナデ/ケズリ	灰褐色~棕褐色	良好	
254	土陶器・焼	SC43	(19.0)	(25.1)	-	(22.0)	「部ナデ、下部ノケズリ/青部底ナデ、 割部ノケ、底部ナデ	黄褐色~灰褐色/ 黄褐色~淡黄色	中や良好	
255	土陶器・灰	SC43	(20.0)	(21.3)	(3.6)	29.8	ケズリ、ナデ、底面ナデ・指印入/ ハケ、底面ナデ・指印入	褐~深褐色	中や良好	单孔
256	土陶器・灰把子	SC43	-	-	-	-	ナデ	淡褐色~棕褐色	良好	
番号	種類	出土位置	上標	下標	厚さ	高さ	内面/外面	色/質	状成	備考
257	砾石	SC43	(7.0)	(6.4)	2.4	11.4	砂利、3面使用、後方に転用			



SC44 (Fig. 82・83, Ph. 65・66, Tab. 28)

調査区中央部西寄りに位置する方形堅穴住居である。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。SC42・43に切られるが、SC43より掘り込みが深い。規模は東西5.3m、南北6.0mである。残存壁高は30cmである。西壁は緩やかに傾斜している。柱穴は4ヶ所で確認された (SP441～444)。西壁中央部に遺物の集中と土層に炭化物、焼土、黄白色粘土がみられ、この位置にカマドが存在した可能性がある。

出土遺物をFig. 83とTab. 28に示す。



Ph.65 SC44 (北から)



Fig.83 SC44出土  
遺物実測図 (1/4)



Ph.66 SC44遺物出土状況 (南から)

Tab.28 SC44出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	基盤	基盤 (m)	周囲	周囲/外面	内部	内部/外面	焼成	備考
258	堅穴居・55裏	SC44	(12.6)	-	(3.0)	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	青灰	1-5	

SC45 (Fig. 84・85、Ph. 67、Tab. 29)

調査区西寄りに位置する方形竪穴住居である。柔らかい細砂～シルト層と粗砂層を掘り込んでいる。南側はSX15に切られている。東西6.2m、南北は東辺残存部で5.9mである。残存壁高は20cmである。ピットが多数検出されたが、4本柱の住居であったと思われる。

出土遺物をFig. 85とTab. 29に示す。



Ph.67 SC45 (南から)

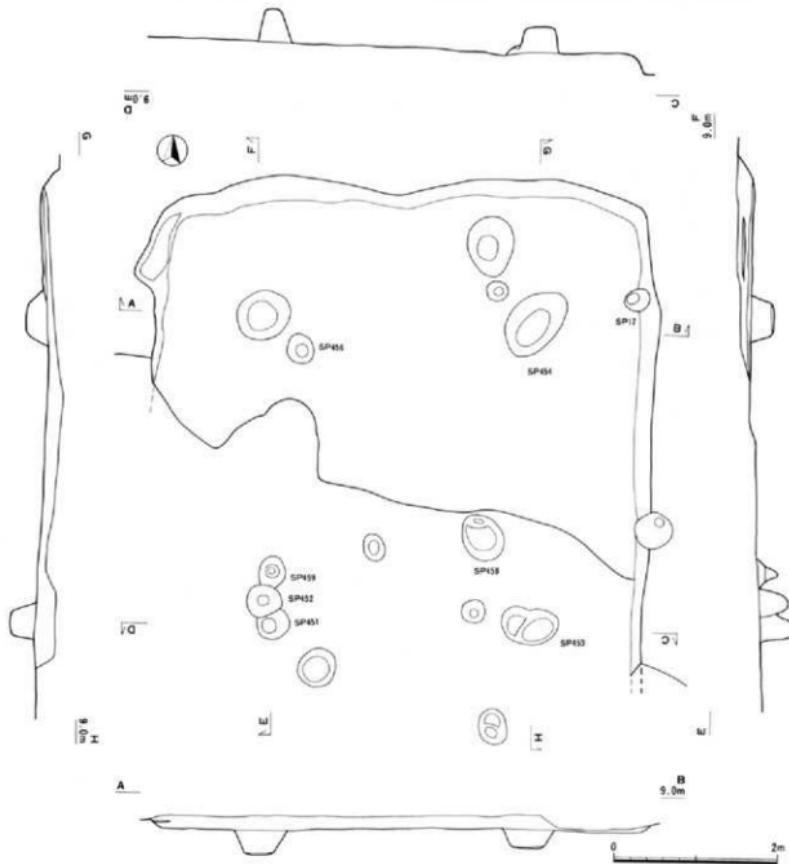


Fig.84 SC45実測図 (1/60)

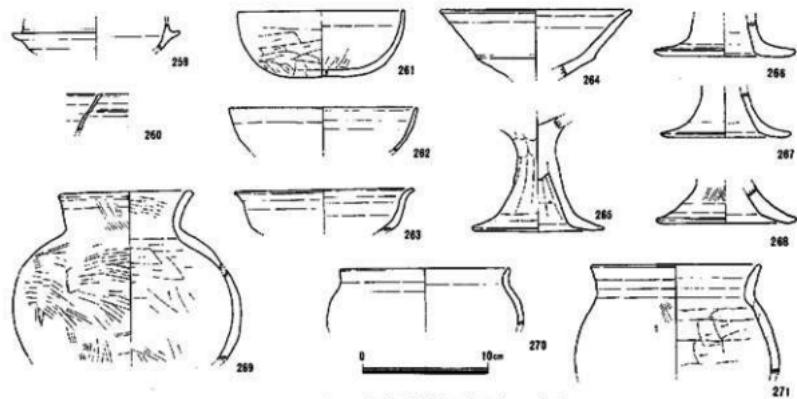


Fig. 85 SC45出土遺物実測図 (1/4)

Tab.29 SC45出土遺物観察表

番号	種類	目上層	底層	高さ (cm)	測定	底径	高さ	測定	内面/外面	色	内面/外面	模様	備考
259	須恵器・环身	SC45	-	-	[2.0]				内面/ナデ・外面ナデ	灰灰			良好
260	須恵器・縁	SC45	-	-	[3.0]				灰/輪紋ナデ・内面ナデ	灰/輪灰			良好
261	土師器・縁	SC45	(13.2)	-	[5.2]				上部ナデ・下部ケズリ/ケズリ	赤赤褐			良好
262	土師器・縁	SC45	(15.0)	-	[3.5]				ナデ/ナデ	赤褐色~褐色			良好
263	土師器・縁	SC45	(14.3)	-	[3.3]				ナデ/ナデ	灰褐色~淡褐色			良好
264	土師器・蓋	SC45	(15.3)	-	[6.4]				ナデ/ナデ	青褐色			やや小舟
265	土師器・蓋	SC45	-	19.5	[9.1]				環部ケズリ・輪郭板ナデ/ナデ・ケズリ	灰灰~淡褐色			良好
266	土師器・凸环	SC45	-	[11.2]	[3.0]				ケズリ/ナデ	褐色/青灰~體灰			やや小舟
267	土師器・凸环	SC45	-	[10.3]	[3.6]				ケズリ/ナデ	體灰			良好
268	土師器・凸环	SC45	-	[11.1]	[3.1]				ケズリ/ハケ、ナデ	體灰			良好
269	土師器・蓋	SC45	12.2~ 11.4	-	[13.5]				口縁部ハケ・周回ケズリ/ハケ	體灰~淡褐色	当好		外側スヌ、或いは黒漆付着
270	土師器・縁	SC45	(13.5)	-	[4.6]				ナデ/ナデ	青褐色			良好
271	土師器・縁	SC45	(13.5) (16.0)	-	[8.8]				周部ケズリ・輪郭板ナデ/ハケ、ナデ	青灰~茶褐色/灰褐色			やや不良

SC46 (Fig. 86・87, Ph. 68, Tab. 30)

調査区西寄りに位置する。柔らかい細砂～シルト層を掘り込んでいる。大半は発掘区外に伸びており、東辺を確認したのみであるが、方形堅穴住居であると思われる。確認された南北規模は4.2mである。残存壁高は30cmである。

出土遺物をFig. 86とTab. 30に示す。このほかに大型器台771の破片が出土している。

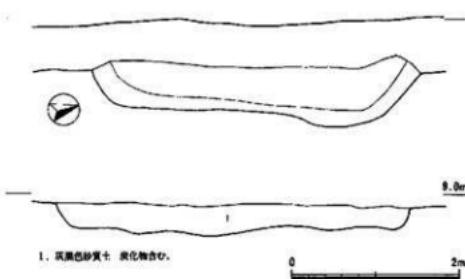


Fig. 86 SC46実測図 (1/60)



Ph.68 SC46 (東から)

Tab.30 SC46出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	口径	脚径	底径	高さ	内面/外面	内面/外面	地成	備考
212	土器・碗	SC46	(12.4)	—	—	(4.6)	板ナメ/ケズリ	黒褐色	良好	
273	土器・高环	SC46	—	—	(11.4)	(4.6)	ケズリ/摩滅	褐色灰	良好	

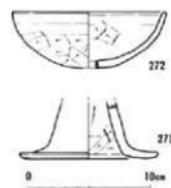
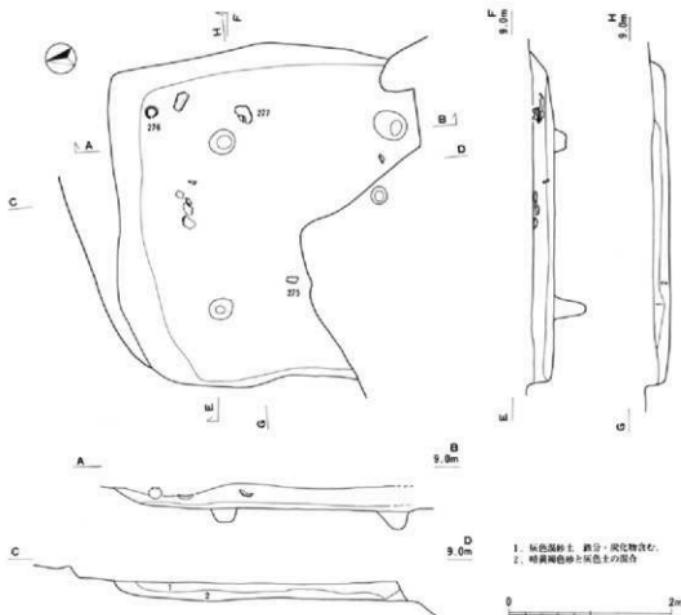


Fig.87 SC46出土遺物  
実測図 (1/4)



SC49 (Fig. 88・89, Ph. 69・70, Tab. 31)

調査区中央部、SC41の床面で検出した小形の方形豎穴住居である。SC41の土層確認でSC49もSX15を掘り込んでいるように観察された。東西4.0m、南北は東辺で3.6m残存している。残存壁高は20cmである。柱穴は3ヶ所確認された。南西の柱穴はSX15として先に掘削してしまった。柱穴位置から住居の南北規模は4.9m程であろう。

出土遺物をFig. 89とTab. 31に示す。



Ph.69 SC49 (東から)



Ph.70 SC49出土状況 (北から)

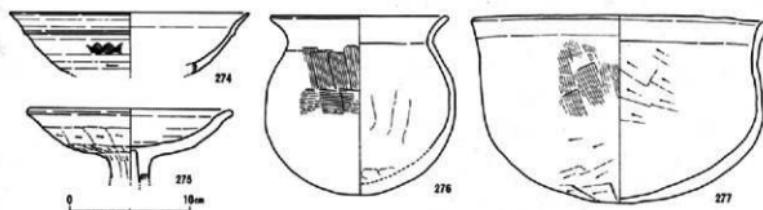


Fig.89 SC49出土遺物実測図 (1/4)

Tab.31 SC49出土遺物観察表

番号	種類	出土	法 長	法 幅	厚 度	内面 面	周 面	内面 外面	外 面	構成	備 考
274	酒甕器・無蓋高环	SC49	(19.7)	-	-	[5.1]	凹板ナテ/切削 底状	引抜ヘラケズリ、 底状	底/青灰	良好	I-3-I-4?
275	土師器・高环	SC49	(16.9)	-	-	[8.6]	ナテ/环底ケズリ、 底面ナテ	底	青灰	良好	
276	土師器・高环	SC49	(14.7)	15.6	-	14.8	ナテ、底部滑削も/ 上部ハケ、下部ナテ	底/滑削~底面	青灰	やや不良	
277	土師器・鉢	SC49	24.5	-	-	15.6	ケズリ/ 上部ハケ+ナテ、 下部ケズリ	底削~青灰/底面 ナテ	青灰	良好	

SC50 (Fig. 90・91, Ph. 71, Tab. 32)

調査区南寄りで確認した方形堅穴住居と思われる遺構である。柔らかい細砂+シルト層とSD52を掘り込んでいる。南側は2面で確認した河川SD13により削られており、北側はSC28に切られている。西壁と東壁の一部を確認しているのみである。南北の規模は4.1mである。残存壁高は20cmである。ピットを1基確認したが柱穴になるかどうか不明。

出土遺物をFig. 91とTab. 32に示す。このほかミニチュア土器881が出土している。

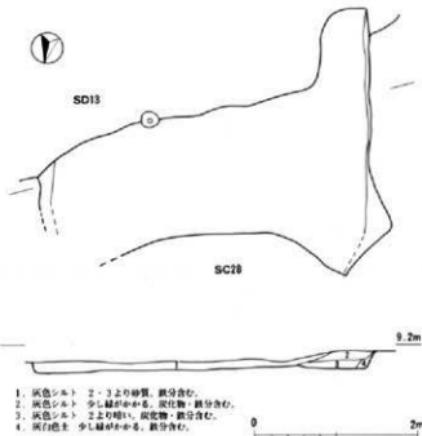


Fig.90 SC50実測図 (1/60)



Ph.71 SC50 (東から)

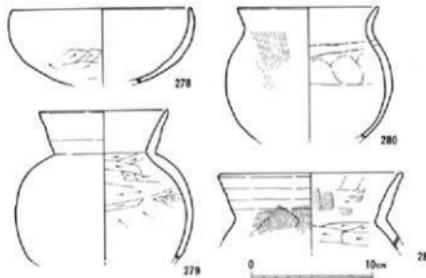


Fig.91 SC50出土遺物実測図 (1/4)

Tab.32 SC50出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法	断面	厚さ (cm)	断面	表面	色	備考
278	土器器・瓶	SC50 (14.7)	-	-	[6.2]	ナデ/上部ナデ、底面ケズリ	黒灰/褐色	良好	
279	土器器・瓶	SC50 10.8 (14.6)	-	-	[12.5]	ケズリ/ナデ	青褐/青赤褐~暗	良好	
280	土器器・甕	SC50 (11.5) (13.1)	-	-	[11.0]	ナデ、指押え/ハケ、ナデ	灰白/灰白~黄褐	良好	
281	土器器・甕	SC50 (15.2)	-	-	[6.5]	口縁部ハケ、内面ケズリ/ハケ、ナデ	淡灰褐	良好	

### SD14 (Fig. 92~116, Ph. 72~98, Tab. 33)

調査区東寄りに位置する河川である。南から北へ流れる。北東岸は粘土層、西南岸はシルト～細砂層。西岸はどこまでをSD14にするか判断しづらいが、遺物を多く含む粘土層の6層くらいまでが集落の繁栄した時期と重なるか。古墳時代以前には調査区中央部西寄りまで西南岸は広かったことが、Lトレンチで確認できる。幅m、深さcm。長さmを検出した。南側から須恵器、土師器が多量に出土し、木製品・流木・滑石製品なども出土している。北側は遺物がほとんど出土しなかった。

土層の堆積状況も南側と異なっていた。古墳時代の河川自体は調査区東壁中央あたりで調査区外へ続いている、北側は別の河川を掘ったのではないかと考えられる。古墳時代のSD14はA-2区へ続くはずであるが、検出されなかったことから、後世に大規模に流失したものと思われる。

河川の覆土を掘削するとかなりの涌水があり、西南岸はかなり抉られてしまった。川底は3本ほど深い部分があり、時期を越えて流れているものと思われる。

遺物は層位ごとに取り上げることができなかった。平面位置はブロックごとに取り上げた。中央土層ベルトを挟んで北西側を「西区(W)」、南東側を「東区(E)」と大きく分け、その中をそれぞれ9分割している。「東区」は川の流れる方向と直交方向には、「西(W)」、「中央(C)」、「東(E)」と3分割し、川の流れる方向には南西岸を「南岸(S)」、中央を「中央(C)」、北東岸を「北岸(N)」と3分割した。「西区」は北東側では遺物が出土しなかったので川の流れと直交方向については中央ベルトから3m程度までを「東(E)」、3m~6m程度を「中央(C)」、6~10m程度までを「西(W)」とした。川の流れる方向は「東区」と同様である。位置表示は区・川の流れと直交方向・川の流れる方向の順に示し、「西区中央南岸」「東区中央中央」などと示し、「WCS」「ECC」と略した。中央部と南東部に設けたベルトからの出土遺物については川の流れる方向に3分割とし、「中央ベルト南岸」、「東ベルト中央」と取り上げ、「CベルトS」、「EベルトC」と略した。ただし、各ブロックの境は厳密ではない。

川の両岸には土器が多く出土し、中央部には木器、流木が多くみられる。「東区」では完形の土器や完形に復元できる土器が多く、「西区」では土器の破片が「南岸」に散乱している。「西区」の「北岸」からの遺物の出土は少なかった。「東区西中央」では須恵器壺身297・302・307、土師器楕497を並べたと思われる出土状況が見られる(Ph. 83~84)。297と302は完形で、307も割れているがほぼ完形に復元できる。出土土器の中には陶質土器もみられた。SC41・42で出土した破片と同一個体と考えられるため、一括して掲載した(380~388)。「西区中央南岸」から手形土製品687が出土した(Ph. 80)。中部地方の繩文時代にみられるものと同様に子供の手形を粘土につけて焼いたものである。また、「東区東北岸」から927、「東区中央南岸」から926(Ph. 89~90)の2点の滑石製子持勾玉が出土している。「東区中央北岸」からは長さ55cmほどの鉄刀が出土したが鏽がひどく図示できなかった(Ph. 92)。「東区東北岸」の土師器壺656の中からはミニチュア土器882が出土している(Ph. 98)。このほかにも有孔円盤、紡錘車、線刻のある扁平な滑石などの、滑石製品が出土している。また、「東ベルト北岸」の5層中より滑石の原石やチップ、臼玉未製品が集中して出土した。



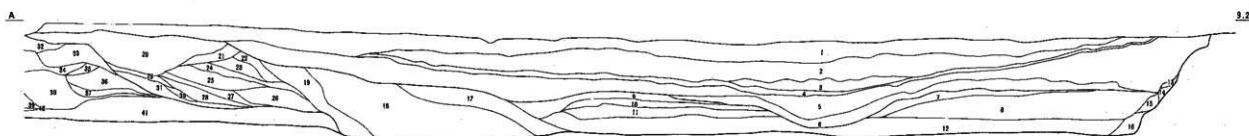
Ph.72 SD14調査状況（北から）



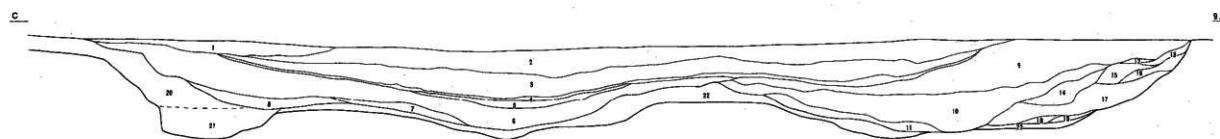
Ph.73 SD14遺物出土状況①（南東から）



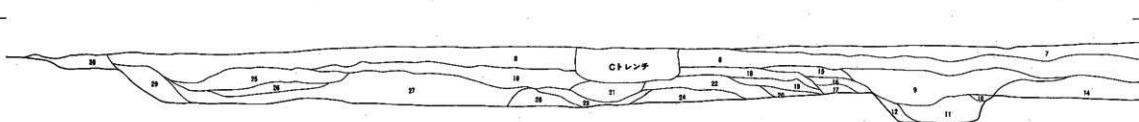
Ph.74 SD14遺物出土状況②（東から）



1. 黄褐色シルト 布代物、鉱分含む。
2. 灰褐色土 土塊物、鉱分含む。
3. 黄褐色粘土 土塊物多く含む。
4. 黄褐色砂質粘土 土塊物多く含む。
5. 黄褐色粘土 鉱分含む。
6. 黄褐色砂質粘土 鉱分含む。
7. 黄褐色砂質粘土 鉱分含む。
8. 黄褐色砂質粘土 鉱分含む。
9. 黄褐色砂質粘土 鉱分含む。
10. 黄褐色砂質粘土 鉱分含む。
11. 黄灰白色砂質粘土 鉱分含む。
12. 黄褐色粘土 鉱分含む。
13. 黄褐色粘土 黑色粘土含む。
14. 黄褐色粘土 黑色粘土含む。
15. 増強色砂質粘土
16. 灰褐色砂
17. 黄白灰色砂質粘土 黑色粘土含む。
18. 黄褐色砂質粘土 黑色粘土含む。
19. 黄褐色シルト 土塊物含む。
20. 黄褐色砂質粘土
21. 黄褐色砂質粘土
22. 増強色砂質粘土
23. 黄褐色砂質粘土
24. 黄褐色砂
25. 黄白色砂
26. 黄褐色砂
27. 黄褐色砂
28. 黄白灰色砂
29. 黄白色砂
30. 黄白色砂
31. 黄褐色砂
32. 黄褐色砂質粘土
33. 黄褐色砂質粘土 黑色粘土含む。
34. 黄褐色砂質粘土
35. 黄白灰色砂
36. 黄白色砂
37. 黄褐色砂
38. 黄白灰色砂
39. 黄白色砂
40. 黄白灰色砂
41. 黄白灰色砂一黄白色砂



1. 黄褐色シルト 鉱分や黄色っぽい。
2. 灰褐色シルト
3. 増強色粘土
4. 黄褐色砂質粘土
5. 黄褐色粘土 大量多く含み茶色っぽい。鉱化物含む。
6. 増強色粘土
7. 黄褐色砂質粘土 鉱分含む。
8. 増強色砂質粘土 鉱化物含む。
9. 黄褐色砂質粘土 やや黒質。
10. 増強色シルト やや黒質。
11. 増強色砂 褐色シルト含む。
12. 増強色砂質粘土 黑色シルト含む。
13. 灰褐色シルト 10より白っぽい。
14. 增強色シルト
15. 増強色砂
16. 灰褐色シルト
17. 增強色砂
18. 増強色砂
19. 增強色砂
20. 增強色砂
21. 增強色砂
22. 增強色砂



1. 黄褐色シルト 白っぽい。
2. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
3. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
4. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
5. 黄褐色シルト 白っぽい。
6. 黄褐色シルト
7. 灰褐色粘土 鉱分で茶色っぽい。
8. 増強色シルト一粘土 土塊物、鉱物含む。
9. 黄褐色砂質粘土 土塊物含む。
10. 増強色砂質粘土 土塊物含む。
11. 黄褐色砂質粘土 土塊物含む。
12. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
13. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
14. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
15. 黄褐色シルト 土塊物含む。
16. 増強色シルト 黄色粘土含む。
17. 黄褐色砂
18. 黄褐色シルト 土塊物含む。
19. 黄褐色シルト 土塊物含む。
20. 黄褐色シルト 土塊物含む。
21. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
22. 黄褐色砂質粘土 黄色粘土含む。
23. 黄褐色シルト
24. 黄褐色シルト
25. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
26. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
27. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
28. 黄褐色シルト 黄色粘土含む。
29. 黄褐色シルト 土塊物含む。

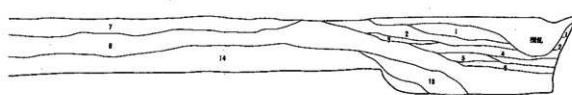


Fig.94 SD14土層図 (1/50)



Ph.75~82 SD14遺物出土状況③~⑩



Ph.83~90 SD14遺物出土状況⑪～⑯



Ph.91~98 SD14遺物出土状況⑯～㉖

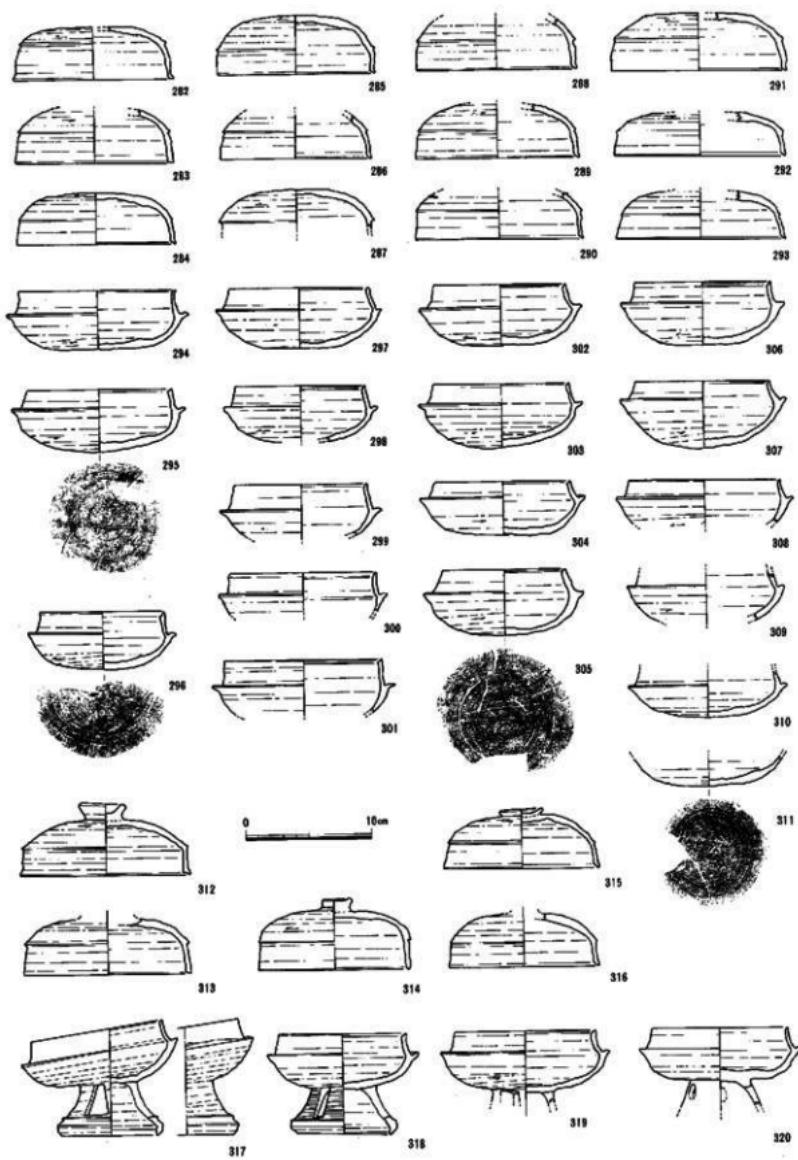


Fig.95 SD14出土遺物実測図 1 (1/4)

Tab.33 SD14出土遺物観察表

番号	種類	出土量	性 別	年 代	(cm)		周 長	内面/外面	色 調	地 版	備 考	
					口径	縦径	底径	器高				
282	須恵器・环形	E-Belt C (12.7)	-	-	-	4.2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰/淡青灰	良好	I-2~I-3		
283	須恵器・环形	ECC (12.5)	-	-	[4.3]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	I-3			
284	須恵器・环形	ECS (12.6)	-	-	4.1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰~黒灰/灰	やや良好	I-4~I-5			
285	須恵器・环形	WCS (12.5)	-	-	4.1	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	I-4			
286	須恵器・环形	WCS (12.0)	-	-	[3.5]	回転ナデ/回転ナデ	暗灰/青灰	良好	I-4~I-5			
287	須恵器・环形	E-Belt C	-	-	[3.3]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰/緑灰	良好				
288	須恵器・环形	WWC (12.7)	-	-	[4.0]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	I-4~I-5			
289	須恵器・环形	WCS (13.0)	-	-	[4.3]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	I-5~II-1			
290	須恵器・环形	WCS (13.3)	-	-	[3.7]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	明青灰/灰~暗灰	良好	II-1			
291	須恵器・环形	E-Belt C (13.9)	-	-	[4.6]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰/灰~暗灰	良好	II-1			
292	須恵器・环形	WCS (13.6)	-	-	[3.4]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰~暗灰/灰	良好	II-1			
293	須恵器・环形	WCS (13.5)	-	-	[3.8]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	II-1~II-2			
294	須恵器・环形	EEN (12.4)	-	-	4.7	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰/暗灰	良好	I-3			
295	須恵器・环形	E -	-	11.5	-	5.0	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	タ記号、(1-4)~I-5		
296	須恵器・环身	EWS 9.8	-	-	4.6	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒灰	良好	タ記号、I-1			
297	須恵器・环身	EWC 11.0	-	-	4.9	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰	良好	(1-4)~I-5			
298	須恵器・环身	10.3	-	-	[4.5]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	(1-5)~II-5			
299	須恵器・环身	E-Belt C (10.5)	-	-	[4.2]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	(1-4)~I-5			
300	須恵器・环身	WEC (11.0)	-	-	[3.5]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰/緑灰	良好	II-2			
301	須恵器・环身	WCS (12.5)	-	-	[4.4]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	明青灰	良好	I-4~I-5			
302	須恵器・环身	EWC 19.5	-	-	4.9	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰	良好	I-4~I-5			
303	須恵器・环身	ECS 19.8	-	-	5.2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	闇灰	良好	I-4			
304	須恵器・环身	WEC (10.8)	-	-	5.4	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰/暗灰~灰	良好	タ記号、(1-4)~I-5			
305	須恵器・环身	WCS 9.8	-	-	5.2	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰	良好	タ記号、明灰、I-4			
306	須恵器・环身	ECS (10.0)	-	-	5.0	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~灰	良好	(1-4)~I-5			
307	須恵器・环身	EWC 10.7	-	-	5.5	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~灰~淡灰	良好	I-4~I-5			
308	須恵器・环身	E-Belt C (12.0)	-	-	[3.5]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~灰	良好	(1-5)~II-1			
309	須恵器・环身	WCS	-	-	[4.2]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰/緑灰	良好				
310	須恵器・环身	WCS	-	-	[3.7]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰~灰~灰	良好				
311	須恵器・环身	EWC	-	-	[2.4]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰~灰~暗灰	良好				
312	須恵器・高蓋高环	ECC (13.0)	-	-	5.8	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰~灰~暗灰	良好	タ記号、陶色、I-3			
313	須恵器・高蓋高环	ECC (13.2)	-	-	[4.4]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	黒灰~淡灰~黒灰	良好	I-3			
314	須恵器・高蓋高环	ECC 12.1	-	-	5.7	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~素灰~暗青灰	良好	陶色、I-3			
315	須恵器・高蓋高环	WCS 12.3	-	-	4.8	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗青灰	良好	I-4~I-5			
316	須恵器・高蓋高环	WCS (11.0)	-	-	[4.5]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡青灰~暗灰~灰	良好	I-4~I-5			
317	須恵器・高蓋高环	ECS 10.5	-	-	7.6	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	3方通し、I-4			
318	須恵器・青蓋高环	EWS 10.2	-	-	8.5	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	I-4~I-5			
319	須恵器・青蓋高环	ECS 11.1	-	-	[5.9]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	陶色、I-4			
320	須恵器・青蓋高环	WES (12.0)	-	-	[5.2]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰/灰	良好	3方通し、II-1			
321	須恵器・無蓋高环	EES (16.0)	-	(3.2)	10.6	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~暗灰~暗灰	良好	陶色、4方通し、I-3			
322	須恵器・無蓋高环	EES (16.0)	-	-	16.1~	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~灰~素灰	良好	4方通し、I-3			
323	須恵器・無蓋高环	EWS 15.4	-	-	18.1~	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~青灰	良好	3方通し、I-4			
324	須恵器・無蓋高环	WCS (14.5)	-	-	[5.2]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	暗灰~灰	良好	3方通し、I-4~I-5			
325	須恵器・無蓋高环	WCS (18.0)	-	-	[4.4]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰~黑灰	良好	I-4~I-5			
326	須恵器・無蓋高环	EES (13.9)	-	-	[3.1]	回転ナデ/回転ナデ、成灰状	灰~素灰~灰	良好	I-3?			
327	須恵器・無蓋高环	ECC 13.7	-	-	10.5~	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	青灰~灰	良好	陶色、3方通し、I-3			
328	須恵器・無蓋高环	WCS (16.0)	-	-	[3.4]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	成灰状	良好	I-4			
329	須恵器・無蓋高环	WCS (16.0)	-	-	[4.0]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰~成灰~青灰	良好	(1-3)~I-4			
330	須恵器・高环	E-Belt C	-	-	(9.8)	回転ナデ/回転ナデ	成灰	良好	I-2			
331	須恵器・高环	W-S	-	-	[10.2]	回転ナデ/回転ナデ	灰~暗灰	良好	3方通し			
332	須恵器・高环	ECC	-	-	[9.0]	回転ナデ/回転ナデ	灰/緑灰	良好	3方通し、I-3~I-4			
333	須恵器・高环	WCS	-	-	[9.7]	回転ナデ/回転ナデ	成灰	良好	3方通し、(I-3)~I-4			
334	須恵器・高环	EWC	-	-	[10.3]	回転ナデ/回転ナデ、カキ目	灰	良好	3方通し、(I-3)~I-4			
335	須恵器・高环	EWS	-	-	[10.9]	回転ナデ/回転ナデ	暗灰	良好	3方通し、I-4~I-5			
336	須恵器・高环	WCS	-	-	[9.1]	回転ナデ/回転ナデ	暗灰~成青灰	良好	3方通し、I-4~I-5			
337	須恵器・高环	WES	-	-	[11.0]	回転ナデ/回転ナデ	暗灰~灰	良好	3方通し、I-3~I-5			
338	須恵器・高环	WCS	-	-	[9.5]	回転ナデ/回転ナデ	暗灰~成青灰	良好	3方通し、I-5?			
339	須恵器・高环	WCS	-	-	[8.7]	回転ナデ/回転ナデ	成灰~成灰	良好	(陶色)、I-3~I-4			
340	須恵器・瓶	WCC	-	12.0	-	[10.1]	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ、成灰、成灰、下部開口	青灰~成灰	良好	(陶色)、I-3		
341	須恵器・瓶	EWS	-	12.6	16.7	-	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ、成灰、成灰、下部開口	温灰~暗灰~明灰	良好	陶色、I-3~(I-4)		
342	須恵器・瓶	ECC	-	10.4	-	[7.4]	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/成灰、成灰、下部開口	青灰~暗灰	良好	I-5~II-1		
343	須恵器・瓶	WWC	-	11.1	13.1	-	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/成灰、成灰、下部開口	古灰~暗灰	良好	I-5		
344	須恵器・瓶	WCS	-	10.8	-	[8.9]	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/成灰、成灰、下部開口	暗青灰~暗灰~黒灰	良好	I-5		

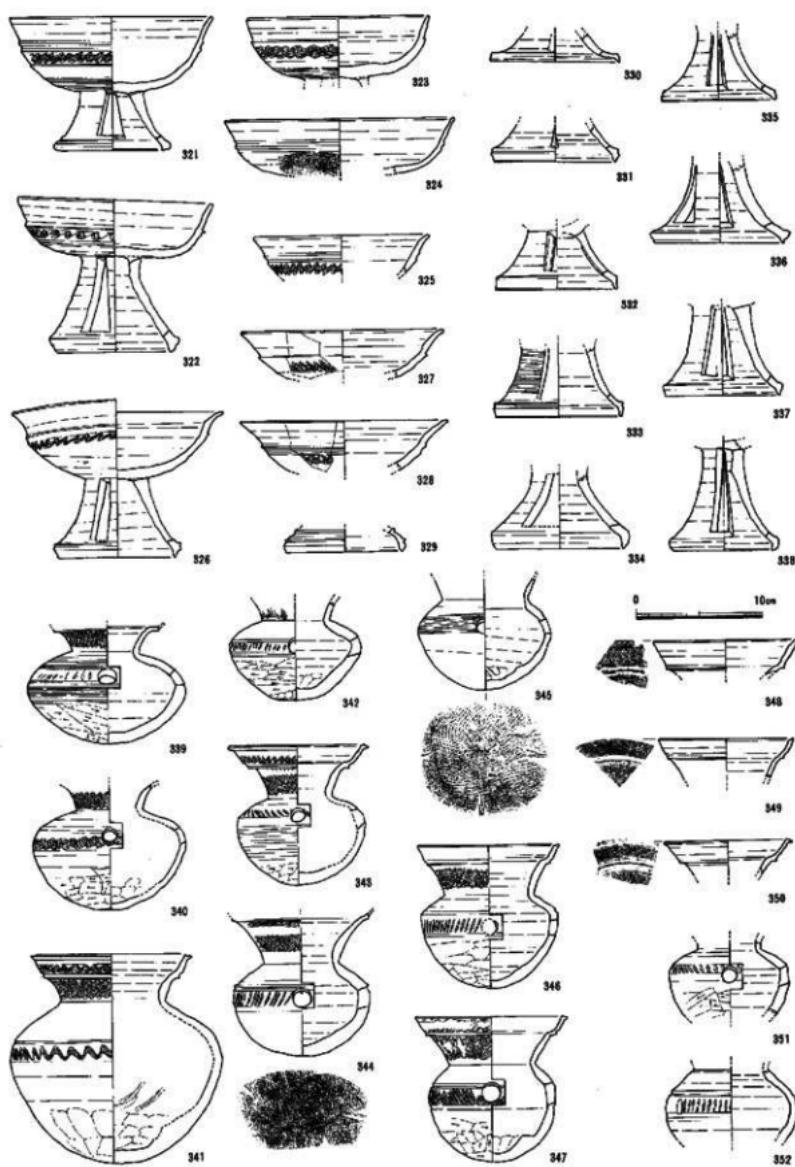


Fig.96 SD14出土遺物実測図 2 (1/4)

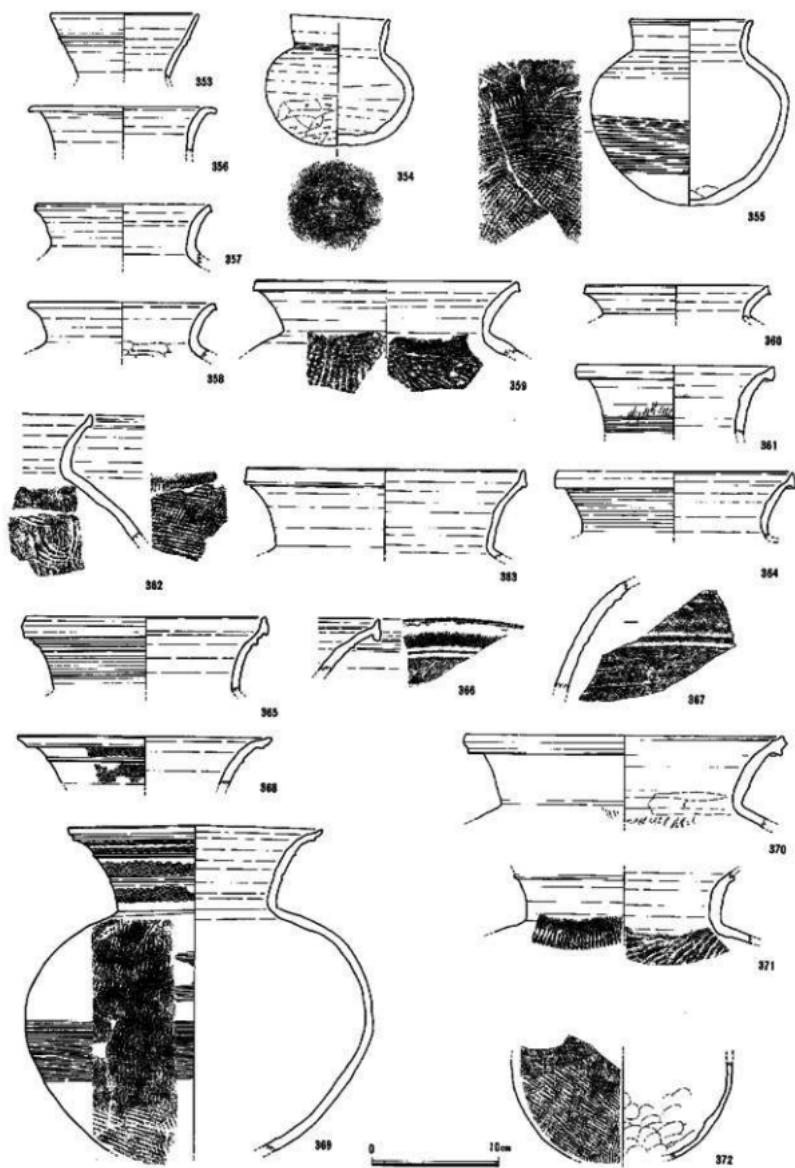


Fig.97 SD14出土遺物実測図 3 (1/4)

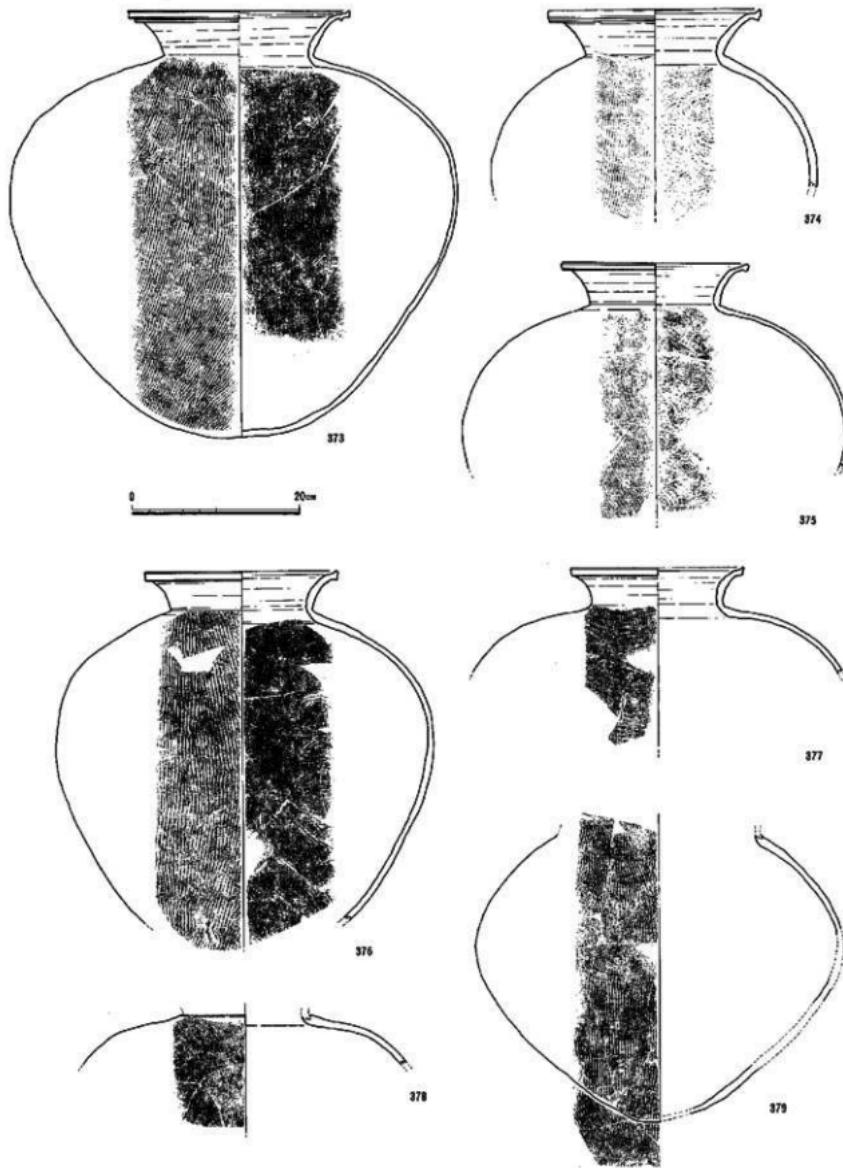


Fig.98 SD14出土遺物実測図 4 (1/6)

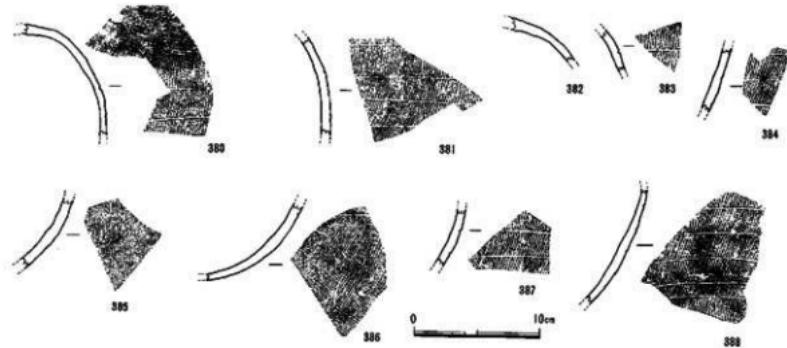


Fig.99 SD14出土遺物実測図 5 (1/4)

番号	種類	出土位置	法面 (cm)				断面 内面/外面	色調 内面/外面	被成	備考
			口径	底径	壁厚	高さ				
345	須恵器・壺	ECS	-	19.4	-	[8.8]	円柱ナゲ、底部カズリ/口縁周辺にナゲ、体下に球状突起ナゲ。カ口目、底端タキナ	灰~暗灰	良好	II-1~
346	須恵器・壺	ECC	(11.1)	(10.8)	-	11.4	円柱ナゲ/西端部にナゲ、底伏文、体上に圓錐形突起ナゲ。刺突文、下部カズリ	暗灰~灰/暗灰	良好	I-5~II-1
347	須恵器・壺	EBC	(12.0)	-	10.1	11.5	圓柱ナゲ、底部角丸え/口縁周辺にナゲ、底伏文、体上に球状突起ナゲ。下部カズリ	暗灰~青灰	良好	(I-5)~II-1
348	須恵器・壺	WCS	(11.4)	-	-	[2.7]	四輪ナゲ/底端ナゲ、波状文	暗灰褐/暗灰	良好	
349	須恵器・壺	WCS	(16.0)	-	-	[3.0]	円柱ナゲ/底端ナゲ、波状文	灰	良好	
350	須恵器・壺	WCS	(16.1)	-	-	[2.8]	円柱ナゲ/底端ナゲ、波状文	青灰/墨灰	良好	
351	須恵器・壺	WCS	-	(9.5)	-	[6.2]	円柱ナゲ/上部周辺にナゲ、刺突文、下部	灰~暗灰	良好	I-5~II-1
352	須恵器・壺	WCS	-	(10.0)	-	[5.8]	円柱ナゲ/底部カ口目、刺突文	青灰	良好	I-5~II-1
353	須恵器・壺	W	-	(11.7)	-	[5.2]	円柱ナゲ/上部周辺にナゲ、刺突文	暗灰	良好	
354	須恵器・壺	ECS	(8.0)	10.2	11.5	[10.0]	圓柱ナゲ/底部カ口目、上部上部回転ナゲ、ナゲ・カ口目	灰白	良好	ヘラ記号
355	須恵器・壺	WES	(9.9)	15.7	-	14.7	圓柱ナゲ/底部指揮部ナゲ、体下に半球ナゲ・カ口目	暗灰/青灰	良好	
356	須恵器・壺	C-10-5	(14.8)	-	-	[3.0]	圓柱ナゲ/回転ナゲ	暗青褐	良好	
357	須恵器・壺	K-S	14.0	-	-	[3.0]	ナゲ、当て具目、回転ナゲ	暗灰	良好	
358	須恵器・壺	WGS	14.8	-	-	[4.5]	回転ナゲ/回転ナゲ	墨灰	良好	
359	須恵器・壺	ECS	(21.1)	-	-	[6.0]	ナゲ、当て具目/ナゲ	深褐色	不良	
360	須恵器・壺	WCS	(14.0)	-	-	[2.7]	回転ナゲ/ナゲ	灰~墨灰	良好	
361	須恵器・壺	EWS	(15.0)	-	-	[3.5]	回転ナゲ/ナゲ、カ口目	深褐色	不良	
362	須恵器・壺	E-BEAT-C	-	-	-	[9.0]	ナゲ、当て具目/ナゲ	暗灰	生焼け	
363	須恵器・壺	EES	(22.0)	-	-	[7.0]	回転ナゲ/ナゲ	灰	良好	
364	須恵器・壺	ECS	(19.1)	-	-	[5.4]	回転ナゲ/ナゲ	暗灰	良好	
365	須恵器・壺	WEC	18.8	-	-	-	回転ナゲ/ナゲ	灰	良好	1-4~II-1
366	須恵器・壺	C-BEAT-S	-	-	-	[4.2]	回転ナゲ/回転ナゲ、カ口目	灰	良好	1-4~II-1
367	須恵器・壺	HE+EX	-	-	-	[8.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	暗灰	良好	1-4~II-1
368	須恵器・壺	ECC	(20.0)	-	-	[3.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰	良好	
369	須恵器・壺	EES	20.3	27.5	-	[25.8]	当て具目、ナゲ/底部周辺にナゲ、波状文、培灰/青灰~墨灰	良好		(陶灰)、I-2
370	須恵器・壺	WEC	23.7	-	-	[7.0]	須筋特有ナゲ、底部當て具目/ナゲ	暗灰~暗灰	良好	I-4~
371	須恵器・壺	ECS	-	-	-	[5.8]	須筋特有ナゲ、底部當て具目/ナゲ	暗灰/青灰	良好	陶器
372	須恵器・壺	EWS	-	(17.0)	-	[7.0]	ナゲ、培灰/上部カ口目、下部ナゲ	灰~墨灰	良好	
373	須恵器・壺	EWS	26.3	(52.8)	-	-	当て具目、ナゲ/ナゲ	暗灰/暗灰	良好	1-2
374	須恵器・壺	WCS	(25.2)	(38.1)	-	[21.4]	当て具目/ナゲ、カ口目	灰黑~深灰	良好	
375	須恵器・壺	ECS-RES	22.2	(45.8)	-	[24.5]	当て具目、ナゲ/ナゲ	青灰	良好	SCB上巻、I-1~II-2
376	須恵器・壺	WCS	(23.0)	(44.0)	-	[41.7]	当て具目、ナゲ/ナゲ	灰/青青灰~暗灰	良好	I-1~I-2
377	須恵器・壺	EZ-1	(20.5)	-	-	[12.8]	須筋特有ナゲ、底部當て具目・ナゲ/墨灰~青灰/灰白~ナゲ	良好	WES+EWS+W-BELL	
378	須恵器・壺	EBC	-	-	-	[6.0]	當て具目/ナゲ/ナゲ、ナゲ	青灰~暗灰/青灰~黑	良好	I-S、I-1
379	須恵器・壺	ECS	--	(41.0)	-	[34.2]	當て具目、ナゲ/ナゲ、ナゲ	暗青灰/青灰~黑	良好	C-BELT-S
380	須質土器・壺	C-BELT-S	-	-	-	[8.0]	ナゲ/ナゲ	灰~暗灰	良好	須質文、沈綱
381	須質土器・壺	SDU-3C2	-	-	-	[7.0]	ナゲ/ナゲ	灰~暗灰/暗灰	良好	須質文、沈綱
382	須質土器・壺	2 個下	-	-	-	[3.5]	ナゲ/ナゲ/ナゲ/不規則ナゲ	墨灰~暗灰	良好	須質文、沈綱
383	須質土器・壺	-	-	-	-	[3.4]	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	墨灰~暗灰	良好	須質文、沈綱
384	須質土器・壺	SC42	-	-	-	[5.0]	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	灰~灰褐	良好	須質文、沈綱
385	須質土器・壺	SC42	-	-	-	[5.7]	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	灰	良好	須質文、沈綱
386	須質土器・壺	WCS-RES	-	-	-	[6.0]	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	墨灰	良好	須質文、沈綱
387	須質土器・壺	WCS	-	-	-	[4.6]	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	暗灰~暗灰	良好	須質文、沈綱
388	須質土器・壺	WCS	-	-	-	[9.3]	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	朱灰/橙褐	良好	須質文、沈綱

番号	種類	出土地	法面 (cm)			断面 内面/外面	色調 内面/外面	焼成	備考
			口径	網径	底径				
389	土師器・瓶	WCS	14.3	-	-	5.1	ナゲ、底部板ナゲ/ケズリ	淡褐色	良好
390	土師器・瓶	ECS	(13.2)	-	-	5.9	ナゲ/ケズリ、ナゲ	褐灰/褐灰~褐灰	良好
391	土師器・瓶	ECS	(13.7)	-	-	[3.4]	ナゲ/ケズリ、ナゲ	黄灰~褐	良好
392	土師器・瓶	EEN	(13.6)	-	-	5.5	ナゲ/ケズリ	淡褐色	良好
393	土師器・瓶	ECS	(14.3)	-	-	[5.5]	摩滅/ハラ?	淡褐色	良好
394	土師器・瓶	ECS	(13.7)	-	-	5.7	摩滅/摩滅	淡褐色	不良
395	土師器・瓶	EWS	(2.8)	-	-	6.1	ハケ、ナゲ、底部押え/ハケ、ナゲ	他	良好
396	土師器・瓶	EWC	(14.0)	-	-	[5.2]	ナゲ/ケズリ、ナゲ	褐灰	良好
397	土師器・瓶	EWS	(12.3)	-	-	5.7	ナゲ/ナゲ、底部押え	橙褐	良好
398	土師器・瓶	WCS	(7.2)	-	-	5.5	摩滅/ケズリ	灰褐色	不良
399	土師器・瓶	WEC	(11.9)	-	-	6.0	上部板ナゲ、下部ナゲ/底ナゲ、底部ケズリ	系褐色/淡褐色	良好 ハラ記号
400	土師器・瓶	WCS	(12.8)	-	-	[5.4]	ナゲ/ケズリ	淡褐色/褐灰~灰	良好
401	土師器・瓶	EWS	(15.5)	-	-	5.3	ナゲ、底部押えナゲ、底部ケズリ	褐灰	良好
402	土師器・瓶	WCS	(15.2)	-	-	[6.4]	摩滅/ケズリ	灰黄~灰	不良
403	土師器・瓶	EWS	(14.8)	-	-	6.0	ナゲ、底部押えナゲ、底部ケズリ	淡褐色/褐灰	良好
404	土師器・瓶	EWS	(15.0)	-	-	[5.8]	ナゲ、底部押えナゲ/ナゲ、底部ケズリ	淡褐色	良好
405	土師器・瓶	WCS	(12.0)	-	-	5.3	ナゲ/ケズリ	褐灰/褐灰	良好
406	土師器・瓶	ECS	13.3	-	-	5.4	摩滅/ケズリ	灰褐色~褐	やや不良
407	土師器・瓶	WEC	(14.3)	-	-	7.1	ナゲ、底部押え/ナゲ、指揮え、底部ケズリ	淡褐色	良好
408	土師器・瓶	EWS	13.8	-	-	6.5	ハケ、ナゲ/上部ナゲ/ナゲ、下部ケズリ	椎/青~明褐色	良好
409	土師器・瓶	E&E C	12.2	-	-	8.3	板ナゲ/ケズリ、ナゲ	灰褐色~白	良好
410	土師器・瓶	WCS	(15.0)	-	-	6.1	ナゲ、底部押え/ナゲ、板ナゲ、ナゲ	淡褐色/褐灰~白	良好
411	土師器・瓶	EON	(11.8)	-	-	4.9	ナゲ/ナゲ/ナゲ	淡褐色	良好
412	土師器・瓶	EON	12.7	-	-	4.8	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ケズリ	淡褐色	良好
413	土師器・瓶	E&E C	(12.0)	-	-	4.9	ナゲ、底部押え/ナゲ、底部ケズリ	黄褐色~綠~黃灰	中や不良
414	土師器・瓶	ECC	(12.5)	-	-	5.8	ナゲ、指揮え/ナゲ、底部ケズリ	褐灰	良好
415	土師器・瓶	EWS	(13.8)	-	-	5.3	指揮え、ナゲ/ナゲ/ナゲ、上部ミガキ	褐灰	良好
416	土師器・瓶	EWS	(14.5)	-	-	[5.6]	ナゲ/ケズリ	淡褐色/褐灰~褐灰	良好
417	土師器・瓶	WCS	(13.0)	-	-	5.7	ナゲ、底部板ナゲ/摩滅	褐灰/褐灰~褐灰	良好
418	土師器・瓶	EON	12.8	-	-	8.2	板ナゲ、底部ナゲ/ハケ、ナゲ	明褐色	良好
419	土師器・瓶	WCS	(14.0)	-	-	[5.1]	板ナゲ/ケズリ	淡褐色/淡褐色	良好
420	土師器・瓶	EEN	14.0	-	-	7.7	摩滅/摩滅	淡褐色/茶褐色	不良 外底木製圧痕
421	土師器・瓶	W --	13.1~	-	-	5.8	摩滅/ケズリ	淡褐色~茶褐色	やや不良
422	土師器・瓶	B --	13.7	-	-	6.1	ナゲ/ナゲ、ナゲ	褐/浅褐色~白	良好
423	土師器・瓶	EON	(13.5)	-	-	5.7	ハケ、板ナゲ/ナゲ、ナゲ	淡褐色/褐灰~褐灰	良好
424	土師器・瓶	EON	(12.9)	-	-	6.1	ナゲ/ナゲ	淡褐色/褐灰~褐灰	良好
425	土師器・瓶	WCS	(12.0)	-	-	5.9	ナゲ/ナゲ	淡褐色/褐灰~褐灰	良好
426	土師器・瓶	EON	(13.0)	-	-	5.7	ナゲ/ナゲ	淡褐色/褐灰~褐灰	良好
427	土師器・瓶	ECS	14.9	-	-	5.8	ナゲ/ナゲ/ナゲ、ナゲ	褐灰	良好
428	土師器・瓶	EON	13.4	-	-	5.1	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	淡褐色~茶褐色	良好
429	土師器・瓶	EON	(14.4)	-	-	5.1	ナゲ/ナゲ/ナゲ/ナゲ	淡褐色~茶褐色	良好
430	土師器・瓶	WCS	(12.0)	-	-	[5.2]	摩滅/ナゲ? 摩滅/ケズリ	淡褐色/茶褐色~茶褐色	やや不良
431	土師器・瓶	WCS	(13.0)	-	-	6.9	ナゲ/ケズリ	淡褐色/茶褐色	やや不良
432	土師器・瓶	E & E C	(12.7)	-	-	[5.2]	板ナゲ?、ナゲ/ケズリ、ナゲ	淡褐色~白	良好
433	土師器・瓶	WWC	12.6~	-	-	5.6	摩滅/ケズリ	淡褐色~白	不良
434	土師器・瓶	ECC	13.3	-	-	6.2	板ナゲ?、ナゲ/ケズリ	黄褐色~淡褐色/褐	良好
435	土師器・瓶	EBC	13.3	-	-	6.2	摩滅/ケズリ	褐褐色~白	良好
436	土師器・瓶	EEN	(13.5)	-	-	6.6	ナゲ/ナゲ、底部/ケ、ナゲ	淡褐色	やや不良
437	土師器・瓶	ECS	13.2	-	-	6.8	摩滅/ケズリ	淡褐色	やや不良
438	土師器・瓶	EWS	(12.0)	-	-	6.1	ナゲ/上部ハケ、下部ケズリ	褐灰~淡褐色~茶褐色	良好 ハラ記号
439	土師器・瓶	WCS	11.7~	-	-	6.3	摩滅/ハケ	淡褐色~白	やや不良
440	土師器・瓶	EWS	(14.5)	-	-	[6.0]	ナゲ/ノブリ	淡褐色/褐灰	良好
441	土師器・瓶	EWS	(14.5)	-	-	6.3	指揮え、ナゲ/ケズリ	淡褐色	良好
442	土師器・瓶	WGS	12.8~	-	-	6.6	ナゲ/ケズリ	淡褐色~白	良好
443	土師器・瓶	EWS	12.3	-	-	6.6	板ナゲ?、ナゲ/ケズリ	板ナゲ~淡褐色	良好
444	土師器・瓶	EBC	13.3	-	-	6.2	摩滅/ケズリ	褐褐色~白	良好
445	土師器・瓶	EKC	13.3	-	-	6.6	ナゲ/ナゲ、底部ケズリ	淡褐色~白	やや不良
446	土師器・瓶	W --	12.8	-	-	7.0	ナゲ、ナゲ/ナゲ、底部ケズリ	板灰~褐灰~白	良好
447	土師器・瓶	WCS	12.3	-	-	[5.2]	ナゲ/ナゲ?、ナゲ、底部ケズリ? ナゲ	板灰~褐灰~白	良好
448	土師器・瓶	ECS	(13.5)	-	-	[6.4]	ナゲ/ナゲ	板灰~褐灰~白	良好
449	土師器・瓶	ECC	12.0	-	-	5.6	板ナゲ?/ケズリ	板灰~白	良好
450	土師器・瓶	EKC	13.4	-	-	6.0	指揮え、ナゲ/ケズリ	板灰~淡褐色	良好
451	土師器・瓶	E&E S	(13.4)	-	-	[5.9]	摩滅/板ナゲ?/ナゲ/ケズリ	淡褐色	不規
452	土師器・瓶	WCS	13.0	-	-	6.1	摩滅/ケズリ	淡褐色	不良
453	土師器・瓶	WCS	(12.2)	-	-	6.1	摩滅/ケズリ	淡褐色~白	良好
454	土師器・瓶	WEC	(12.6)	-	-	6.0	板ナゲ?/ナゲ	淡褐色~白	良好
455	土師器・瓶	WES	13.1	-	-	6.0	ナゲ/ケズリ	淡褐色	良好
456	土師器・瓶	ECC	12.4	-	-	5.6	ミガキ/ケズリ	黑/深褐色	良好
457	土師器・瓶	WES	(14.0)	-	-	[6.8]	板ナゲ?/ケズリ	淡褐色~茶褐色	良好
458	土師器・瓶	EEN	(12.5)	-	-	6.7	ナゲ/ケズリ	淡褐色/褐灰	良好
459	土師器・瓶	WCS	12.1	-	-	6.1	ナゲ/ハケ、ナゲ	淡褐色/褐灰	良好
460	土師器・瓶	EON	12.6	-	-	6.1	ナゲ/ケズリ	板灰	良好
461	土師器・瓶	EWS	(12.2)	-	-	6.4	ナゲ/ケズリ	灰褐色~白	良好
462	土師器・瓶	ECS	13.8	-	-	6.0	ハケ、ナゲ、底部押え/ナゲ、ナゲ	灰褐色~白	良好

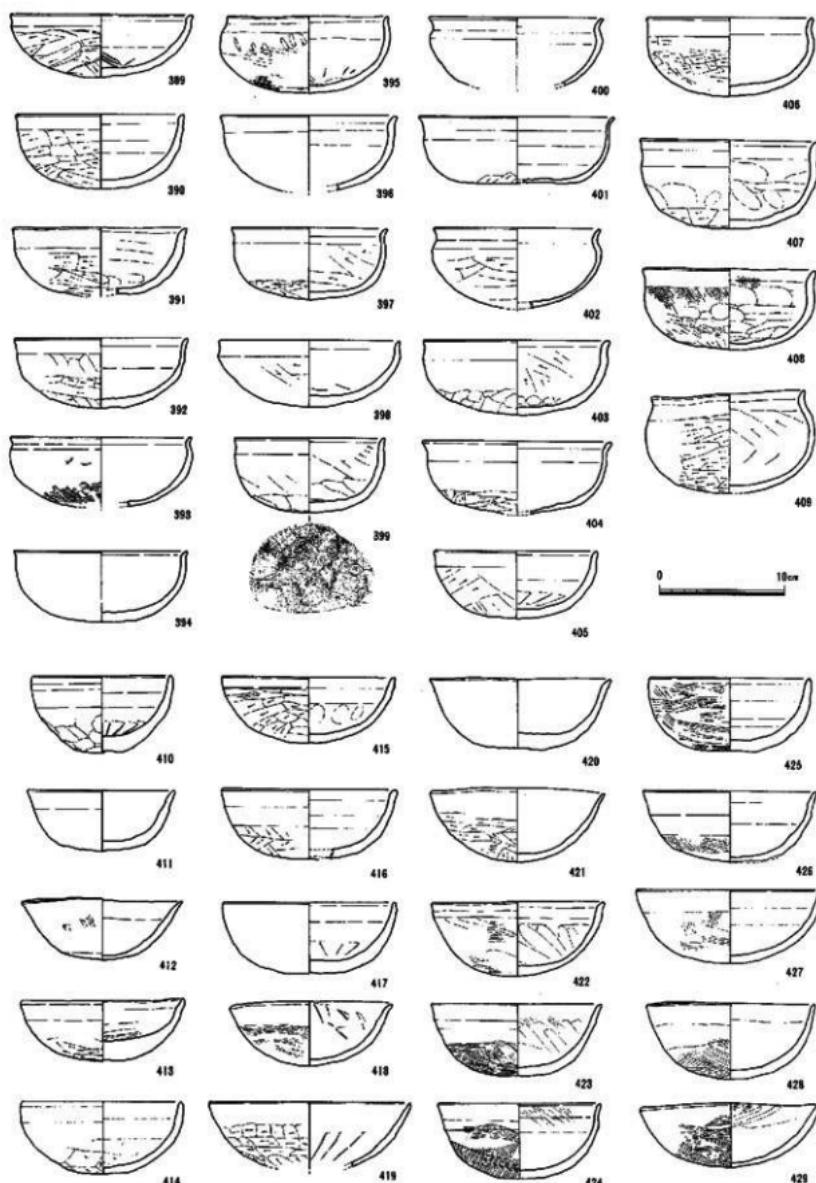


Fig.100 SD14出土遺物実測図 6 (1/4)

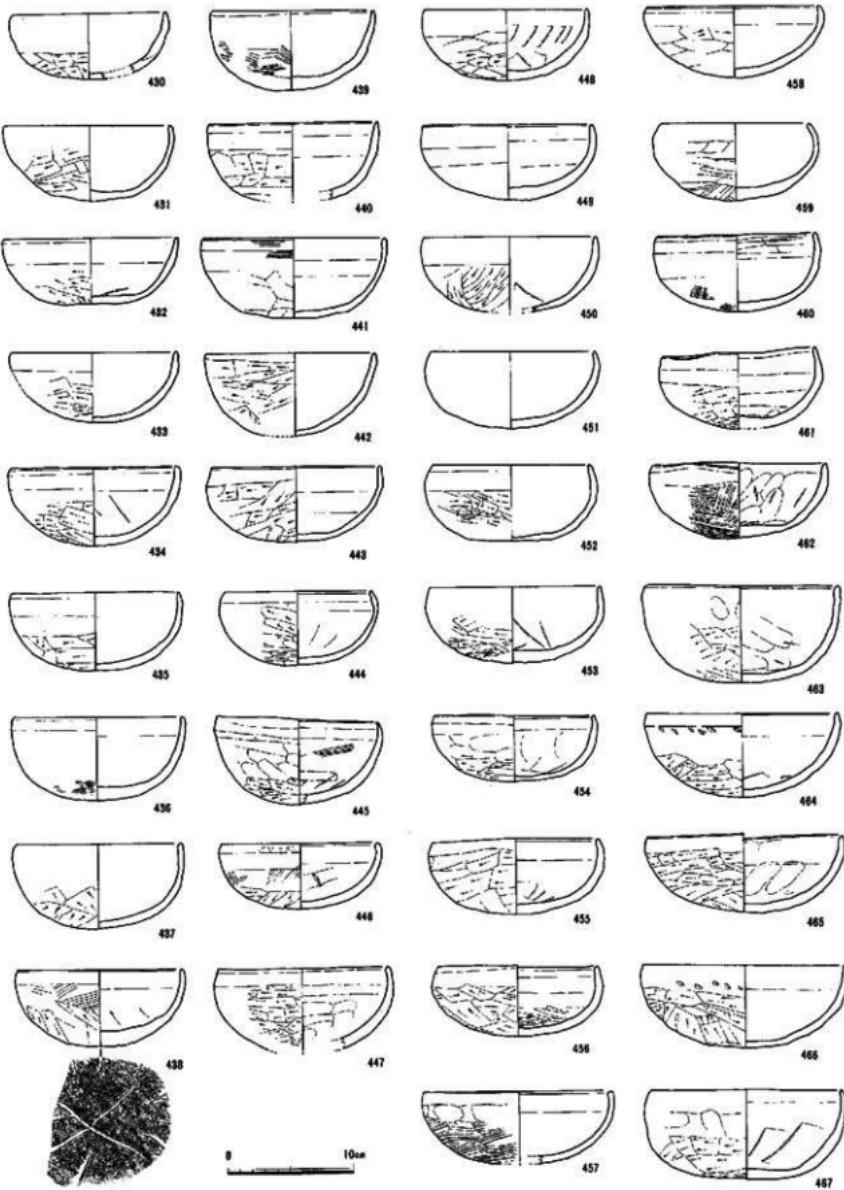


Fig.101 SD14出土遺物実測図 7 (1/4)

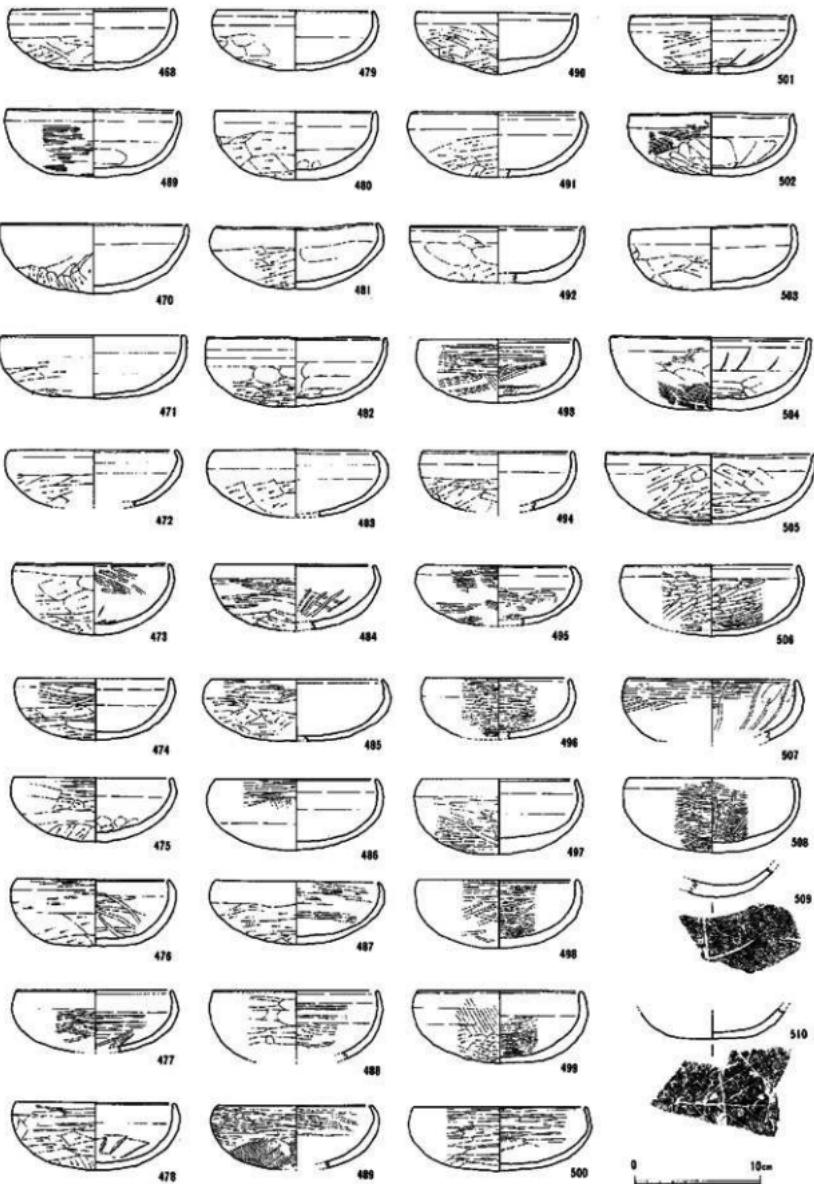


Fig.102 SD14出土遺物実測図 8 (1/4)

番号	種類	出典	法線 (cm)				鏡面/鏡 内部/外側		色/調 内部/外側	造成	備考
			口径	前絶	後絶	高さ	鏡面	鏡内部			
483	土師器・鏡	E --	(15.4)	-	-	7.6	ハケ?、ナデ/ケズリ、ナデ	灰灰~褐灰/灰黄	良好		
484	土師器・鏡	EWS	(15.0)	-	-	6.6	板ナデ/板ナデ、指揮無?、底部ケズリ	板灰/浅灰/底灰	良好		
485	土師器・鏡	EWS	(15.5)	-	-	6.2	ナデ/ケズリ	褐灰~暗灰/底灰	良好		
486	土師器・鏡	EWS	(7.8)	-	-	8.5	ナデ/上部ナデ+指揮無?、下部ケズリ	暗灰~褐灰/底灰	良好		
487	土師器・鏡	EWS	15.0	-	-	7.1	板ナデ/+上部指揮無+ナデ、下部ケズリ	暗灰~灰	良好		
488	土師器・鏡	WCS	(12.6)	-	-	4.9	ナデ/ケズリ	褐灰~褐灰/底灰	良好		
489	土師器・鏡	EEN	(18.6)	-	-	5.3	ナデ/ナデ、ナデ	灰灰~焦/黑	良好		
490	土師器・鏡	EWS	(14.7)	-	-	5.5	ナデ/ナデ、底部ケズリ	深褐色/焦灰/茶褐	良好		
491	土師器・鏡	EEN	(11.7)	-	-	5.0	ナデ/ケズリ	深褐色/褐灰	良好		
492	土師器・鏡	ECC	(12.8)	-	-	[4.5]	底部ケズリ	明灰灰	良好		
493	土師器・鏡	WWC	(12.0)	-	-	5.6	板ナデ、上部ミガキ+ナデ/ミガキ、ナデ	像灰/深灰~褐灰	やや不良		
494	土師器・鏡	EWS	12.2	-	-	5.0	ナデ/底部指揮無+ミガキ、下部ケズリ	褐灰	良好		
495	土師器・鏡	EWS	(11.0)	-	-	5.1	ミガキ/上部ミガキ、下部ケズリ	褐灰~褐灰~黑	良好		
496	土師器・鏡	EWS	(11.0)	-	-	5.3	ミガキ/ミガキ、底部ナデ	褐灰~黑/茶褐~黑	良好		
497	土師器・鏡	WCS	(11.0)	-	-	[4.9]	ミガキ/ミガキ、底部ナデ	褐灰~黑	良好		
498	土師器・鏡	WCS	12.3	-	-	5.4	ナデ、底部ナデケズリ、上部ミガキ	明灰灰	良好		
499	土師器・鏡	WCS	(12.0)	-	-	5.8	底部ケズリ	褐灰/焦灰/黑	良好		
500	土師器・鏡	EWS	(12.0)	-	-	5.5	ナデ、底部指揮無+ケズリ	明灰灰	良好		
501	土師器・鏡	E + w C	(12.0)	-	-	5.2	ナデ/ケズリ	褐灰~浅灰	良好		
502	土師器・鏡	ECN	14.3	-	-	5.5	ナデ/ケズリ、上部指揮無	暗灰~焦	良好		
503	土師器・鏡	WES	12.5	-	-	[5.2]	ナデ/ケズリ	深褐色灰~褐灰	良好		
504	土師器・鏡	EWS	(12.0)	-	-	[5.2]	ミガキ/ミガキ、底部ケズリ	深褐色灰~褐灰	良好		
505	土師器・鏡	ECC	(13.0)	-	-	[4.0]	ナデ/上部ミガキ、下部ケズリ	褐灰~褐灰	良好		
506	土師器・鏡	EWS	(12.0)	-	-	5.6	上部ミガキ、下部ミガキ、下 部ケズリ	褐灰	良好		
507	土師器・鏡	ECC	(12.0)	-	-	5.6	上部ミガキ、下部ミガキ、下 部ケズリ	褐灰	良好		
508	土師器・鏡	WCS	12.8~ 13.0	-	-	5.0	ミガキ/ケズリ	褐~褐灰	不良		
509	土師器・鏡	WCS	(13.1)	-	-	[5.4]	ミガキ/ミガキ	黑灰~黑褐/黑灰	良好		
510	土師器・鏡	ECC	12.0	-	-	(3.0)	上部ミガキ、下部ミガキ/上部ミガキ、下 部ハケ	明赤褐	良好		
511	土師器・鏡	WCS	(12.5)	-	-	4.8	摩擦灰/ケズリ	棕灰~黄灰	やや不良		
512	土師器・鏡	WCS	(13.0)	-	-	[5.2]	ナデ/ケズリ	淡褐色灰~淡褐色灰	良好		
513	土師器・鏡	C + w S	(13.8)	-	-	[4.4]	ナデ/ケズリ、ナデ	棕灰~黄灰	良好		
514	土師器・鏡	WEC	12.3	-	-	5.1	ミガキ/ミガキ	褐灰~黑	良好		
515	土師器・鏡	WEC	(11.8)	-	-	[5.6]	ナデ/ケズリ	褐灰~黑	良好		
516	土師器・鏡	E -- S	(11.7)	-	-	[4.7]	ミガキ/上部ミガキ、下部ハケ	褐灰~黑	良好		
517	土師器・鏡	E -- S	(11.0)	-	-	[4.9]	ミガキ/ミガキ	黑	良好		
518	土師器・鏡	EWC	(11.0)	-	-	6.1	ナデ/ミガキ	淡褐色灰~褐灰	良好		
519	土師器・鏡	EWC	12.6	-	-	5.8	ミガキ/ミガキ	黑/黑灰~黑褐	良好		
520	土師器・鏡	E + w N	13.3	-	-	5.7	ミガキ/上部ミガキ、下部ケズリ	褐~赤褐	良好		
521	土師器・鏡	WMC	(11.6)	-	-	[5.1]	ミガキ/ミガキ	黑	良好		
522	土師器・鏡	E --	(12.8)	-	-	[4.6]	ミガキ/ナデ/ケズリ	黄褐	良好		
523	土師器・鏡	ECC	13.0	-	-	5.0	ミガキ/ナデ/ケズリ	黑	良好		
524	土師器・鏡	WES	12.8	-	-	5.1	ミガキ/ナデ/ケズリ	黑	良好		
525	土師器・鏡	ECC	(13.5)	-	-	[4.9]	指ナデ、ナデ/ミガキ/ミガキ	黑	良好		
526	土師器・鏡	ECC	13.0	-	-	5.9	ミガキ/ミガキ	黑/黑灰~黑褐	良好		
527	土師器・鏡	WES	12.8	-	-	5.1	ミガキ/ナデ/ハケ、底座ナデ	淡褐灰~茶褐	良好		
528	土師器・鏡	EWS	(12.0)	-	-	[2.1]	ナデ/底座ナデ/ナデ	底座褐	良好		外露底座直视
529	土師器・鏡	ECN	18.8	-	(13.5)	13.7	环境ナデ、脚部指揮無、下部ケズリ/ナ デ	褐灰	良好		
530	土師器・鏡	ECN	18.3	-	-	12.7	14.4~ 15.0	环境ナデ、脚部ケズリ/ナデ	褐灰~淡褐灰	良好	
531	土師器・鏡	ECN	(18.1)	-	-	12.7	13.0	脚部ナデ、脚部指揮無+ミガキケズリ/ ナデ	淡褐灰	良好	
532	土師器・鏡	WES	16.7	-	-	16.7	13.0	脚部ナデ、脚部指揮無+ミガキケズリ/ナデ	淡褐灰~淡茶褐	良好	
533	土師器・鏡	EWS	(16.0)	-	(11.0)	11.5	11.5	脚部ナデ、脚部指揮無+ミガキケズリ/ナデ、脚部 ケズリ+ナデ	黄褐~明茶褐	良好	
534	土師器・鏡	ECN	21.5	-	-	15.4	14.9	脚部ナデ+ナデ、脚部ケズリ/ナデ	淡褐灰~褐灰	良好	
535	土師器・鏡	ECN	15.8~ 17.2	-	-	16.8~ 11.4	12.5	脚部ナデ、脚部ケズリ/环境ナデ、脚部 ケズリ	明茶褐~褐灰	やや不良	
536	土師器・鏡	EWC	(16.0)	-	-	6.4	12.0	环境ナデ、脚部ケズリ/环境ナデ、脚部 ケズリ+ナデ	褐灰~褐灰~茶褐	良好	
537	土師器・鏡	WES	(16.1)	-	(11.2)	11.9	11.9	脚部ナデ、脚部ケズリ/ナデ	褐灰~褐灰	良好	
538	土師器・鏡	WES	14.9	-	-	10.9	10.7	脚部ナデ、脚部ケズリ+ナデ	明褐灰~褐灰	良好	
539	土師器・鏡	WES	(16.2)	-	-	10.9	10.9	脚部ナデ、脚部ケズリ/ナデ	淡褐灰~褐灰	良好	
540	土師器・鏡	WCS	15.7	-	-	11.2	9.3	脚部ナデ、脚部ケズリ/ナデ	褐灰~褐灰~茶褐	良好	
541	土師器・鏡	WCS	16.3	-	-	10.7	11.3	环境ナデ、脚部ケズリ/环境ナデ、脚部 ケズリ+ナデ/ナデ、脚部ナデ	褐灰/淡褐灰~茶褐	良好	
542	土師器・鏡	ECS	16.3	-	-	10.6	11.6	不规则底座、脚部指揮無+ミガキ ケズリ	褐灰~褐灰	良好	
543	土師器・鏡	ECC	16.0	-	11.3~ 11.5	10.8	10.8	环境ナデ、脚部ケズリ/环境ナデ、脚部 ケズリ	褐灰~褐灰	やや不良	
544	土師器・鏡	ECC	15.7	-	-	10.9	10.5	16.6ナデ、脚部ケズリ/环境ナデ、脚部 ケズリ	明茶褐~褐灰	良好	
545	土師器・鏡	ECN	15.8	-	(16.3)	6.4	6.4	脚部ナデ+ナデ、脚部ケズリ/ナデ	褐灰~茶褐~褐灰~	良好	
546	土師器・鏡	ECN	(14.0)	-	(10.7)	10.2	10.2	脚部ナデ、脚部ケズリ/ナデ	褐灰~茶褐~褐灰~	良好	
547	土師器・鏡	WCS	(16.7)	-	(11.4)	10.9	10.9	脚部ナデ、板ナデ、脚部ケズリ/ナデ	褐灰	良好	
548	土師器・鏡	WCS	16.8	-	-	-	-	-	褐灰	良好	

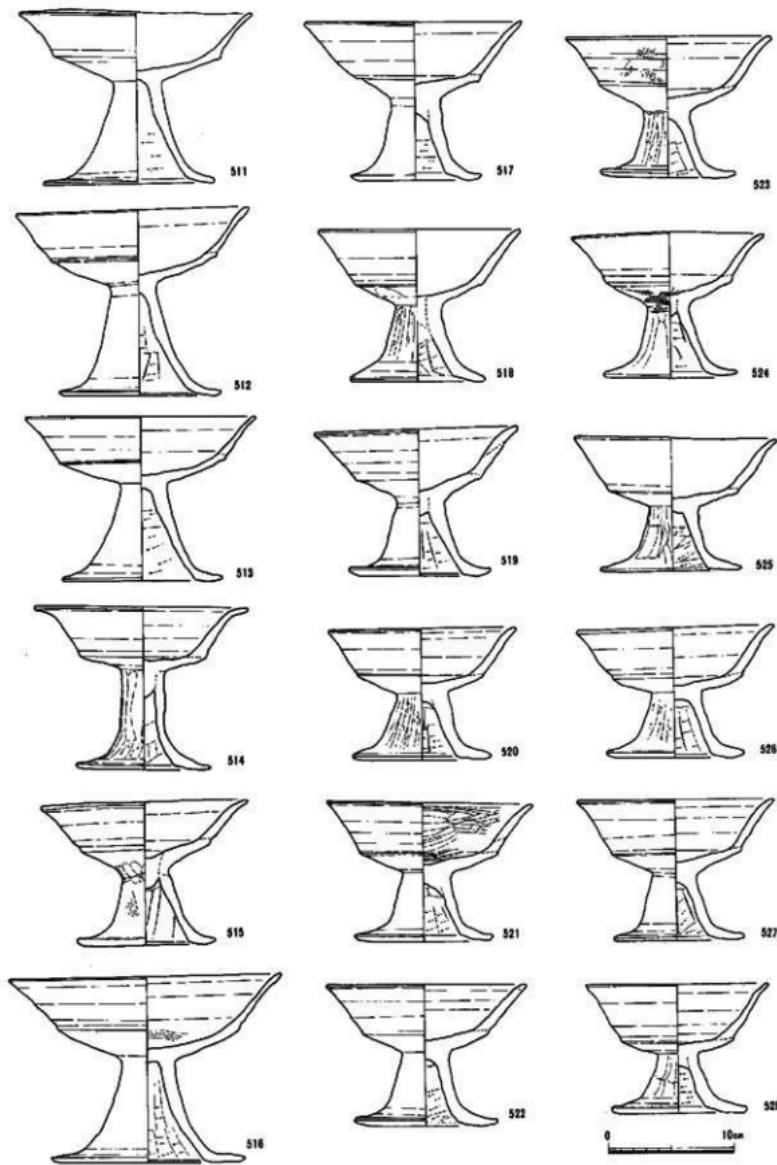


Fig.103 SD14出土遺物実測図 9 (1/4)

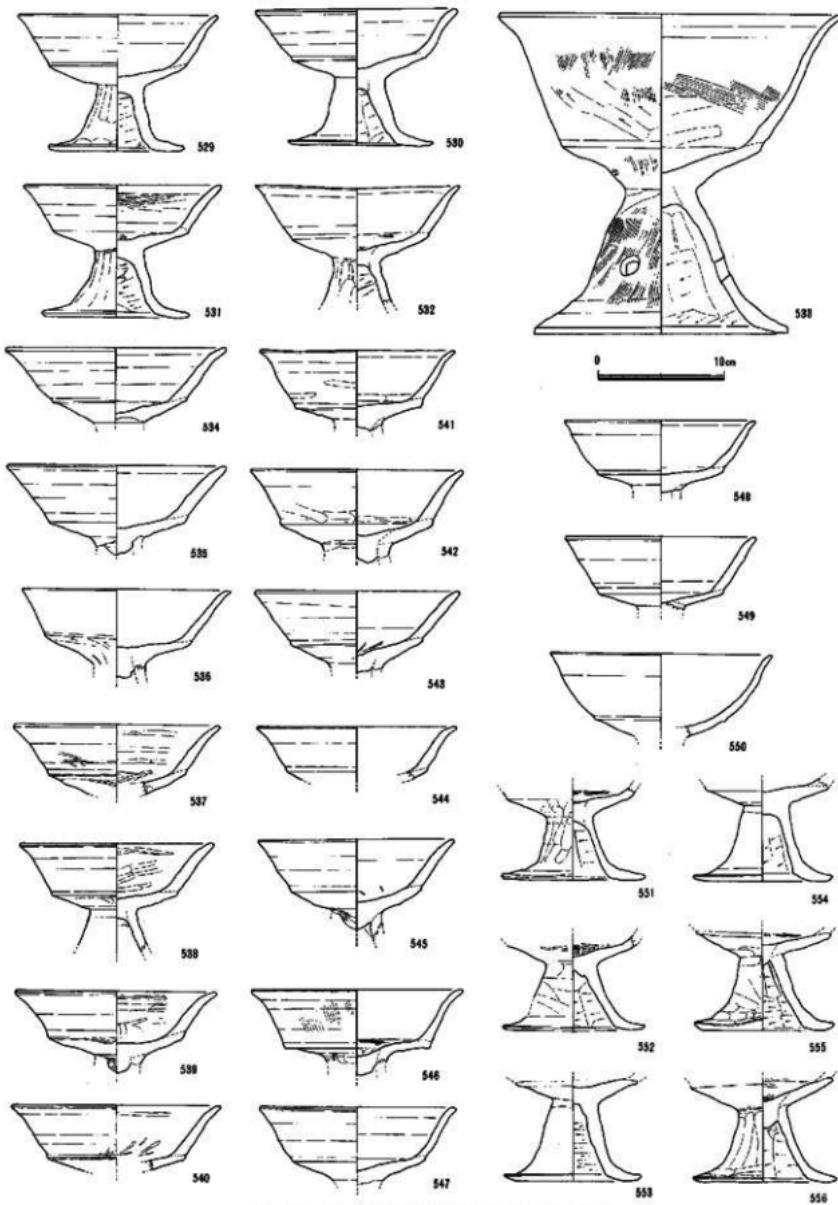


Fig.104 SD14出土遺物実測図 10 (1/4)

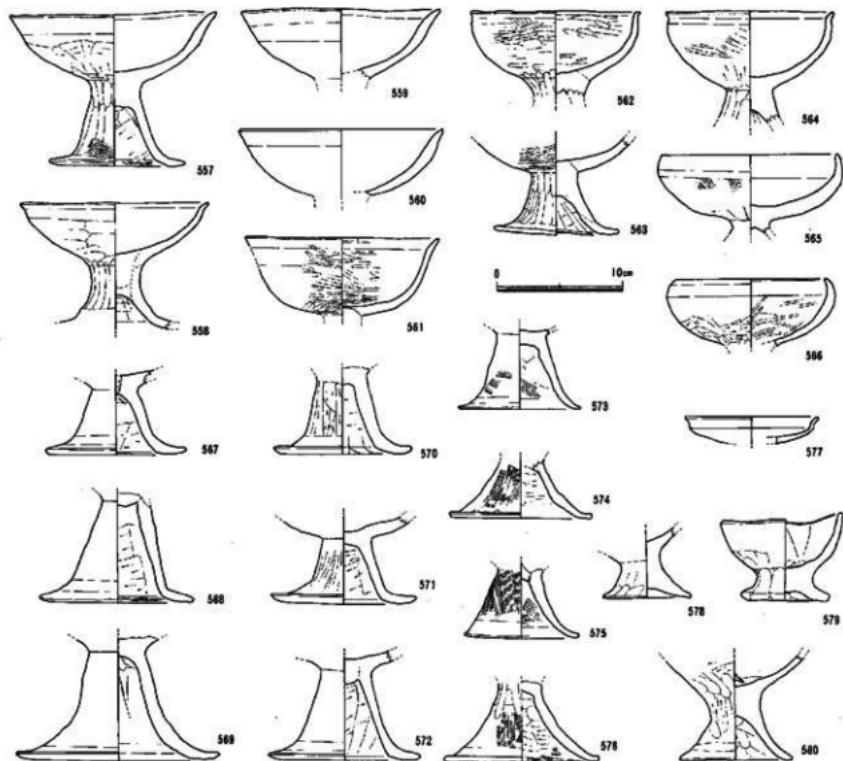


Fig. 105 SD14出土遺物実測図 11 (1/4)

番号	種類	出土 位置	厚 度 (cm)				内面/外面	色 調	集 成	備 考
			口径	脚径	底径	高さ				
531	土師器・高环	EBC	15.5	—	(11.6)	10.0	環部ミガキ、脚部ケメリ/ナデ、脚部ケメリ/ナデ、脚部ケメリ/ナデ、脚部ケメリ/ナデ	明褐色	良好	
532	土師器・高环	EBC (16.1)	—	—	[9.5]	—	環部ハケ/ナデ、脚部ケメリ/ナデ、脚部ケメリ/ナデ、脚部ケメリ/ナデ	緑～淡黄緑	良好	
533	土師器・高环	WCS	26.9	—	20.0	25.5	環部ハケ/ナデ、環部沿岸えん、脚部 ナデ、脚部板ナジン/ナデ	褐色	良好	3方通し
534	土師器・高环	WCS	17.3	—	—	[6.1]	ナデ/ナデ	褐色	良好	
535	土師器・高环	WCS (17.2)	—	—	[7.1]	—	ナデ、脚部板ナジン/ナデ	褐色～褐色～茶褐色	良好	
536	土師器・高环	ECS	14.5～ 18.0	—	—	[7.0]	摩耗/環部ケメリ/ナデ	褐色	やや不良	
537	土師器・高环	WCS	18.5～ 17.4	—	—	[5.8]	上ガキ/ミガキ	黄褐色～褐色	やや不良	
538	土師器・高环	WCS	15.3	—	—	[8.7]	環部ミガキ、脚部ケメリ/ナデ	淡褐色～褐色～褐色	出井	
539	土師器・高环	WBC	(15.8)	—	—	[6.5]	ミガキ/下部上ガキ	褐色～褐色	良好	
540	土師器・高环	WCS	(16.0)	—	—	[5.2]	ミガキ/ハケ、ナデ	褐色/淡褐色	良好	
541	土師器・高环	ECS (15.4)	—	—	[5.4]	摩耗、底部ナジン/ハケ、ナデ、板ナジン/ナデ、底部ケメリ/ナデ	赤褐色～褐色	良好		
542	土師器・高环	WWC	(16.8)	—	—	[7.8]	板ナジン/ナデ、ナデ/ナデ	青～青褐色	良好	
543	土師器・高环	WEC	16.2	—	—	[6.4]	板ナジン/ナデ、ナデ/ナデ	褐色～褐色～褐色	良好	
544	土師器・高环	WGS	(15.6)	—	—	[4.3]	ミガキ/ナデ	褐色～褐色～褐色	やや不良	
545	土師器・高环	WCS	15.4	—	—	[8.1]	板ナジン/ナデ	明褐色	良好	
546	土師器・高环	RWS	(16.7)	—	—	[6.8]	ハケ、ナデ、底部板押え/ハケ、ナデ	青褐色	良好	
547	土師器・高环	WCS (15.5)	—	—	[6.1]	ナデ、底部板ナジン/ナデ	褐色～淡褐色	やや不良		
548	土師器・高环	EWS	15.0	—	—	[5.7]	摩耗/摩耗	褐色	良好	

番号	種類	古文書	法量(m)			面積 内面/外面	色彩/外型	地或	備考	
			口径	脚幅	底径					
549	土師器・高环	ECS	15.2	-	-	[5.8]	深感/厚感	椎~浅黄微	良好	
						[5.7]	厚感/厚感	椎~浅黄微	やや不良	
551	土師器・高环	EベルトC	17.5	-	(11.4)	[7.4]	环部ケタ、ナゲ、脚幅ケタリ/ケタリ	椎~浅黄微	良好	
						[7.5]	环部ケタ、ナゲ、脚幅ケタリ/下部ケ	椎~浅黄微	良好	
552	土師器・高环	WEC	-	-	(11.2)	[7.6]	环部ケタ、ナゲ、脚幅ケタリ/ケタリ	椎~浅黄微	良好	
						[7.7]	环部ケタ、ナゲ、脚幅ケタリ/ケタリ	椎~浅黄微	良好	
553	土師器・高环	ECN	-	-	10.8	[8.1]	环部ケタ/ナゲ、脚幅ケタリ/ナゲ	椎灰/淡褐灰	やや不良	
554	土師器・高环	WEC	-	-	10.9	[8.2]	环部ケタ/ナゲ、脚幅ケタリ/ナゲ	椎灰	良好	
555	土師器・高环	-	-	-	(10.9)	[7.8]	环部ケタ/ナゲ、脚幅ケタリ/ナゲ	椎~浅黄微	良好	
556	土師器・高环	E	--	-	(11.2)	[8.4]	环部ケタ/ナゲ、脚幅ケタリ/ナゲ	淡褐~椎	良好	
557	土師器・高环	EWS	16.2	-	10.7	12.3	环部ケタ/ナゲ、脚幅ケタリ/环 部ケタリ/ナゲ、脚幅ケタリ/ナゲ	黄橙	良好	
558	土師器・高环	EWS	(14.0)	-	-	[10.0]	环部厚感、脚幅ケタリ/ナゲ/环部ケズ リ/ナゲ、脚幅ケタリ/脚幅厚感	椎~明赤褐	良好	
559	土师器・高环	ECS	(15.0)	-	-	[5.7]	厚感/厚感	黄褐~椎	良好	
560	土师器・高环	EWS	16.2	-	-	[6.4]	ナゲ/?/ナゲ?	椎灰/淡褐灰	良好	
561	土师器・高环	ECS	(15.4)	-	-	[5.3]	ミガキ/?ミガキ	椎~椎	良好	
562	土师器・高环	ECC	13.5	-	-	[6.0]	ミガキ/环部ハケ/?ミガキ	椎~明赤褐/明赤褐	良好	
563	土师器・高环	EWS	-	-	(9.9)	[4.9]	环部1ガキ、脚部ケズリ/ミガキ	黄褐~椎	良好	
564	土师器・高环	EWS	12.3	-	-	[8.9]	环部厚感、脚部ケズリ/ナゲ/?环部ケ ズリ/ナゲ、脚部ナゲ	椎	良好	
565	土师器・高环	EWC	13.9	-	-	[6.4]	ナゲ/?/ナゲ、脚部ナゲ/ナゲ	淡褐灰/淡褐灰	良好	
566	土师器・高环	ECC	11.9	-	-	[5.3]	ミガキ/上部ナゲ/?下部ケズリ	椎灰~茶褐/淡褐灰	良好	
567	土师器・高环	WCs	-	-	11.0	[6.7]	脚部ナゲ/ナゲ/脚部ケズリ/ナゲ	椎灰	良好	
568	土师器・高环	ECN	-	-	12.1	[6.6]	ケズリ/?ナゲ	椎灰~黑灰/脚灰	良好	
569	土师器・高环	WCC	-	-	14.0	[6.7]	ケズリ/?ナゲ	脚灰	良好	
570	土师器・高环	EEN	-	-	10.9	[7.0]	ケズリ/?ケズリ	明褐灰	良好	
571	土师器・高环	WCS	-	-	11.5	[7.1]	环部爱ナゲ/ナゲ、脚部ケズリ/环部ナ ゲ/脚部ケズリ	椎灰~茶褐	良好	
572	土师器・高环	WCS	-	-	12.0	[8.7]	ケズリ/?ナゲ	淡灰	良好	
573	土师器・高环	CベルトC	-	-	(5.7)	[6.3]	环部ナゲ、脚部ハケ/?脚部ナゲ/ナ ゲ/脚部ナゲ/ナゲ	明褐灰	良好	
574	土师器・高环	ECS	-	-	11.3	[4.7]	ケズリ/?ナゲ	淡黄褐~椎	やや不良	
575	土师器・高环	WCS	-	-	9.1	[5.1]	ナゲ/?/ナゲ/ナゲ/ナゲ	暗黑褐/明褐灰	良好	
576	土师器・高环	WCC	-	-	(12.2)	[5.3]	上部ナゲ/脚部ケズリ/脚部ハケ/上 部ナゲ/脚部ケズリ/脚部ハケ/上 部ナゲ/脚部ケズリ	淡褐	良好	
577	土师器・高环	WCS	(10.5)	-	-	[2.2]	ナゲ/?ナゲ	淡褐灰	良好	
578	土师器・高环	CベルトS	-	-	7.0	[5.6]	脚部ナゲ/ナゲ	明褐灰~淡茶灰	不良	
579	土师器・高环	ECN	9.8	-	7.0	6.2~7.8	环部爱ナゲ/ナゲ、环部脚附え/脚部 脚附え/?ナゲ	脚灰~脚灰	良好	
580	土师器・高环	Wベルト	-	-	(9.0)	[8.0]	环部板ナゲ/?脚部ナゲ/环部ケズリ/ ナゲ/脚部ナゲ	淡黄褐~椎	良好	
581	土师器・高环	EWS	9.7	15.4	-	17.3	脚部脚附え/脚部ナゲ/上部1ガキ/下 部ナゲ	淡褐灰/暗褐灰	良好	
582	土师器・高环	ECS	(9.1)	(14.2)	-	15.8	口縁ミガキ/脚部ナゲ/脚附え/下部ケ ズリ/?ナゲ	暗褐~椎	良好	
583	土师器・高环	ECS	10.7	(16.2)	-	[3.7]	脚部ナゲ/脚部ケズリ/ハケ/ナゲ	淡黄褐~椎	良好	
584	土师器・高环	ECS	7.0~7.2	-	-	[5.7]	ナゲ/?/ナゲ/ミガキ	脚灰~脚灰	良好	
585	土师器・高环	ECC	8.7	13.2	-	14.2	口縁ミガキ/脚部板ナゲ/底部指附え/ 脚附え/?ナゲ	暗褐灰~淡褐灰	良好	
586	土师器・高环	ECC	(10.1)	12.8	-	13.7	口縁ナゲ/脚部ナゲ/底部指附え/?脚 附ナゲ/下部ハケ/ナゲ	脚灰~脚灰	良好	
587	土师器・高环	ECC	-	14.9	-	[5.8]	脚ナゲ/?ナゲ/ナゲ	暗褐灰~脚灰	良好	
588	土师器・高环	ECC	-	13.8	-	[11.1]	板ナゲ/上部ナゲ/下部ケズリ	暗褐灰/脚灰	良好	
589	土师器・高环	E	--	(9.4)	(12.4)	-	12.2	脚部ケズリ/?脚部ナゲ/脚附え/脚部ナ ゲ/指附え/?ナゲ/ナゲ/指附え	淡黑褐/淡褐灰	良好
590	土师器・高环	ERC	16.4~ 15.8	-	-	[7.8]	口縁ミガキ/脚部ケズリ/ナゲ/?ミガキ	椎灰~脚灰	良好	
591	土师器・高环	ECS	9.8	-	-	[7.8]	ナゲ/板ナゲ	脚灰~脚灰	良好	
592	土师器・高环	WCS	-	-	-	[6.6]	厚感/ハケ	脚灰~脚灰	不良	
593	土师器・高环	WCS	8.3	18.5	-	11.4	脚部指附え/脚部ナゲ/底部指附え/脚 附え/?脚部ナゲ	高灰	良好	
594	土师器・高环	CベルトC	-	11.4	-	[8.1]	上部ナゲ/下部ナゲ/脚部ナゲ/下部 ケズリ/?ナゲ	暗褐~茶灰	良好	
595	土师器・高环	EWS	6.4	-	-	7.2	ナゲ/底部指附え/?ハケ/ナゲ/指附 え	灰褐	やや良好	
596	土师器・高环	EベルトC	(10.2)	-	4.4	[4.5]	ナゲ/指附え/?ハケ/ナゲ/指附え	暗褐灰	やや良好	
597	土师器・高环	WCS	(12.0)	-	-	[6.6]	口縁ミガキ/脚部ナゲ/底部指附え/ 脚附え	暗褐灰~脚灰	極めて良好	
598	土师器・高环	W	--	11.4~ 12.8	-	10.3	脚部ナゲ/四部ケズリ/底部ナゲ/脚 附え	脚灰~脚灰	やや不良	
599	土师器・高环	WCS	12.0~ 13.0	-	-	5.5	脚感/ハケ/脚部ナゲ/脚附え/ハケ	脚~脚灰	良好	
600	土师器・高环	WEC	(12.7)	-	-	12.2	脚部板ナゲ/脚部ナゲ/ハケ	淡黄褐~淡褐	やや不良	
601	土师器・高环	REC	11.3	-	-	10.6	ナゲ/?/ハケ	脚~脚灰	外底木斑斑	
602	土师器・高环	CベルトC	(12.4)	-	-	13.8	ケズリ/?ナゲ/底部指附え/?ハケ	淡黄褐~脚灰	やや良好	
603	土师器・高环	CベルトS	(16.0)	-	-	13.8	脚部ナゲ/脚部ケズリ/?ハケ	淡黄褐~淡褐	やや良好	
604	土师器・高环	WCS	(17.0)	-	-	[15.0]	ケズリ/?ハケ	淡黄褐~脚灰	やや良好	
605	土师器・高环	WCS	14.1	-	-	9.1	口縁ハケ/脚部ケタ/ナゲ/底部指附え/ 脚附え/下部ケズリ	灰褐~脚灰	やや良好	
606	土师器・高环	WEC	17.1	-	-	10.2	口縁ハケ/ナゲ/脚部ケズリ/?ハケ/ナ ゲ/ナゲ/ハケ	黄褐~灰白	やや良好	
607	土师器・高环	EベルトN	(28.7)	-	-	21.9	ナゲ/?/ナゲ/底部ナゲ?	淡黄褐~淡褐	やや良好	
608	土师器・高环	WGS	(18.4)	-	-	17.4	ナゲ/?/ナゲ/底部ナゲ?	脚灰~黑褐	良好	
609	土师器・高环	WCS	16.9	-	-	8.5	脚部ナゲ/板ナゲ/脚部ケズリ/ハケ	脚灰~黑褐	良好	
610	土师器・高环	WCS	(19.4)	-	6.8	12.2	口縁ハケ/脚部ナゲ/ハケ/底部ナ ゲ/ハケ	脚~脚灰	やや良好	
611	土师器・高环	EEN	20.8	-	-	14.1	上部ハケ/ハケ	脚~脚灰	不良	

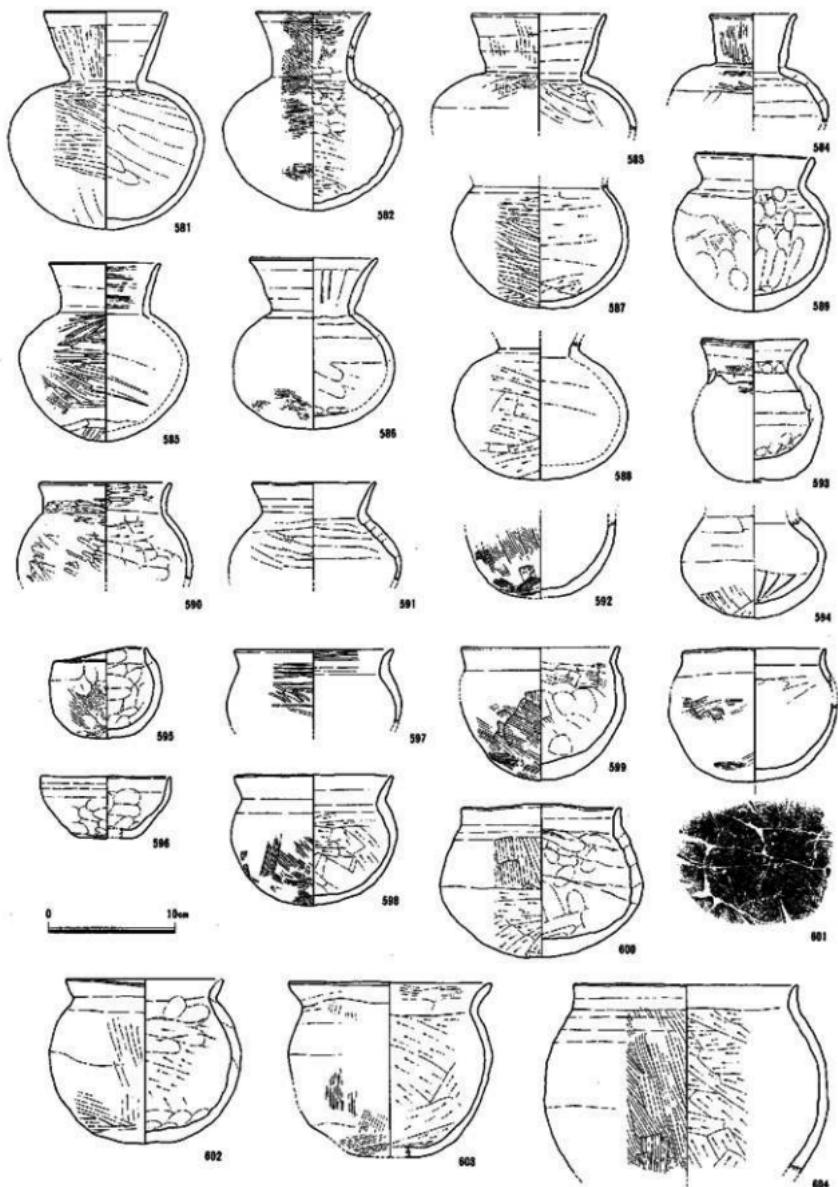


Fig.106 SD14出土遺物実測図 12 (1/4)

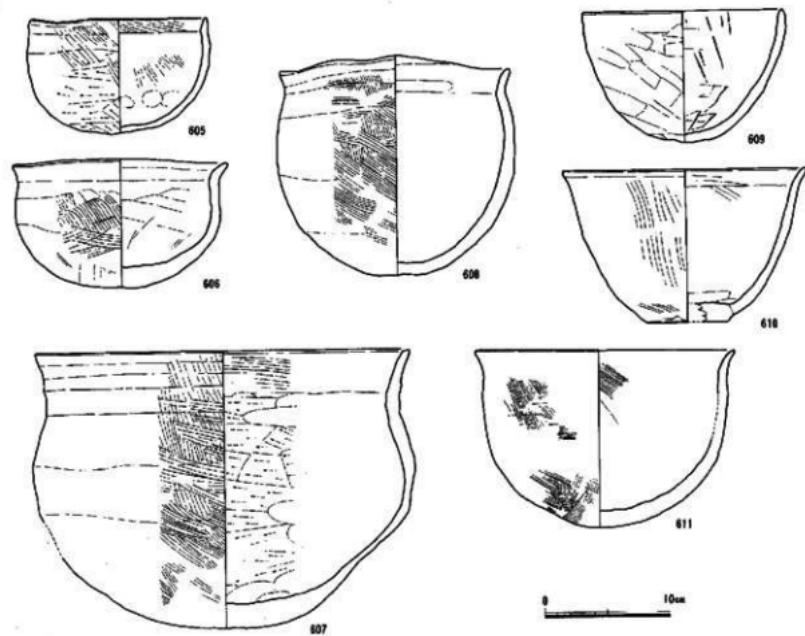


Fig.107 SD14出土遺物実測図 13 (1/4)

番号	種類	出土	法面 (cm)			裏 内面/外面	色/調 内面/外面	状成	備考
			口径	底径	高さ				
612	土師器・甕	ECS (15.5)	-	-	[8.6]	口縁ハケ、ナデ、肩部ケズリ、ナデ、腹壁～肩部縁、底灰～ 肩丸／ハケ、ナデ	黄灰	良好	
613	土師器・甕	EWC (15.0) (24.9)	-	[9.3]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ、ナデ	體灰～暗茶褐／系灰	良好		
614	土師器・甕	WCS (18.0)	[21.2]	-	[13.8]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ、ナデ	茶灰	良好	
615	土師器・甕	WCS (17.5)	(26.0)	-	[10.6]	ケズリ／ハケ、ナデ	赤褐色灰	良好	
616	土師器・甕	Eペル C (14.7)	(18.3)	-	[15.4]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	淡黃褐色～橙褐色	やや良好	
617	土師器・甕	Eペル K (16.2)	(18.6)	-	[9.2]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	淡黃褐色～灰青褐色	良好	
618	土師器・甕	Eペル N (16.8)	(23.3)	-	[16.8]	ケズリ／ナデ／ハケ	黃褐色～褐色／淡褐色	やや良好	
619	土師器・甕	EEN (17.0) (27.4)	-	-	[7.8]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	黃褐色～褐色	やや良好	
620	土師器・甕	WCS (14.2)	-	-	[5.4]	頭部指揮印、肩部ケズリ／ハケ	黑褐色～灰褐色	やや良好	
621	土師器・甕	Eペル N (17.4)	-	-	[8.8]	口縁ハケ、肩部ケズリ／ハケ	淡褐色～灰褐色	やや良好	
622	土師器・甕	EWS (15.6)	-	-	[7.5]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	淡黃褐色	やや良好	
623	土師器・甕	ECS (17.1)	-	-	[8.8]	口縁ハケ、肩部ケズリ／ハケ	淡黃褐色～褐色	やや良好	
624	土師器・甕	EKN (20.8)	-	-	[23.7]	ケズリ／ハケ	淡黃褐色～褐色	不良	
625	土師器・甕	EWS (16.0) (28.5)	-	-	[24.5]	ケズリ／ハケ	法華寺／淡褐色～褐色	良好	
626	土師器・甕	EBC (17.0) (30.0)	-	-	[26.1]	頭部捺押え・ナデ、斜上部ナデ、下底部 ケズリ／ハケ	暗茶灰／素茶灰	良好	
627	土師器・甕	Eペル S (18.5) (28.0)	-	-	[17.5]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	黃灰～暗黃褐色	やや良好	
628	土師器・甕	WWC (18.8) (28.4)	-	-	[22.2]	ケズリ／ハケ	系灰	良好	
629	土師器・甕	WGS (15.9)	(21.1)	-	[8.7]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	淡黃灰～褐色	良好	
630	土師器・甕	WCS (16.3)	(27.3)	-	[22.8]	ケズリ／ハケ	茶灰／茶褐色	良好	
631	土師器・甕	WES (19.5) (30.2)	-	-	[28.8]	口縁ハケ、肩部ケズリ／斜上部板ナデ、茶褐色～赤褐色～系灰 下部ハケ	茶灰／赤褐色系灰～褐色	良好	
632	土師器・甕	WCS (15.5) (29.2)	-	[24.5]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	茶褐色	良好		
633	土師器・甕	Cペル S (18.0) (25.8)	-	[29.8]	上部ナデ、下部ケズリ／ハケ	褐色～暗褐色	不良		
634	土師器・甕	EKN (17.5) (26.4)	-	-	[29.2]	口縁ハケ、肩部ケズリ／ハケ	褐色～暗褐色	良好	
635	土師器・甕	ECS (16.0) (24.8)	-	[30.1]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ	褐色	やや不良		
636	土師器・甕	FHN (17.2) (26.4)	-	-	[36.5]	頭部ナデ、肩部ケズリ／ハケ、ナデ	褐色	良好	
637	土師器・甕	ECS (18.5) (25.1)	-	-	[36.1]	上部ナデ、下部ケズリ／ハケ、ナデ	高灰／暗灰	良好	
638	土師器・甕	W (18.7) (25.4)	-	-	[25.9]	口縁ハケ、肩部ケズリ／ハケ	淡黃褐色～灰褐色	良好	
639	土師器・甕	WEW (14.0) (17.0)	-	-	[16.6]	頭部捺押え、肩部ケズリ／ハケ	系灰	良好	

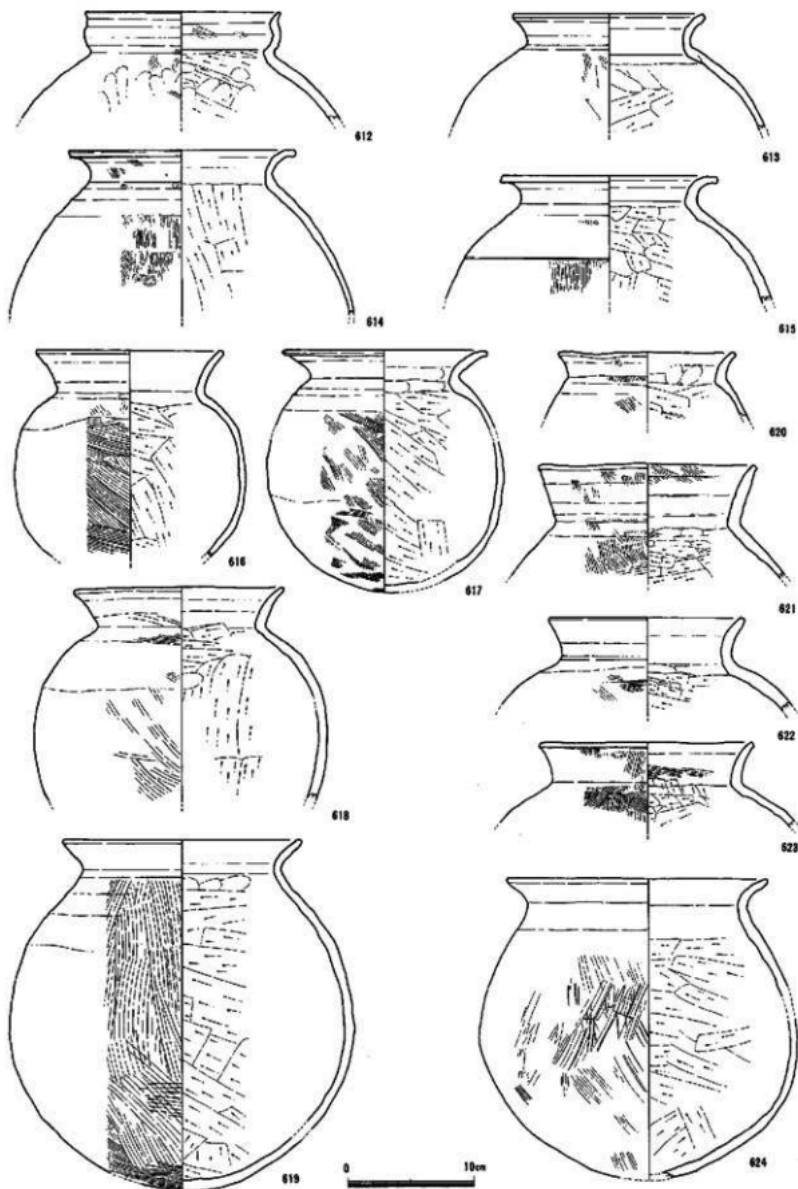


Fig.108 SD14出土遺物実測図 14 (1/4)

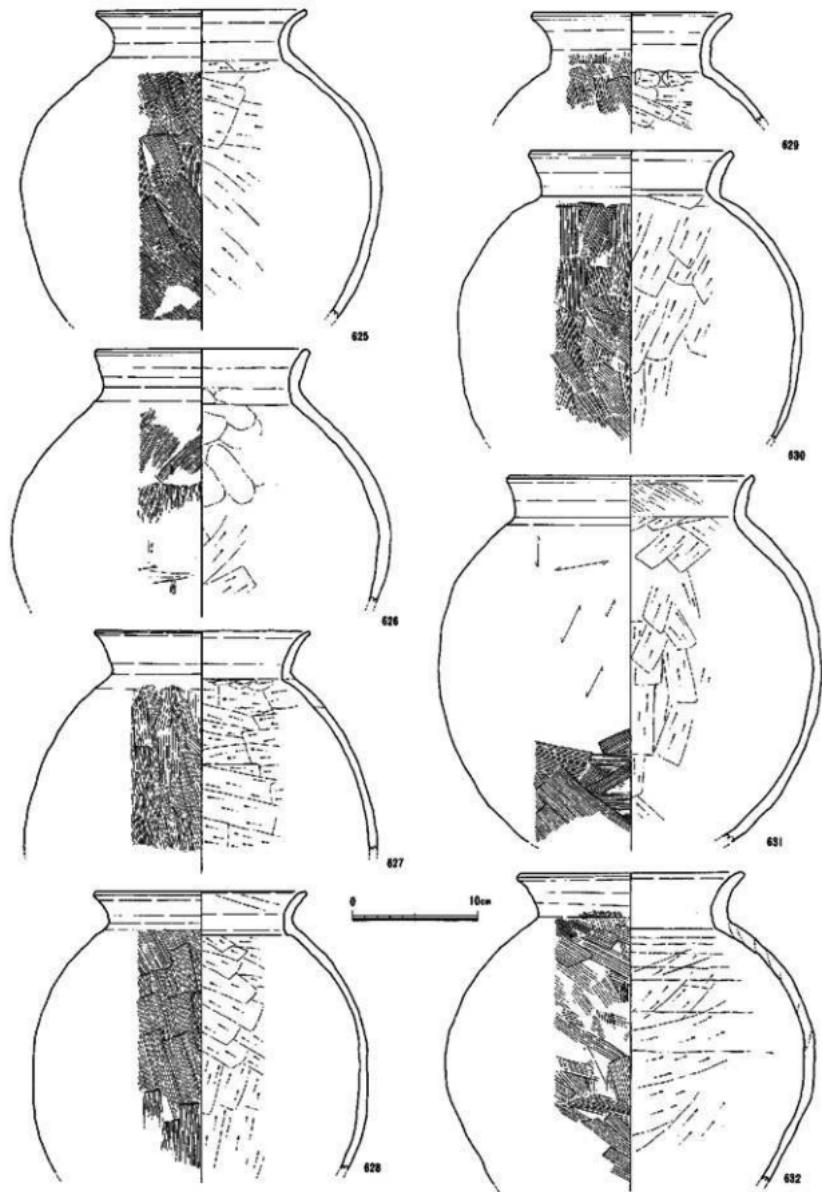
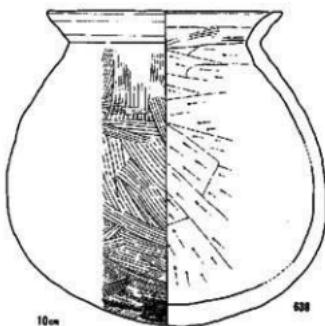
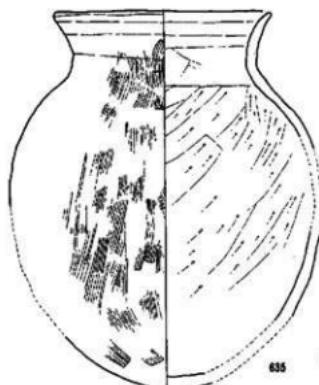
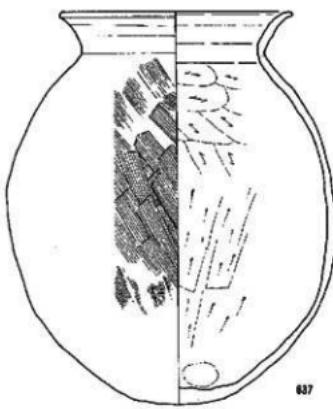
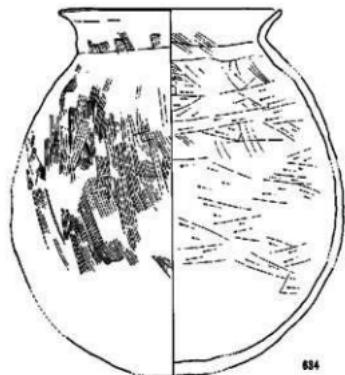
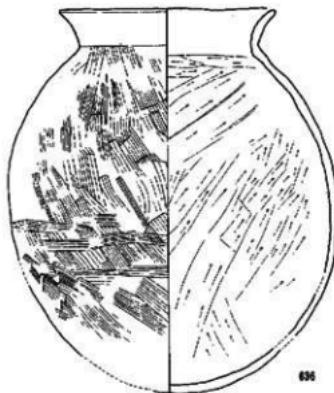
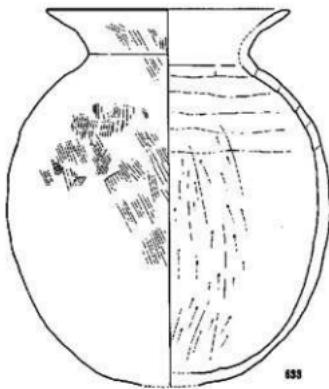


Fig.109 SD14出土遺物実測図 15 (1/4)



0 10cm

Fig.110 SD14出土遺物実測図 16 (1/4)

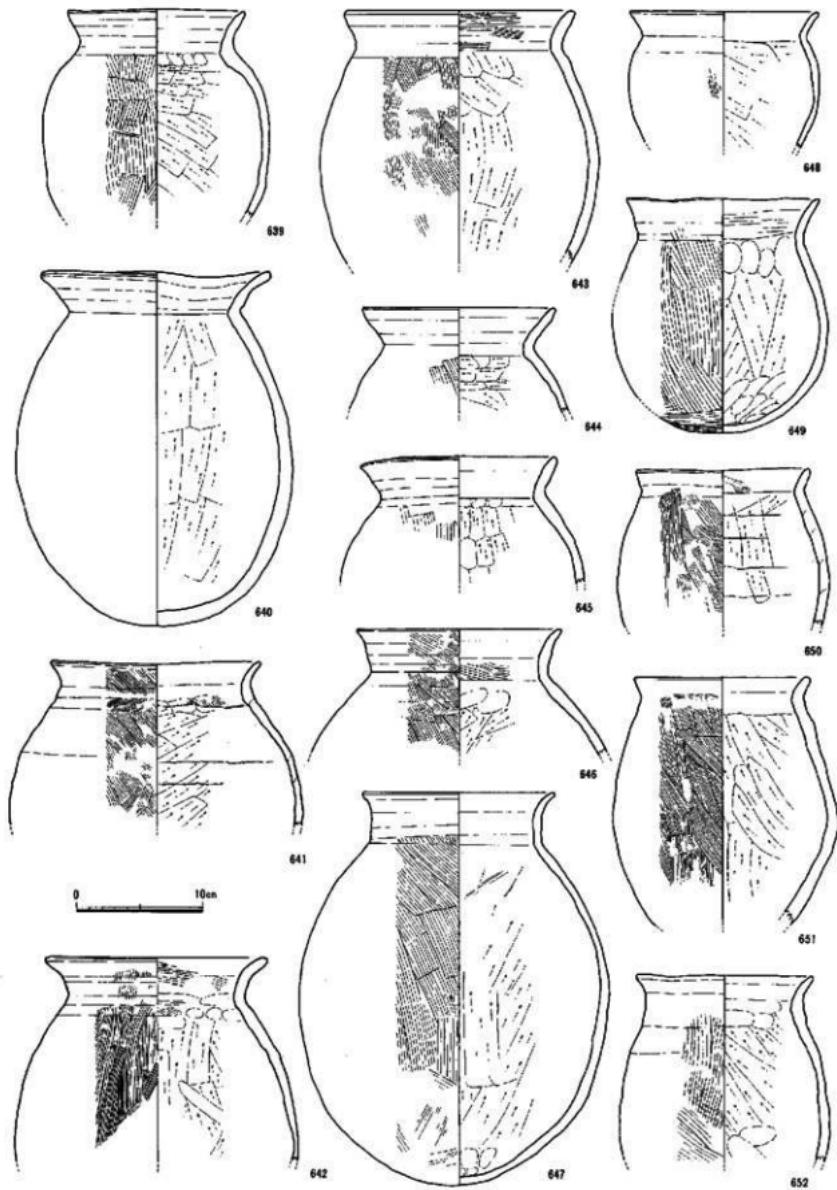


Fig.111 SD14出土遺物実測図 17 (1/4)

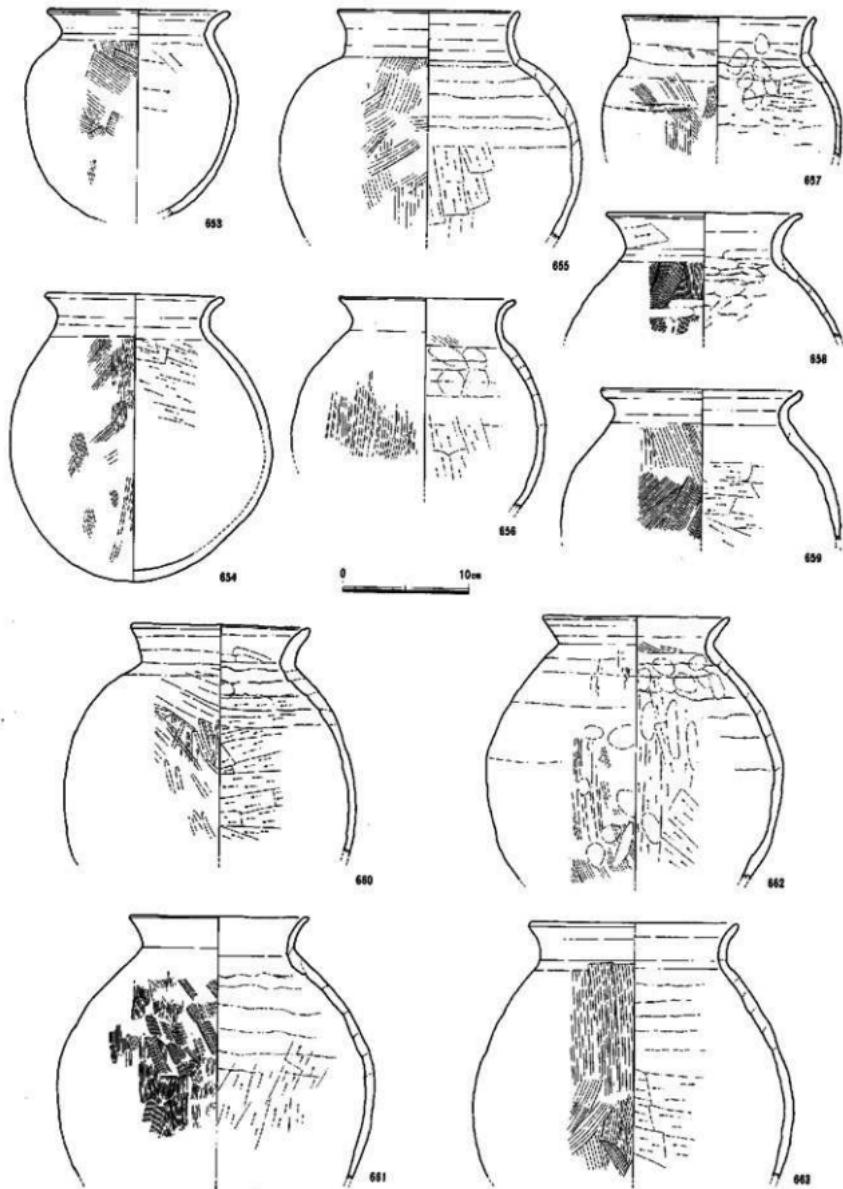


Fig.112 SD14出土遺物実測図 18 (1/4)

番号	種類	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	法量 (cm)			内面/外面 内面/外面	色/質	地成	備考	
			口径	脚注	底径					
640	土師器・壺	EWC	14.3	21.9	-	28.4	脚部ナゲ、脚部ケズリ/ナゲ	淡黄灰~淡墨灰	良好	
641	土師器・壺	E+&N (16.0)	(22.3)	-	[13.2]	脚部ナゲ、脚部ケズリ/ハケ	灰系	良好		
642	土師器・壺	EWS	(17.7)	(22.5)	-	[16.4]	口縁ハケ、脚部ナゲ/脚部ケズリ	黄褐色	良好	
643	土師器・壺	ESC	18.3	(22.1)	-	[20.2]	口縁ハケ、脚部ナゲ、脚下部ケズリ/ハケ	淡灰~茶褐色/淡褐色	良好	
644	土師器・壺	WLS	15.3	-	-	[8.4]	脚部ナゲ、脚部ケズリ/ハケ	淡褐色	良好	
645	土師器・壺	WEC	15.7	19.4	-	[10.0]	脚部ナゲ、脚部ケズリ/ハケ	暗灰~墨黑色	やや不良	
646	土師器・壺	ECS	(16.3)	-	-	[10.1]	口縁ハケ、脚部ケズリ/ナゲ/ハケ	黄色~灰褐色	良好	
647	土師器・壺	ECS	15.2	(22.9)	-	31.4	脚部ナゲ、脚部ケズリ、底部粘着え/ハケ	淡褐色	良好	
648	土師器・壺	C+&S (14.9)	(15.1)	-	[10.8]		ケズリ/ハケ	褐~灰褐色	良好	
649	土師器・壺	ECN	15.3	17.1	-	18.7	口縁ハケ、脚部ナゲ/脚押え、脚部ケズリ/ナゲ、脚部指揮え/ハケ	淡褐色~褐	良好	
650	土師器・壺	WCS (13.0)	(16.6)	-	[12.6]	口縁ハケ、脚部ケズリ/ハケ	赤淡褐色~暗褐色	良好		
651	土師器・壺	WCS	13.9	17.8	-	[10.9]	脚部ナゲ、脚部ケズリ/ハケ	灰褐色~茶褐色	良好	
652	土師器・壺	WCS	(14.0)	(16.7)	-	[14.9]	脚部ナゲ、脚部ケズリ/ハケ	淡褐色~褐	良好	
653	土師器・壺	WES	14.2	16.7	-	[6.7]	脚部ナゲ/ハケ	赤茶灰	やや不良	
654	土師器・壺	ECN	14.0	20.5	-	22.7	ケズリ/ハケ	茶褐色	良好	
655	土師器・壺	ECN	(14.4)	25.9	-	[20.2]	脚上部ナゲ、脚下部ケズリ/ハケ	褐	良好	
656	土師器・壺	EMN	11.4 <sup>a</sup>	20.2	-	[16.6]	脚上部ナゲ/脚押え、脚下部ケズリ/ハケ	褐	やや不良	
657	土師器・壺	ECC	15.4	(18.1)	-	[11.0]	ナゲ、指揮え/ハケ	灰褐色~褐	良好	
658	土師器・壺	EWS	(15.5)	-	-	[3.9]	ナゲ、指揮え、下脚ケズリ/ハケ	褐	良好	
659	土師器・壺	ECN	(16.1)	(22.2)	-	[18.8]	脚上部ナゲ、脚下部ケズリ/ハケ	暗灰茶~淡褐色	良好	
660	土師器・壺	E --	14.2	(21.1)	-	[18.0]	脚上部指揮え、下脚ケズリ/ハケ、E	褐灰	良好	
661	土師器・壺	ECS	(14.3)	(25.2)	-	[20.7]	脚上部ナゲ、脚下部ケズリ/ハケ	褐~暗褐色	やや不出	
662	土師器・壺	E+&L C (14.9)	(23.7)	-	[20.5]	口縁ハケ、脚部ケズリ、脚押え	黄褐色~淡褐色	良好		
663	土師器・壺	EECN	13.5	(26.4)	-	[20.2]	脚上部ナゲ、脚下部ケズリ/ハケ	茶灰	良好	
664	土師器・壺	E+&L C	-	(16.4)	[5.4]	ケズリ/ナゲ/ハケ、底部ナゲ	浅褐色	良好	多孔	
665	土師器・壺	EWS	-	-	[4.7]	ケズリ/ナゲ、ナゲ	灰白	良好	多孔	
666	土師器・壺	E+&L C	-	(36.5)	-	[16.5]	ケズリ/ナゲ/ハケ、ナゲ	淡黄褐色~褐	良好	多孔
667	土師器・壺	EWC	(19.3)	-	-	11.8	ナゲ/ハケ、ナゲ	茶灰	やや不良	单孔
668	土師器・壺	ECC	(17.7)	(18.8)	-	14.2	脚上部/ハケ/ナゲ、脚下部ケズリ/ハケ、ナゲ	褐灰	やや不良	单孔
669	土師器・壺	EKN	20.7	21.1	-	16.6	ケズリ、ナゲ、底部指揮え/ハケ	褐~棕~褐	良好	单孔
670	土師器・壺	WCS	(24.0)	-	[6.6]	口縁ハケ、脚部ケズリ/ナゲ	褐~明褐色	良好	单孔	
671	土師器・壺	EWS	(21.5)	-	[5.6~6.0]	[31.4] 口縁ハケ、脚部ケズリ/ナゲ/ハケ、底部ナゲ	褐	良好	单孔	
672	土師器・壺	EWS	(25.7)	-	[8.1]	[24.4] ケズリ/ナゲ/ハケ、下脚ナゲ	褐	良好	单孔	
673	土師器・壺	ECS	18.9	-	4.8	16.4	口縁ハケ、脚部ケズリ/ナゲ、下脚板ナ	高灰~淡茶灰~淡褐色	良好	单孔
674	土師器・壺	ECC	(28.2)	-	[6.1]	ケズリ、底部指揮え/ハケ	茶灰~淡茶褐色/茶灰	良好	2孔	
675	土師器・壺	WCS	26.8	-	11.8	27.4	ケズリ、底部指揮え/ハケ、ナゲ	茶灰~淡茶褐色/茶灰	良好	单孔
676	土師器・壺	WCS	(21.7)	-	[5.7]	25.0	ケズリ、底部ナゲ/ナゲ、ナゲ	茶灰~淡茶灰~暗褐色	良好	单孔
677	土師器・壺	WCS	(20.3)	-	[8.7]	29.5	口縁ハケ、脚部ナゲ、脚部ケズリ/ハケ、下脚ナゲ	茶灰	良好	单孔
678	土師器・壺	WES	(18.0)	-	-	[21.7]	ケズリ、下脚ナゲ/ハケ	深灰~淡褐色~明褐色	不規	
679	土師器・壺	WCS	(24.0)	-	[10.0~	24.3	口縁ハケ、脚部ケズリ/ハケ	褐~粉褐色	やや不良	单孔
680	土師器・壺	E+S (23.2)	-	8.8	38.8	口縁ハケ、脚部ケズリ/ハケ	淡褐色~茶褐色	良好	单孔	
681	土師器・壺	ECS (31.0)	-	-	[22.8]	ケズリ/ハケ	褐~粉褐色	良好	单孔	
682	土師器・壺	WEC	-	-	9.2	[23.0] ケズリ/上脚ナゲ/ナゲ、下脚ハケ	淡茶灰~淡褐色/茶灰	良好	单孔	
683	土師器・壺	WWC (19.0)	[20.0]	3.1~4.2	[24.0]	口縁ハケ、脚部ケズリ/上脚ハケ、下脚 ナゲ/ハケ	淡茶灰~淡褐色	良好	单孔	
684	土師器・壺	EFC	-	-	2.9~3.2	[14.0]	ケズリ、根ナゲ/ナゲ	淡茶灰~淡茶褐色	良好	单孔
685	土師器・壺	E+&L C	-	-	[6.4]	[17.5]	ナゲ/ハケ、ナゲ	茶褐色~淡褐色	良好	单孔
686	土製文庫	WCS	-	8.0	9.8	[16.3]	ナゲ	茶灰	良好	单孔
687	手形土器品	WCS	長12.6	幅14.9	高14.1	-		灰~墨灰	良好	向面に董庄痕

番号	種類	表面	寸法 (cm x cm)			備考
			底径	幅	厚さ	
688	石瓶丁	E+&L C	3.3	[5.3]	0.7	16 脊錐凝灰岩
689	砾石	EEN	[9.5]	[8.2]	4.5	砂岩、3面使用、砾石に転用?
690	砾石	E+&L C	[8.6]	[4.2]	2.8	砂岩、3面使用
691	砾石	EEN	[5.0]	[7.5]	2.1	砂岩、3面使用
692	砾石	WCS	11.2	7.5	3.7	352 砂岩、3面使用
693	砾石	WCS	16.7	10.7	10.5	1412 砂岩、2面使用
694	砾石	WCS	8.8	7.2	5.3	553 花崗岩、1面使用
695	砾石	WCS	10.6	4.7	3.6	316 砂岩、2面使用
696	砾石	WCS	11.4	9.8	5.1	879 安山岩、2面使用
697	砾石	E+&L C	12.1	6.9	4.4	579 安山岩、2面使用

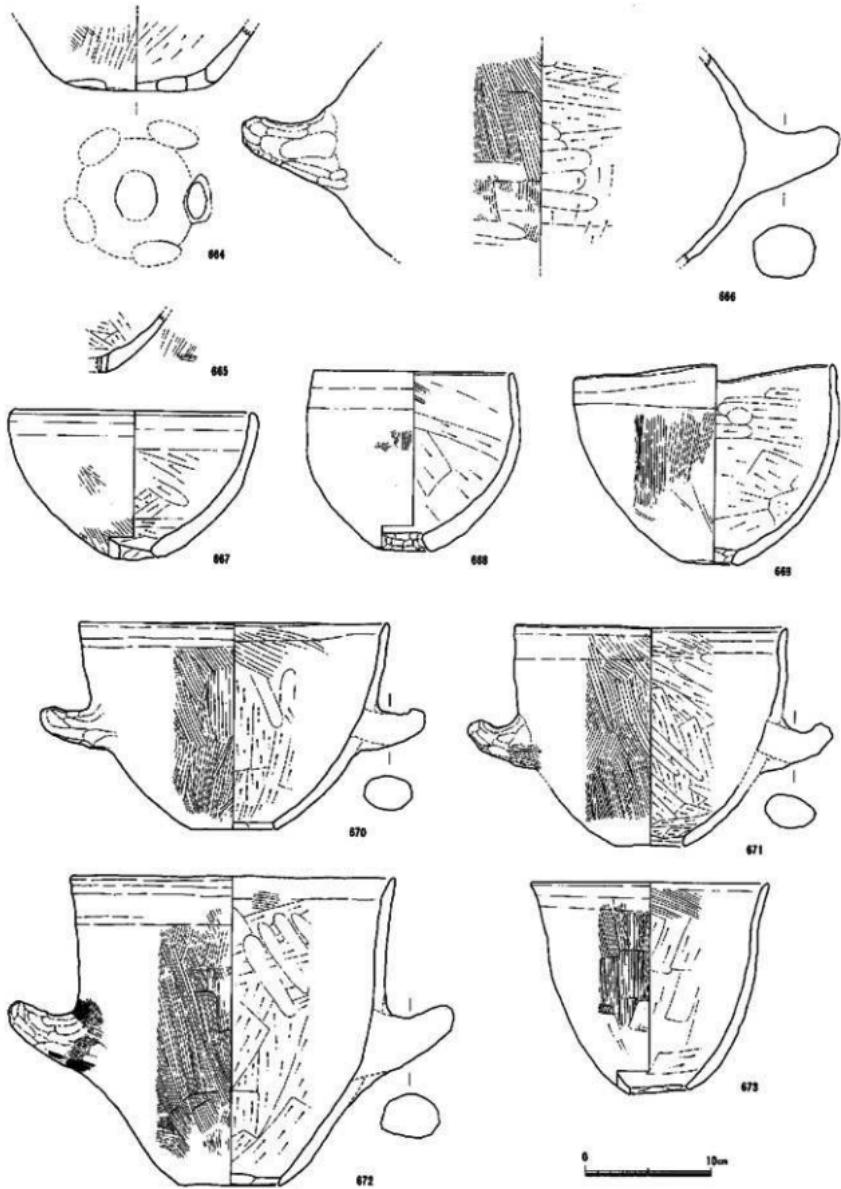


Fig.113 SD14出土遺物実測図 19 (1/4)



Fig.114 SD14出土遺物実測図 20 (1/4)

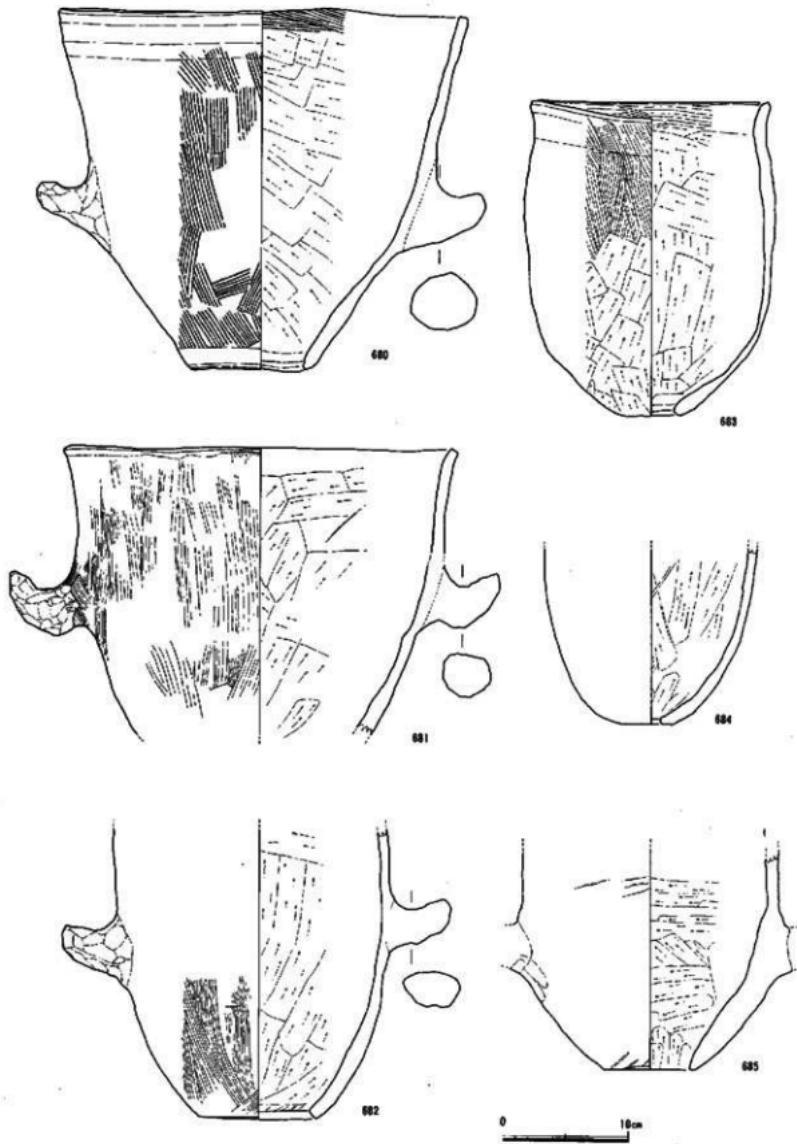


Fig.115 SD14出土遺物実測図 21 (1/4)

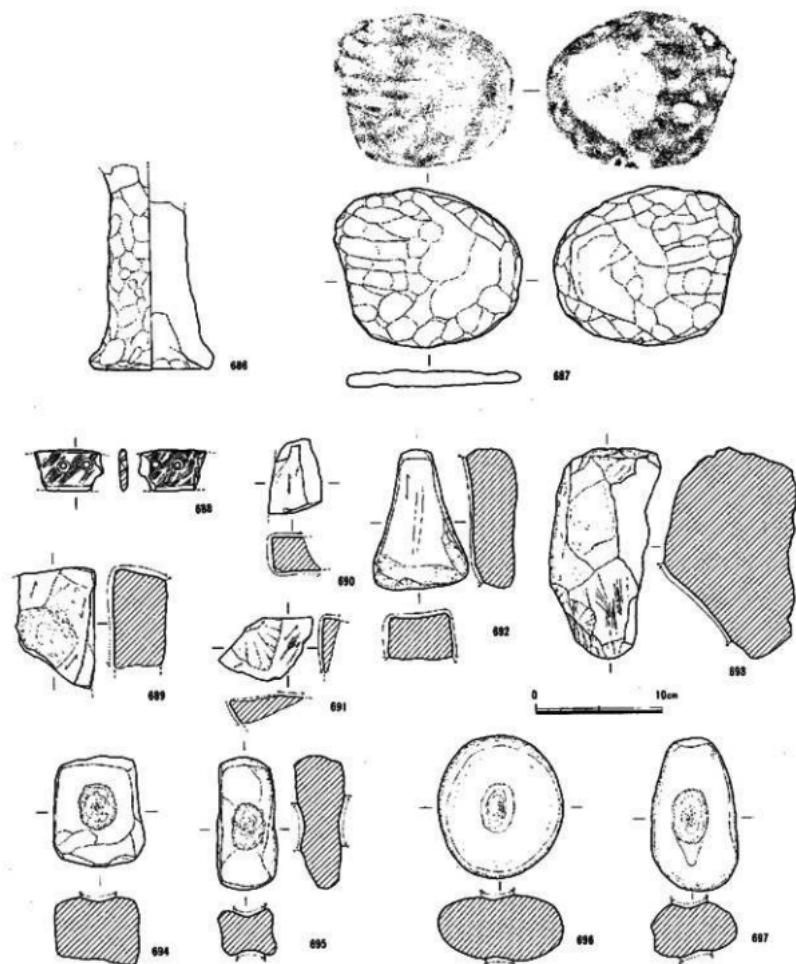


Fig.116 SD14出土遺物実測図 22 (1/4)

SD29 (Fig. 117・118、Tab. 34)

調査区南西寄りで検出した南北方向の溝で、両端は東に折れる。SC30・SC22に切られる。北側は擾乱を受ける。幅0.5~0.8m、深さ5cm、長さ12m。

出土遺物をFig. 118とTab. 34に示す。

SD47 (Fig. 117)

調査区中央部から西寄りにかけて位置する。幅1~2.5m、深さ20cm、20m分確認した。南側は確認面を下げすぎたため、消失してしまった。北側は屈曲する。SC42に切られる。

SD48 (Fig. 117)

調査区中央部東寄りに位置する。SD10・SX12に切られる。幅0.4~0.7m、深さ20cm、長さ8m分確認した。

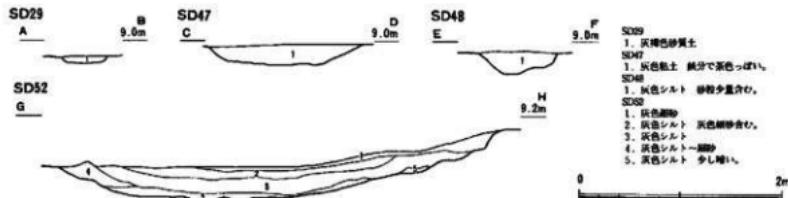


Fig.117 SD29・47・48・52土層図 (1/50)

SD52 (Fig.117・118、Tab.34)

調査区南寄りに位置する。シルト中より遺物が出土することから、Lトレーンチで土層を確認し、溝として調査した。幅4.4m、深さ70cm。長さは\* mを確認した。花粉分析・珪藻分析をおこなっている(186ページ～)。

出土遺物をFig.118とTab.34に示す。古式土師器の甕が出土した。

3面の遺構としてはもっとも古い古墳時代前期にさかのぼる。

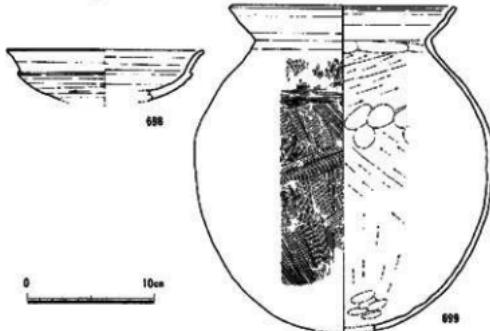


Fig.118 SD29・52出土遺物実測図 (1/4)

Tab.34 SD29・52出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法量 (m)			内面/外面	色調 内面/外面	焼成	備考
			上位	中位	下位				
698	須恵器・輪島高床	SD29 (15.8)	—	—	[4.0]	凹輪ナギ/凹輪ナギ、凹輪ヘラケズリ	淡灰色	良好	
699	土師器・甕	SD52 (18.0) (23.6)	—	[25.7]		須恵ナギ、輪島ケズリ/滑特人、底部指 跡え/ハケ	黄褐色~黄灰色	やや良好	

SK23 (Fig.119-120、Tab.35)

調査区南西寄りに位置する  
浅い円形十坑である。底面は  
平坦。SC24・26を切り、SC  
20に切られる。径1.9m、深さ  
10cm。

出土遺物をFig.120とTab  
.35に示す。

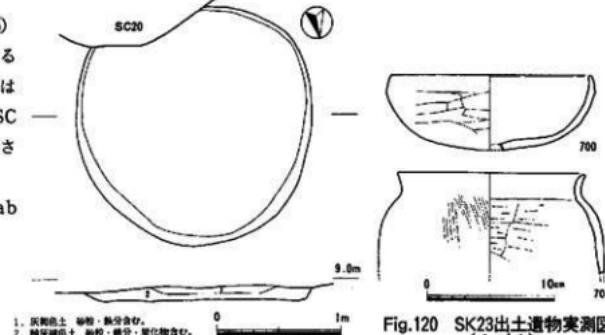


Fig.119 SK23実測図 (1/40)

Tab.35 SK23出土遺物観察表

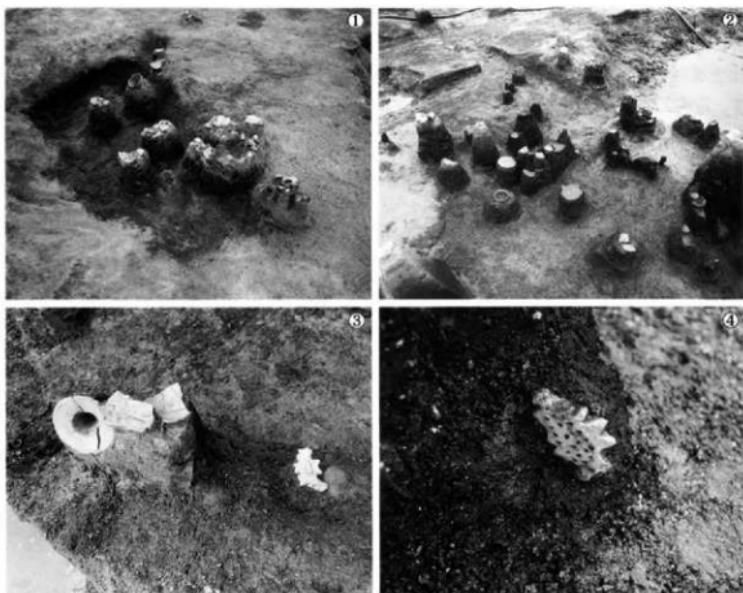
番号	種類	出土位置	法量 (m)			内面/外面	色調 内面/外面	焼成	備考
			上位	中位	下位				
700	土師器・甕	SK23 (15.8)	—	—	6.0	厚底/ケズリ	淡褐色	やや不良	
701	土師器・甕	SK23 14.7	—	—	[8.0]	ケズリ/ハケ	赤褐色~暗褐色	やや良好	

SX15 (Fig.121~129, Ph.99~102, Tab.36)

調査区中央部から西へ調査区外へ伸びる崖地である。土層確認のためのBトレンチで遺物を確認し、3面の発見となったきっかけの遺構である。涌水があり、規模が大きいことから。西側へ開く谷頭になろうか。SC41・49を切っていると思い掘り下げたが、土層の観察から切り合いが逆であったようである。

出土遺物は多かったが、トレンチ調査のつもりで取り上げてしまい、出土位置を実測せずに取り上げたものが多い。実際はFig.121で示した以外に調査区西壁際から多くの土器が出土している。

出土遺物をFig.123~129とTab.36に示す。771の大形器台はSC33・41・42・46・SD14から出土の破片と接合している。821は大形の土師器の高杯である。脚部下部を欠損しており、器高は更に高い。坏部と脚部は直接には接合しなかった。SD14東ベルト出土破片と接合している。このほか滑石製子持勾玉3点、臼玉2点、有孔円盤2点、ミニチュア土器11点など祭祀品が多く出土している。子持勾玉は928と930の2点については出土状況が記録できた(Ph.101・102)。



Ph.99~102 SX15遺物出土状況①~④



Fig.121 SX15実測図 1 (1/100)

九数字は遺物名・状況等( p.99~102 )撮影方向

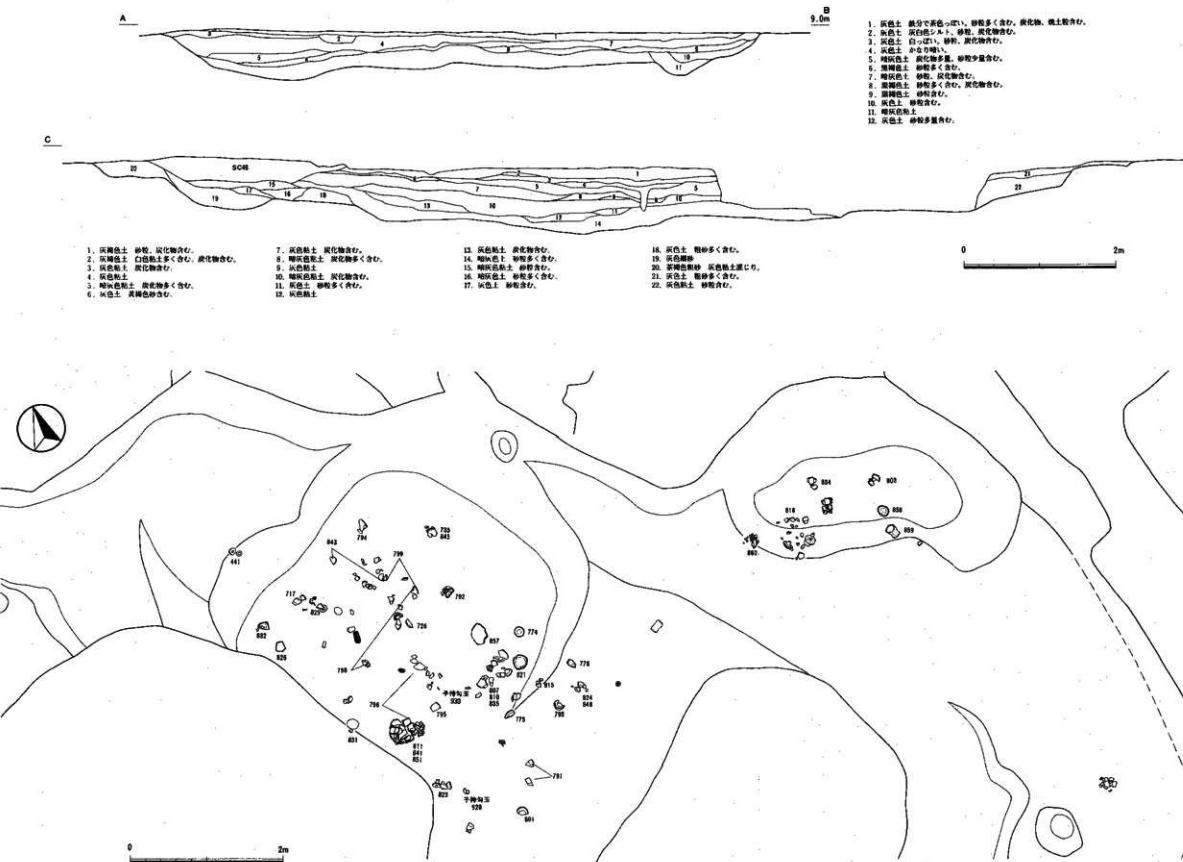


Fig.122 SX15土層図・実測図 2 (1/50)

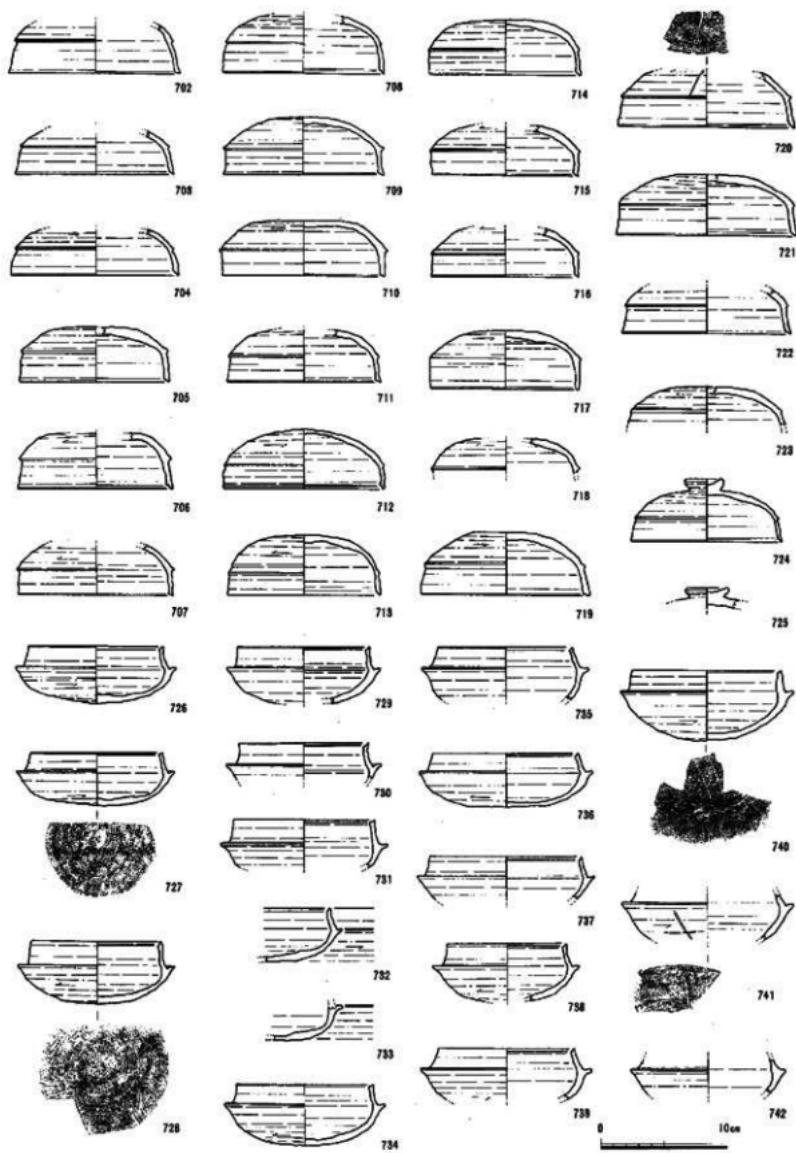


Fig.123 SX15出土遺物実測図 1 (1/4)

Tab.36 SX15出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法長 (cm)			縦 内面/外面	色 色調	地成	備考
			口径	脚径	底径				
782	須恵器・环蓋	SX15 (13.4)	-	-	[3.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰/黒灰	良好	I-3
783	須恵器・环蓋	SX15 (12.4)	-	-	[3.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/灰	良好	I-1~5
784	須恵器・环蓋	SX15 (13.2)	-	-	[3.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	良好	I-3~I-2
785	須恵器・环蓋	SX15 (11.8)	-	-	[4.3]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰/灰灰~黒	良好	I-4~I-5
786	須恵器・环蓋	SX15 (12.1)	-	-	[4.4]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	黒灰/灰~黒灰	良好	I-5~(II-5)
787	須恵器・环蓋	SX15 (12.1)	-	-	[4.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	黒灰	良好	I-4
788	須恵器・环蓋	SX15 (12.8)	-	-	[4.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/暗灰	良好	I-3~II-2
789	須恵器・环蓋	SX15 (12.7)	-	-	[4.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/明灰	良好	I-3~I-4
790	須恵器・环蓋	SX15 (12.9)	-	-	[4.4]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	良好	I-4
791	須恵器・环蓋	SX15 (12.2)	-	-	[4.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	I-4~I-5
792	須恵器・环蓋	SX15 (12.8)	-	-	[4.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	黒灰/灰灰~黒	良好	I-4~I-5
793	須恵器・环蓋	SX15 (12.1)	-	-	[4.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/青灰	良好	I-3~II-2
794	須恵器・环蓋	SX15 (12.9)	-	-	[4.4]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/灰~黒灰	良好	I-5
795	須恵器・环蓋	SX15 (11.5)	-	-	[4.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰	良好	I-4
796	須恵器・环蓋	SX15 (11.7)	-	-	[3.9]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/灰	良好	I-3~II-1
797	須恵器・环蓋	SX15 (11.8)	-	-	[4.7]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	良好	I-3~I-4
798	須恵器・环蓋	SX15 (12.5)	-	-	[2.9]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/灰~黒灰	良好	I-4~I-5
799	須恵器・环蓋	SX15 (13.4)	-	-	[5.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡灰灰/灰	良好	I-1~II-2
800	須恵器・环蓋	SX15 (14.1)	-	-	[4.4]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/明青灰	良好	↑2記号、II-1~II-2
801	須恵器・环蓋	SX15 (14.4)	-	-	[4.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰~暗灰	良好	I-1~(II-2)
802	須恵器・环蓋	SX15 (13.4)	-	-	[3.7]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	明青灰	良好	I-1~II-2
803	須恵器・环蓋	SX15 -	-	-	[3.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/灰~黒灰	良好	I-4
804	須恵器・高環	SX15 (12.0)	-	-	[5.6]	回転ナゲ/百段ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/灰	良好	I-4
805	須恵器・高環	SX15 -	-	-	[1.7]	回転ナゲ/百段ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	良好	(I-4)~I-5
806	須恵器・环身	SX15 (10.7)	-	-	[4.6]	回転ナゲ/百段ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/灰	良好	I-1~(II-1)、2記号
807	須恵器・环身	SX15 (10.4)	-	-	[4.3]	回転ナゲ/百段ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	I-1~II-2
808	須恵器・环身	SX15 (10.2)	-	-	[4.9]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	I-1~5
809	須恵器・环身	SX15 (10.5)	-	-	[4.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/黒灰	良好	I-4~I-5
810	須恵器・环身	SX15 (10.3)	-	-	[3.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰	良好	I-3~I-4
811	須恵器・环身	SX15 (11.2)	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	I-3
812	須恵器・环身	SX15 -	-	-	[4.3]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/青灰~暗灰	良好	I-4~(II-2)
813	須恵器・环身	SX15 -	-	-	[2.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡灰灰/青灰~淡灰	良好	I-4
814	須恵器・环身	SX15 (10.9)	-	-	[4.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡灰灰/青灰~暗灰	良好	I-4
815	須恵器・环身	SX15 (10.7)	-	-	[4.2]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	良好	I-4~I-5
816	須恵器・环身	SX15 (11.4)	-	-	[4.3]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰灰/暗灰	良好	I-4~I-5
817	須恵器・环身	SX15 (12.8)	-	-	[3.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	I-5
818	須恵器・环身	SX15 (9.5)	-	-	[4.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/灰~暗灰	良好	I-4~I-5
819	須恵器・环身	SX15 (10.8)	-	-	[4.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰/灰~暗灰	良好	I-4~I-5
820	須恵器・环身	SX15 (11.9)	-	-	[5.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	城灰	不良	I-4~I-5~2記号
821	須恵器・环身	SX15 -	-	-	[3.7]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	良好	2記号
822	須恵器・环身	SX15 -	-	-	[2.9]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰/暗灰	良好	I-4
823	須恵器・高蓋高环	SX15 (17.0)	-	-	[9.1]	回転ナゲ/環部飾物ナゲ、波状文、回転ナゲ	灰	良好	4万透かし、I-3
824	須恵器・無蓋高环	SX15 (14.5)	-	-	[4.9]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文、回転ナゲ	灰	良好	I-3
825	須恵器・無蓋高环	SX15 (13.9)	-	-	[4.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文、回転ナゲ	灰/灰	良好	I-3
826	須恵器・無蓋高环	SX15 (18.0)	-	-	[3.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰/オーリーブ~灰	良好	(I-3)~I-4
827	須恵器・無蓋高环	SX15 (18.0)	-	-	[4.3]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	暗灰/暗灰	良好	I-3
828	須恵器・無蓋高环	SX15 -	-	-	[3.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰/暗灰	良好	I-3
829	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[13.3]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~暗灰	良好	I-3
830	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[3.3]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~暗灰	良好	3万透かし
831	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[8.8]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-5
832	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[9.6]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~暗灰	良好	I-5
833	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.2]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~暗灰	良好	I-4~I-5
834	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[9.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	黄灰	良好	I-4~I-5
835	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[4.0]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰灰/暗灰	良好	I-4~I-5
836	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[9.0]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰灰/灰~灰	良好	4万透かし、I-4~I-5
837	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[9.0]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~暗灰	良好	I-4~I-5
838	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[9.9]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~灰灰	良好	4万透かし、I-4~I-5
839	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[10.2]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-4~I-5
840	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[10.2]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文、体上 タテナギ	青灰/暗灰	良好	I-5
841	須恵器・高环	SX15 (18.0)	-	-	[3.2]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰/オーリーブ~灰	良好	(I-3)~I-4
842	須恵器・高环	SX15 (18.0)	-	-	[4.3]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	暗灰/暗灰	良好	I-3
843	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[3.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰/暗灰	良好	I-3
844	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰~暗灰	良好	I-3
845	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰~暗灰	良好	I-3
846	須恵器・高环	SX15 (18.0)	-	-	[6.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文、下部 タテナギ	灰	良好	I-3
847	須恵器・高环	SX15 (18.0)	-	-	[8.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰/オーリーブ~灰	良好	(I-3)~I-4
848	須恵器・高环	SX15 (18.0)	-	-	[4.8]	回転ナゲ/回転ナゲ	青灰/暗灰	良好	I-3
849	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[1.7]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰/灰白~灰	良好	I-3
850	須恵器・高环	SX15 (12.0)	-	-	[2.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	明灰	良好	I-3
851	須恵器・高环	SX15 (18.0)	-	-	[3.3]	回転ナゲ/回転ナゲ	黒灰	良好	I-3
852	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	明灰	良好	I-3
853	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
854	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
855	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
856	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
857	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
858	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
859	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
860	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
861	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	I-3
862	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[4.3]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	灰~暗灰	良好	I-3~II-2
863	須恵器・高环	SX15 -	-	-	[18.3]	回転ナゲ/上部回転ナゲ	灰~暗灰	良好	I-3
864	須恵器・金	SX15 (16.3)	-	-	[8.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰/暗灰	良好	I-3
865	須恵器・金	SX15 (18.0)	-	-	[4.8]	回転ナゲ/回転ナゲ	青灰/暗灰	良好	I-3
866	須恵器・金	SX15 -	-	-	[1.7]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰/灰白~灰	良好	I-3
867	須恵器・金	SX15 (12.0)	-	-	[2.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	明灰	良好	I-3
868	須恵器・金	SX15 (18.0)	-	-	[3.3]	回転ナゲ/回転ナゲ	黒灰	良好	I-3
869	須恵器・金	SX15 -	-	-	[5.4]	回転ナゲ/回転ナゲ	明灰	良好	I-3
870	須恵器・金	SX15 -	-	-	[21.0]	螺旋回転ナゲ、螺旋当具・貝ナゲ/波 状文ナゲ	青灰~暗灰	良好	SD14と接合
871	須恵器・大型器物	SX15 (11.4)	-	-	[22.1] (27.9)	螺旋回転ナゲ、螺旋当具・貝ナゲ/波 状文ナゲ	灰/暗灰	良好	1段4万透かし SC3A14,42,46, SD14と 接合・同一器物、(1-3~-I-4

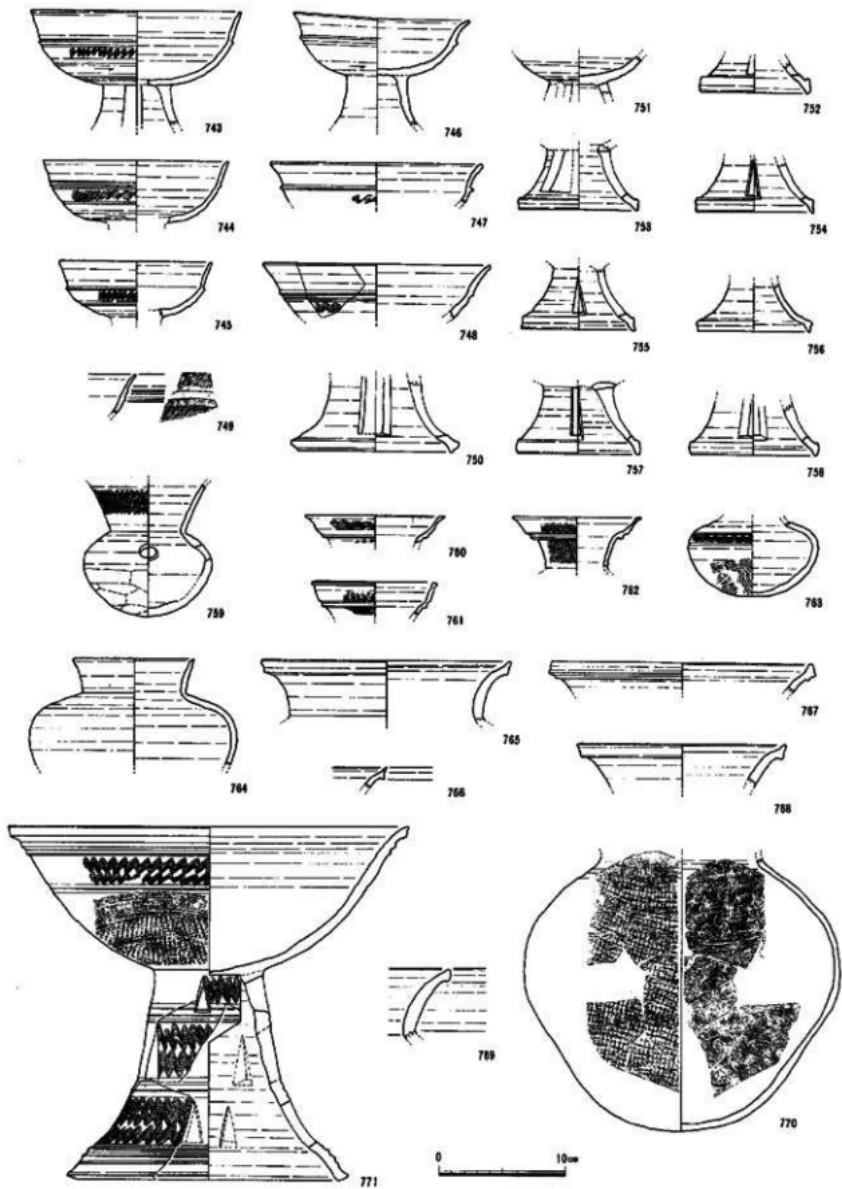


Fig.124 SX15出土遺物実測図 2 (1/4)

番号	種類	出土場所	法 直 (cm)				裏面/外面	色/質 内面/外面	地 収	備 考	
			口径	脚径	底径	高さ					
772	土師器・瓶	SX15	(10.2)	-	-	5.5	ナデ、指揮え／下部ハケ・ナデ、 下部ケズリ・ナデ	淡青灰～淡灰 青灰	良好		
773	土師器・瓶	SX15	(11.2)	-	-	5.9	ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	黄褐色	やや不良		
774	土師器・瓶	SX15	12.6	-	-	6.4	ナデ／上部・カネ・ナデ、下部ケズリ	淡灰	良好		
775	土師器・瓶	SX15	14.3	-	-	5.7	ナデ・ケズリ・ナデ	褐色～暗褐色	良好		
776	土師器・瓶	SX15	(14.2)	-	-	6.3	ナデ／スリ（ハマ？）、ナデ	淡	良好		
777	土師器・瓶	SX15	(14.4)	-	-	[5.9]	ナデ／ハマ・ナデ	茶褐色	良好		
778	土師器・瓶	SX15	(12.8)	-	-	[5.8]	ナデ／上部・カネ・下部ケズリ・ナデ	淡灰	良好		
779	土師器・瓶	SX15	(13.3)	-	-	[5.6]	ナデ／上部・カネ、下部ケズリ	墨	良好		
780	土師器・瓶	SX15	(14.1)	-	-	[5.2]	ナデ・ケズリ	淡灰	良好		
781	土師器・瓶	SX15	(14.5)	-	-	5.8	ナデ・ケズリ・ナデ	淡灰	良好		
782	土師器・瓶	SX15	(13.0)	-	-	[4.6]	ナデ・脚	淡灰	良好		
783	土師器・瓶	SX15	13.5	-	-	[4.5]	ナデ／軸ナデ	褐色～墨褐	良好		
784	土師器・瓶	SX15	(13.1)	-	-	4.9	ナデ／上部ケズリ・ナデ、下部板ナデ	明褐色	良好		
785	土師器・瓶	SX15	(12.0)	-	-	[4.7]	ナデ／ハマ	灰褐～淡灰	良好		
786	土師器・瓶	SX15	14.0	-	-	6.2	ナデ・ケズリ・ナデ	淡灰	良好		
787	土師器・瓶	SX15	(15.3)	-	-	[4.4]	ミガキ／口縁部とマヨ、体部ケズリ	淡灰	良好		
788	土師器・瓶	SX15	(14.0)	-	-	4.7	ナデ・ケズリ	淡灰	良好		
789	土師器・瓶	SX15	(13.2)	-	-	5.2	ナデ・ケズリ	淡灰	良好		
790	土師器・瓶	SX15	12.4	-	-	[4.8]	板ナデ・ケズリ	灰褐色～淡灰	中や不良		
791	土師器・瓶	SX15	(13.8)	-	-	5.2	ナデ／上部ナデ、下部ケズリ	褐色～淡褐色	良好		
792	土師器・瓶	SX15	(14.5)	-	-	[5.2]	ナデ／ハマ・ナデ	明褐色	良好		
793	土師器・瓶	SX15	13.5	-	-	5.8	ハマ・ナデ・ハケ	淡灰～浅黄褐色	良好		
794	土師器・瓶	SX15	(13.7)	-	-	5.5	ナデ・ナデ、ケズリ	淡灰～淡褐色	良好		
795	土師器・瓶	SX15	12.6	-	-	6.5	ナデ／板ナデ・ケズリ	褐色～暗褐色	良好		
796	土師器・瓶	SX15	13.5	-	-	5.7	ナデ・板ナデ・ケズリ	褐色～深褐色	良好		
797	土師器・瓶	SX15	13.5	-	-	7.3	ナデ・ケズリ	微灰	良好		
798	土師器・瓶	SX15	(13.4)	-	-	6.2	ナデ・ケズリ・底部・ハケ	淡灰	良好		
799	土師器・瓶	SX15	(13.4)	-	-	6.4	板ナデ・ケズリ・ナデ	淡灰	良好		
800	土師器・瓶	SX15	(14.0)	-	-	5.8	ナデ・ハマ・ナデ	淡灰～淡灰	良好		
801	土師器・瓶	SX15	14.2	-	-	5.9	ナデ・ケズリ・ナデ、底部・ハケ	淡灰	良好		
802	土師器・瓶	SX15	15.2	-	-	7.0	ナデ・ケズリ	淡青灰	良好		
803	土師器・瓶	SX15	(14.2)	-	-	6.1	板ナデ？？・ナリ、底部ナデ	淡褐色	良好		
804	土師器・瓶	SX15	(14.5)	-	-	6.0	ナデ・脚	淡灰～淡褐色	中や不良		
805	土師器・瓶	SX15	(14.0)	-	-	[5.7]	ナデ・ケズリ	黑褐色～深褐色	良好		
806	土師器・瓶	SX15	(13.2)	-	-	6.7	ナデ・ケズリ・ナリ、底部ハケ	淡褐色	良好		
807	土師器・瓶	SX15	(14.6)	-	-	5.5	ナデ・ケズリ	褐色	良好		
808	土師器・瓶	SX15	(12.2)	-	-	[4.7]	ナデ・ケズリ・ナリ	脚	良好		
809	土師器・瓶	SX15	13.1	-	-	6.1	脚捏え・ナデ・ハマ・ナリ、底部板ナデ	淡褐色～黄褐色	良好		
810	土師器・瓶	SX15	(14.4)	-	-	4.9	ナデ・ケズリ	淡褐色～明赤褐	良好		
811	土師器・瓶	SX15	14.6	-	-	5.2	ナデ・板ナデ・ケズリ、指揮え、 底部ケズリ	褐色～褐灰～茶褐	良好		
812	土師器・瓶	SX15	(9.8)	-	-	[4.2]	ナデ・板ナデ・ケズリ	褐灰～明褐色～褐灰	良好		
813	土師器・瓶	SX15	(16.1)	-	-	[5.7]	ケズリ・板ナデ・ケズリ	褐灰			
814	土師器・瓶	SX15	(12.5)	-	-	5.2	ナデ・ハマ・ナリ、底部ケズリ	褐灰～褐褐	中や不良	外底全面剥離	
815	土師器・高环	SX15	-	-	-	11.4	[5.3]	上部ナデ・下部ケズリ・ナナ	像・黄灰	良好	
816	土師器・高环	SX15	-	-	-	[11.0]	[1.0]	ケズリ・ナ・ナ、底部ケズリ	像・浅黄	良好	
817	土師器・高环	SX15	-	-	-	8.6	[3.4]	环形ナデ・底部ケズリ・ナナ	浅褐色～褐灰	中や不良	
818	土師器・高环	SX15	-	-	-	8.9	[5.1]	环形ナデ・上部・底部ケズリ・下部ハケ／ ナ	像	良好	
819	土師器・高环	SX15	-	-	-	19.5	[4.1]	ナデ・スリ／上部ナデ、 下部・ガタ？？	浅褐色～褐灰～褐灰	良好	
820	土師器・高环	SX15	19.2	-	-	[5.9]	ナデ・ナデ	褐灰	良好		
821	土師器・大形凸环	SX15	(20.9)	-	-	[25.8]	环形ハ・カ・ナ・ナ、上部・下部ケズリ・ 下部ナ・ハ・カ	淡褐色	SDME ベルト C+B ベルト	接合	
822	土師器・高环	SX15	17.3	-	-	11.1	12.4～ 12.9	环形ナ・ケ・底部ケズリ・环形ナ・ 底部ナ・ハ・カ	褐灰～褐灰	良好	
823	土師器・高环	SX15	(16.6)	-	-	11.1	12.7	环形ナ・ナ・底部ケズリ・环形ナ・ 底部ナ・ハ・カ	褐灰～淡褐色	良好	
824	土師器・高环	SX15	15.3	-	-	10.8	9.7～ 10.3	底部ナ・ナ・脚部・ハ・カ・ナ・ナ、 底部ナ・ハ・カ	褐灰	中や不良	
825	土師器・高环	SX15	(15.4)	-	-	10.7	10.3	底部ナ・ナ・脚部ケズリ・ナナ	褐灰～褐灰	良好	
826	土師器・高环	SX15	(14.7)	-	-	[9.3]	底部ナ・ナ・脚部ケズリ・环形ナ・ 底部ナ・ハ・カ	褐灰～褐灰	良好		
827	土師器・高环	SX15	14.2	-	-	9.9	10.0～ 10.5	底部ナ・ナ・脚部ケズリ・底部ナ・ 底部ナ・ハ・カ	褐灰	良好	
828	土師器・高环	SX15	15.1	-	-	[8.5]	底部ナ・ナ・脚部ケズリ・底部ナ・ 底部ナ・ハ・カ	明褐色～褐灰～褐灰	中や不良		
829	土師器・高环	SX15	(13.7)	-	-	10.2	[10.8]	ナデ・ハ・カ・ナ・ナ	浅褐色～褐灰	中や不良	
830	土師器・高环	SX15	(14.1)	-	-	[10.5]	[10.3]	底部・ガ・ナ・底部ケズリ・ナ・ナ・底部・ 底部・ガ・ナ・ハ・カ・ナ・ナ	浅褐色～褐灰	良好	
831	土師器・瓦片	SX15	(17.8)	(13.0)	-	13.3	ナデ・ガ・ナ・ナ・ナ・ナ	淡褐色～黄褐色	良好		
832	土師器・瓦片	SX15	-	(17.0)	-	[10.0]	ナデ・ナ・ナ	淡褐色～淡褐色	良好		
833	土師器・瓦片	SX15	(11.9)	(13.0)	-	[10.3]	強烈ナ・ナ・脚部ケズリ・ナ・ナ・ 底部ナ・ハ・カ	淡褐色～褐灰	良好		
834	土師器・瓦片	SX15	(11.8)	(12.0)	-	10.4	口縁部ナ・ハ・カ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ 脚部ノ・口縁部ノ・ハ・カ・ナ・ナ・ナ・ナ・ 口縁部ノ・カ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ	淡褐色～黄褐色	良好		
835	土師器・瓦片	SX15	(13.0)	(16.1)	-	[11.6]	底部ナ・ハ・カ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ	淡褐色	良好		
836	土師器・瓦片	SX15	(16.1)	(19.4)	-	[12.8]	底部ナ・ハ・カ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ	灰	不良		
837	土師器・小箱	SX15	(6.1)	(8.2)	-	[6.5]	口縁部ハ・カ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ	淡褐色～灰	良好		
838	土師器・小箱	SX15	(6.9)	-	-	3.5	4.2	ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ	褐灰～褐褐色～黄褐色	良好	
839	土師器・小箱	SX15	(5.1)	-	-	[6.4]	脚部ナ・ナ・脚部ナ・ナ・ナ・ナ・ナ	淡褐色～褐褐色	良好		
840	土師器・小箱	SX15	(8.4)	-	-	[10.7]	ケズリ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ・ナ	褐灰～褐灰～黑褐色	良好		
841	土師器・小箱	SX15	18.4	(27.0)	-	[22.6]	ケズリ・ハ・カ	褐灰～黑褐色	良好	沈文、布留	

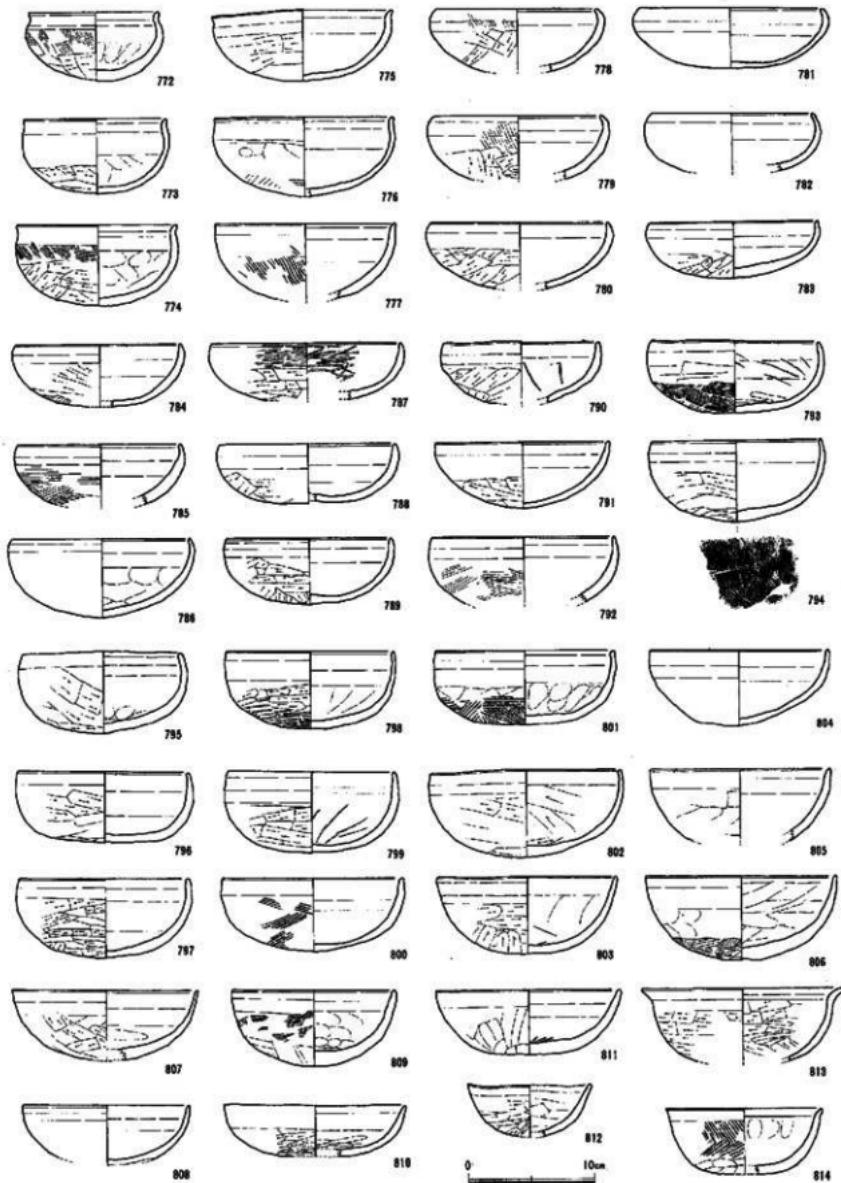


Fig.125 SX15出土遺物実測図 3 (1/4)

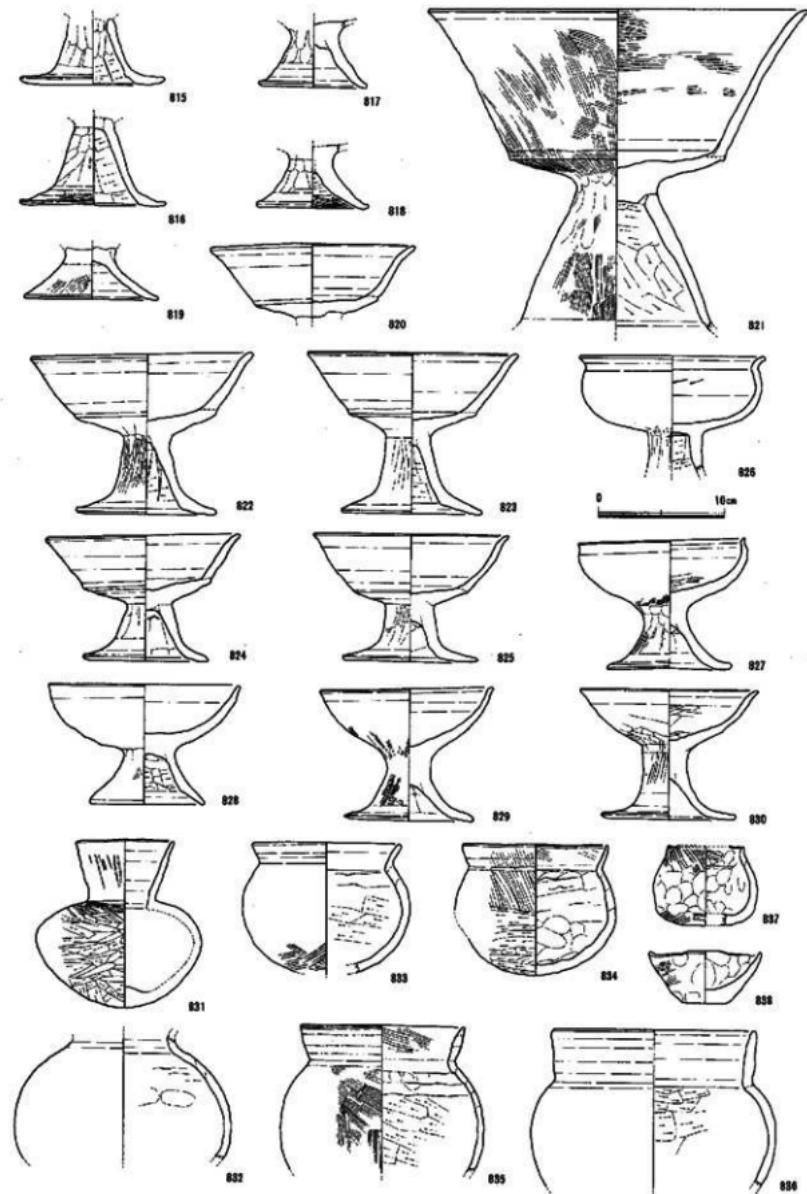


Fig.126 SX15出土遺物実測図 4 (1/4)

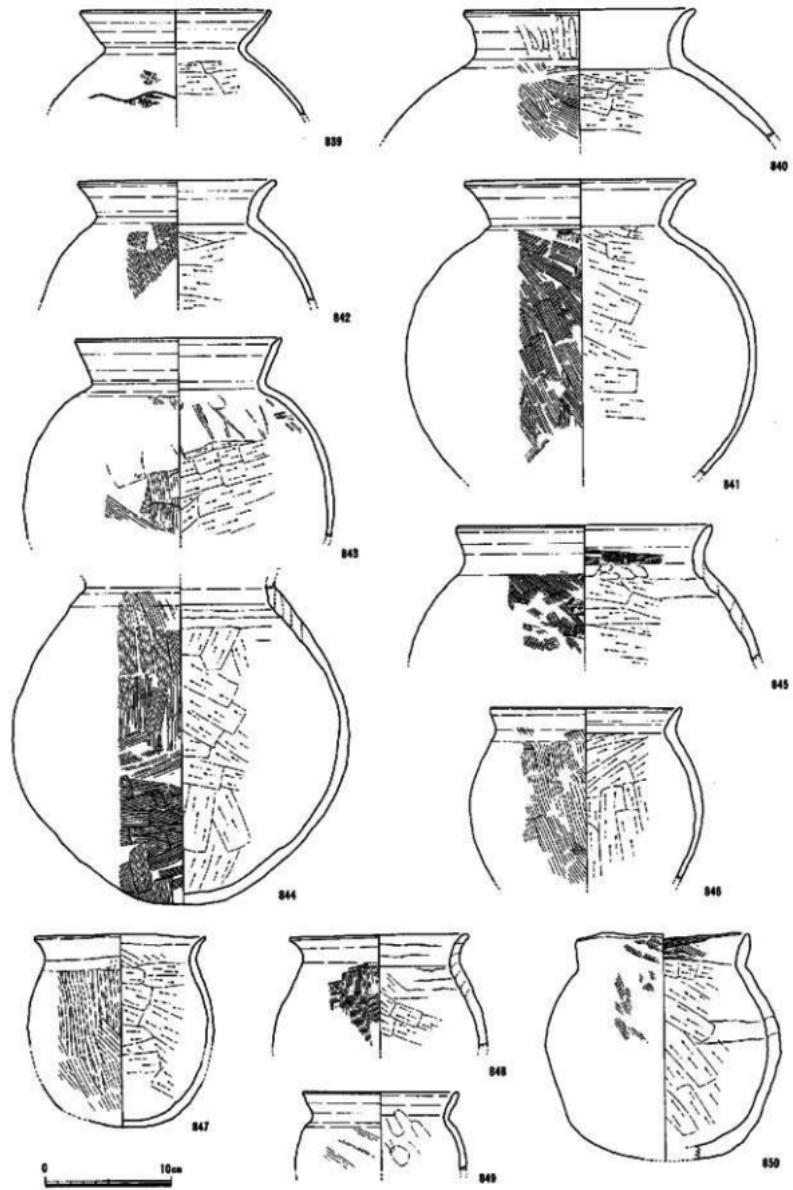


Fig.127 SX15出土遺物実測図 5 (1/4)

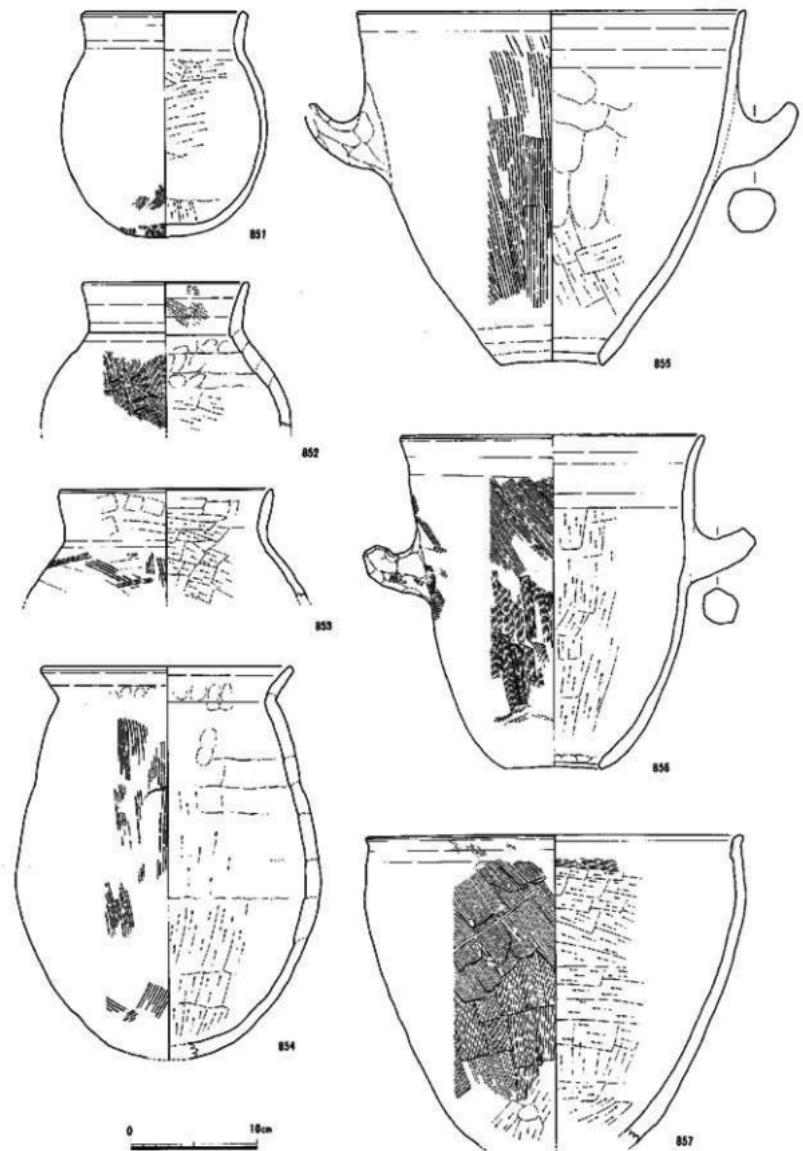


Fig.128 SX15出土遺物実測図 6 (1/4)

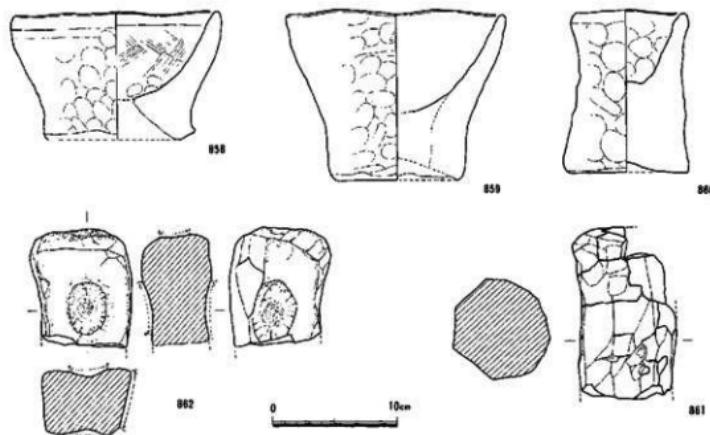


Fig. 129 SX15出土遺物実測図 7 (1/4)

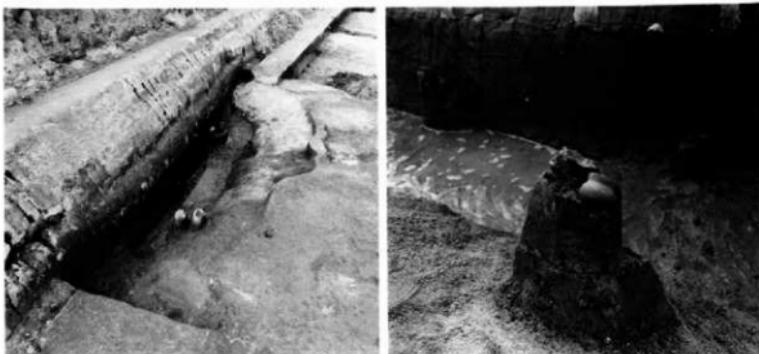
番号	種類	出土位置	法量 (cm)			質	色	調査	備考
			口径	口幅	底径				
842	土師器・甕	SX15	15.8	-	-	[9.6]	頭部ナメ、四脚ケズリ/ハケ 頭部ナメ、肩部ナメ、腹部ケズリ/ハケ、 ナメ	褐灰～褐灰～黒褐色	良好
843	土加器・甕	SX15	(16.4)	(24.5)	-	[15.8]	頭部ナメ、肩部ナメ、腹部ケズリ/ハケ、 ナメ	褐灰	良好
844	土師器・甕	SX15	-	[26.5]	-	[25.5]	頭部ナメ、四脚ケズリ/ハケ 頭部ナメ、四脚ケズリ/ハケ、 ナメ	褐灰～褐灰～茶褐色	良好
845	土師器・甕	SX15	(26.3)	-	-	[11.0]	口縁部ハケ、四脚ケズリ、頭部ケズリ/ ハケ	褐褐色～褐灰	良好
846	土師器・甕	SX15	(16.2)	(18.5)	-	[12.8]	ケズリ/ハケ	黄褐色	やや良好
847	土師器・甕	SX15	(13.5)	(14.6)	-	15.2	口縁部ハケ、頭部ナメ、腹部ケズリ/ハ ケ、頭部ナメ	黄褐色～黄褐色	良好
848	土師器・甕	SX15	14.2	(17.0)	-	[9.1]	頭部ナメ・捺押え、腹部ケズリ/ハケ	淡青褐色～茶褐色	良好
849	土師器・甕	SX15	(12.3)	(13.6)	-	[6.5]	ナメ/ナメ、後部ナメ	黑灰/暗灰	良好
850	土師器・甕	SX15	13.8	18.7	-	[18.0]	口縁部ハケ、腹部ケズリ/ハケ	褐灰～黒褐色/褐灰	良好
851	土師器・甕	SX15	(13.1)	(16.2)	-	17.9	ケズリ/ハケ	灰褐色～黑褐色～茶褐色	良好
852	土師器・甕	SX15	(13.2)	(19.8)	-	[12.7]	口縁部ハケ、頭部ナメ・捺押え、腹部ケ ズリ/ハケ	淡褐色灰～黑褐色	良好
853	土師器・甕	SX15	16.8	-	-	[8.7]	口縁板ナメ、頭部ケズリ/口縁板ナメ、 腹部ケズリ・秋ナメ	灰/淡褐色灰～黒褐色	良好
854	土師器・甕	SX15	(19.9)	(24.0)	-	[31.0]	頭部ナメ・捺押え、斜上ナメ、下部窓ケ ズリ/口縁板ナメ・秋ナメ、腹部ケズリ/ハ ケ	淡灰褐色～黑褐色	良好
855	土師器・甕	SX15	(36.6)	-	(8.0)	27.9	頭部ナメ・捺押え、斜上ナメ、腹部ケズリ/ハ ケ	淡褐色灰～黑褐色	單孔
856	土師器・甕	SX15	(24.0)	-	(7.5)	26.3	ケズリ、腹部ナメ・捺押え/ハケ、底部 ナメ	淡褐色灰～黑褐色/明褐色	單孔
857	土師器・甕	SX15	(29.8)	-	-	[24.5]	頭部ナメ・捺押えケズリ/ハケ、底部ケズ リ	黄褐色	良好
858	土製文鏡?	SX15	16.5	-	(10.0)	10.3	板ナメ、底部捺押え/ナメ、捺押え	褐褐色～黄褐色	やや良好
859	土製文鏡?	SX15	(17.5)	-	(9.7)	[13.7]	ナメ/ナメ、捺押え	褐褐色～黑褐色	やや良好
860	土製文鏡?	SX15	(8.5)	-	9.4	12.0	ナメ、捺押え/ナメ、捺押え	灰褐色～黄褐色	やや良好
861	土製文鏡?	SX15	8.0	-	[13.8]	上部捺押え、下部ケズリ	灰褐色	やや不良	

番号	種類	出土位置	法量 (cm x g)			備考
			長	幅	厚	
862	田石	SX15	[9.6]	8.3	5.4	622 秘書、3面敲石として使用、敲石の軽用か(1面敲石)?

SX53 (Fig. 130・131, Ph. 103・104, Tab. 37)

調査区北寄りに位置し、東側は調査区外へ伸びる。一部しか調査していないため詳しく述べてはわからぬが、SX15と同様な造構になろうか。規模は確認した部分で幅9m、深さ1mである。4層の青緑色粘土を含んだ薄い層はSD14でも観察されている。

出土遺物をFig. 130とTab. 37に示す。



Ph.103 SX53 (南から)

Ph.104 SX53遺物出土状況 (東から)

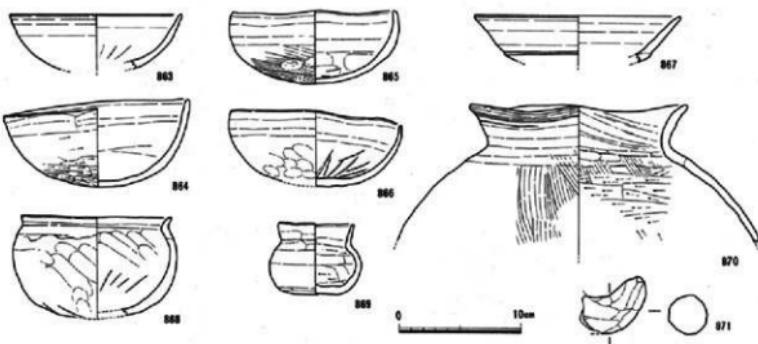
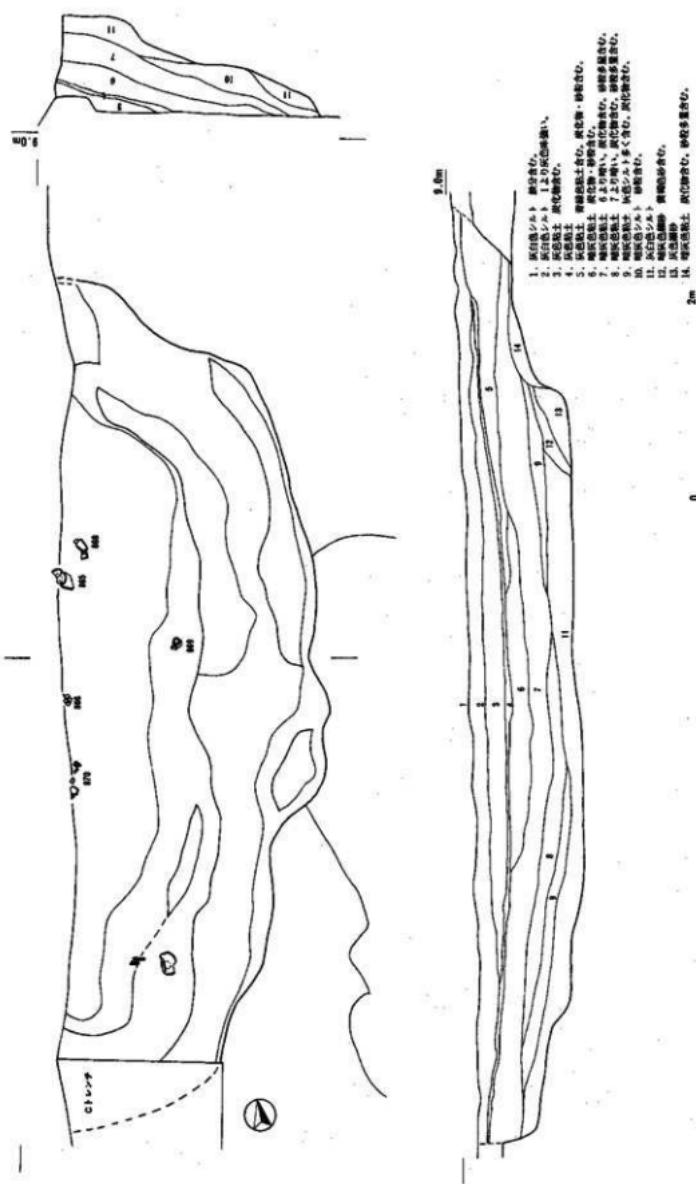


Fig.130 SX53出土遺物実測図 (1/4)

Tab.37 SX53出土遺物観察表

番号	種類	出土層	法量 (cm)			厚 細	色 内面/外面	使 用	備 考
			口径	胴径	底径				
863	土師器・筒	SX53	(14.0)	—	—	[4.5]	ナデ、底膨板ナゲ/ケズリ、ナデ 底膨板ナゲ/底接灰色	直好	
864	土師器・筒	SX53	15.1	—	—	7.3	ナデ、板ナデ/上部ナデ、下部ケズリ 黄褐色~黒褐色	やや直好	
865	土師器・筒	SX53	13.3	—	—	6.1	ナデ、板ナデ/ノケ、指押え 褐~黃褐色	直好	
866	土師器・筒	SX53	14.9	—	—	6.2	ナデ、板ナデ/ナデ、指押え 黄褐色~灰褐色	やや直好	
867	土師器・高平	SX53	(16.9)	—	—	[3.4]	ナデ/ナデ	明褐色	不良
868	土師器・鉢	SX53	12.1	—	—	[8.4]	ナデ、板ナデ/ケズリ?、ナデ 板~黃褐色	直好	
869	土師器・小盤	SX53	6.1	—	—	5.9	頂部ナデ、脚部ケズリ、底部ナデ/上部 ナデ、下部ケズリ/ナデ	褐~赤褐色	直好
870	土師器・盤	SX53	(17.0)	—	—	[11.3]	底部ハケ・ナデ、脚部ケズリ/ハケ 黄褐色~褐灰色	やや直好	
871	土師器・瓶手	SX53	—	—	—	—	ナデ 褐灰色	直好	



その他の出土遺物 (Fig.132~136、Tab.38~41)

最後にA-1区3面で出土したミニチュア土器と滑石製品、木器とA-1区遺構外出土遺物をまとめて示す。

ミニチュア土器は住居から9点、SD14から6点、SX15から11点、その他2点の合計28点が出土している。全体の土器の出土量からみると相対的にSX15からの出土が豊富であることがわかる。器形はほとんどが楕円形であるが、皿形(876)、壺形(885)、器台形(898)もみられる。

土製小玉はSC30より1点出土した。

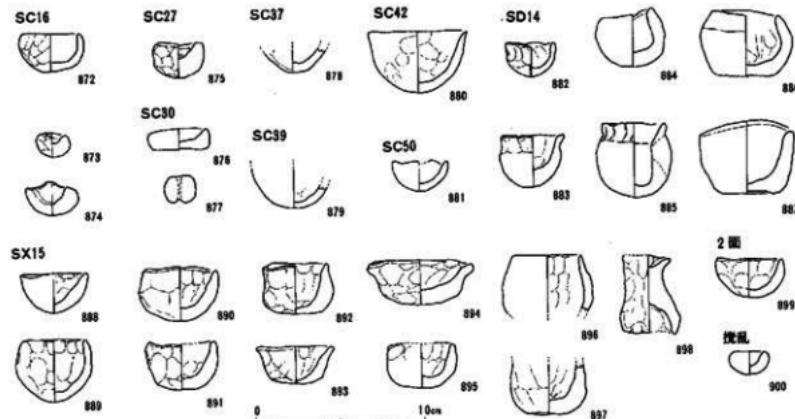


Fig.132 ミニチュア土器・土製小玉実測図 (1/2)

Tab.38 ミニチュア土器・土製小玉遺物観察表

番号	種類	出土地	法 線 (cm)				内面・外面	焼成	備考
			径 (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	底深 (mm)			
872	ミニチュア土器	SC16	3.2	-	-	2.1	手づくね	褐	良好
873	ミニチュア土器	SC25	1.5	-	-	1.4	手づくね	黄褐色～灰褐色	中や良好
874	ミニチュア土器	SC26	2.4	-	-	1.5~2.0	手づくね	灰褐色	良好
875	ミニチュア土器	SC27	2.2	-	-	2.2	手づくね	黄褐色	中や良好
876	ミニチュア土器	SC39	3.3	-	-	1.3	手づくね	褐	不良
877	土製小玉	SC38	±1.7	往1.5	-	[1.5]	手づくね	褐	やや不良
878	ミニチュア土器	SC37	-	-	-	[2.3]	手づくね	褐	不良
879	ミニチュア土器	SC39	-	-	-	[2.3]	手づくね	褐	やや不良
880	ミニチュア土器	SC42	(3.8)	-	-	3.5	手づくね	褐～灰褐色	やや不良
881	ミニチュア土器	SC50	2.3	-	-	1.8	手づくね	褐	良好
882	ミニチュア土器	SD14	2.9	-	-	2.1	手づくね	黄褐色	中や良好
883	ミニチュア土器	SD14	3.7	-	-	3.1	手づくね	褐灰	良好
884	ミニチュア土器	SD14	2.8~2.1	-	-	3.4	手づくね	褐	やや不良
885	ミニチュア土器	SD14	(3.6)	-	-	4.4	手づくね	褐褐色	不良
886	ミニチュア土器	SD14	3.8	-	-	3.9	ナデ、板ナデ、指押え	褐	良好
887	ミニチュア土器	SD14	5.6	-	-	3.7~4.2	手づくね	灰褐色	不良
888	ミニチュア土器	SX15	(3.9)	-	-	[2.4]	手づくね	灰褐色	良好
889	ミニチュア土器	SX15	3.7	-	-	3.7	手づくね	褐灰	良好
890	ミニチュア土器	SX15	4.4	-	-	3.2	手づくね	褐灰褐色	やや不良
891	ミニチュア土器	SX15	4.6	-	-	2.9	手づくね	褐灰褐色	良好
892	ミニチュア土器	SX15	3.8	-	-	3.0	手づくね	褐灰褐色	良好
893	ミニチュア土器	SX15	(4.5)	-	-	3.0	手づくね	褐灰褐色	良好
894	ミニチュア土器	SX15	(6.3)	-	-	[2.7]	手づくね	褐	良好
895	ミニチュア土器	SX15	(3.8)	-	-	2.7	手づくね	褐灰褐色	良好
896	ミニチュア土器	SX15	(4.6)	-	-	[3.4]	手づくね	褐	良好
897	ミニチュア土器	SX15	-	(2.7)	[3.0]	ナデ、板ナデ、指押え	灰	良好	
898	ミニチュア土器	SX15	2.8	-	-	3.2	手づくね	淡褐色～灰褐色	良好
899	ミニチュア土器	2面削制	4.0	-	-	2.3	手づくね	褐灰褐色～灰褐色	良好
900	ミニチュア土器	挫丸	1.8	-	-	1.5	手づくね	褐褐色	良好

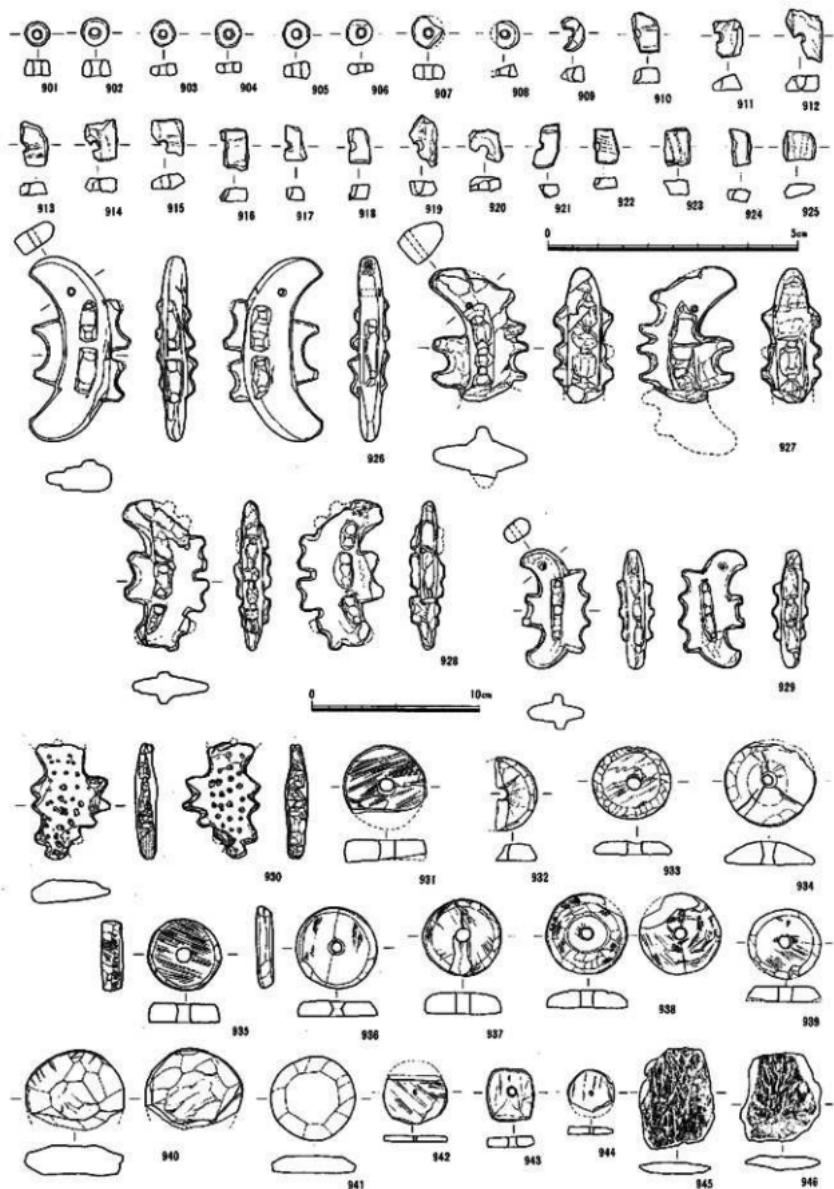


Fig.133 滑石製品遺物実測図 (1/1・1/3)

Tab.39 滑石製品遺物観察表

番号	種類	出土層	法面 (cm)				備考
			長さ	幅	厚さ	孔径	
901	臼玉	SC20	5.0	6.0	3.0~3.2	1.8	
902	臼玉	SC26	5.5	5.5	2.7~3.2	1.8~2.0	
903	臼玉	SC34	5.0	4.5	1.6~2.5	1.5~1.8	
904	臼玉	SDH-14	5.0	5.0	1.9~2.1	1.8~2.0	
905	臼玉	SD14	5.5	5.0	2.3~3.5	2.0	
906	臼玉	SD14	5.0	5.0	1.9~2.3	1.8~2.0	
907	臼玉	SX15	6.5	5.0	2.8~2.9	2.0	
908	臼玉	SX15	5.5	5.5	1.2~2.1	1.8~2.0	
909	臼玉未製品	SD14	6.5	6.5	2.4	1.8~2.8	側面研磨途中、片面のみ穿孔
910	臼玉未製品	SD14	[7.4]	[4.0]	2.5	2.0	側面研磨途中、片面のみ穿孔
911	臼玉未製品	SD14	[6.7]	[5.0]	2.8~2.9	1.7~2.0	未研磨
912	臼玉未製品	SD14	[10.5]	[7.0]	3.1	1.8~2.0	未研磨、片面のみ穿孔
913	臼玉未製品	SD14	[8.0]	[5.0]	2.1~2.2	1.8	未研磨、片面のみ穿孔
914	臼玉未製品	SD14	[8.2]	[6.0]	2.8~2.9	1.9~2.1	未研磨
915	臼玉未製品	SD14	[7.2]	[5.0]	2.9	1.8~1.9	研磨途中、片面のみ穿孔
916	臼玉未製品	SD14	[8.0]	[5.0]	2.4~2.5	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
917	臼玉未製品	SD14	[8.0]	[6.0]	2.8~2.9	1.8	未研磨、片面のみ穿孔
918	臼玉未製品	SD14	[6.5]	[4.0]	2.0~3.1	1.7~1.8	未研磨、片面のみ穿孔
919	臼玉未製品	SD14	[10.5]	[5.0]	2.6~2.7	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
920	臼玉未製品	SD14	[6.0]	[6.0]	2.5	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
921	臼玉未製品	SD14	[8.0]	[4.0]	2.5~2.6	1.7~1.8	未研磨、片面のみ穿孔?
922	臼玉未製品	SD14	[6.5]	[4.5]	2.1~2.2	2.0	未研磨、片面のみ穿孔
923	臼玉未製品	SD14	[7.1]	[5.0]	2.7~2.8	—	未研磨、振り切り跡有り、穿孔なし
924	臼玉未製品	SD14	[7.0]	[5.0]	2.1~2.2	—	未研磨、振り切り跡有り、穿孔なし
925	臼玉未製品	SD14	[5.0]	[5.0]	2.5	—	未研磨、振り切り跡有り、穿孔なし

番号	種類	出土層	法面 (cm・g)				備考
			長さ	幅	厚さ	重量	
926	子持勾玉	SD14	11.1	5.0	2.4	115	孔径4mm
927	子持勾玉	SD14	[8.1]	5.7	3.5	127	孔径3mm
928	子持勾玉	RX15	9.0	5.1	2.1	75	孔径2mm
929	子持勾玉	SX15	7.1	4.1	2.1	49	孔径3mm
930	子持勾玉	SX15	7.0	4.5	1.4	43	
931	紡錘車	SC26	[4.2]	4.0	1.3	53	孔径10mm、表面に無数多
932	紡錘車	SC39	4.4	[2.4]	1.0	17	孔径8mm
933	紡錘車	SC41	4.3	4.7	0.8	25	孔径9mm
934	紡錘車	SD14	5.3	[4.0]	1.4	45	孔径6~8mm、3ヶ所に削割あり
935	紡錘車	SD14	4.3	4.3	1.1	37	孔径8mm
936	紡錘車	SD14	4.0	4.7	0.9	37	孔径5~10mm
937	紡錘車	SD14	4.6	4.6	1.2	38	孔径8mm
938	紡錘車	SX15	4.8	4.8	1.0	35	孔径7~9mm、表面に摩耗多
939	紡錘車	1面下	4.3	4.3	1.0	27	孔径9mm、表面に無数多
940	紡錘車未製品	SD14	5.8	[4.0]	1.7	70	打削面残
941	紡錘車未製品	SX15	5.1	5.0	1.0	39	
942	舟孔円盤	SD14	4.8	[2.0]	0.56	9	孔径2mm
943	舟孔円盤	SX15	8.2	2.7	0.5~0.6	10	孔径8~7mm
944	舟孔円盤	SX15	2.8	[2.5]	0.5	5	孔径2mm
945	磨石製品	SD14	5.4	4.6	0.8	28	片面にキズ多
946	磨石製品	SD14	6.0	4.4	0.7	31	片面にキズ多

滑石製品は臼玉、子持勾玉、紡錘車、有孔円盤などが出土した。紡錘車を除き、ミニチュア土器とともに祭祀品と考えられるが、SD14、SX15からの出土が多く、両遺構が祭祀の場として位置づけられていたことは間違いないだろう。

臼玉は8点確認したが、その大きさから、それ以外に多数あったことは間違いない。臼玉の未製品は17点図示した。すべてFig.92・93で位置を示したSD14の「東ベルト北岸」の5層出土である。掘削時に滑石の原石や剥片が集中したので取り上げていたが、よく見ると微細な剥片も多数混じっていることがわかり、土ごと取り上げ、ふるいにかけて発見したものである。穿孔時に破損したものが多い。原石・剥片はここから8.5kg出土している。うち、最大のものは2.9kgを測る。隣接する「東区東北岸」では2.2kg、対岸の「東区西南岸」では1.3kgが出土しており、滑石製品の製作をおこなっていたことがわかる。しかし、まだ利用できる大きな原石・剥片を残したまま放棄しており謎が残る。

子持勾玉はSD14から2点、SX15から3点出土した。928以外は出土ポイントを押さえることができた(Fig.121・122、Ph.101・102)。926は最大のもので、扁平な親勾玉の体部に腹部1点、背部2点、両側面に各2点の子勾玉を削り出す。927は尾部を欠損するが厚みがあり、重量最大である。欠損する尾部は再加工が施されている。復元すると腹部に1点、背部に3点、両側面に各2点の子勾玉をもつ。928は扁平でやや小ぶりであるが、最大数の子勾玉をつける。復元すると腹部に1点、背部に4点、

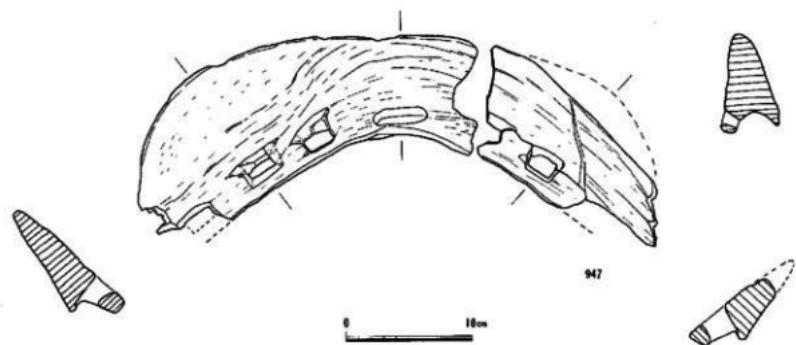


Fig. 134 木製品遺物実測図 (1/4)

Tab.40 木製品遺物観察表

番号	種類	寸法	法 量(cm)			備 考
			底 面	腹 面	側 面	
947	板	SD14	(41.3)	(17.8)	4.8	

両側面に3点の合計11点になる。929は最小のもので、親勾玉の体部は扁平である。腹部に1点、背部に2点、両側面に各2点の子勾玉を削り出す。背部の2点の子勾玉は分化していない。930はほかの子持勾玉と異なり、側面に子勾玉を持たない板状の体部をもつ。頭部を欠損している。背部の子勾玉は勾玉というより、刻みを入れたような形である。側面には未貫通の小さな穿孔を多数おこなっている。

紡錘車は製品9点、未製品2点が出土した。断面台形のものが多いが、長方形のもの(931)、三角形のもの(934)もある。934は3方向に線刻がみられる。938は上部に段をつけ小円盤をつくりだす。

有孔円盤はSD14から1点、SX15から2点出土した。いずれも単孔である。943は方形を呈する。他の2点にくらべ、孔径が大きい。

945・946は扁平な滑石の片面に線刻が多数みられるものである。用途不明。

木製品はSD14から少量出土している。その他の木はほとんどが流木であった。

947は鞍である。3片に割れて出土し、2点は接合した。残り1点も同一個体と考えられる。Fig.134に示すように幅42cm、高さ17cm程度に復元した。断面は二等辺三角形をなし、底部は抉りを入れている。居木を固定するための方形の小孔が3ヶ所ずつ開けられている。一番外側の孔は貫通させているが、内側の孔は抉りの部分で止まっている。中央には梢円の穿孔がなされている。5世紀末の所産と考えられ、国内でも古い出土例となろう。

Ph.95で示した木器は作業台か。一本で、復元すると38cm四方の板に長さ12cm、幅5cmの取っ手?が付いている。板の厚さは2.8cmである。

A-1区遺構外出土の遺物をFig.135・136とTab.41に示す。このうちBトレンチ出土のものはSX15に帰属すると考えられる。968は土製の匙である。手づくねで成形している。987は黒曜石製の石鏃である。Lトレンチの黒色粘土層から出土した。小形の凹基式鏃である。つくりが雑で素材剥離面を大きく残す。縄文時代後・晩期の所産と考えられ、堆積層の形成時期を示すものとして重要である。

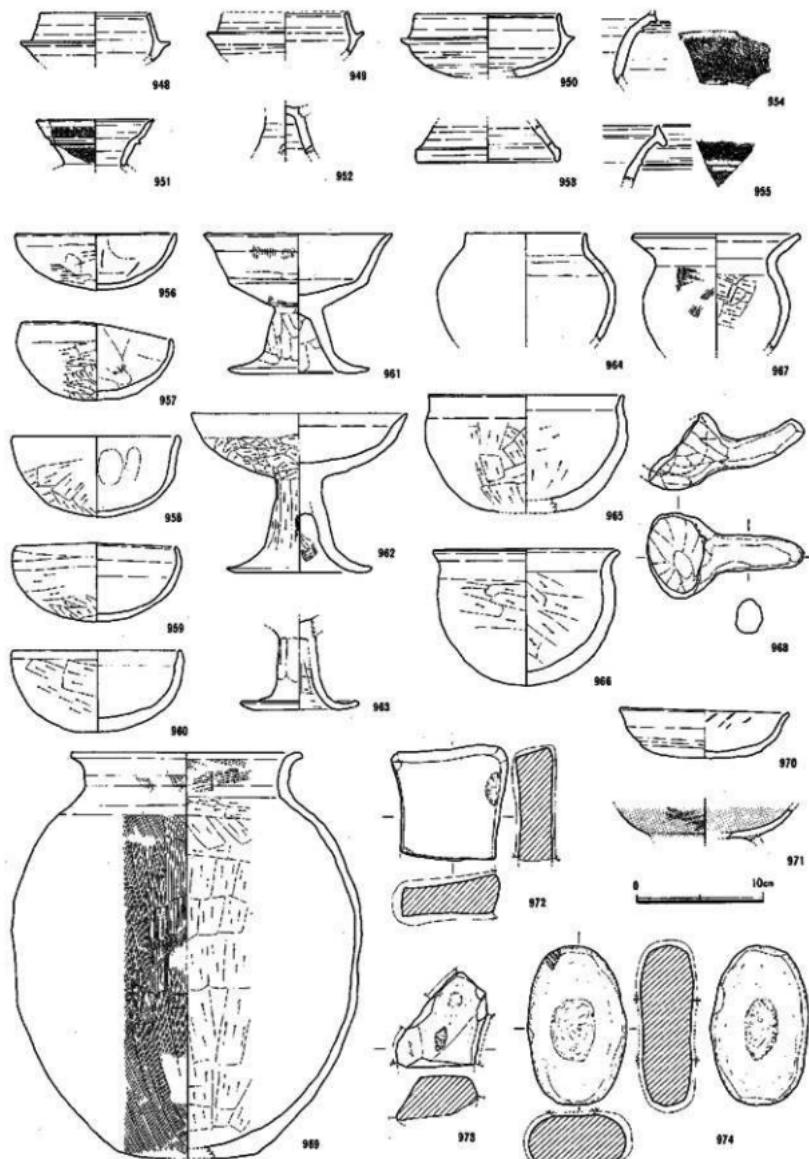


Fig.135 A-1区遺構外出土遺物実測図 1 (1/4)

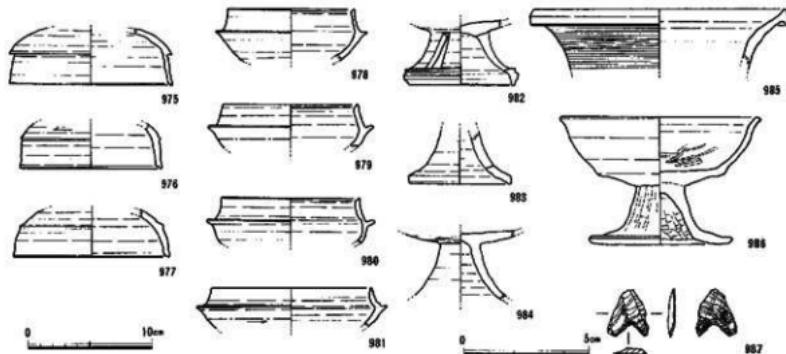


Fig.136 A-1区造構外出土遺物実測図 2 (1/2 - 1/4)

Tab.41 A-1区造構外出土遺物観察表

番号	種類	出土層	法量 (cm)			質地 内面/外面	色調 内面/外面	損傷	備考	
			口径	周長	底径					
948	須恵器・环身	3面	(8.7)	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰色	良好	
949	須恵器・环身	2面の側	(10.0)	-	-	[3.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	明青灰色	良好	
950	須恵器・环身	3面	11.5	-	-	[5.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰色	良好 1-5?	
951	須恵器・瓶	3面	(9.0)	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	青灰~灰青色/緑灰 色	良好	
952	須恵器・高环	2面	-	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰~暗灰色	良好	
953	須恵器・高环	2面の側	-	(11.5)	[3.0]	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰白/灰~暗灰色	良好	
954	須恵器・高环	3面	-	-	-	[5.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	青灰色	良好	
955	須恵器・高环	2面	-	-	-	[4.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、波状文	青灰~灰色/灰灰色	良好	
956	土師器・瓶	2面下	(12.0)	-	-	4.4	ナゲ、ナゲナガバ/ナゲ、ナゲ	淡青~緑色/緑色	やや良好	
957	土師器・瓶	2面下	(12.1)	-	-	6.1	ナゲ、ナゲナガバ/ナゲ	淡青~緑色	良好	
958	土師器・瓶	3面	13.2	-	-	8.4	ナゲナゲ/ケズリ	淡褐色	良好	
959	土師器・瓶	3面側	(12.6)	-	-	6.3	ナゲナゲ/ナゲ	淡褐色	良好	
960	土師器・瓶	3面	13.2	-	-	6.5	厚底/ケズリ	淡褐色	良好	
961	土師器・高环	2面下	(14.0)	(11.2)	11.1	环部ナゲ、脚部ケズリ/ナゲ/环部ハ ナゲナゲ、脚部ハケナゲ	浅青~淡色	良好		
962	土師器・高环	3面	(17.0)	-	-	11.5	12.6	环部厚底、脚部ハケナゲ	淡青白色	不良
963	土師器・高环	3面	-	-	-	9.4	[7.2]	ナゲナゲ/ケズリ	明褐色	不良
964	土师器・瓶	3面	(0.4)	-	-	[8.8]	脚部/厚底	淡褐色	やや良好	
965	土师器・瓶	2面下	(15.4)	-	-	[9.4]	ケズリ/ナゲナゲ	青褐色	良好	
966	土师器・瓶	2面下	(14.6)	-	-	5.8	板状ナゲ/板ナゲ	淡青灰色/淡褐灰色	良好	
967	土师器・瓶	3面側	(13.0)	-	-	[9.2]	脚部ナゲ、脚部スリーブ/ナゲ、ナゲ	淡茶褐色/淡褐色	良好	
968	土师器	3面	-	-	-	-	ナゲ	淡褐色	中や良好	
969	土師器・瓶	2面	(18.2)	27.6	-	[32.2]	ケズリ/ナゲ	淡青灰~黄褐色/淡 青灰~淡褐色	良好	
970	土師器・瓶	1面下	13.4	-	9.5	3.1	ミガキ/回転ナゲ	白色	ヘラ切り、IIIC 開削後?	
971	須恵器・B・輪	2面	-	-	-	[2.8]	ミガキ/ミガキ	黑褐色	良好	
975	須恵器・环底	瓶	(13.0)	-	-	[4.4]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰色/砂灰~黑褐色	良好 1-3?	
976	須恵器・环底	瓶上	(11.4)	-	-	[3.6]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰色/灰~暗褐色	良好 1-4~1-5	
977	須恵器・环底	瓶上	(12.5)	-	-	[3.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡褐色/褐色	良好 1-3?	
978	須恵器・环底	Bトレンチ	(10.2)	-	-	[4.1]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰色	良好 1-4~1-5	
979	須恵器・环底	瓶底	(10.0)	-	-	[3.5]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡青灰色	良好 1-4~1-5	
980	須恵器・环底	瓶底	(11.1)	-	-	[3.0]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡青褐色	良好 1-3~1-4	
981	須恵器・环身	Bトレンチ	(12.0)	-	-	[3.2]	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	紫黑色/暗灰~紫灰 色	良好 II-2	
982	須恵器・高环	Bトレンチ	-	-	9.2	[5.1]	回転ナゲ/環部回転ヘラケズリ/脚部 ナゲナゲ	紫灰色/灰色	良好 3万選かし、 I-3~I-4	
983	須恵器・高环	脚土	-	-	[9.2]	[4.3]	回転ナゲ/回転ナゲ	紫灰/暗灰	良好	
984	須恵器・高环	Bトレンチ	-	-	-	[5.5]	环部回転ナゲ、回転ナゲ/環部回転ヘ ラケズリ、脚部ケズリ	淡灰	やや不良	
985	須恵器・瓶	脚土	(20.0)	-	-	[4.8]	回転ナゲ/回転ナゲ、カキ目	淡灰	良好	
986	土師器・高环	Bトレンチ	(16.0)	-	(11.0)	10.1	環部: ガキ、脚部ケズリ/环部回転ナ ゲ、脚部ケズリ	淡褐色	良好	

番号	種類	出土層	法量 (cm・g)			質	備考	
			底径	幅	厚さ			
972	砥石	3面	[3.2]	9.2	3.3	406	砂岩、6面使用	
973	砥石	1面下	[7.5]	7.1	[3.5]	175	砂岩、4面使用、織目板?	
974	砾石	3面	12.6	7.8	4.1	704	玄武岩、磨耗、6面使用	
987	石頭	Lトレンチ	1.9	1.7	0.25	0.6	黒曜石、玄武岩、織目板後期	

(3) A - 2 区

A - 2 区は 2 次調査地点に近く、試掘でも濃密な遺構分布と多くの出土遺物が確認されていた。遺構面は 1 面で、北側が白色のかたく締まった粗砂層、南側が黄褐色のシルト層で遺構を検出した。調査面積は遺構面で 825m<sup>2</sup>を測る。

掘立柱建物 3 棟、溝 12 条、土坑 11 基、ピット多数を検出した。時期は 9 ~ 10 世紀を中心に 12 世紀までの遺構群である。柱穴は北側の粗砂層の地域に多く、南側までは伸びない。SD115 からはまとまった量の遺物が出土した。



Ph.105 A - 2 区全景（上が北東）

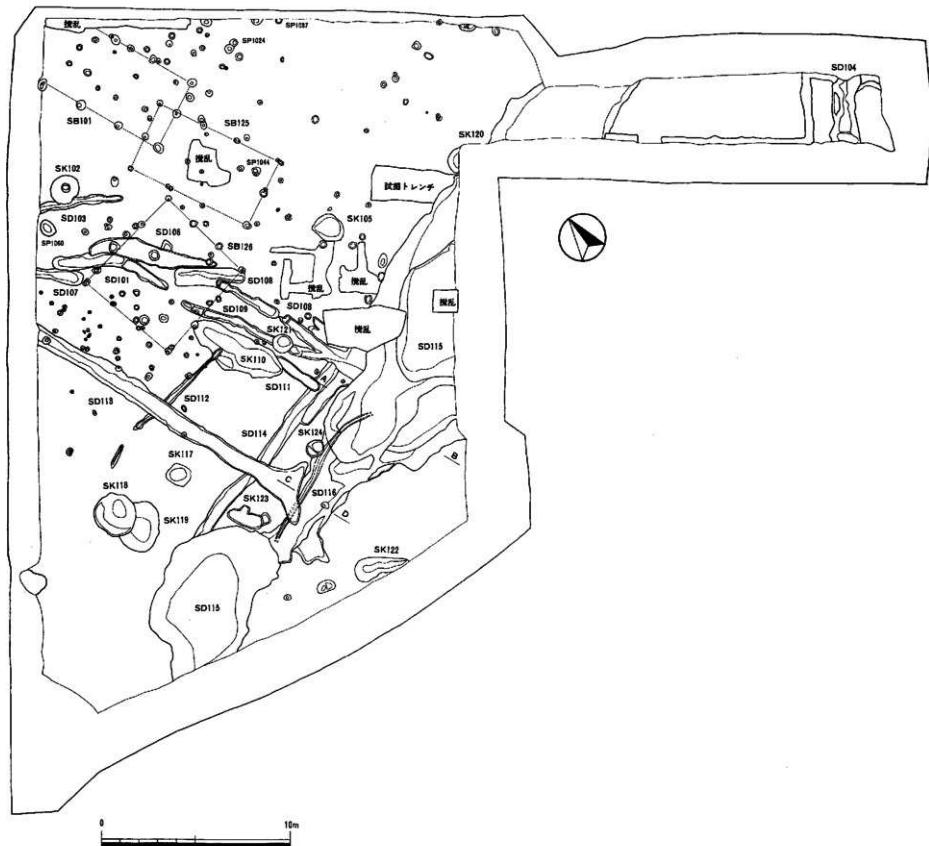


Fig.137 A-2区全体図 (1/200)

### SB101 (Fig. 138・139、Ph. 106、Tab. 42)

調査区北寄りで検出した掘立柱建物である。南北は西側で3間分、東西は南側で2間分確認された。北側は発掘区外に伸びると考えられる。SB125と重複している。建物規模は南北3間分で7.0m、東西は3.9mである。柱穴の掘方は径40~60cmの円形である。

土師器の甕988がSP1006より出土しており、古代の建物と考えられる。

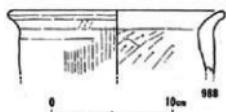


Fig.138 SB101出土遺物実測図（1／4）

Tab.42 SB101出土遺物観察表

番号	種類	出土層	法量(cm)			内面/外面	色/質	焼成	備考
			口径	側径	底径				
988	土師器・甕	SP1006	(17.0)	-	-	[3.9]	ケズリ/ハケ	褐~黄褐	やや良好

### SB125 (Fig. 139、Ph. 107)

調査区北寄りで検出した南北3間、東西2間の掘立柱建物である。SB101と重複している。建物規模は南北7.0m、東西は3.9mである。柱穴の掘方は径20~40cmの円形である。規模、柱間はSB101とはほぼ同規模であるが、柱穴の掘方は小さい。時期のわかる遺物は出土しなかったが、SB101と同様古代の建物と考えられる。

### SB126 (Fig. 140、Ph. 108)

調査区中央部北寄りで検出した掘立柱建物である。南北3間、東西3間確認された。ややいびつである。建物規模は南北5.4~5.6m、東西は5.8~6.3mである。柱穴の掘方は径20~50cmの円形である。



Ph.106 SB101（南から）



Ph.107 SB125（南から）



Ph.108 SB126（西から）

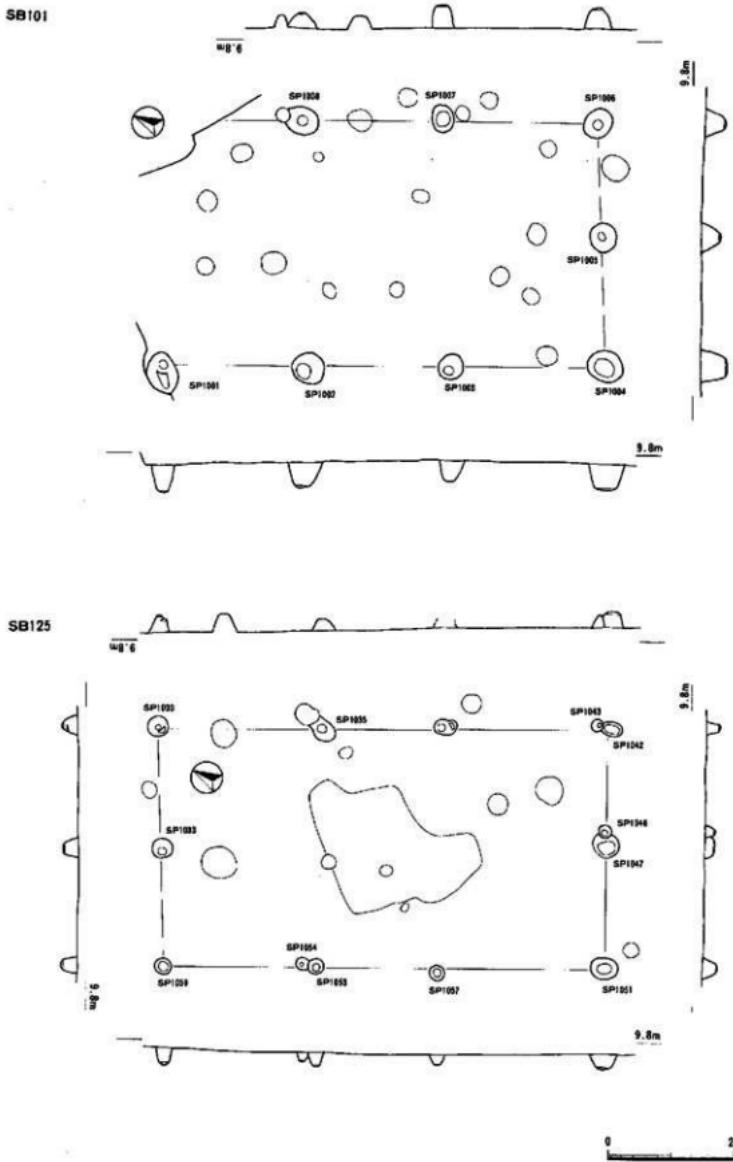


Fig.139 SB101・125実測図 (1 / 80)

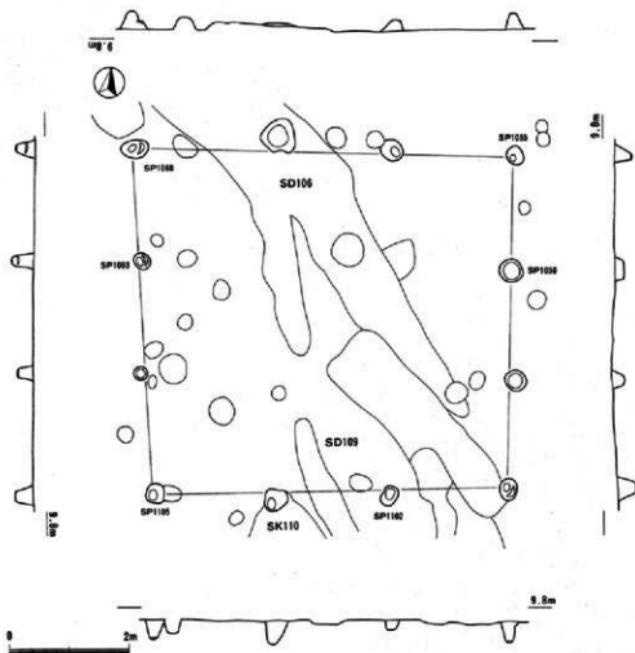


Fig.140 SB126実測図 (1/80)

SD115 (Fig.141~145, Ph.109・110, Tab.43)

調査区南寄りで検出した東西方向の溝である。幅は広くなったり狭くなったりで一定しない。広いところで6m、狭いところで1.5m、深さも一定せず、深いところは120cm、浅いところは20cmである。西側と中央あたりで深くなっている。東西とも発掘区外に伸びる。西側はA-1区では検出されてい



Ph.109 SD115 (西から)



Ph.110 SD115IV区遺物出土状況 (南から)

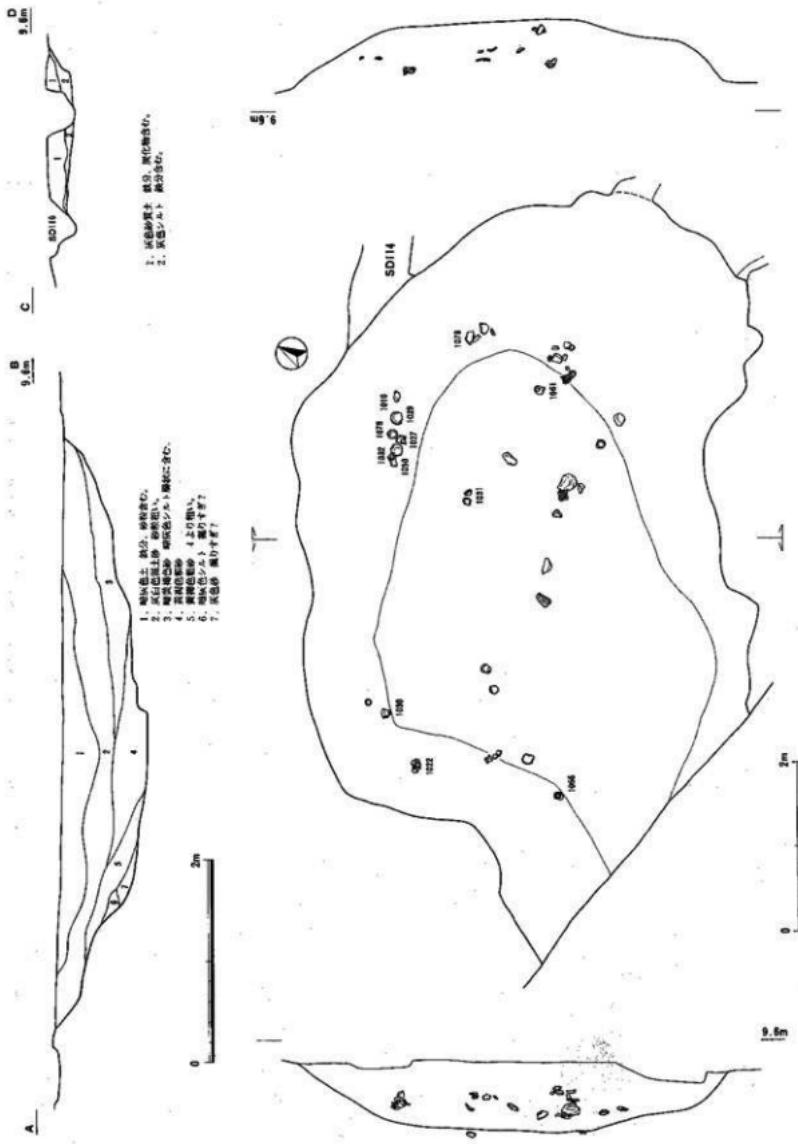


Fig.141 SD115土層図・実測図 (1/50・1/60)

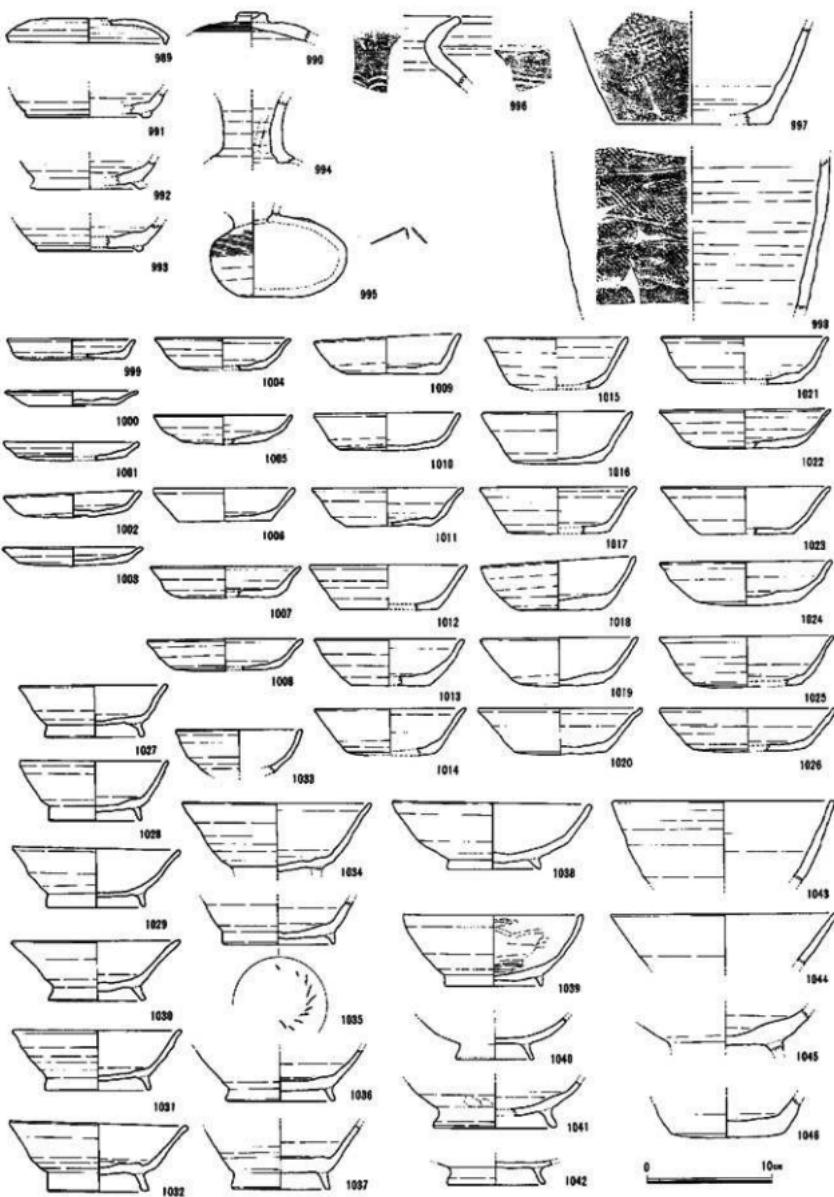


Fig.142 SD115出土遺物実測図 1 (1/4)

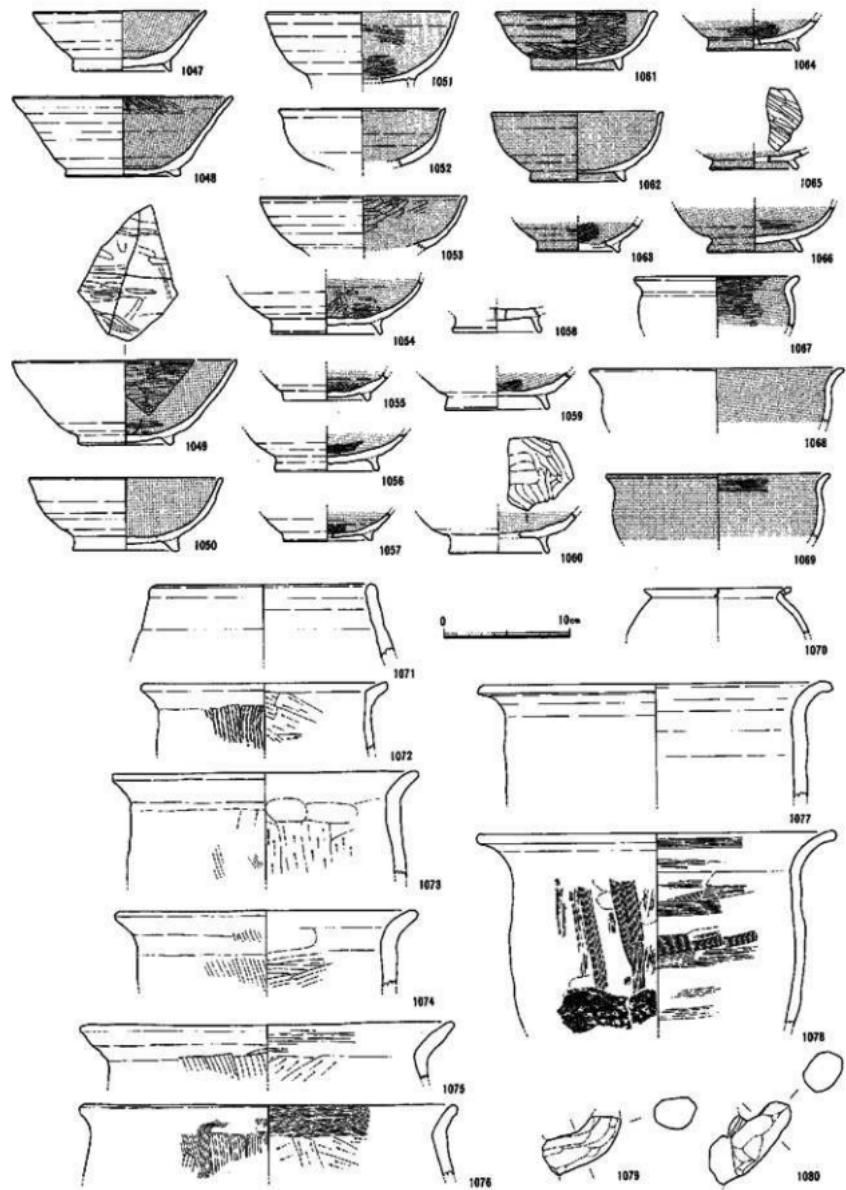


Fig.143 SD115出土遺物実測図 2 (1/4)

Tab.43 SD115出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法 規 (cm)	内面・外面		色 調 内面/外面	被 覆 内面	考 察
				口径	深度			
989	須恵器・环形	II 区上層	(12.4)	-	2.6	回転ナメ/回転ナメ	青灰	良好
990	須恵器・蓋	II 区上層	-	-	[3.4]	回転ナメ/回転ナメ カキ目	淡青灰	良好
991	須恵器・高台付环	II 区上層	-	-	(8.8) [2.2]	回転ナメ/回転ナメ	灰	良好
992	須恵器・高台付环	IV 区上層	-	-	(8.5) [2.3]	回転ナメ/回転ナメ	暗灰	良好
993	須恵器・高台付环	IV 区上層	-	-	(8.3) [2.3]	回転ナメ/回転ナメ	暗灰	良好
994	須恵器・長颈瓶	IV 区上層	-	-	[5.1]	回転ナメ/回転ナメ	明灰灰	良好
995	須恵器・平瓶	I 区	-	11.0	-	/回転ナメ/内面へラケズリ、肩部カ リドロ	白色	不良
996	須恵器・碗	II 区下層	-	-	[5.7]	内面	白色	ヘラ切り未調査
997	須恵器・井	II 区上層	-	-	(12.6) [7.8]	内面/外面	白色	良好
998	須恵器・井	IV 区上層	-	-	[12.1]	内面/外面	灰	良好
999	土師器・小皿	IV 区下層	(10.0)	-	(8.5) 1.6	回転ナメ/回転ナメ	淡青灰	良好
1000	土師器・小皿	II 区下層	(10.4)	-	(6.8) 1.2	回転ナメ/回転ナメ	淡青	良好
1001	土師器・小皿	II 区下層	(10.6)	-	(8.6) 1.4	回転ナメ/回転ナメ	灰黑	良好
1002	土師器・小皿	III 区下層	10.8	-	8.2 1.9	回転ナメ/回転ナメ	灰白	良好
1003	土師器・小皿	IV 区上層	(11.0)	-	(8.6) 1.4	回転ナメ/回転ナメ	青白	良好
1004	土師器・杯	IV 区下層	(11.0)	-	(8.8) 2.5	回転ナメ/内面カナメ/回転ナメ	青白+椎	良好
1005	土師器・杯	IV 区上層	(11.1)	-	(6.8) 2.3	回転ナメ/回転ナメ	淡灰	良好
1006	土師器・杯	III 区下層	(11.2)	-	(7.4) 2.8	回転ナメ/回転ナメ	淡青	良好
1007	土師器・杯	IV 区下層	(12.0)	-	(8.2) 2.5	回転ナメ/回転ナメ	灰灰+灰	良好
1008	土師器・杯	IV 区下層	(12.4)	-	(8.2) 2.4	回転ナメ/回転ナメ	黄緑+青灰/青黄	良好
1009	土師器・杯	IV 区下層	11.6	-	7.3 2.9	回転ナメ/内面カナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1010	土師器・杯	IV 区	11.6	-	7.8 3.0	回転ナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1011	土師器・杯	II 区下層	(12.0)	-	(6.8) 3.0	回転ナメ/内面カナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1012	土師器・杯	II 区下層	(12.4)	-	(7.8) 3.5	回転ナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1013	土師器・杯	II 区下層	(11.8)	-	(6.2) 3.6	回転ナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1014	土師器・杯	II 区下層	12.0	-	7.6 [3.8]	回転ナメ/内面カナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1015	土師器・杯	II 区	11.4	-	(7.1) [4.0]	回転ナメ/回転ナメ	灰白	良好
1016	土師器・杯	II 区下層	(12.0)	-	(7.4) 4.1	回転ナメ/回転ナメ	淡青	良好
1017	土師器・杯	II 区下層	(12.0)	-	(8.2) 3.7	回転ナメ/内面カナメ/回転ナメ	淡青	良好
1018	土師器・杯	II 区	12.4	-	7.0 3.8	回転ナメ/回転ナメ	青白	良好
1019	土師器・杯	II 区下層	12.5	-	6.7 3.7	回転ナメ/回転ナメ	青白	良好
1020	土師器・杯	II 区下層	(13.0)	-	(7.2) 3.7	回転ナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1021	土師器・杯	II 区	(13.0)	-	(8.0) 3.7	回転ナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1022	土師器・杯	IV 区下層	(13.7)	-	(7.5) 3.1	回転ナメ/回転ナメ	淡青灰	良好
1023	土師器・杯	II 区下層	(13.6)	-	(7.4) 3.7	回転ナメ/回転ナメ	青	良好
1024	土師器・杯	II 区下層	(13.8)	-	(7.9) 3.5	回転ナメ/回転ナメ	淡灰白	良好
1025	土師器・杯	II 区下層	(14.0)	-	(8.6) 4.0	回転ナメ/回転ナメ	淡灰白	良好
1026	土師器・杯	II 区下層	(14.2)	-	(8.6) 3.4	回転ナメ/回転ナメ	青白	良好
1027	土師器・杯	IV 区	(11.6)	-	(7.8) 4.1	回転ナメ/回転ナメ	灰白	良好
1028	土師器・杯	IV 区下層	(11.6)	-	(7.4) 4.8	回転ナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1029	土師器・杯	IV 区	13.2	-	7.8 4.6	回転ナメ/回転ナメ	淡青白	良好
1030	土師器・杯	IV 区	(13.2)	-	(7.6) 4.7	厚底/深底	青白	良好
1031	土師器・杯	IV 区	(13.2)	-	(8.4) 4.8	回転ナメ/回転ナメ	青白	良好
1032	土師器・杯	II 区	14.1	-	8.9 5.4	回転ナメ/内面カナメ/回転ナメ	青白	良好
1033	土師器・杯	II 区下層	(13.0)	-	- [3.4]	回転ナメ/回転ナメ	青白	良好
1034	土師器・杯	IV 区下層	(13.6)	-	- [3.3]	回転ナメ/内面カナメ/回転ナメ	青白	良好
1035	土師器・杯	IV 区下層	-	-	9.0 [3.5]	回転ナメ/回転ナメ/外底ナメ	灰白	良好

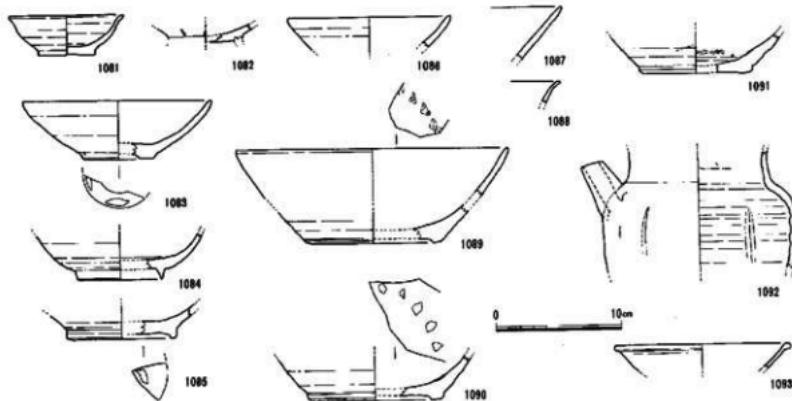


Fig.144 SD115出土遺物実測図 3 (1/4)

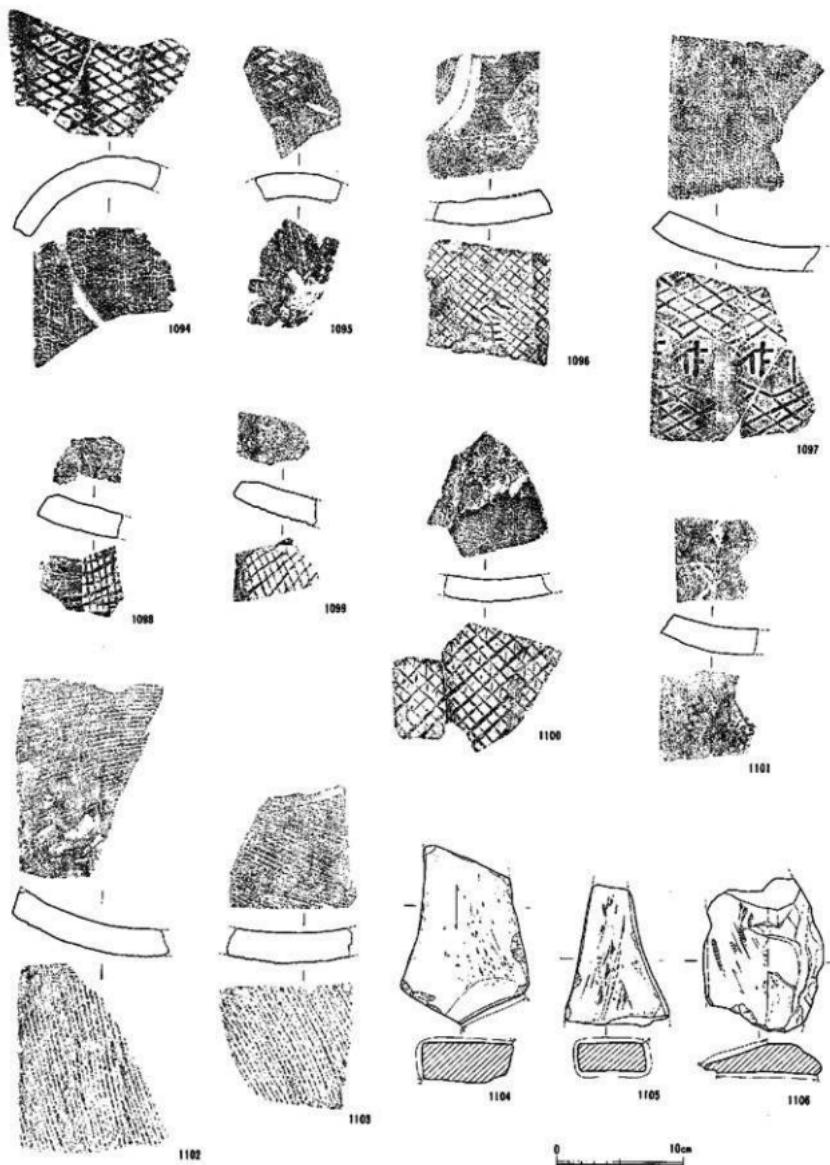


Fig.145 SD115出土遺物実測図 4 (1/4)

番号	種類	出上 位置	寸 法 (cm)			固 内面/外 面	色 内面/外 面	情 成	備 考
			口径	幅径	高さ				
1036	土師器・瓶	Ⅲ区下層	-	-	(8.6) [4.2]	回転ナデ/回転ナデ	黒灰	良好	ヘラ切り
1037	土師器・瓶	Ⅲ区	-	-	(7.0) [5.2]	回転ナデ/回転ナデ	黒	良好	ヘラ切り
1038	土師器・瓶	IV区上層	15.8	-	7.5 [5.3]	回転ナデ/回転ナデ	赤茶褐	良好	ヘラ切り
1039	土師器・瓶	IV区下層 (14.2)	-	(7.0)	5.6	ミガキ/回転ナデ	深灰白	良好	
1040	土師器・瓶	Ⅲ区下層	-	-	(6.2) [3.2]	原灰/厚底	淡灰	やや良好	
1041	土師器・瓶	IV区下層	-	-	(9.0) [3.8]	回転ナデ/回転ナデ、押押え	黄灰	やや良好	
1042	土師器・瓶	Ⅲ区下層	-	-	(7.0) [3.0]	厚底/厚底	黄白	不良	
1043	土師器・瓶	Ⅲ区下層 (19.6)	-	-	[6.6]	回転ナデ/回転ナデ	淡灰	良好	
1044	土師器・瓶	Ⅲ区下層 (18.2)	-	-	[4.2]	厚底/厚底	明褐色	やや不良	
1045	二跡器・大瓶	Ⅲ区下層	-	-	[3.4]	回転ナデ、内底ナデ/回転ナデ、回転 ヘラケズリ	淡褐	良好	ヘラ切り
1046	二跡器・大瓶	Ⅲ区下層	-	-	(9.0) [3.2]	厚底/厚底、外底ナデ?	淡褐	やや不良	
1047	黑色・墨 A・瓶	Ⅲ区上層	13.6	-	7.0 [4.8]	ミガキ/回転ナデ	墨/灰褐色	良好	ヘラ切り
1048	黑色・墨 A・瓶	Ⅲ区下層 (17.4)	-	(6.0)	6.3	ミガキ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	墨/褐	良好	
1049	黑色土器 A・瓶	Ⅲ区下層 (17.0)	-	(7.0)	6.7	ミガキ/回転ナデ	墨/淡青墨	良好	ヘラ切り、微状痕、内底 ヘラ記り
1050	黑色・墨 A・瓶	IV区	(15.2)	-	(8.0) [5.8]	ミガキ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	墨/淡赤褐	良好	骨付に板状痕
1051	黑色・墨 A・瓶	IV区上層	(15.2)	-	[5.5]	ミガキ/回転ナデ	墨/濃赤褐	良好	
1052	黑色土器 A・瓶	IV区下層 (13.1)	-	-	(4.6)	ミガキ/回転ナデ	墨/淡白・黃褐色	良好	
1053	黑色・墨 A・瓶	IV区下層 (16.4)	-	-	[4.4]	ミガキ/回転ナデ	墨/黃褐色	良好	
1054	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	(8.0) [4.5]	ミガキ/回転ナデ	墨/黃褐色	良好	
1055	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	6.9 [2.3]	ミガキ/回転ナデ	墨/黃褐色	良好	
1056	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	8.3 [3.1]	ミガキ/回転ナデ	灰褐色/墨/黃褐色	良好	
1057	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	(7.0) [2.3]	ミガキ/回転ナデ	墨/淡灰/黃褐色	良好	
1058	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	(7.0) [2.0]	墨	良好		
1059	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	(8.2) [2.9]	ミガキ/厚底	墨/淡灰	良好	輕擦字孔
1060	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	(8.0) [3.2]	ミガキ/厚底	墨/淡褐	良好	
1061	黑色土器 B・瓶	IV区下層 (12.8)	-	(7.0)	4.6	ミガキ/墨	墨	良好	ヘラ切り
1062	黑色土器 B・瓶	IV区下層 (13.6)	-	(7.0)	5.5	ミガキ/墨	墨	やや不良	
1063	黑色土器 B・瓶	IV区下層	-	-	(6.0) [2.4]	ミガキ/ミガキ	墨/灰	良好	
1064	黑色土器 B・瓶	IV区下層	-	-	(7.0) [2.6]	ミガキ/ミガキ	墨	良好	
1065	黑色土器 B・瓶	IV区下層	-	-	6.9 [2.3]	ミガキ/ミガキ	墨	良好	
1066	黑色土器 B・瓶	IV区下層	-	-	8.3 [3.1]	ミガキ/ミガキ	灰褐色/墨/黃褐色	良好	
1067	黑色土器 B・瓶	IV区下層	-	-	(7.0) [2.3]	ミガキ/ミガキ	墨/淡灰/黃褐色	良好	
1068	黑色土器 B・瓶	IV区下層	-	-	(7.0) [2.0]	墨	良好		
1069	黑色土器 A・瓶	IV区下層	-	-	(8.0) [3.2]	ミガキ/厚底	墨/淡灰	良好	
1070	黑色土器 B・瓶	IV区下層	-	-	(7.0) [2.4]	ミガキ/厚底	墨/淡赤褐	良好	
1071	上部器・蓋	II区上層	F (11.6)	-	-	ミガキ/墨	墨	良好	
1072	上部器・蓋	II区上層 (17.0)	-	-	(3.6)	ナデ/厚底	墨	良好	
1073	上部器・蓋	II区上層 (24.3)	-	-	(6.0)	回転ナデ/回転ナデ	黄褐色/淡青墨/黃褐色	良好	
1074	上部器・蓋	II区上層 (23.2)	-	-	(6.1)	ケズリ/ノケ	黄褐色	良好	
1075	上部器・蓋	II区上層 (29.0)	-	-	(4.8)	ミガキ/厚底	墨/淡灰	良好	
1076	上部器・蓋	II区上層 (29.8)	-	-	(6.0)	ミガキ/厚底	墨/淡赤褐	良好	
1077	上部器・蓋	IV区上層 (28.2)	-	-	[9.2]	ミガキ/ミガキ	墨	良好	外表面スギ付
1078	上部器・蓋	IV区上層 (28.6)	-	-	[15.0]	ナデ/厚底	墨	良好	口部器穿孔、古壙
1079	土師蓋・把手	II区上層	-	-	-	ハケ/ハケ、下部タキ	墨	良好	
1080	土師蓋・把手	II区下層	-	-	-	ナチ	墨	良好	
1081	被物・小瓶	IV区上層 (9.0)	-	(4.0)	3.2	回転ナデ/回転ナデ	灰	良好	
1082	被物・小瓶	II区上層	-	-	[1.4]	被物	墨	良好	余切り、施: 法線不透明
1083	越州窯系青磁・瓶	Ⅱ区下層 (15.0)	-	(5.0)	4.6	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰褐	良好	施: 法線不透明、タテ割
1084	越州窯系青磁・瓶	Ⅲ区上層	-	(5.0)	[5.0]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	
1085	越州窯系青磁・瓶	IV区下層 (12.8)	-	(5.0)	[2.4]	回転ナデ/回転ナデ	淡灰白	良好	
1086	越州窯系青磁・瓶	IV区上層	-	-	[2.6]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	淡灰白	良好	
1087	越州窯系青磁・瓶	IV区上層	-	-	[4.0]	回転ナデ/回転ナデ	淡灰白	良好	
1088	越州窯系青磁・瓶	IV区上層	-	-	[1.8]	回転ナデ/回転ナデ	淡灰白	良好	
1089	越州窯系青磁・瓶	IV区下層 (21.0)	-	-	(10.0) [7.0]	回転ナデ/回転ナデ	灰	良好	
1090	越州窯系青磁・瓶	IV区下層	-	-	(10.0) [3.0]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	灰	良好	
1091	越州窯系青磁・瓶	IV区下層	-	-	(8.0) [3.4]	回転ナデ/回転ナデ、外底ナデ	淡紅灰	良好	
1092	福井陶器・水注	Ⅲ区上層	-	(15.0)	-	(10.0)	纏模模/回転ナデ	淡白灰、透脚首	良好
1093	福井陶器・白磁	II区上層 (14.0)	-	-	[2.0]	回転ナデ/回転ナデ	白、軟脚首	良好	施: 白乳半透明
1094	丸瓦	I区上層 (11.1) [12.0]	1.7	-	-	白、軟脚首	淡灰黃	やや不良	
1095	丸瓦	II区下層 (9.7) [8.6]	1.9	-	-	布目/格子目/タキ	淡褐色/淡灰	不良	
1096	平瓦	IV区 (10.4) [10.2]	2.3	-	-	布目/格子目/タキ	淡灰褐色	やや不良	文字
1097	平瓦	IV区上層 (14.0) [13.3]	2.65	-	-	布目/格子目/タキ	淡灰褐色	やや不良	文字
1098	平瓦	IV区上層 (3.0) [7.1]	2.3	-	-	布目/格子目/タキ	淡灰	良好	
1099	平瓦	II区下層 (5.9) [5.2]	2.2	-	-	布目/格子目/タキ	淡灰	良好	
1100	平瓦	II区下層 (10.8) [12.0]	1.8	-	-	布目/格子目/タキ	反	良好	
1101	平瓦	IV区下層 (7.5) [7.8]	2.0	-	-	布目/格子目/タキ	黒灰/淡褐色	やや不良	
1102	平瓦	IV区下層 (16.1) [17.7]	2.2	-	-	布目/格子目/タキ	青灰	良好	
1103	平瓦	IV区上層 (10.4) [11.9]	2.45	-	-	布目/格子目/タキ	淡灰	良好	

番号	種類	出上 位置	寸 法 (cm x g)			備 考
			長	幅	高さ	
1104	磁石	Ⅳ区下層	10.0	3.3	550	砂芯、A面使用
1105	磁石	Ⅳ区下層	8.2	2.3	321	砂芯、B面使用、右側面と裏面に刻印有り？
1106	磁石	Ⅳ区下層	9.5	2.4	325	砂芯、C面使用

ない。あるいは2面の北隅で落ち込みがみられたが、これが南岸か。東寄りの発掘区壁に挟まれている部分をI区、発掘区南東壁からセクションラインA-BまでをII区、セクションラインC-DまでをIII区、発掘区南壁までをIV区とし、4分割して調査をおこなった。

Fig.141はIV区の土坑状の窪みの部分を示した。土師器碗や壺、黒色土器が集中して出土している。

出土遺物をFig.142~145、Tab.43に示す。須恵器、土師器、黒色土器、縁釉陶器、褐釉陶器の水注、越州窯系青磁、邢窯系白磁、瓦、砥石などが出土した。瓦には大宰府政府などで出土する押打痕文字瓦がみられる(1096~1097)。時期は9世紀中頃~後半のものを中心に11世紀中頃のものまでみられる。IV区からは10世紀頃の遺物が多数出土した。

その他の造構(Fig.146~148、Tab.44~47)

A~2区のその他の造構の概要をTab.44に示し、出土遺物をFig.146~148とTab.45~47に示す。SD113は北へ延長するとC区2面のSD228へ接続し、何らかの区画を示す溝と考えられる。SK119からは縁釉陶器の破片が出土している。SP1060からは白磁碗のほか須恵器壺、土師器碗・壺、黒色土器碗が出土した。

Tab.44 その他のA~2区の造構

造構番号	種類	造構の概要	時期
SK102	楕円形土坑	調査区北寄りに位置する。幅1.6m、短軸1.4m、中央部で径0.5mがピット状に深くなっている。SD103を切る。	
SD103	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.3~0.6m、深さ15~25cm、4.5m分確認した。西側は発掘区外に伸びる。SK102に切られる。	
SD104	東西溝	調査区東寄りに位置する。幅1.5mを割ったが、入りすぎている。発掘区北壁で確認した断面で幅0.8m、深さ25cm、3.5m分確認した。南北とも発掘区外に伸びる。	
SK105	楕円形土坑	調査区中央部に位置する。長軸1.7m、短軸1.3m、深さ0.5m。	
SD106	南北溝	調査区北寄りに位置する。2本の溝の重複と考えられるが、溝の違いがなく、分離できなかった。東側の溝が幅0.3~1.0m、深さ5cm、西側の溝が幅0.5~0.8m、深さ5~15cm、幅0.6m。	
SD107	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.5~0.8m、深さ10~15cm、2.5m分確認した。西側は発掘区外に伸びる。	
SD108	南北溝	調査区中央部に位置する。途切れ目なく、幅0.4~1.0m、深さ0~20cm、長さ9.2m。SD109と南側で接するが、切り合いで開口不明。南側はSD113に切られる。	10C~11C初
SD109	南北溝	調査区中央部に位置する。幅0.4~0.5m、深さ5~20cm、10.3m分確認した。SD108と南側で接するが、切り合いで開口不明。途中でSK121に、南側でSD113に切られる。	10C~11C初
SK110	楕円形土坑	調査区中央部に位置する。長軸0.4m、短軸0.2m。SD112に切られ、SD111を切る。	
SD111	南北溝	調査区中央部に位置する。幅0.5m、深さ5cm、長さ2.8m。SK110に切られ、SD114を切る。	
SD112	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.1~0.3m、深さ5cm、長さ8.4m、BK110を切り、SD113に切られる。	
SD113	南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.2~1.1m、深さ10~40cm、17.5m分確認した。北側は発掘区外に伸び、B区のSD228に接続する。SD112、SD114、SD116を切る。	11C後半~12C前?
SD114	東西溝	調査区南寄りに位置する。幅0.2~0.9m、深さ5~20cm、11.8m分確認した。SD108、SD109、SD113、SD115に切られる。	11C後半~12C
SD115	東西溝	調査区南寄りに位置する。幅0.2~0.4m、深さ10~20cm、8.5m分確認した。SD113を切っていることを土塙で確認し、既存部分のみ調査した。	
SK117	楕円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.3m。	
SK118	円形土坑	調査区南寄りに位置する。径2.2m、深さ0.7m、西側にテラスがあり、東側が深くなっている。SK119に切る。	11C初~中頃?
SK119	楕円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸2.7m、短軸2.0m+αm、深さ0.5m。SK118に切られる。	古代
SK120	円形?土坑	調査区北寄り中央部に位置する。径1.3m、深さ0.4m。東側発掘区外に伸びる。	
SK121	楕円形土坑	調査区中央部に位置する。長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.6m。	
SK122	楕円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸2.9m、短軸0.8m、深さ0.2m。南側発掘区外に伸びる。	
SK123	不定形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸0.3m、短軸1.0m、深さ0.1m。	
SK124	楕円形土坑	調査区南寄りに位置する。長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.1m。SD115を切る。	

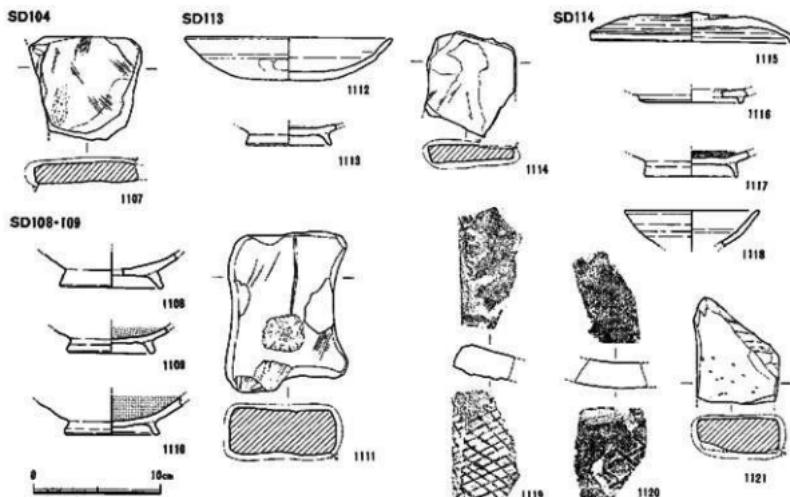


Fig.146 SD104・108・109・113・114出土遺物実測図 (1/4)

Tab.45 SD104・108・109・113・114出土遺物観察表

番号	種類	出土	法 葉 (cm)				内/外面	色/質	構成	備考
			口径	脚径	底径	高さ				
1104	土器部・鉢	SD104 109	-	-	(8.2)	[2.8]	回転ナデ/回転ナデ	黒褐色~灰青	良好	
1109	黒色土器 A・鉢	SD108 109	-	-	7.6	[3.1]	ミガキ/回転ナデ	黒/黄緑~灰青	良好	
1110	黒色土器 A・鉢	SD108 109	-	-	7.5	[3.1]	ミガキ/回転ナデ	黒~褐色/灰白~黒	良好	板状痕
1112	土器部・丸环	SD113 (16.4)	-	-	3.4		回転ナデ/回転ナデ、押出し	淡黃白	不良	ヘラ切り、押し出し
1113	黒色土器 A・鉢	SD113 (16.4)	-	-	6.7	[1.8]	ミガキ/回転ナデ	灰~黒~青	良好	
1115	須恵器・盃	SD114 (16.2)	-	-	2.4		回転ナデ/回転ナデ	青灰~灰~褐色	良好	ヘラ切り未調査
1116	須恵器・高台付環	SD114 (16.0)	-	-	(8.0)	[1.2]	回転ナデ/回転ナデ	明青灰~灰~褐色	良好	
1117	黒色土器 A・鉢	SD114 (16.0)	-	-	(7.4)	[2.1]	ミガキ/回転ナデ	黒/黄緑	良好	ヘラ切り
1118	白磁・高台付皿	SD114 (16.0)	-	-	[2.8]		回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	白	良好	釉:青白透明、高台付皿
1119	平瓦	SD114 (9.8)	[5.6]	1.9			布目/格子目タキ	淡青灰~暗灰~灰	良好	瓦型
1120	平瓦	SD114 (9.1)	[6.15]	2.1			布目/格子目タキ	淡灰褐	不良	

番号	種類	出土	法 葉 (cm)				備考
			長さ	幅	厚さ	重量	
1107	磁石	SD104 (8.3)	[8.3]	1.5	168	砂岩、2面使用	
1111	磁石	SD108 12.8	9.5	3.7	717	砂岩、4面使用、破打痕	
1114	磁石	SD113 (8.5)	7.0	0.9	111	砂岩、4面使用	
1121	磁石	SD114 (8.6)	6.8	2.8	251	砂岩、4面使用、表面にキズ多	

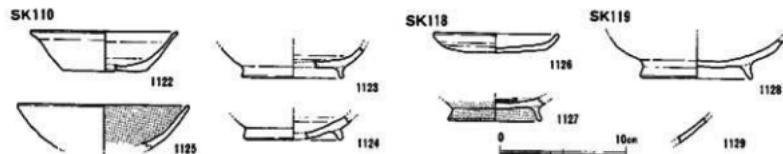


Fig.147 SK110・118・119出土遺物実測図 (1/4)

Tab.46 SK110・118・119出土遺物觀察表

番号	種類	出土場	法 量 (cm)	高 度		内面/外面	色 調 内面/外面	施 成	備 考	
				口径	脚径					
1122	土師器・环	SK110	(11.6)	-	(6.1)	3.2	回転ナゲ/回転ナゲ	灰青地/灰青	良好	ヘラ切り
1123	土師器・碗	SK110	-	-	(5.0)	(2.5)	回転ナゲ/回転ナゲ	灰地/灰	良好	ヘラ切り
1124	土師器・碗	SK110	-	-	(7.8)	(1.9)	回転ナゲ/回転ナゲ	黄地/黄灰	良好	ヘラ切り
1125	黑色土器 A・碗	SK118	(12.4)	-	-	(3.5)	ミガキ?/回転ナゲ?	黒/灰	良好	
1126	土師器・小瓶	SK118	10.0	-	8.5	1.5	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	底白	良好	ヘラ切り、板状底
1127	黑色土器 B・碗	SK118	-	-	7.3	(1.9)	ミガキ/回転ナゲ	褐灰/灰	やや良好	
1128	土師器・碗	SK119	-	-	(8.0)	(3.2)	回転ナゲ/回転ナゲ?	灰青/黄地	良好	ヘラ切り、板状底
1129	埴輪・頭 or 眼	SK119	-	-	-	-	灰	灰	良好	輪: 成跡不透明

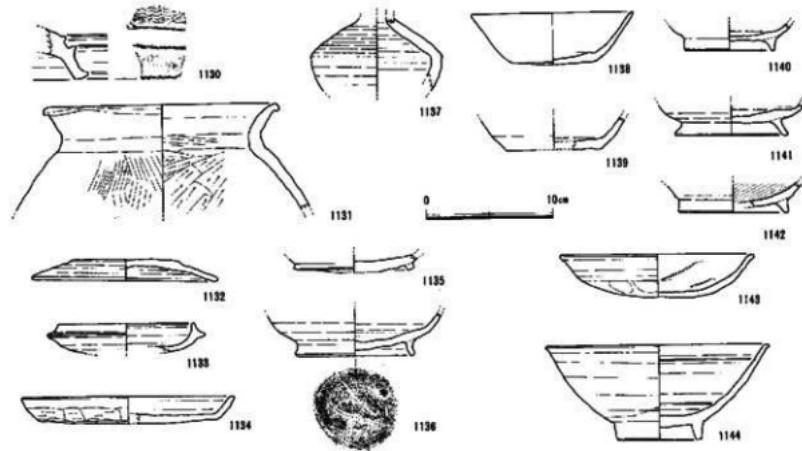


Fig.148 A - 2区その他の遺構・遺構外出土遺物実測図 (1 / 4)

Tab.47 A - 2区その他の遺構・遺構外出土遺物観察表

番号	種類	出土場	法 量 (cm)	高 度		内面/外面	色 調 内面/外面	施 成	備 考	
				口径	脚径					
1130	須恵器・大彩器台? 口沿帯	-	-	-	-	(4.1)	回転ナゲ/回転ナゲ、成次文	褐灰/灰	良好	
1131	土師器・甕	包含層 (16.0)	-	-	-	(3.6)	端部ハケ+ナサ、側部カスリ/ハケ	淡青地+碧	良好	
1132	須恵器・蓋	SP1022	(14.6)	-	-	(1.7)	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰/淡青灰	良好	ヘラ切り、9C 刃?
1133	須恵器・蓋	SP1044	(19.7)	-	-	(2.3)	回転ナゲ/西脇ナゲ	古灰/灰	良好	小山N?
1134	須恵器・甕	包含層 (16.8)	-	(13.8)	2.2	回転ナゲ/西脇ナゲ、体部~縁部手拂 らしきクレタ	灰闊/灰~灰暗	良好	T C 中~後半	
1135	須恵器・高台付杯	SP1069	-	-	9.6	(1.6)	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	やや不良	
1136	須恵器・高台付杯	包含層	-	-	9.5	(3.5)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡灰	良好	ヘラ切り、ヘラ記号
1137	須恵器・座?	櫛亂	(19.4)	-	-	(6.8)	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	不良	ヘラ切り
1138	土師器・甕	成次窯跡 (12.8)	-	(6.6)	4.1	摩擦/摩擦	灰白	やや良好		
1139	土師器・甕	SP1069	-	-	(7.6)	(2.5)	回転ナゲ?/回転ナゲ?	灰白/黄地	やや良好	ヘラ切り
1140	土師器・甕	SP1060	-	-	7.2	(2.2)	回転ナゲ/回転ナゲ	淡青地	やや良好	
1141	土師器・甕	SP1037	-	-	8.9	(2.4)	回転ナゲ/回転ナゲ	黄地	良好	
1142	黑色土器 A・碗	SP1065	-	-	(8.6)	(2.4)	ミガキ?/回転ナゲ	灰/雅	やや良好	
1143	土師器・丸環	包含層	15.3	-	-	3.6	ミガキ/回転ナゲ、突出	淡灰	やや不良	ヘラ切り
1144	白磁・碗	SP1066	17.6	-	9.7	7.6	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	淡青灰	不良	施: 淡青灰不透明、白磁

#### (4) B区1面

B区は今回の調査において最も北側に位置する。水田休耕地で盛り土はなされておらず、地表面の標高は10.2mである。検出面は50~60cm下げた暗灰褐色土である。検出面で744m<sup>2</sup>を調査した。遺構の分布は薄く、調査区北東寄りしか存在しなかった。土坑2基と溝8条、ピットを検出した。

遺構の概要をTab.48に示し、出土遺物をFig.150・151、Tab.49・50に示す。溝は現在の地割りとほぼ同じ方向に伸びる。SD206~210は深さ5cmほどの浅い溝であるが、3.3m間隔で平行に分布する。2次調査A-II調査区でも同様な平行溝群が検出されている。

遺構からの出土遺物は多くなかったが、B区1面は中世前半ごろの遺構群と考えられる。



Ph.111 B区1面全景（南から）

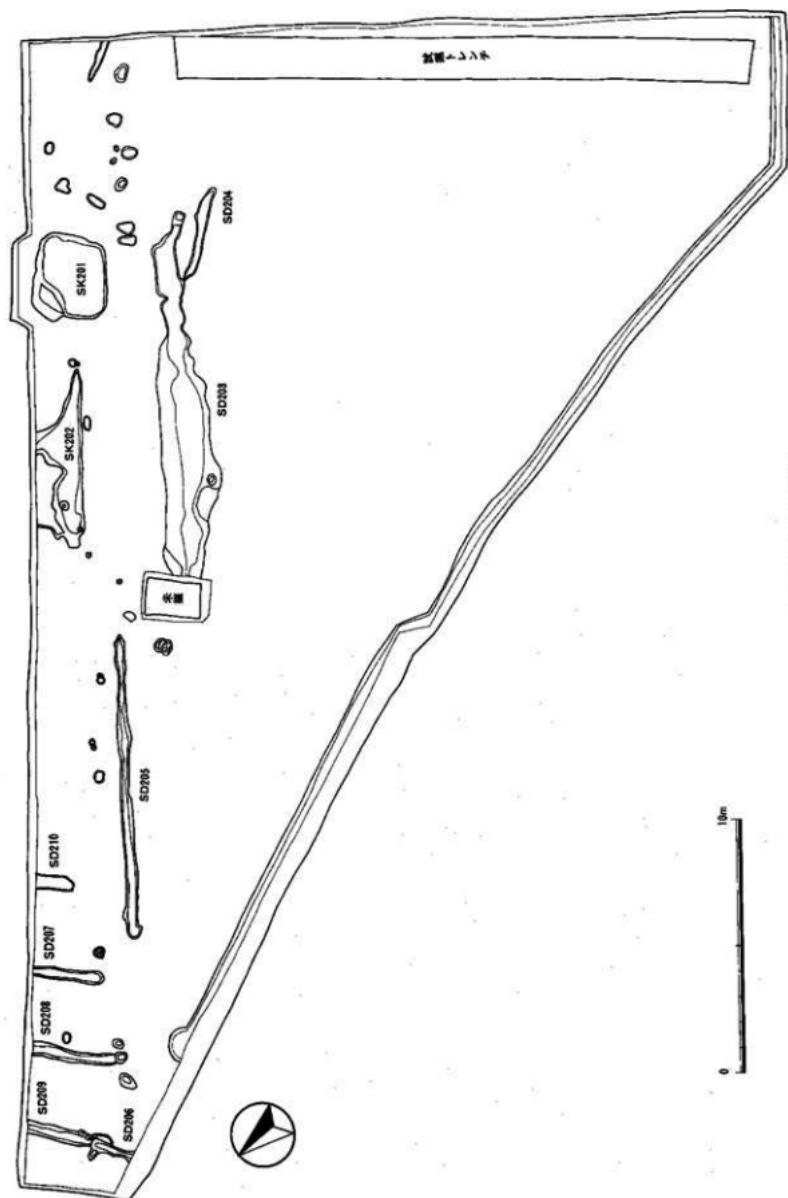


Ph.112 B区1面全景（北から）



Ph.113 B区1面全景（南東から）

Fig.149 B区1面全体図 (1/200)



Tab.48 B区1面の遺構

遺構番号	種類	遺構の概要	時期
SK201	環丸形方形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸3.0m、短軸2.7m、深さ45cm。北側深さ30cmにトラスあり。	12C後半
SK202	不定形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸7.1m、短軸1.7m+α、深さ10cm。北側は調査区外に伸びる。	
SD203	南北溝	調査区に東西に位置する。幅0.5~2.3m、深さ5~26cm、長さ14.6m+α。	13C前半
SU204	南北溝	調査区に東西に位置する。幅0.3~0.5m、深さ5cm、長さ3.9m。	
SU205	南北溝	調査区中央部から北寄りに位置する。幅0.2~0.3m、深さ5~15cm、長さ12.0m。	12C後半
SU206	東西溝	調査区に南北に位置する。幅0.3~0.4m、深さ5~19cm。1.7m分確認した。西側は調査区外に伸びる。 SU205を切る。	
SD207	東西溝	調査区に南北に位置する。幅0.3~0.5m、深さ5cm、2.7m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD208+209・210と平行。	
SD208	東西溝	調査区に南北に位置する。幅0.4~0.5m、深さ5cm、3.2m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD207+209・210と平行。	13C~11C前
SD209	東西溝	調査区に南北に位置する。幅0.5m、深さ19cm、2.5m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD206に切られる。SD207+208・210と平行。	
SD210	東西溝	調査区に南北に位置する。幅0.6m、深さ5cm、1.5m分確認した。東側は調査区外に伸びる。SD207+208+209と平行。	

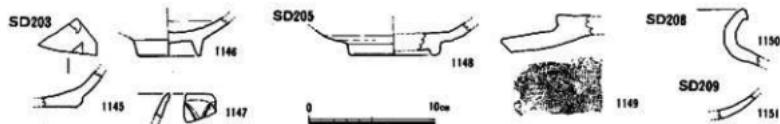


Fig.150 SD203・205・208・209出土遺物実測図 (1/4)

Tab.49 SD203・205・208・209出土遺物観察表

番号	種類	出土	寸法 (cm)				周 長 PbH/外面	色 内面/外面	状 成	備 考
			口径	脚径	底径	高さ				
1145	越州窯系青磁・碗	SD203	-	-	-	[3.0]	回転ナデ/回転ナデ	灰白	良好	輪:半輪、オーリープ透明、内底目土
1146	白磁・碗	SD203	-	-	5.0	[3.0]	回転ナデ/回転ナデ	灰白	良好	輪:半輪、白釉、白磁質
1147	越州窯系青磁・碗	SD203	-	-	-	[2.0]	回転ナデ/回転ナデ	淡灰白	良好	輪:青オリーブ透明、底:透明
1148	越州窯系青磁・碗	SD205	-	-	17.2	[2.4]	回転ナデ/回転ナデ/回転ヘクケザリ	淡灰白	良好	輪:外底透明、青オリーブ透明、底:透明
1149	平足	SD205	[5.6]	[4.6]	2.0	-	布目/	灰	良好	
1150	須恵器・甌	SD206	-	-	-	[4.4]	あて只盤/タトキ	灰白色	良好	
1151	那須窯系白磁・皿	SD209	-	-	-	[2.4]	回転ナデ/回転ナデ	白色、軟質	良好	輪:透明、薄い

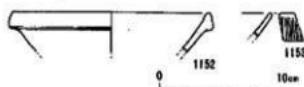


Fig.151 SK201出土遺物実測図 (1/4)

Tab.50 SK201出土遺物観察表

番号	種類	出土	寸法 (cm)				周 長 内面/外面	色 内面/外面	状 成	備 考
			口径	脚径	底径	高さ				
1152	白磁・碗	SK201 (13.2)	-	-	[3.2]	-	回転ナデ/回転ナデ/回転ヘクケザリ	淡灰白	良好	輪:底黄透明、白磁質
1153	越州窯系青磁・碗	SK201	-	-	-	[2.0]	回転ナデ/回転ナデ	淡灰白	良好	輪:青オリーブ透明

(5) B区 2面

B区の遺構検出が終了した時点で、試掘トレンチで検出していた遺構面と食い違いがみられ、更に下層にもう1面の遺構面があることを確認した。1面の調査終了後、これを2面として調査をおこなった。調査面は検出面で762m<sup>2</sup>を測る。柵2条、建物1棟、溝16条、井戸5基、土坑11基を調査した。古代を中心とする遺構群である。

SB245 (Fig.153)

調査区西寄りで検出された掘立柱建物である。南北2間、東西は1間分確認した。西側は調査区外に伸びると思われる。建物規模は南北4mである。柱穴は径40~80cmの円形の堀方であるが、雨の影響で上端が流れてしまい大きくなっている。本来はもう少し小さいと考えられる。深さは20~60cmである。

SE211 (Fig.154, Ph.115)

調査区北端で検出した円形曲物組井戸である。SD212を切る。堀方径は1.5m、深さ60cmで井筒である円形の曲物を確認した。曲物は上下2段あり、いずれも底板を取り除いている。上段は径35cm、高さ10cm、下段は径28cm、高さ6cmである。

SE231 (Fig.155, Ph.118)

調査区西寄りに位置し、発掘区外へ伸びる井戸である。SK230の下部で検出された。SE244を切る。



Ph.114 B区 2面全景（上が北東）

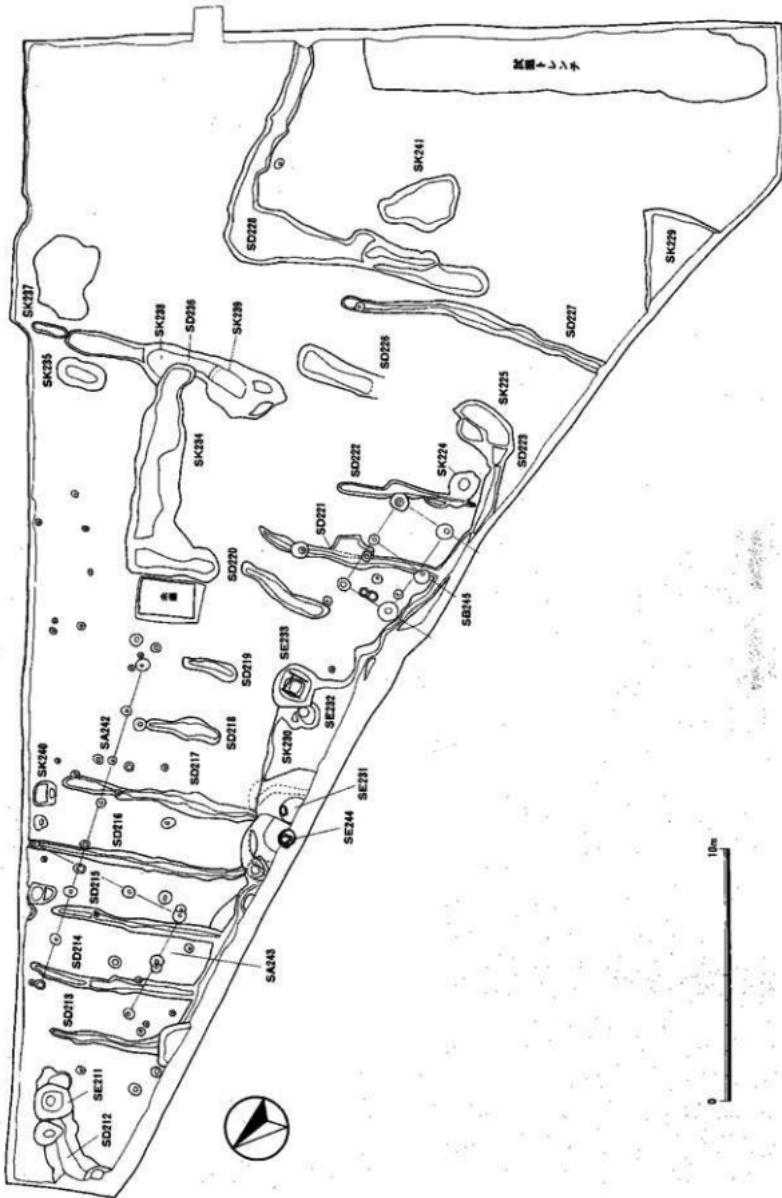


Fig.152 B区2面全体図 (1/200)

推定径3mの掘方で底部に径25cmの円形に板を並べた井筒を据える。桶であろうか。

SE232 (Fig.155, Ph.116)

調査区西寄り、SK230の下部で検出された井戸である。SE233と重複するが、切り合い関係はわからなかった。径1m程の円形の掘方で東寄りに井筒を据える。井筒は径45cmの円形の木質を確認した。曲物であったと思われる。

SE233 (Fig.155, Ph.116・117)

調査区西寄り、SK230の下部で検出された方形の井戸である。SE232との切り合い関係不明。一辺1.7m程である。3辺に井側の痕跡と思われる木質を確認した。

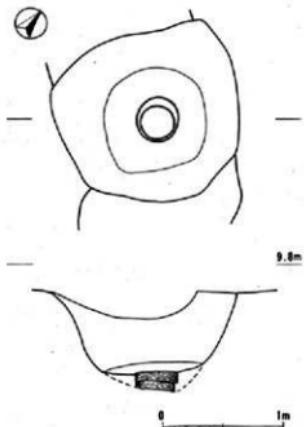


Fig.154 SB245実測図 (1/40)

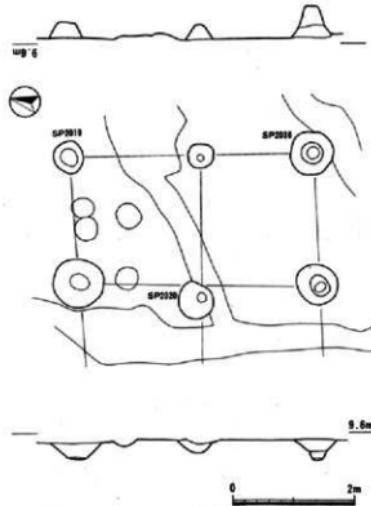


Fig.153 SB245実測図 (1/80)



Ph.115 SE211 (北から)



Ph.116 SE232・233 (南から)



Ph.117 SE233 (南から)

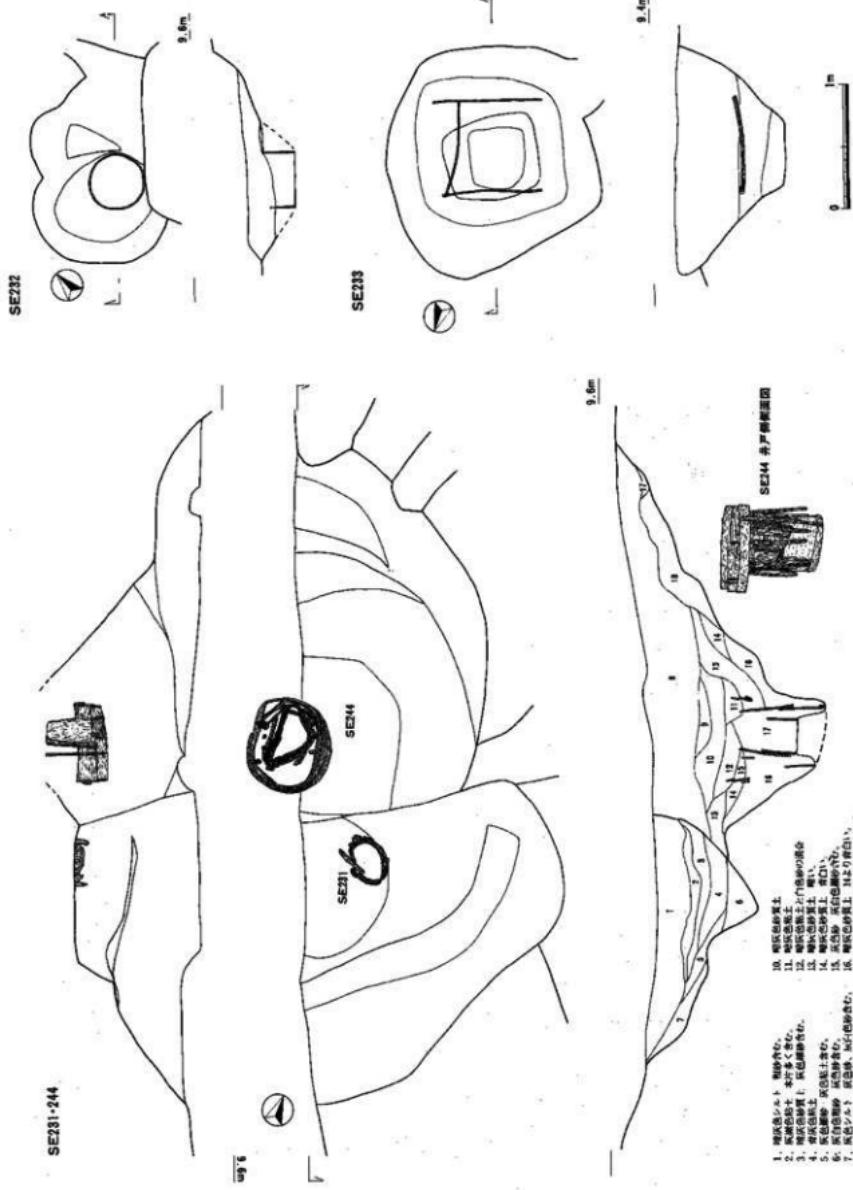


Fig. 155 SE231・232・233・244実測図（1／40）

SE244 (Fig.155・  
156、Ph.118・119、  
Tab.51)

調査区西寄りに位置する井戸である。SK230の底部で確認した。SE231に切られる。堀方径は1.5~2.4mであるが、大半は調査区外に伸びる。井筒は3段の曲物である。径は上段が65cm、中段が27cm、下段が45cmである。曲物を固定するために、多量の板や杭が上段の曲物の内側を通し、中・下段の曲物の外側に打ち込まれている。



Ph.118 SE231・244 (東から)



Ph.119 SE244井筒 (東から)

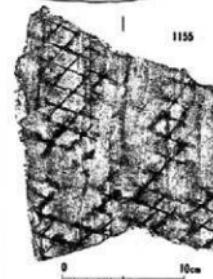
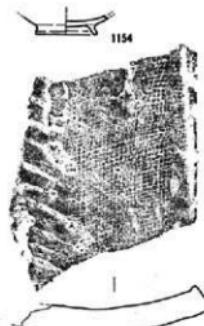


Fig.156 SE244出土遺物実測図 (1/4)

Tab.51 SE244出土遺物観察表

番号	種類	出土層	法 規 (cm)			内面/外面	内面/外面	地 成	備 考
			口径	胴径	底径				
1154	黑色土器B・柄	SE244	5.0	[1.8]		厚板/断片ナゲ		良好	ヘラ切り、板状質
1155	平底	SE244	[21.0]	[16.0]	2.0	布目/格子目タテキ	灰	良好	

SK239 (Fig.157、Ph.120、Tab.52)

調査区東寄りに位置する長軸推定3.2m、短軸2.0m、深さ45cmの梢円形土坑である。SD236を切っていると考えられるが、調査で確認できなかった。

出土遺物をFig.157とTab.52に示す。規模が小さい割には多量の遺物が出土した。綠釉陶器、邢窯系白磁、越州窯系青磁が出土しているのが注目される。

9世紀中頃～後半の遺構である。

その他の遺構 (Fig.158～160、Tab.53～56)

これまで説明しなかった遺構をTab.53にまとめ、出土遺物をFig.158～160、Tab.54～56



Ph.120 SK239 (南から)

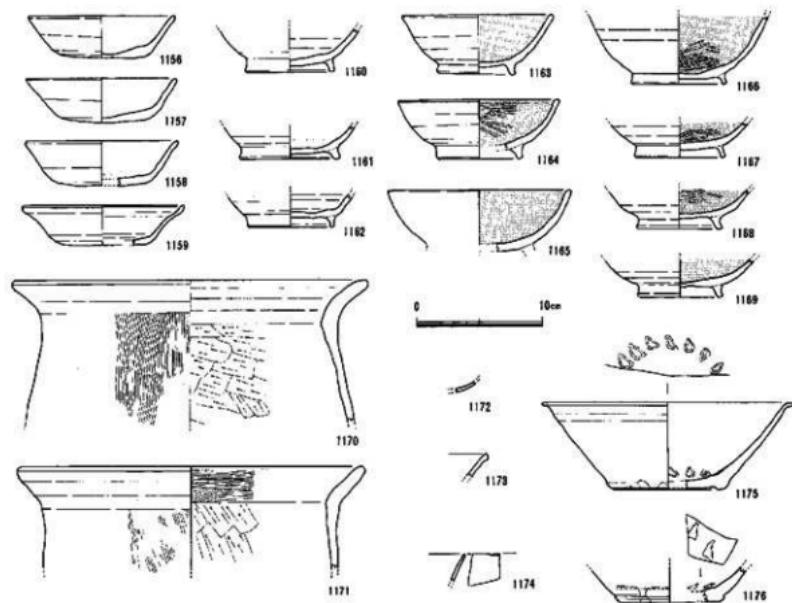


Fig.157 SK239出土遺物実測図 (1/4)

Tab.52 SK239出土遺物観察表

番号	器種	估計 寸法 (cm)	法 量 (cm)			圖 面 内面/外面	色 調 内面/外面	焼 成	備 考
			II透	網透	縫透				
1156	土師器・杯	SK239	11.8	-	8.8	3.4	回転ナゲ/回転ナゲ	淡黄褐	良好 ヘラ切り、板状膜
1157	土師器・杯	SK239	12.0	-	7.0	3.5	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰白	やや良好 ヘラ切り、板状膜
1158	土師器・杯	SK239 (12.2)	-	(7.0)	8.5	厚底	黒灰/淡茶灰	良好	ヘラ切り、板状膜
1159	土師器・杯	SK239 (12.0)	-	(7.8)	8.1	回転ナゲ/回転ナゲ	淡褐色	良好	ヘラ切り、板状膜
1160	土師器・杯	SK239	-	-	7.1	(3.6)	回転ナゲ/回転ナゲ	薄灰~淡褐色	良好 ヘラ切り、板状膜
1161	土師器・杯	SK239	-	-	8.0	(2.7)	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰褐	良好 ヘラ切り、板状膜
1162	土師器・杯	SK239	-	-	(6.9)	(2.6)	回転ナゲ/回転ナゲ	淡褐色	やや不良 ヘラ切り
1163	黑色土器 A・碗	SK239	12.0	-	6.3	4.6	ミガキ/回転ナゲ	黑灰/淡褐色	良好 ヘラ切り
1164	黑色土器 A・碗	SK239 (12.8)	-	(6.8)	4.7	ミガキ/回転ナゲ	黑灰~黑褐色/淡褐色	良好	ヘラ切り、板状膜
1165	黑色土器 A・碗	SK239 (14.6)	-	-	(4.8)	ミガキ/摩擦	淡褐色	不良	
1166	黑色土器 A・碗	SK239	-	-	7.7	(5.3)	ミガキ/回転ナゲ	黑灰/淡褐色	良好 ヘラ切り
1167	黑色土器 A・碗	SK239	-	-	7.3	(2.7)	ミガキ/回転ナゲ	黑灰~淡褐色	良好 ヘラ切り
1168	黑色土器 A・碗	SK239	-	-	8.9	(3.1)	ミガキ/回転ナゲ	暗灰~黑灰/淡褐色	良好 ヘラ切り、板状膜
1169	黑色土器 A・碗	SK239	-	-	(6.7)	(3.0)	摩擦/回転ナゲ	灰灰/深灰	良好 ヘラ切り
1170	土師器・盤	SK239 (24.0)	-	-	(11.4)	ケズリ/ハケ	淡茶灰	良好	ヘラ切り、板状膜
1171	土師器・盤	SK239 (27.8)	-	(8.2)	口縁ハケ、開窓ケズリノハケ、ナゲ	淡茶灰	良好		
1172	堆墨・皿	SK239	-	-	-	(1.0)	回転ナゲ/回転ナゲ	淡褐	土師質 特: 淡褐色不透明
1173	堆墨系内縁・碗	SK239	-	-	-	(1.8)	回転ナゲ/回転ナゲ	白、軟陶	良好 特: 透明
1174	越州窯系青釉・碗	SK239	-	-	-	(2.2)	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好 特: 黄オーラー透明、輪花
1175	越州窯系青釉・碗	SK239 (20.0)	-	(9.1)	6.9	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰白	良好 特: 全體、淡青灰白色調、内底、内壁凹凸	
1176	越州窯系青釉・碗	SK239	-	(8.8)	(3.0)	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰褐	良好 特: 光滑、明オーラー透、化粧土、内底凹凸	

に示す。

SD213～217の溝は平行に分布しているが1面より間隔は狭い。SD228はA-2区SD113と接続すると考えられる。SA243はこの溝と同一方向に伸びている。包含層の出土遺物は1面から2面へ掘り下げるときに出土したものである。

Tab.53 その他のB区2面の遺構

遺構番号	施 築	遺 墓 の 概 要	時 期
SD212	溝	調査区北東に位置する。幅1.4m、深さ36~83cm、5.0m 分確認した。屈曲している。西側は調査区外に伸びる。SD211に切られる。	13C後半
SD213	東西溝	調査区に歪曲り位置する。幅0.2~0.3m、深さ10~15cm、4.3m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD214・215・216・217と平行。	
SD214	東西溝	調査区に歪曲り位置する。幅0.4~0.5m、深さ5~10cm、6.5m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD213・214・215・216・217と平行。	
SD215	東西溝	調査区に歪曲り位置する。幅0.3~0.4m、深さ10cm、6.8m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD213・214・215と平行。	
SD216	東西溝	調査区に西北より位置する。幅0.2~0.3m、深さ10~20cm、8.7m 分確認した。東側・西側とも調査区外に伸びる。SD213・214・215と平行。SK230・SE221・244に切られる。	
SD217	東西溝	調査区に西北より位置する。幅0.4~0.5m、深さ5~15cm、7.8m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。SD213・214・215・216と平行。SK230・SE221・244に切られる。	
SD218	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.3~0.5m、深さ10cm、長さ3.0m。	
SD219	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.4~0.5m、深さ5~10cm、長さ3.2m。	
SD220	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.4~0.5m、深さ10cm、長さ3.8m。	
SD221	東西溝	調査区中央部から両寄りに位置する。幅0.4~0.5m、深さ5cm、1.3m 分確認した。西側は調査区外に伸びる。	
SD222	東西溝	調査区中央部から両寄りに位置する。幅0.3~0.6m、深さ5~10cm、長さ5.5m。西側は先掘区外に伸びる。SK244と重複するが切り合ひ不明。	
SD223	南北溝	調査区南寄りに位置する。幅0.5~0.7m、深さ5~15cm、2.7m 分確認した。西側は先掘区外に伸びる。東側はSK222と重複する。SD222に切れる。	
SK224	楕円形土坑	調査区西寄りに位置する。長軸3m、短軸1.1m、深さ50cm。SD223と重複するが切り合ひ不明。	
SK225	楕円形土坑	調査区西よりに位置する。長軸2.5m、短軸1.6m、深さ30cm。西側はSD223と接続する。南北削掘りすぎている。	古代
SD226	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.8~1.2m、深さ0~5cm、長さ3.5m。	
SD227	東西溝	調査区南寄りに位置する。幅0.4~0.8m、深さ5~20cm、10.7m 分確認した。西側は先掘区外に伸びる。	
SD228	南北溝	調査区北寄りに位置する。途中で変角に傾斜する。幅0.7~2.5m、深さ10~15cm、17.8m 分確認した。南北方向約9.0m、東西方向約10.8m。南北は先掘区外に伸び、A~E区のSD113に接続する。SD113まで含めた東西方向の長さは46mになる。	
SK229	方形?土坑	調査区南寄りに位置する。長軸4.1m + α、短軸3.1m + α、深さ26cm。西側は調査区外に伸びる。	古代
SK230	方形?土坑	調査区南寄りに位置する。長軸6.3m + α、短軸2.7 + α m、深さ30cm。西側は調査区外に伸びる。南寄りよりSE221・244・252・258で構成され、SD214・217と切れる。	11C後半~12C前半
SK234	不定形土坑	調査区中央部に位置する。長軸8.5m、短軸4.8m、深さ12~35cm。SD236・SK238に切れる。	古代
SK235	楕円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸2.8m、短軸1.1m、深さ40cm。	10C前~中頃
SD236	東西溝	調査区東寄りに位置する。幅0.7~1.3m、深さ10~30cm、長さ6.8m + α。SK234・237に切られる。はっきりと確認できなかったが、SK238・239にも切られていると考えられる。	9C中国~後半
SK237	楕円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.4m、短軸0.4m、深さ16cm。SD238を切る。	
SK238	楕円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸不定2m、短軸1.7m、深さ40cm。SK234に切られる。SD236を切っていると考えられる。	
SK240	方形土坑	調査区北寄りに位置する。長軸1.0m、短軸0.9m、深さ15cm。南北削岸さ29cm。	
SK241	不定形土坑	調査区北寄りに位置する。長軸3.3m、短軸2.0m、深さ15cm。	
SA242	溝	調査区北寄りに位置する。底角に折れる。東西方向に3箇分5.6m、南北方向に2箇分4.5m 確認した。東西南西は更に東へ伸びると考えられる。	
SA243	溝	調査区東寄りに位置する。南北方向に7箇分13.4m 確認した。両端とも更に伸びる可能性がある。	

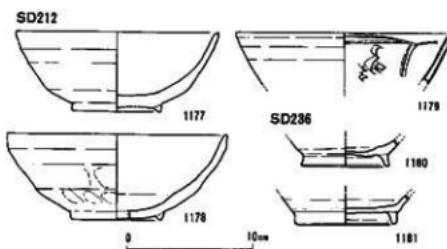


Fig.158 SD212・236出土遺物実測図 (1/4)

Tab.54 SD212・236出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法 製 (cm)				内面/外面	色 質	成 分	備考
			口径	底径	壁厚	高さ				
1177	土師器・焼	SD212	(16.0)	—	(7.0)	5.3	内面/外側	淡青白	良好	
1178	土師器・焼	SD212	(17.0)	—	(7.0)	5.8	内面/外側	淡青白	やや良好	ヘラ切り、板状底
1179	龍虎文系青磁・焼	SD212	(17.0)	—	—	(4.0)	内面/外側	灰	良好	輪コオリープ透明、鋸歯
1180	土師器・焼	SD236	—	—	7.0	(2.2)	内面/外側	淡青灰	良好	ヘラ切り
1181	土師器・焼	SD236	—	—	8.0	(2.5)	内面/外側	淡青灰	良好	ヘラ切り

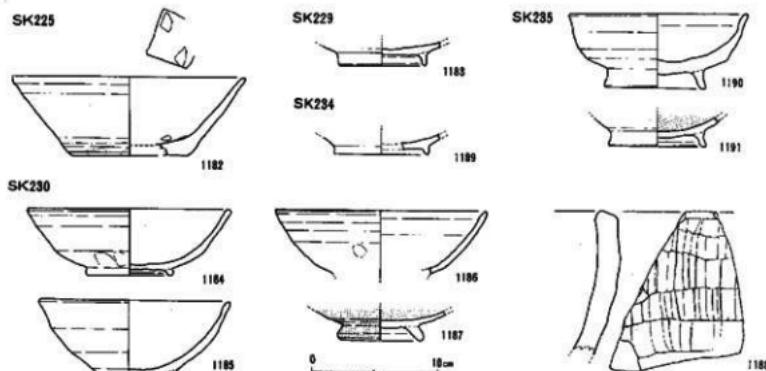


Fig. 159 SK225・229・230・234・235出土遺物実測図（1/4）

Tab.55 SK225・229・230・234・235出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法 製 (cm)				内面/外面	色 質	成 分	備考
			口径	底径	壁厚	高さ				
1182	龍虎文系青磁・焼	SK225	(18.4)	—	(9.0)	8.4	内面/外側	淡青～淡灰褐色	良好	内面: 白面オーブ、内底: 目上
1183	土師器・焼	SK229	—	—	6.5	(2.0)	内面/外側	淡青灰	良好	
1184	土師器・焼	SK230	(18.1)	—	(6.0)	5.3	内面/外側	淡青白	やや不良	ヘラ切り、板状底
1185	土師器・焼	SK230	15.2	—	3.7	6.0	内面/外側	灰～暗灰	良好	
1186	土師器・焼	SK230	(16.7)	—	—	(3.0)	内面/外側	淡青灰	良好	
1187	黒色土器B・焼	SK230	—	—	(6.7)	(2.5)	内面/外側	墨灰	良好	
1188	石器	SK230	—	—	—	(11.0)	内面/外側	淡灰	良好	
1189	綠釉・皿	SK234	—	—	(7.4)	(1.4)	内面/外側	灰	良好	内面コガ、外面スス付着
1190	土師器・焼	SK235	14.1	—	8.1	5.9	内面/外側	淡青灰	良好	やや山形
1191	黑色土器A・焼	SK235	—	—	7.8	(2.4)	内面/外側	墨灰/淡茶灰	良好	

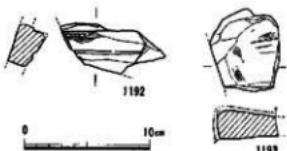


Fig. 160 B区遺構外出土遺物実測図（1/4）

Tab.56 B区遺構外出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法 製 (cm・g)				備考
			長さ	幅	厚さ	重さ	
1192	滑石製品	包含層	[3.2]	[8.4]	1.8	193	石器軸用未製品？
1193	砾石	包含層	[6.6]	[5.6]	2.3	132	砂岩、2面使用

#### (6) C区1面

C区は6次調査の東端に位置する。更に東には2次調査のB区、C区が位置する。2次調査では中世前半期の建物、井戸、土坑などが密集して検出されている。

C区1面は緑灰色～灰色シルトに灰白色～黄灰色の細砂を含む標高10.0mで遺構を検出した。検出面は非常にやわらかく、人の体重で沈むような軟弱で水を含む層であり、当初遺構の存在を予想していなかった。遺構は調査区の南東側半分しか存在しなかった。調査面積は遺構検出面で513m<sup>2</sup>を測る。溝3条、土坑5基と杭列、ピットを検出した。遺構密度は希薄で出土遺物もそれほど多くない。中世前半の遺構群と考えられる。

#### SD303 (Fig.162・163, Tab.57)

調査区東寄りに位置する南北方向の溝である。幅2.0～3.1m、深さ20～40cmを測る。床面はほぼ平坦である。両端とも発掘区外へ伸び、調査区内で長さ26m確認した。Fig.162に中央付近の土層断面図を示す。1～5層、あるいは6層までがSD303の覆土と考えられる。下部で2面の遺構であるSD327と重複している。

出土遺物をFig.163とTab.57に示す。出土遺物から11世紀前半～中頃の遺構と考えられる。

#### SD304 (Fig.162・163, Tab.57)

調査区東寄りに位置する南北方向の溝である。幅3.2～5.4m、深さ90～130cm。27m分確認した。両端は発掘区外へ伸びる。Fig.162に発掘区南壁での土層を示す。5～15層と18～23層の2時期が観察される。下層では3面の遺構であるSD333と重複しているため、掘りすぎてしまったところもある。東岸には杭が多数みられた。

出土遺物をFig.163とTab.57に示す。糸切りの土師器の壺・小皿、龍泉窯系青磁小碗Ⅲ類が出土しており、13世紀中頃から14世紀はじめ頃の遺構と考えられる。

#### SD305 (Fig.163, Tab.57)

調査区東寄りに位置する溝である。幅1.0～1.7m、深さ30～35cm。7.3m分確認した。屈曲している。両端とも発掘区外に伸びる。

出土遺物をFig.163とTab.57に示す。龍泉窯系青磁碗Ⅰ類が出土していることから12世紀後半の溝と考えられる。



Ph.121 C区1面全景（北から）



Ph.122 SD304（北から）

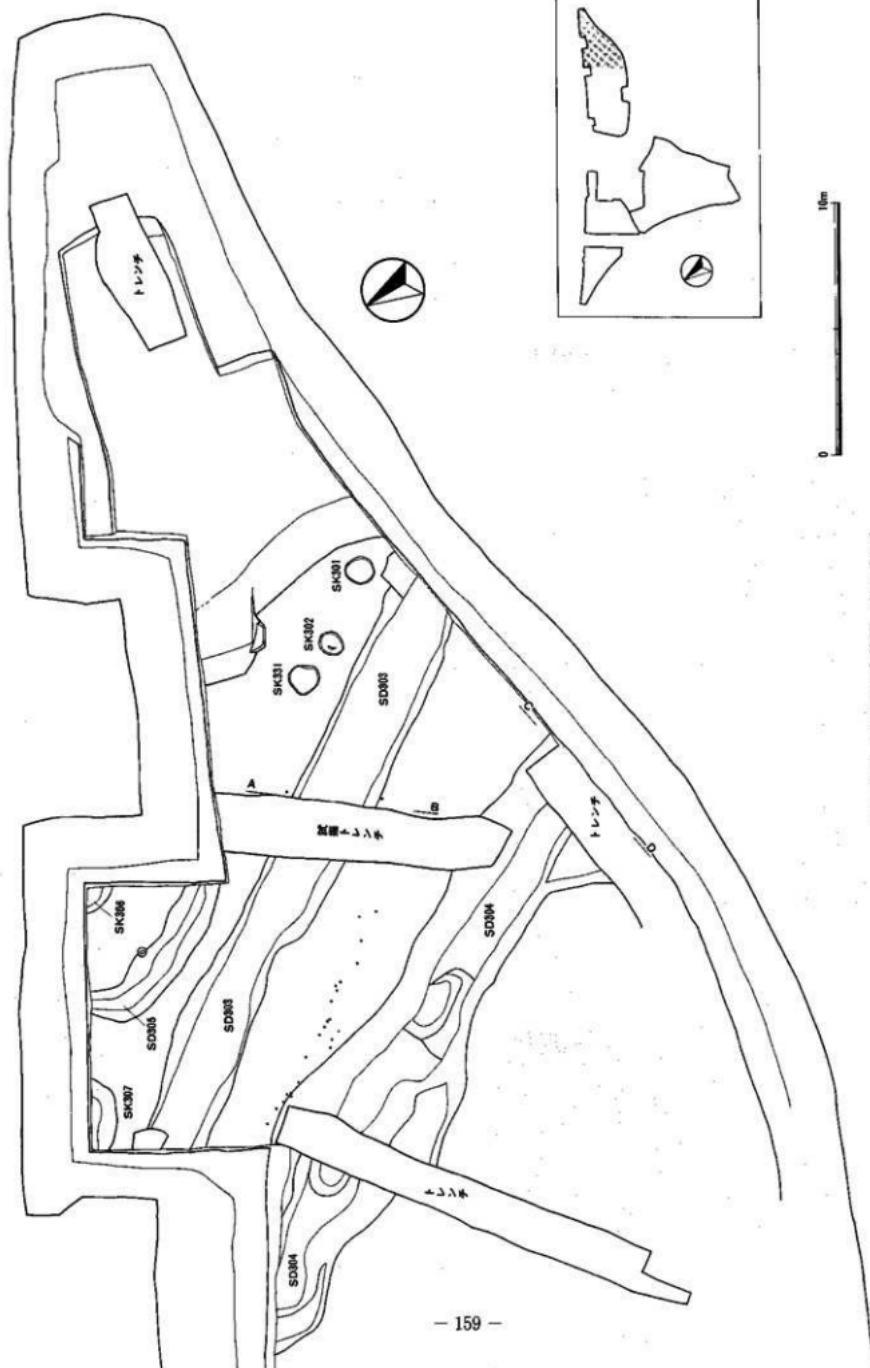


Fig.161 C区1面全体図（1／200）

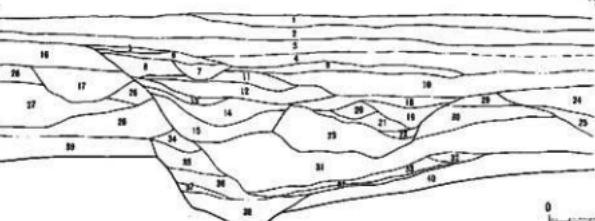
SD303・327

A

B  
9.6m

SD304・333

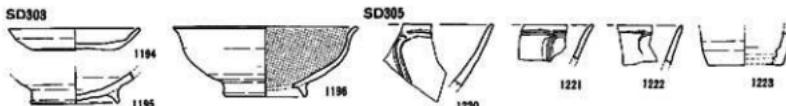
C

D  
10.6m

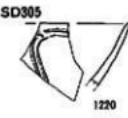
1. 黄褐色砂質土
2. 電気伝導度・緑色シルト・プロックク合む。
3. 黄褐色砂質土・緑色シルト・粘合。
4. 黄褐色砂質土・緑色粘質土の混合
5. 黄褐色粘質土
6. 黄褐色粘質土
7. 黄褐色砂質土
8. 黄褐色砂質土
9. 黄褐色砂質土
10. 黄褐色粘質土
11. 黄褐色砂質土・緑色シルトの混合
12. 黄褐色砂質土・緑色シルト含む。
13. 緑色粘質土と灰色シルトの互層
14. 緑色粘質土・粘合
15. 緑色粘質土・緑色砂質土の混合
16. 緑色粘質土・粘合
17. 緑色粘質土・鉄分含む。
18. 緑色粘質土・鉄分含む。
19. 緑色粘質土上に黒褐色の混合・暗褐色
20. 緑色粘質土上に黒褐色の混合・暗褐色
21. 緑色粘質土と黒褐色粘質土の混合
22. 暗褐色粘質土
23. 暗褐色粘質土
24. 暗褐色粘質土・鉄分含む
25. 黄褐色砂質土
26. 黄褐色砂質土・鉄分含む
27. 黄褐色砂質土・鉄分含む
28. 黄褐色粘質土
29. 黄褐色粘質土
30. 黄褐色粘質土
31. 黄褐色粘質土
32. 黄褐色粘質土
33. 黄褐色砂質土と黑色シルトの互層

1. 暗褐色粘質土・鉄分・炭化物含む。
  2. 緑色シルト・炭化物・鐵土多く含む。
  3. 黄褐色粘質土・より黃色味強い。
  4. 黄褐色粘質土・鉄分含む。
  5. 黄褐色土・鉄分含む。
  6. 黄褐色土・鉄分・炭化物・マンガン等子含む。
  7. 黄褐色シルト・炭化物多く含む。
  8. 黄褐色シルト・鉄分含む。
  9. 黄褐色土・鉄分・炭化物シルト含む。
  10. 黄褐色シルト・鉄分含む。
  11. 黄褐色粘質土・緑色シルト・鉄分含む。
  12. 黄褐色粘質土・鉄分含む。互層の変化。
  13. 暗褐色土・鉄分・炭化物・マンガン等子含む。
  14. 黄褐色粘質土・マンガン等子多く含む。
  15. 黄褐色粘土・鉄分多く含む。
  16. 黄褐色粘土
- 1～2 : SD303 6～9 : SD304  
10～19 : SD305

Fig.162 SD303・327・304・333土層図（1/50）

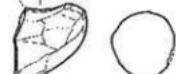
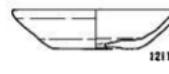
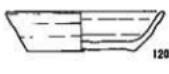


SD303

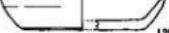
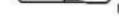


1221 1222 1223

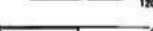
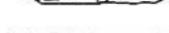
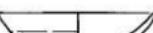
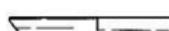
SD304



1218



1219



0 10cm

Fig.163 SD303・304・305出土遺物実測図（1/4）

Tab.57 SD303・304・305出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法尺 (cm)				内面/外面	色調 内面/外面	構成	備考
			口径	脚径	底径	器高				
1194	土器蓋・小皿	SD303	(10.2)	—	(6.8)	1.8	厚底	淡灰白	やや不良	ヘラ切り、板状底
1195	土器蓋・碗	SD303	—	—	(6.8) [2.5]	—	回転ナゲ/回転ナゲ	暗灰	良好	ヘラ切り、板状底
1196	黑色土器△・碗	SD303	(14.0)	—	(6.8)	5.5	厚底/回転ナゲ	深灰	不良	
1197	復元器・小皿	SD304	5.4	—	—	5.5	回転ナゲ/回転ナゲ/回転ナゲ/	灰	良好	
							青銅突起			
1198	土器蓋・小皿	SD304	(7.2)	—	(5.2)	1.0	厚底	明褐色	良好	糸切り、板状底
1199	土器蓋・小皿	SD304	8.4	—	6.7	1.4	回転ナゲ/回転ナゲ	淡青褐	良好	糸切り、板状底
1200	土器蓋・小皿	SD304	8.4	—	7.0	1.3	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰褐	良好	糸切り、板状底
1201	土器蓋・小皿	SD304	9.2	—	6.9	1.8	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡褐	良好	糸切り、板状底
1202	土器蓋・环	SD304	(11.0)	—	(5.4)	2.4	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡褐	良好	糸切り、板状底
1203	土器蓋・环	SU304	(12.2)	—	(7.0)	2.8	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡褐	良好	糸切り、板状底
1204	土器蓋・环	SD304	(12.4)	—	(7.4)	3.1	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡青白	良好	糸切り、板状底
1205	土器蓋・环	SD304	12.5	—	8.6	3.1	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡褐	良好	糸切り、板状底
1206	土器蓋・环	SD304	(12.8)	—	(5.4)	2.8	回転ナゲ/回転ナゲ	淡褐	良好	糸切り、板状底
1207	土器蓋・环	SD304	(12.8)	—	(6.0)	2.4	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡青褐	やや不良	糸切り、板状底
1208	土器蓋・环	SD304	(13.0)	—	(5.8)	2.7	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡黄白	良好	糸切り、板状底
1209	土器蓋・环	SD304	(13.0)	—	(6.0)	2.7	回転ナゲ/回転ナゲ	淡	やや良好	糸切り
1210	土器蓋・环	SD304	13.2	—	9.4	3.1	回転ナゲ/回転ナゲ	淡黄白	良好	糸切り
1211	土器蓋・环	SD304	(13.2)	—	(6.8)	3.1	回転ナゲ/回転ナゲ	淡褐	良好	糸切り
1212	土器蓋・环	SD304	13.4	—	9.5	3.0	回転ナゲ/回転ナゲ	淡白褐	良好	糸切り
1213	土器蓋・环	SD304	13.5	—	9.5	2.5	回転ナゲ/回転ナゲ	淡白褐	良好	糸切り
1214	土器蓋・环	SD304	(13.6)	—	(9.2)	3.0	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡褐	やや良好	糸切り
1215	土器蓋・环	SD304	(14.0)	—	(9.0)	2.5	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡褐	やや良好	糸切り
1216	土器蓋・环	SD304	(14.4)	—	(18.5)	3.1	回転ナゲ/回転ナゲ	淡黄白	良好	糸切り
1217	土器蓋・輪把手	SD304	—	—	—	—	ナゲ	灰	良好	
1218	陶質窓系古鏡・小鏡	SD304	(9.0)	—	—	3.4	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰白	良好	物: 青灰透明、厚い、微凹面
1220	陶質窓系古鏡・鏡	SD305	—	—	—	[3.0]	円筒ナゲ/回転ナゲ	灰白	良好	物: 青オリーブ透明、粗面
1221	陶質窓系古鏡・鏡	SD305	—	—	—	[3.0]	回転ナゲ/回転ナゲ	淡黄白	不良	物: 青オリーブ不透明、粗面
1222	陶質窓系古鏡・鏡	SD305	—	—	—	[3.0]	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	物: 古青透明、龍頭ノ形
1223	瓦器陶器・小口瓶	SD305	—	—	(5.0)	[2.6]	輪把手/回転ナゲ	灰白	良好	物: A群
番号	種類	出土位置	法尺 (cm)	長さ	幅	厚さ	重量	備考		
1219	滑石製品	SD304	10.6	(5.6)	2.7	112	石錐軸等、表面に再加工時のケズり痕、裏面にスス付着、つまみ部分に穿孔途中的痕跡			

その他の遺構と遺物 (Fig.164、Tab.58・59)

その他のC区1面の遺構の概要をTab.58に、出土遺物をFig.164とTab.59に示す。SK301・302・303は円形の浅い土坑で、底面に炭化物層が薄く堆積していることが共通する。

Tab.58 その他のC区1面の遺構

遺構番号	種類	遺構の概要	時期
SK301	円形土坑	調査区東寄りに位置する。径11.0m、深さ10cm。底部に炭化物が高く堆積する。	
SK302	場内形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.8m、幅軸0.8m、深さ10cm。炭化物多く含む。	
SK306	土坑	調査区東寄りに位置する。径推定2m、深さ15cm。大半が発掘区外に伸びる。	
SK307	土坑	調査区東寄りに位置する。長軸2.8m + a、深さ50cm。大半が発掘区外に伸びる。	12C後半～13C
SK313	場内形土坑	調査区東寄りに位置する。径1.2m、深さ10cm。底部に炭化物が高く堆積する。	



Fig.164 SK307出土遺物実測図 (1/4)

Tab.59 SK307出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	法尺 (cm)				内面/外面	色調 内面/外面	構成	備考
			口径	脚径	底径	器高				
1224	土器蓋・小皿	SK307	(9.1)	—	(7.0)	1.1	回転ナゲ/内底ナゲ/回転ナゲ	淡褐	良好	ヘラ切り
1225	土器蓋・小皿	SK307	(9.1)	—	(7.2)	1.4	回転ナゲ/回転ナゲ	淡灰	良好	糸切り
1226	瓦器・瓶	SK307	—	—	6.4	[3.5]	1ガキ/回転ナゲ	淡灰黃	良好	ヘラ切り、板状底

(7) C区2面

C区2面は標高9.6～9.8mの南側は緑灰色～灰褐色シルト、北側は灰白色粗砂の面で遺構検出をおこなった。溝15条、井戸1基、土坑6基を調査した。全域で遺構を確認したが、北側に分布が偏っている。SK323からは多量の遺物が出土し、その中に墨書き土器がみられる。調査面積は検出面で1717m<sup>2</sup>である。古代～中世前期の遺構群である。



Ph.123 C区2面全景（上が北西）

SD321 (Fig.166・167、Tab.60)

調査区西側に位置する東西方向の溝である。北西寄りでは南岸は発掘区外に伸びる。土層断面図の部分で幅3.8m、深さ40cmである。両端とも発掘区外に伸び、調査区内で検出された長さは54mである。西側は屈曲し、A-1区2面で検出した河川SD13に接続するのではないかと考えられる。

出土遺物をFig.167とTab.60に示す。これらの出土遺物より8世紀後半から9世紀中頃の造構と考えられる。

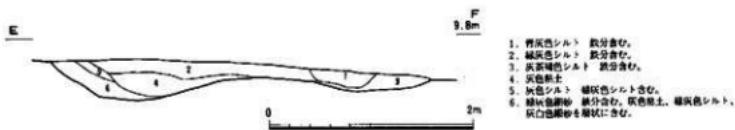


Fig.166 SD321 土層図 (1/50)



Fig.167 SD321 出土遺物実測図 (1/4)

Tab.60 SD321出土遺物観察表

番号	種類	出土	法 長 (cm)			層 部	内 底 外 縁	色 調	性 質	備 考
			口径	幅	高さ					
1227	須恵器・环底	SD321	13.2	-	-	[3.0]	回転ナデ/内転ナデ タスキ	灰	良好	ヘラ切り未調査
1228	須恵器・蓋	SD321	-	-	-	[2.0]	回転ナデ/内転ナデ、底底手持ちハラ タスキ	灰	良好	ヘラ切り
1229	須恵器・高环	SD321	10.6	-	-	[6.4]	回転ナデ/回転ナデ、中位に2条虎継 タスキ	淡灰	良好	
1230	須恵器・蓋	SD321	-	-	-	[4.2]	回転ナデ/カキ貝 タスキ	暗灰	良好	
1231	須恵器・蓋	SD321	-	(14.2)	-	[7.8]	当て具底/タスキ	暗灰	良好	
1232	土師器・口	SD321	17.2	-	1.8	[14.2]	回転ナデ/回転ナデ、外底内輪ハラケ タスキ	暗灰	良好	
1233	土師器・瓶	SD321	-	-	[9.2]	[3.4]	摩滅/草茎	淡赤褐色	不良	
1234	土師器・瓶	SD321	-	-	[9.3]	[2.2]	回転ナデ/回転ナデ タスキ	暗褐色	やや不良	ヘラ切り
1235	黒色土器 A・瓶	SD321	-	-	[8.0]	[4.4]	摩滅/回転ナデ タスキ	黑色/茶灰	良好	ヘラ切り
1236	土師器・环	SD321	17.3	-	8.8	3.9	回転ナデ/回転ナデ、外底内輪ハラケ タスキ	赤褐色	良好	
1237	土師器・瓶	SD321	[24.3]	[21.0]	-	[12.1]	ナデ/ハゲ	淡褐色/淡茶褐色~黒	良好	
1238	平底	SD321	[12.2]	[6.2]	[1.8]		布目/回転ナデ タスキ	茶灰	良好	
1239	丸底	SD321	[7.2]	[6.0]	[2.1]		布目/回転ナデ タスキ	茶灰~暗灰	不良	

SD327 (Fig.162・168、Ph.124、Tab.61)

調査区東寄りに位置する南北溝である。幅1.0~1.3m、深さ35~40cmを測る。両端とも発掘区外に伸びる。検出された長さは26mである。土層断面図をFig.162に示す。6~9層、あるいは7~9層がSD327の覆土である。SD303の下部で検出される。

出土遺物をFig.168とTab.61に示す。底部ヘラ切りの土師器の壺・小皿や土師器の椀・臺・甕などが出土している。これらの遺物より11世紀初頭から中頃の造構と考えられる。



Ph.124 SD327 (北から)

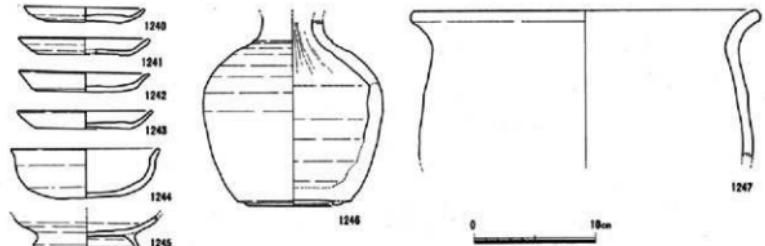


Fig.168 SD327出土遺物実測図 (1/4)

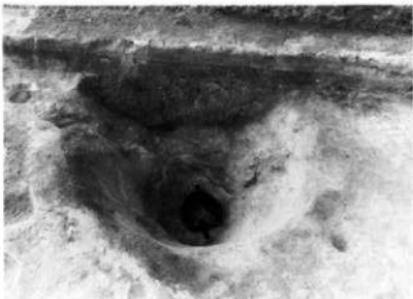
Tab.61 SD327出土遺物観察表

番号	種類	出土	法量(cm)			内面/外面	色/質	焼成	備考
			口径	胴径	底径				
1240	土師壺・小皿	SD327	(9.0)	—	(5.2)	1.1	回転ナゲ/回転ナゲ	褐	良好 ヘラ切り
1241	土師壺・小皿	SD327	(10.0)	—	(7.0)	1.4	摩滅/摩滅	黄白	不良 ヘラ切り
1242	土師壺・小皿	SD327	10.5	—	8.5	1.6	摩滅/摩滅	黄白	不良 ヘラ切り
1243	土師壺・小皿	SD327	11.0	—	7.5	1.5	摩滅/摩滅	褐	良好 ヘラ切り
1244	土師壺・杯	SD327	12.0	—	9.5	4.1	摩滅/摩滅	黄白	不良 ヘラ切り
1245	土師壺・碗	SD327	—	—	8.5	[2.8]	回転ナゲ/回転ナゲ	淡茶灰	良好 ヘラ切り
1246	土師壺・碗	SD327	—	(14.0)	(10.0)	[15.6]	回転ナゲ/回転ナゲケズリ	黄白	不良 ヘラ切り
1247	土師器・盤	SD327	(28.0)	—	—	[12.4]	摩滅/摩滅	黄褐	良好 外面スス付着

SE308 (Fig.169・170、Ph.125、Tab.62)

調査区北寄りに位置する円形曲物組井戸である。北西側は発掘区外に伸びる。SD319を切る。堀方の径は3.6m、深さは1.7mを測る。底面に底板を外した径60cm、高さ26cmの曲物を井筒に据える。井筒固定と保護のためと思われる杭が打たれている。

出土遺物をFig.170とTab.62に示す。これらの遺物から11世紀中頃から12世紀初頭の井戸と考えられる。



Ph.125 SE308 (南東から)

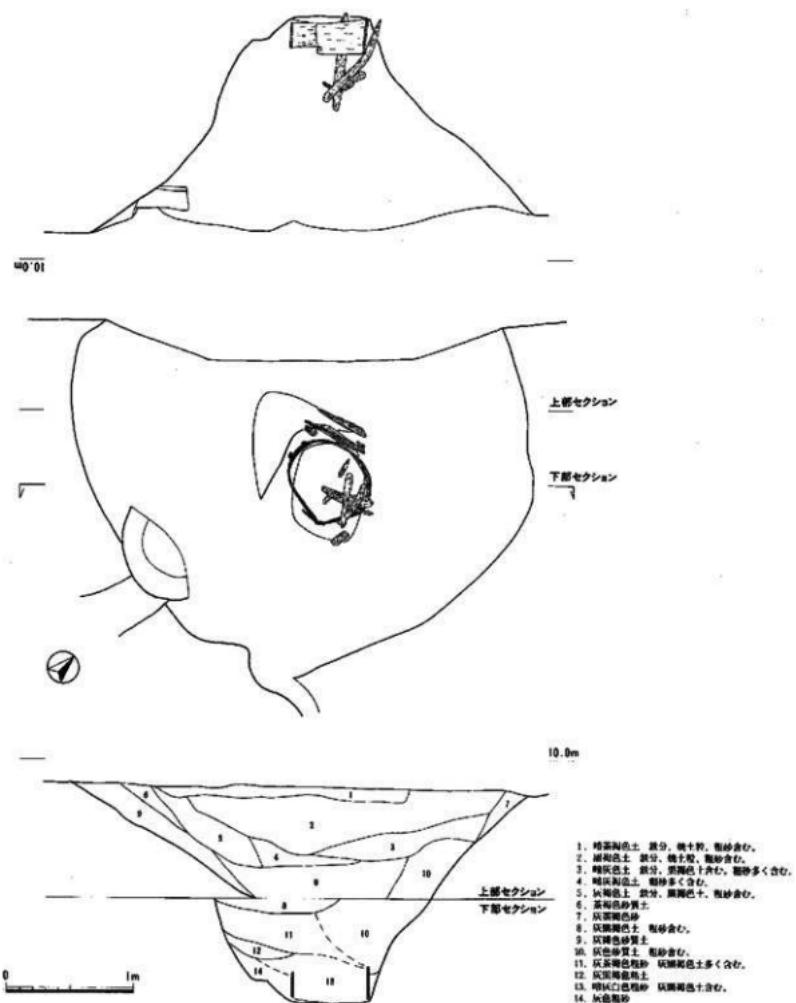


Fig.169 SE308実測図 (1/40)

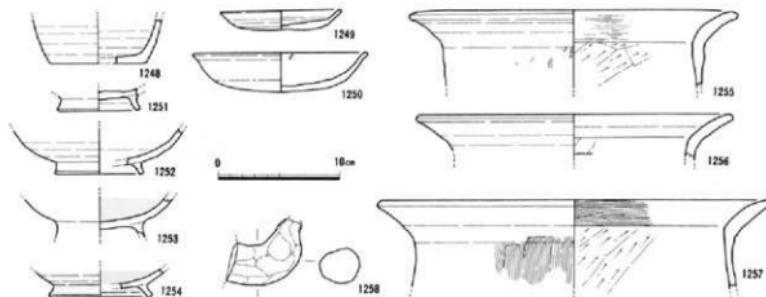
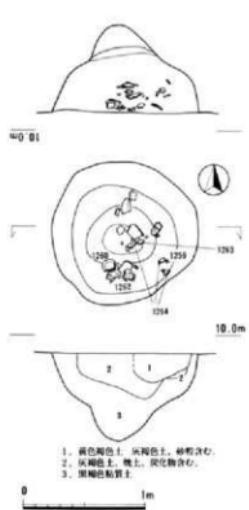


Fig.170 SE308出土遺物実測図 (1/4)

Tab.62 SE308出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	底面		内面/外面	色/質	内面/外面	焼成	備考
			口径	脚径					
1248	陶豆器・壺	SE308	-	-	(8.0) [3.7]	回転ナデ/脚跡へラケズリ	灰～暗灰	良好	
1249	土師器・小皿	SE308	19.6	-	6.8 1.6	回転ナデ/回転ナデ	灰灰	良好	ヘラ切り
1250	土師器・丸环	SE308	(14.2)	-	-	3.2	回転ナデ/回転ナデ	黄灰	良好
1251	土師器・碗	SE308	-	-	6.8	[1.8]	回転ナデ/回転ナデ	暗灰灰/淡褐色	良好
1252	土師器・碗	SE308	-	-	(7.3)	[3.8]	回転ナデ/回転ナデ、回転ヘラケズリ	橙灰	良好
1253	黒色土器 A・碗	SE308	-	-	-	[3.3]	ヒガキノ回転ナデ	加灰/漆基灰	良好
1254	黒色土器 B・碗	SE308	-	-	(8.5)	[2.3]	ヒガキノ回転ナデ	黑灰	良好
1255	土師器・壺	SE308	(27.0)	-	-	[6.5]	口縁ハケ、テヌリ/ハケ、ナデ	淡焼灰/暗焼灰	良好
1256	土師器・壺	SE308	(26.0)	-	-	[3.8]	脚部ナデ/	燒灰	良好
1257	土師器・壺	SE308	(32.0)	-	-	[7.3]	口縁ハケ、ケズリ/ハケ	暗灰～茶褐	良好
1258	土師器・瓶把手	SE308	-	-	-	-	ナデ	明焼灰	良好



Ph.126 SK309 (東から)

Fig.171 SK309実測図 (1/40)

SK309 (Fig. 171・172, Ph. 126, Tab. 63)

調査区西端に位置する径1.2m、深さ70cmの円形土坑である。深さ50cmのところで径50cmの窪みがある。

1、2層中より遺物がまとまって出土した。出土遺物をFig. 172とTab. 63に示す。底部へら切りの土師器の壺・皿・椀、黒色土器椀、滑石製石鍋などが出土している。出土遺物より10世紀の遺構と考えられる。

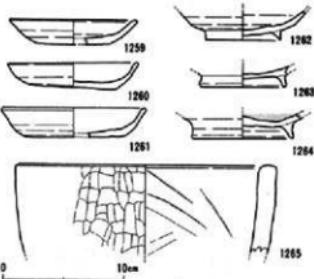


Fig. 172 SK309出土遺物実測図 (1/4)

Tab. 63 SK309出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法(cm)			内面/外面	内面/外面	施成	備考
			口径	脚径	底径				
1259	土師器・壺	SK309 (13.9)	-	(6.0)	2.0	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	高場/側灰	均好	へら切り。板伏痕
1260	土師器・杯	SK309 (19.8)	-	1.3	2.0	回転ナデ/回転ナデ	均灰	均好	へら切り。板伏痕
1261	土師器・壺	SK309 (12.0)	-	(8.0)	2.4	回転ナデ/回転ナデ	後場-後場	均好	へら切り
1262	土師器・碗	SK309	-	-	6.2 (2.5)	回転ナデ/回転ナデ	後場灰	均好	へら切り
1263	土師器・碗	SK309	-	-	(7.0) (1.8)	回転ナデ/回転ナデ	後茶灰	均好	へら切り
1264	黒色土器 A・椀	SK309	-	-	(8.0) (2.1)	回転ナデ、1グリット/回転ナデ	黒灰/後茶灰	均好	へら切り。板伏痕
1265	石鍋	SK309 (21.5)	-	-	[7.4]	ケズリ/ケズリ	灰	均好	外表面スス付着

SK323 (Fig. 173~175, Ph. 127・128, Tab. 64)

調査区北寄りに位置する大形の土坑である。大半が調査区外に伸びる。径は10m分確認している。深さは1.2mを測る。壁は緩やかに立ち上がる。SK315に切られる。

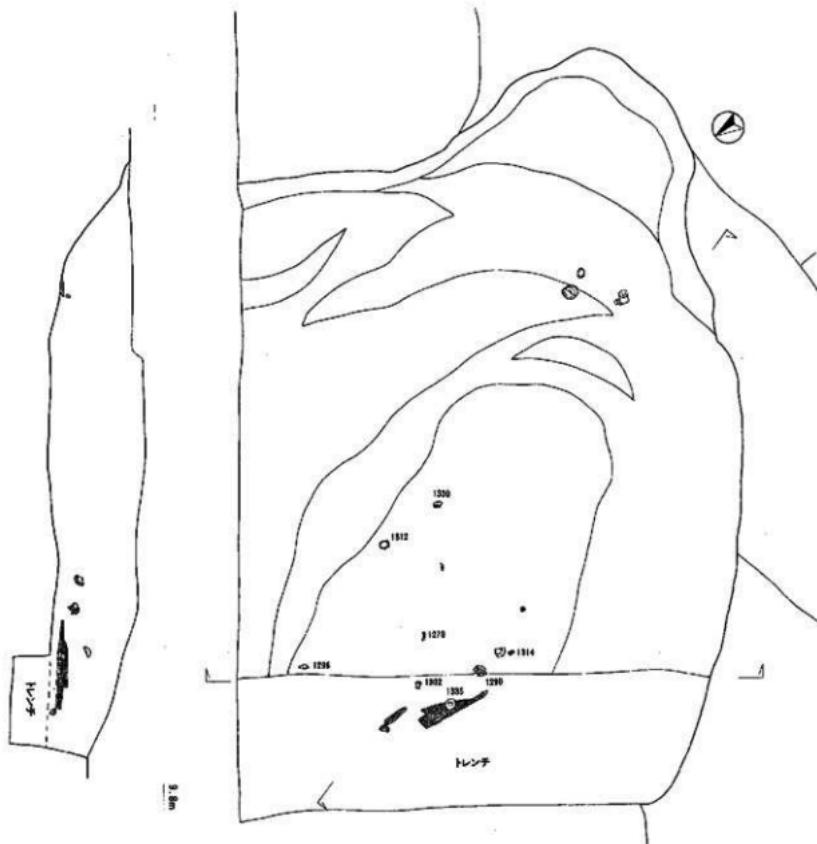
出土遺物をFig. 174・175とTab. 64に示す。須恵器の壺、皿、甕、蓋、土師器の壺、碗、甕、黑色土器碗などが出でている。特筆されるものに墨書き土器がある。須恵器1275・1276・1277・1278・1280・1283と土師器1309・1310・1311は同一記号が記されている。1275は「田」に見えるが、その他の墨書きより記号「丸に十字」と考えられる。1266は壺蓋のつまみに「柔」、1281・1279にも墨書きがみられる。その他特筆されるものとして、土師器の耳皿、邢窯系白磁碗がある。



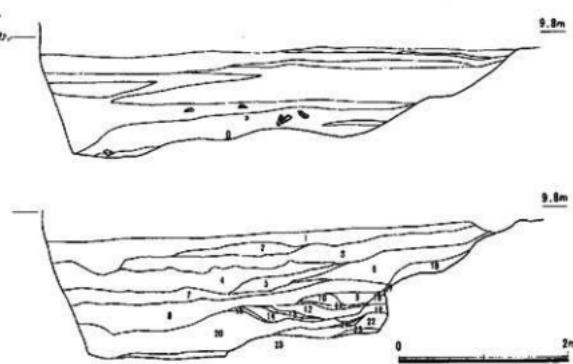
Ph. 127 SK323 (南西から)



Ph. 128 SK323遺物出土状況 (西から)



1. 黄褐色土、3より硬い、砂物多く含む。  
砂物含む。
2. 淡灰褐色土、軟化物多量含む、砂物含む。
3. 黄褐色土、1より硬い、砂物、  
炭化物含む。
4. 黄褐色粘土、砂物含む。
5. 黄褐色土、砂物多く含む、  
砂物多く含む。
6. 黄褐色粘土、砂物含む。
7. 黄褐色粘土、  
砂物含む。
8. 明るい褐色粘土、  
砂物含む。
9. 暗赤褐色粘土、  
砂物含む。
10. 深色褐色粘土、  
砂物含む。
11. 深色褐色土、本質含む、  
砂物含む。
12. 黑褐色土、本質含む、  
砂物含む。
13. 黑褐色土、本質含む、  
砂物含む。
14. 黄褐色粘土、  
砂物含む。
15. 黄褐色粘土、  
砂物含む。
16. 黄褐色粘土、  
砂物含む。
17. 黄褐色砂。
18. 黄褐色土。
19. 黄褐色土—シルト、水質含む、  
砂物含む。
20. 黄褐色土—シルト、  
砂物含む。
21. 黄褐色粘土、  
砂物含む。
22. 黄褐色粘土、  
砂物含む。
23. 黄褐色粘土、  
砂物含む。
- 1~3 : SK322 上部  
4~7 : SK322 中部  
8~23 : SK322 下部



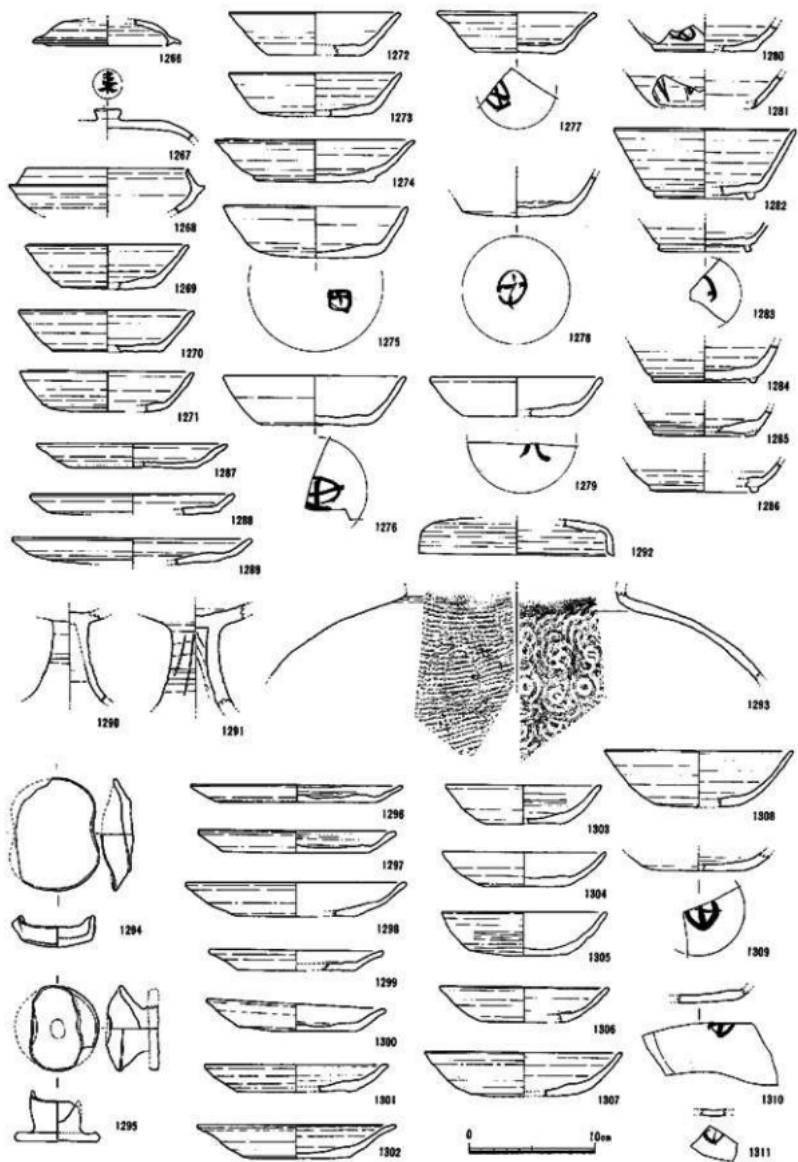


Fig.174 SK323出土遺物実測図 1 (1/4)

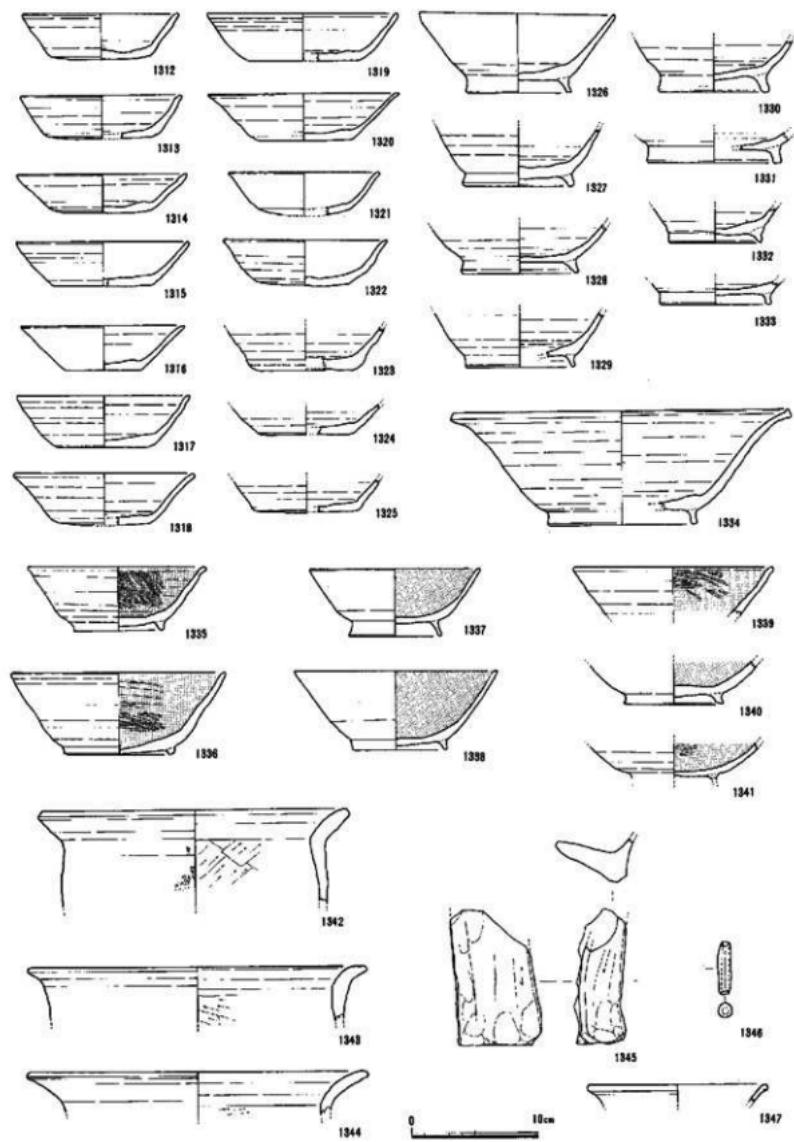


Fig.175 SK323出土遺物実測図 2 (1/4)

Tab.64 SK323出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法 口径	厚度	底延	種類	調査箇所		色調 内面/外面	形状	備考
							(cm)	内面/外面			
1246	須惠器・片葉	上層	(3.4)	-	-	[2.1]	回転ナデ/回転ナデ/回転ヘラケズリ	暗青灰/黒褐	良好	灰	良好 つまみに墨書き
1267	須恵器・蓋	トレンチ	-	-	[2.2]	[5.6]	回転ナデ/回転ナデ/回転ヘラケズリ	薄青灰	良好	灰	良好
1268	須恵器・火舟	上層	(2.8)	-	-	[5.6]	回転ナデ/回転ナデ/回転ヘラケズリ	淡灰	良好	灰	良好
1269	須恵器・环	下層	(2.8)	-	[7.5]	3.5	回転ナデ/回転ナデ	淡灰	良好	灰	ヘラ切り
1270	須恵器・环	中層	(13.8)	-	[8.7]	3.3	回転ナデ/回転ナデ	灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1271	須恵器・环	下層	(3.7)	-	[9.4]	3.2	回転ナデ/回転ナデ	淡青灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1272	須恵器・环	トレンチ	(3.6)	-	[7.0]	3.4	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	灰白	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1273	須恵器・环	下層	(3.7)	-	[8.9]	3.5	回転ナデ/回転ナデ	暗青灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1274	須恵器・环	下層	(5.8)	-	[9.6]	3.5	回転ナデ/回転ナデ	淡灰白	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1275	須恵器・环	下層	14.6	-	[3.5]	4.0	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	淡灰白	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1276	須恵器・环	下層	(14.4)	-	[8.2]	3.9	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1277	須恵器・环	下層	(12.7)	-	[6.2]	3.2	回転ナデ/内底ナデ	淡灰白	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1278	須恵器・环	-	-	-	[8.5]	[3.4]	回転ナデ/内底ナデ	淡灰白	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1279	須恵器・环	下層	(13.3)	-	[8.6]	3.1	回転ナデ/内底ナデ	灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1280	須恵器・环	中層	(8.3)	-	-	[2.4]	回転ナデ/内底ナデ	灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1281	須恵器・环	中層	-	-	[8.4]	[2.8]	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	淡青灰/淡灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1282	須恵器・环	高台付	(14.6)	-	[8.1]	5.5	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	淡青灰/淡灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1283	須恵器・夷村付	下層	-	-	[7.5]	[2.4]	回転ナデ/内底ナデ	灰/灰白	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1284	須恵器・高台付	上層	-	-	[8.3]	[3.1]	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	青灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1285	須恵器・高台付	中層	-	-	[8.2]	[2.3]	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	青灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1286	須恵器・高台付	上層	-	-	[8.6]	[2.5]	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	青灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1287	須恵器・环	中層	(3.8)	-	[10.1]	1.9	回転ナデ/内底ナデ/カタ	堆灰/堆灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1288	須恵器・环	下層	(6.2)	-	[10.4]	1.7	回転ナデ/内底ナデ	青灰/灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1289	須恵器・环	中層	(9.0)	-	[10.8]	[2.1]	回転ナデ/回転ナデ	灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1290	須恵器・环	高台	-	-	[8.4]	-	回転ナデ/内底ナデ/カタ	堆灰/堆灰	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1291	須恵器・高环	中層	-	-	[8.3]	-	回転ナデ/内底ナデ/カタ	青灰/黒灰	良好	青灰	間にヘラ記号
1292	須恵器・広口直腹	トレンチ	(15.5)	-	-	[2.8]	回転ナデ/内底ナデ/回転ヘラケズリ	堆青灰/淡青灰	良好	青灰	良好
1293	須恵器・環	-	-	-	[7.3]	-	内底ノリ/ナリ	青灰/淡灰	良好	青灰	ヘラ切り
1294	土師器・耳皿	中層	6.2~9.0	-	[5.4~5.8]	1.8~2.4	回転ナデ/内底ナデ	淡褐色	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1295	土師器・耳皿	中層	3.8~7.0	-	[6.8]	2.2~4.2	回転ナデ/内底ナデ	淡褐色	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1296	土師器・耳皿	-	(7.0)	-	[13.3]	1.3	回転ナデ/ガタ/回転ナデ/内底回転ヘラケズリ	淡褐色	良好	青灰	良好
1297	土師器・耳皿	下層	(5.8)	-	[11.4]	1.7	回転ナデ/ガタ/回転ナデ/外底回転ヘラケズリ	淡褐色	良好	青灰	ヘラ切り
1298	土師器・耳皿	下層	(7.0)	-	[5.4]	2.7	回転ナデ/ガタ/内底ナデ/外底ト平~外底回転ヘラケズリ	褐	良好	青灰	良好
1299	土師器・耳皿	中層	(9.8)	-	[9.2]	1.6	回転ナデ/内底トド	堆灰	やや不良	ヘラ切り	ヘラ切り
1300	土師器・耳皿	中層	14.2	-	[9.3]	2.2	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1301	土師器・耳皿	中層	(14.6)	-	[9.4]	2.2	回転ナデ/内底ナデ	淡褐色	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1302	土師器・耳皿	中層	(15.8)	-	[8.8]	2.6	回転ナデ/内底ナデ	淡褐色	良好	ヘラ切り	ヘラ切り
1303	土師器・环	下層	(12.2)	-	[5.8]	3.1	回転ミガタ/回転ナデ/体部下平~外底回転ヘラケズリ	淡褐色	良好	青灰	良好
1304	土師器・环	下層	(13.0)	-	[6.2]	2.7	回転ミガタ/回転ナデ/カタ/外底回転ヘラケズリ	淡青灰	良好	青灰	良好
1305	土師器・环	トレンチ	12.2	-	7.8	3.5	回転ミガタ/回転ナデ/外底回転ヘラケズリ	淡褐色	やや良好	青灰	良好
1306	土師器・环	上層	(13.0)	-	[6.9]	2.8	回転ナデ/回転ナデ/カタ	淡褐色	良好	青灰	良好
1307	土師器・环	下層	(15.6)	-	[10.8]	3.5	回転ナデ/回転ナデ/体部下半周切	淡青灰	良好	青灰	良好
1308	土師器・环	上層	-	-	[8.8]	[1.0]	回転ミガタ/回転ヘラケズリ	淡褐色	良好	青灰	外底に墨書き
1309	土師器・环	下層	-	-	-	-	回転ナデ/回転ヘラケズリ	淡褐色	良好	青灰	外底に墨書き
1310	土師器・环	-	-	-	-	-	回転ナデ/回転ヘラケズリ	淡褐色	良好	青灰	外底に墨書き
1311	土師器・环	下層	-	-	-	-	回転ナデ/回転ヘラケズリ	淡褐色	良好	青灰	外底に墨書き
1312	土師器・环	中層	(12.4)	-	[7.0]	3.6	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1313	土師器・环	中層	(12.0)	-	[8.3]	3.1	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1314	土師器・环	中層	(13.0)	-	[8.4]	3.1	回転ナデ/内底ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1315	土師器・环	トレンチ	(13.0)	-	[7.8]	3.5	摩擦/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1316	土師器・环	中層	(12.0)	-	[6.0]	3.5	摩擦	淡褐色	良好	青灰	良好
1317	土師器・环	中層	(13.0)	-	[7.0]	4.1	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1318	土師器・环	中層	(14.0)	-	[7.0]	4.2	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1319	土師器・环	中層	(15.0)	-	[12.0]	3.8	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1320	土師器・环	中層	(15.1)	-	[8.3]	3.7	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色/淡灰/淡灰	良好	青灰	良好
1321	土師器・环	-	(12.0)	-	[7.4]	[3.4]	回転ナデ/回転ナデ	梅	不良	青灰	良好
1322	土師器・环	-	13.0	-	[7.5]	3.6	回転ナデ/回転ナデ	梅	不良	青灰	良好
1323	土師器・环	中層	-	-	[6.0]	[3.3]	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	ヘラ切り
1324	土師器・环	中層	-	-	[7.7]	[2.4]	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1325	土師器・环	中層	-	-	[8.0]	[2.8]	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1326	土師器・环	-	15.5	-	-	5.2	摩擦	淡褐色	良好	青灰	良好
1327	土師器・环	-	-	-	[5.8]	4.83	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1328	土師器・环	中層	-	-	[9.3]	[3.9]	回転ナデ/回転ナデ/回転ナデ/外底回転ヘラケ	淡褐色	良好	青灰	良好
1329	土師器・环	中層	-	-	[8.7]	[4.4]	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好
1330	土師器・环	-	-	-	[8.8]	[4.3]	回転ナデ/回転ナデ	淡褐色	良好	青灰	良好

番号	種類	出土地	寸法 (cm)			調査区分	内面/外面	色/質	成形	備考	
			口径	脚径	底径						
1331	土師器・瓶	中層	-	-	(10.7) [2.5]	回転ナデ/回転ナデ	灰灰～暗茶褐色/淡褐色	良好	ヘラ切り		
1332	土師器・瓶	上層	-	-	7.4 [2.7]	回転ナデ/回転ナデ	暗灰～茶灰	良好	ヘラ切り		
1333	土師器・瓶	中層	-	-	(8.0) [1.8]	回転ナデ/回転ナデ	灰灰茶～淡褐色	不良	ヘラ切り		
1334	土師器・大瓶	トレンチ (27.0)	-	-	(11.9) 9.0	回転ナデ/回転ナデ/体下部～外底回	灰灰茶～暗茶褐色/茶灰	良好			
1335	黒色土器 A・瓶		14.0	-	(7.1) 5.1	ミガキ/回転ナデ	暗灰/淡褐色	良好	ヘラ切り		
1336	黒色土器 A・瓶	中層	(16.5)	-	(8.6) 6.5	ミガキ/回転ナデ/体下部～外底回	灰/褐	良好	ヘラ切り		
1337	黒色土器 A・瓶	トレンチ (13.0)	-	-	(7.4) 5.4	摩減/ミガキ?	灰/淡褐色	不良	ヘラ切り		
1338	黒色土器 A・瓶	中層	8.0	-	7.4 6.3	ミガキ/回転ナデ/体下部回	黑/褐色	不良	ヘラ切り		
1339	黒色土器 A・瓶	中層	(15.9)	-	-	(3.9)	ミガキ/回転ナデ	黑灰～黑褐色/褐	良好		
1340	黒色土器 A・瓶	上層	-	-	(7.8) 3.4	ミガキ/深褐色	暗灰/褐色	良好	ヘラ切り		
1341	黒色土器 A・瓶	前	-	-	-	(3.0)	ミガキ/回転ナデ	暗灰/淡褐色	良好	ヘラ切り	
1342	土師器・壺	中層	(24.6)	-	-	(7.7)	ケズリ/ノケ	灰灰茶/淡褐色	良好		
1343	土師器・壺	牛乳	(23.8)	-	-	(4.4)	ケズリ/ノケ	灰褐色	やや不良		
1344	土師器・壺	牛乳	(21.0)	-	-	(3.6)	ケズリ/ノケ	淡褐色/茶褐色	良好		
1345	土師器・壺	下第	-	-	-	-	ナガ/ナダ	茶灰/褐色	良好		
1346	土器	上層	長1.2	径1.0	重	-	-	淡黄色	良好		
1347	陶製系白磁・瓶	上層	(14.0)	-	-	[1.5]	回転ナデ/回転ナデ	青白	良好	種: 洋白透明	

出土遺物より 8世紀後半から 9世紀の遺構と考えられる。

その他の遺構と遺物 (Fig.176・177 Tab.65~67)

その他のC区2面の遺構の概要をTab.65に示し、出土遺物をFig.176・177とTab.66・67に示す。調査区北寄りで溝が多数検出されたが出土遺物は少ない。SD310とSD318は接続して区画溝となるか。SK322は調査区壁の土層から上層からの掘り込みであると確認された。肥前系の陶器が出土しており、近世の遺構である。

Tab.65 その他のC区2面の遺構

遺構番号	種類	遺構の概要	時期
SD310	区画溝?	調査区北寄りに位置する。幅0.9~1.3m、深さ10~20cm、3.5m 分離認した。南側で直角に屈曲する。SD311を切る。北側は発掘区外に伸びる。SD318と接続するか。	古代
SD311	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.6~0.7m、深さ35cm、4.6m 分離認した。SD310に切られる。北側は発掘区外に伸びる。	
SD312	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅1.2~2.0m、深さ10~20cm、長さ8.4m。SD317を切る。	
SD313	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.4~0.9m、深さ5~13cm、長さ9.1m。	古代
SD314	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅0.7~0.8m、深さ10cm、長さ4.4m。SD316を切る。	
SK315	横円形土坑	調査区北寄りに位置する。長軸10.1m、短軸3.1m、深さ20cm。SK323を切る。	13C前半
SD316	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅0.4~0.9m、深さ20cm、1.0m 分離認した。SD314に切られる。東側は調査区外に伸びる。	
SD317	南北溝	調査区北寄りに位置する。東側で幅0.7~2.1m、深さ15~20cm、15.8m 分離認した。西側の溝は深さ5 cm と浅く、別の溝との属性が違い。SD312・321に分られる。南側は調査区外に伸びる。	
SD318	東西溝	調査区北寄りに位置する。幅1.0~1.5m、深さ20~40cm、長さ6.7m。SD316に接続する。	古代
SD319	南北溝	調査区北寄りに位置する。幅0.4~1.1m、深さ15~35cm、5.7m 分離認した。北側でSE308に切られる。	
SD320	東西溝	調査区中央部に位置する。幅0.7~0.9m、深さ10~20cm、長さ7.8m。	古代
SK322	土坑	調査区中央部に位置する。長48.3m + α、短軸4.5m + α、深さ1.7m。大半が発掘区外に伸びる。上層から掘り込みである。	近世
SD324	東西溝	調査区東寄りに位置する。幅0.7~1.2m、深さ10~20cm、10.0m 分離認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD325を切る。	
SD325	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.2~0.9m、深さ20cm、12.2m 分離認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD324に切られる。	
SK326	南円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.3m、短軸1.0m、深さ55cm。	
SD328	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.4~0.7m、深さ15~30cm、1.3m 分離認した。南側は調査区外に伸びる。	
SK329	南円形土坑	調査区東寄りに位置する。長軸1.2m、短軸1.0m、深さ15cm。	

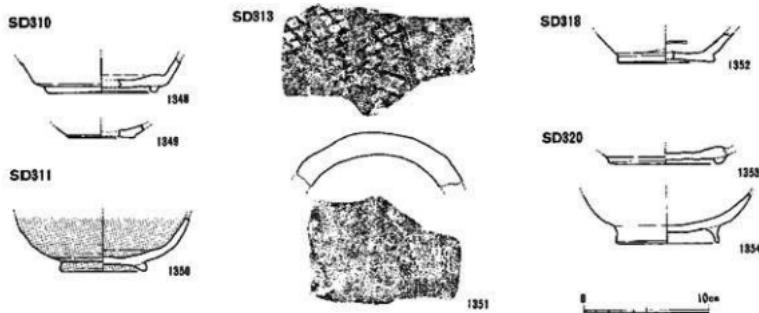


Fig.176 SD310・311・313・318・320出土遺物実測図 (1/4)

Tab.66 SD310・311・313・318・320出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法(cm)				内面/外面	色	構成	備考
			口径	脚径	底深	腹高				
1348	須恵器・高台付环	SD310	-	-	(8.0)	[3.0]	凹輪ナデ/凸輪ナデ	灰	良好	ヘラ切り
1349	須恵器・環	SD319	-	-	(5.0)	[1.2]	ミガキ/凹輪ナデ	淡黃白	良好	土接合:全幅、底黄緑不透明
1350	黒色土器B・輪	SD311	-	-	(6.0)	[4.4]	厚底/厚底	明褐色~灰黑色	不良	
1351	丸瓦	SD313	-	-	-	-	布目/格子目タテ	淡灰白	不良	
1352	越州窑青瓷・碗	SD318	-	-	(7.0)	[2.2]	凹輪ナデ/凹輪ナデ	灰	良好	薄手半透明、茎オリエント
1353	須恵器・高台付环	SD320	-	-	(9.2)	[3.0]	凹輪ナデ/内底ナデ/凹輪ナデ	淡灰/淡青灰	良好	透明白、化粧工、内底土
1354	土師器・輪	SD320	-	-	(8.0)	[4.0]	厚底/厚底	淡灰	良好	ヘラ切り

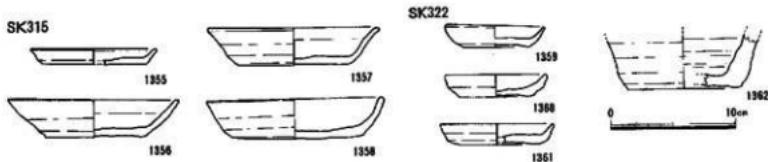


Fig.177 SK315・322出土遺物実測図 (1/4)

Tab.67 SK315・322出土遺物観察表

番号	種類	出土位置	寸法(cm)				内面/外面	色	構成	備考
			口径	脚径	底深	腹高				
1355	土師器・小皿	SK315	(10.0)	-	(8.0)	1.2	凹輪ナデ/内底ナデ/凹輪ナデ	淡灰白	良好	ヘラ切り、板状底
1356	土師器・环	SK316	13.4	-	8.0	3.0	凹輪ナデ/内底ナデ/凹輪ナデ	淡黃白	良好	糸切り、板状底
1357	土師器・环	SK318	(13.6)	-	(8.5)	2.9	凹輪ナデ/内底ナデ/凹輪ナデ	赤黃白	良好	糸切り、板状底
1358	土師器・环	SK319	14.1	-	10.3	3.1	凹輪ナデ/内底ナデ/凹輪ナデ	赤褐色	良好	糸切り、板状底
1359	土師器・小皿	SK322	8.0	-	5.4	1.7	凹輪ナデ/凹輪ナデ	淡灰褐色	良好	糸切り
1360	土師器・小皿	SK322	(8.2)	-	(6.0)	1.7	凹輪ナデ/凹輪ナデ	淡黃白	良好	糸切り
1361	土師器・小皿	SK322	(9.0)	-	(5.7)	1.6	凹輪ナデ/凹輪ナデ	淡褐	良好	糸切り
1362	地輪器・蓋	SK322	-	-	(9.0)	[4.0]	織縫紋/凹輪ナデ	暗灰	良好	糸:淡灰黄不透明、陶器

(8) C区3面

調査区南東端に1面検出時に開けたトレンチにより、古墳時代の溝らしきものが見つかっており、遺構面の存在が予想されていた。標高9.3mの黒褐色粘土面で灰黒色～暗灰色粘質土を覆土にする遺構が検出されたが、更に10cm下の茶褐色粘土面まで下げた。茶褐色粘土の面まで下げるに新たに黒褐色粘土の覆土をもつ遺構らしきものが増えたが、掘ってみると小さな自然の窪みであり、茶褐色粘土面には遺構は存在しなかった。黒褐色粘土面が存在するのは1面で検出したSD304より東側に限られた。よって遺構もC区東側3分の1程度までしか広がらなかった。掘立柱建物5棟、溝・河川6条、性格不明遺構1基を調査した。調査面積は遺構検出面で430m<sup>2</sup>である。古墳時代中期～後期初頭の遺構群と考えられる。



Ph.129 C区3面全景(南東から)

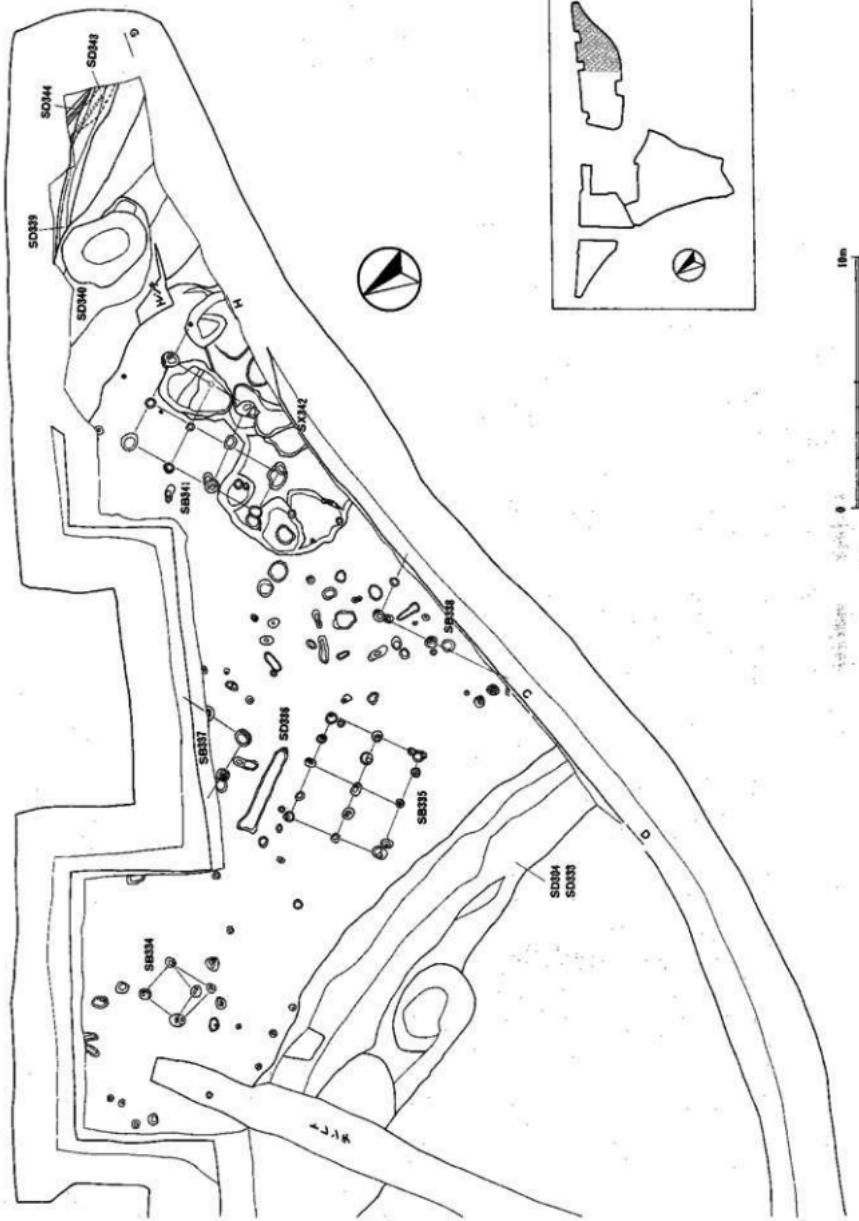


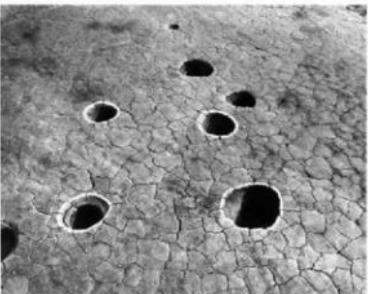
Fig. 178 C区3面全体図 (1/200)

SB334 (Fig.179 Ph.131)

調査区東寄りで検出した1間×1間の建物である。周囲に組み合う柱穴がなく1間×1間で完結してしまった。南西の柱穴が2基あり、どちらが建物を構成する柱穴か判断できなかった。1.8m四方の規模である。柱穴の幅方は径40cmの円形である。深さは50cmである。



Ph.130 建物群（南東から）



Ph.131 SB334（北から）



Ph.132 SB335（北東から）



Ph.133 SB337（南東から）



Ph.134 SB338（北東から）



Ph.135 SB341（北東から）

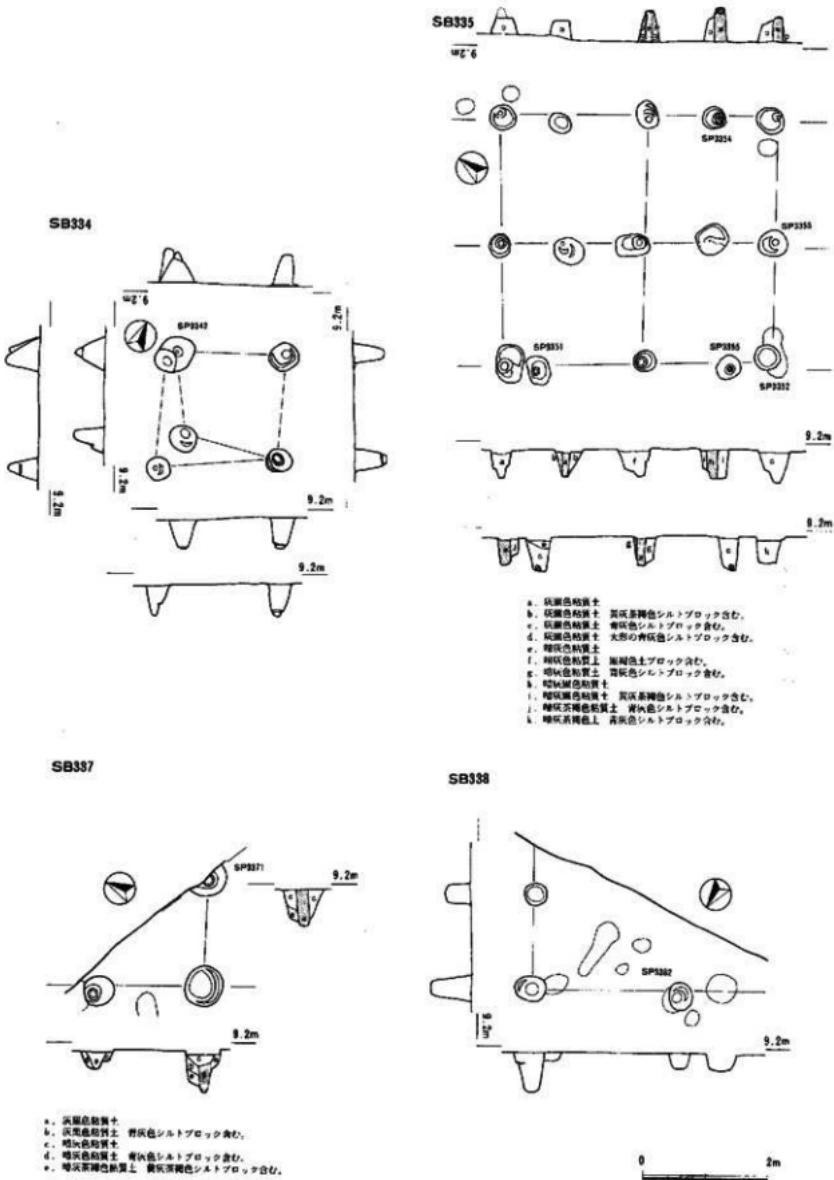


Fig.179 SB334・335・337・338実測図 (1/80)

**SB335 (Fig.179、Ph.132)**

調査区東寄りで検出した2間×2間の掘立柱建物である。南北筋にはそれぞれ柱穴の間に補助柱の柱穴がある。建物規模は南北4.4m、東西4.0mである。柱穴の掘方は径40~50cmの円形で、深さは30~50cmである。柱根が残るものもある。東側に南北柱筋と平行する溝SD336があり建物の付属施設の可能性がある。

**SB337 (Fig.179、Ph.133)**

調査区東寄りで検出した掘立柱建物で、東側は調査区外に伸びる。調査区内では1間×1間を確認した。柱間は1.7mを測る。柱穴掘方は50~60cmの円形で、深さ30~70cm。径18cmほどの柱痕跡を残す。

**SB338 (Fig.179、Ph.134)**

調査区東寄りで検出した掘立柱建物で、南側は調査区外に伸びる。調査区内では1間×1間を確認した。南北の柱間は1.7m、東西の柱間は2.3mである。柱筋はSB335と同一である。柱穴の掘方は径40~50cmの円形、深さは25~60cm。

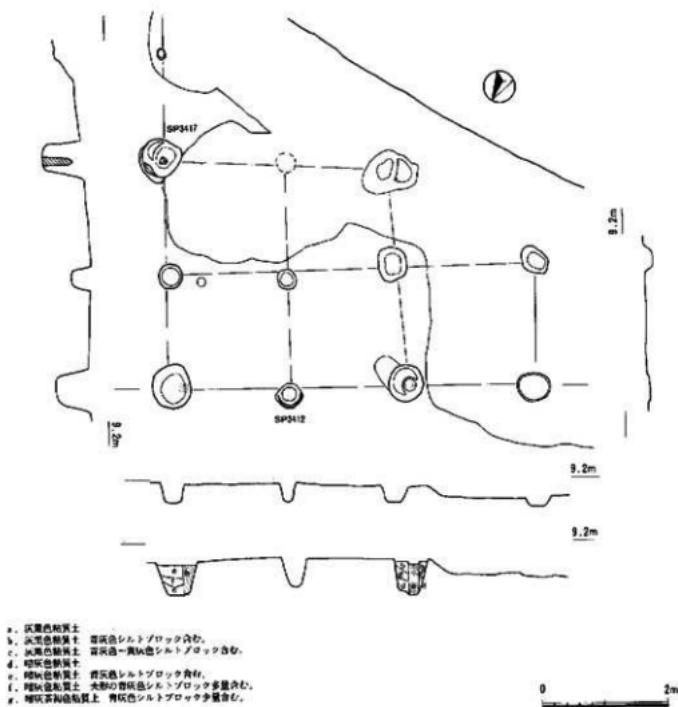


Fig.180 SB341実測図 (1/80)

### SB341 (Fig.180, Ph.135)

調査区東寄りで検出した掘立柱建物である。Fig.180には3間×3間の規模を図示した。建物規模は南北5.4m、東西5.7mであり、南側は調査区外に伸びる。ただし、南側と西側はSX342に切られられており、柱穴がはっきりしなかった。南側と西側の1分は伸びない可能性があり、確実に建物といえる規模は3.8m四方の2間×2間である。柱筋はSB335・338と同一である。柱穴の掘方は径30~60cmの円形で、深さは30~60cm、柱根が残るものもある。

### SD340 (Fig.181~182, Ph.136, Tab.68)

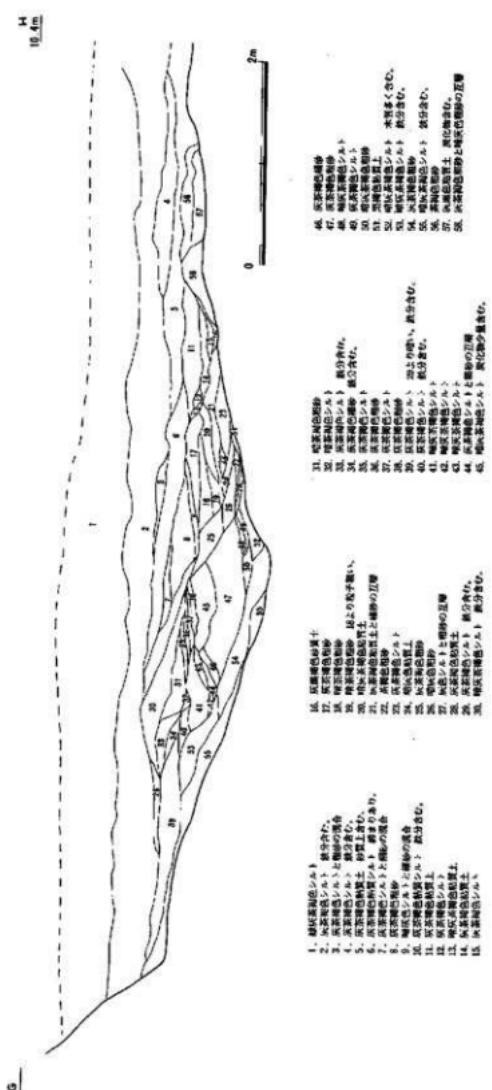
調査区東端で検出した南北方向に向流れる河川である。幅は約4~5m、深さは80~110cmを測る。中央部が深く窪んでおり、この部分の深さは170cm程度である。両端は発掘区外に伸び、長さは8m分しか確認できていない。Fig.181に調査区南壁での土層断面図を示す。細い小溝となって流路を変えながら埋没していく状況が観察できる。覆土はシルト~細砂で比較的強い流れがあったようである。

出土遺物をFig.182とTab.68に示す。A-1区で検出した河川SD14より若干新しい様相を示す。

#### その他の遺構と遺物

(Fig.183~184 Tab.69~71)

他のC区3面の遺構の概要をTab.69に示し、出土遺物をFig.183~184とTab.70~71





Ph.136 SD340 (北から)

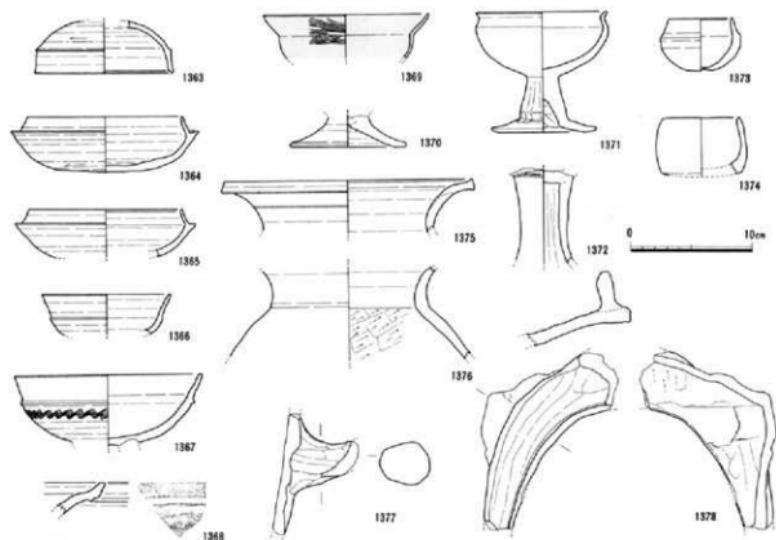


Fig.182 SD340出土遺物実測図 (1/4)

Tab.68 SD340出土遺物観察表

番号	種類	出土箇所	法尺 (cm)				内面/外面	色/質	成形	備考
			口径	脚径	底径	高さ				
1363	須恵器・环形	SD340 (11.0)	—	—	—	4.6	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/灰~暗灰	良好	I-5-B-1
1364	須恵器・环形	SD340 (12.0)	—	—	—	4.6	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/灰	良好	B-1
1365	須恵器・环形	SD340 (12.7)	—	—	—	3.9	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	青灰/灰~暗灰	良好	B-1~B-2
1366	須恵器・环形	SD340 (13.0)	—	—	—	3.4	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	暗灰	良好	
1367	須恵器・环形	SD340 (15.0)	—	—	—	6.0	回転ナゲ/回転ナゲ、回転ヘラケズリ	灰	良好	3方透かし、I-3?
1368	須恵器・盒	SD340 (—)	—	—	—	2.8	同軸ナゲ/同軸ナゲ、波状文	灰/暗灰	良好	
1369	土師器・盆	SD340 (13.0)	—	—	—	4.0	同軸ナゲ/腰部ハケ、L字窓	灰/黑	良好	
1373	土師器・罐	SD340 (—)	—	(9.5)	(2.6)	—	回転ナゲ/回転ナゲ	茶灰~褐色系/暗灰	良好	
1371	土師器・高环	SD340 (16.0)	—	(5.6)	9.8	环底厚壁、脚部ナゲ/环底厚壁、脚部ナゲ	赤褐色	不良		
1372	土師器・高环	SD340 (—)	—	—	(7.7)	ケズリ/ナゲ	灰灰	良好		
1373	土師器・小形盆	SD340 (5.2)	—	—	4.2	回転ナゲ/ナゲ	灰	良好		
1374	土師器・小形盆	SD340 (6.2)	—	(5.6)	4.8	ナゲ/ナゲ	灰	良好		
1375	土師器・甕	SD340 (20.8)	—	—	(4.5)	回転ナゲ/回転ナゲ	青灰	良好		
1376	土師器・甕	SD340 (12.5)	—	—	(7.7)	ケズリ/ナゲ	明褐色	良好		
1377	土師器・陶片下	SD340 (—)	—	—	—	—	ナゲ/ナゲ	灰灰/青灰	良好	
1378	土師器・甕	SD340 (—)	—	—	—	—	ナゲ/ナゲ	茶灰/黄灰	良好	

に示す。SD333は1面の溝SD304の下部で検出した溝で龍泉窯系青磁碗1380はSD304に属するものであろう。SX342はいくつかの円形の浅い窪みが重なったような状況であるが、切り合いで確認できず、一連のものとして振り下した。

また、C区のピット、遺構外の出土遺物をFig.185とTab.72に示す。須恵器壺蓋1384はOトレントからの出土であり、周囲の基盤層の形成が古墳時代後期であることを示す遺物である。

Tab.69 その他のC区3面の遺構

遺構番号	種類	遺構の概要	時期
SX333	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅3~4m、深さ60~70cm、3.7m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD334の下部で検出。	古墳時代
SD336	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.4m、深さ15cm、長さ31.7m。SD335・337と横がほぼ同じ。どちらかに付ける。SD340に切られたSD343・344を切る。	古墳時代
SD339	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.5~0.6m、深さ15cm、7.6m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD340に切られたSD343・344を切る。	古墳時代
SX342	不必考の様子?	調査区東寄りに位置する。長径11.0m、幅約4.2m±0、深さ20~50cm。底面の凹凸が多い。	古墳時代
SD343	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.3m、深さ25cm、1.4m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD344に切られる。	古墳時代
SD344	南北溝	調査区東寄りに位置する。幅0.2m、深さ30cm、1.0m分確認した。両端とも発掘区外に伸びる。SD343を切る。	古墳時代

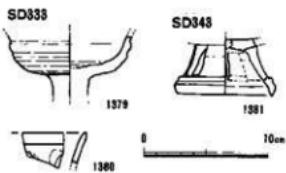


Fig.183 SD333・343出土遺物実測図 (1/4)

Tab.70 SD333・343出土遺物観察表

番号	種類	出土箇所	法尺 (cm)				内面/外面	色/質	成形	備考
			口径	脚径	底径	高さ				
1379	須恵器・高环	SD333 (—)	—	—	—	3.4	回転ナゲ/回転ナゲ、环底脚回転ヘラケズリ	暗灰	良好	
1380	須恵器・高环	SD333 (—)	—	—	—	2.6	回転ナゲ/回転ナゲ	灰	良好	輪郭キリ一透溝、輪郭
1381	須恵器・高环	SD343 (—)	—	—	(7.6)	(4.6)	回転ナゲ/回転ナゲ	灰白	良好	3方透かし、I-3~I-4



Fig. 184 SX342出土遺物実測図 (1/4)

Tab.71 SX342出土遺物観察表

番号	種類	出上 位置	法 面 寸 度 (cm)	底 部 寸 度 厚さ 高さ	調 査 内面/外面	色/調 査 内面/外面	構成	備考
1382	須恵器・鏡	SX342	(19.7)	[6.2]	当て具鏡/タクナ、脚部古木目	青灰	良好	

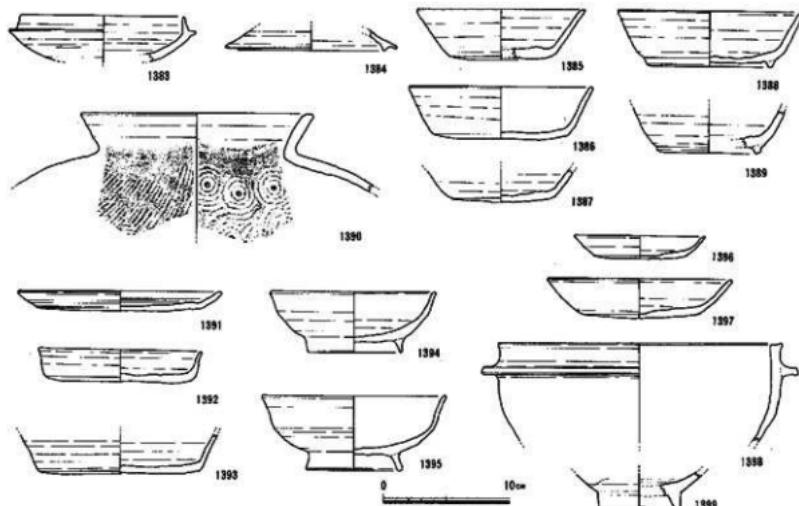


Fig. 185 C区その他の遺構・遺構外出土遺物実測図 (1/4)

Tab.72 C区その他の遺構・遺構外出土遺物観察表

番号	種類	出上 位置	法 面 寸 度 (cm)	底 部 寸 度 厚さ 高さ	調 査 内面/外面	色/調 査 内面/外面	構成	備考
1383	須恵器・环	包合鏡	—	—	[3.5]	同軸ナメ/回転ナメ、同軸ヘラケズリ	赤灰～灰赤	良好
1384	須恵器・环	トレンナ	(11.0)	—	[1.7]	同軸ナメ/回転ナメ	灰～明灰	良好
1385	須恵器・环	包合鏡	(13.2)	—	(8.5) 4.0	回転ナメ/回転ナメ	淡灰	良好
1386	須恵器・环	包合鏡	(14.4)	—	10.8 4.2	回転ナメ、内底ナメ?/回転ナメ	灰白	へラ切り
1387	須恵器・环	2面古鏡	—	(7.9) [2.8]	回転ナメ/内底ナメ/回転ナメ	同淡灰/淡灰	良好	へラ切り
1388	須恵器・环	包合鏡	(14.0)	—	(10.0) 4.4	回転ナメ/回転ナメ	青灰灰～灰～黒灰	良好
1389	須恵器・环	包合鏡	(14.0)	—	(8.2) [3.7]	回転ナメ/回転ナメ	淡灰/灰	良好
1390	須恵器・鏡	表上	—	[6.2]	当て具鏡/タクナ	灰	良好	
1391	土師器・II	2面古鏡	(16.0)	—	(13.2) 1.8	回転ガキ/回転ガキ、外底加拈ヘ タケズリ	淡赤褐色	良好
1392	土師器・皿	2面下	(12.8)	—	11.7 2.6	回転ナメ/回転ナメ、外底回転ヘラケ ズリ	淡灰灰～暗灰	良好
1393	土師器・皿	2面下	—	—	(13.0) [3.2]	回転ナメ/回転ナメ	深灰	良好
1394	土師器・碗	表上	13.1	—	7.5 4.8	回転ナメ/回転ナメ	茶灰	へラ切り
1395	土師器・碗	2面	(14.0)	—	(7.6) 5.9	回転ナメ/回転ナメ	淡黄灰～淡灰褐色	不良
1396	土師器・小皿	2面	(10.3)	—	7.5 1.9	回転ナメ/回転ナメ	淡灰褐色	良好
1397	土師器・环	表上	14.4	—	9.1 3.1	回転ナメ/内底ナメ/回転ナメ	淡茶灰	良好
1398	土師器・鏡	SP3008	(22.4)	—	[7.8]	回転ナメ/回転ナメ	墨灰灰～暗茶灰	良好
1399	白磁・瓶	表上	—	—	(6.4) [3.0]	回転ナメ/回転ヘラケズリ	淡黄灰	良好 特：淡黄灰半透明、白磁 V型

## 5. 自然科学分析

### (1) 立花寺B遺跡 6次調査試料のプラント・オパール

鈴木 茂 (バレオ・ラボ)

イネ科植物は別名珪酸植物とも呼ばれ、根より吸収した珪酸分を葉や茎の細胞内に沈積させることが知られている。こうして形成された植物珪酸体（機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体など）が、植物が枯れるなどして土壤中に混入して土粒子となったものをプラント・オパールと言い、機動細胞珪酸体については藤原（1976）や藤原・佐々木（1978）など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壤中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稻作の有無についての検討も行われている（藤原 1984）。こうしたことから立花寺B遺跡においてはトレンチ断面より採取された土壤試料についてプラント・オパール分析を行い遺跡周辺における稻作の有無について検討した。

#### ①試料と分析方法

分析用試料はA-1区のCトレンチより採取された10試料（3層～12層）である。土相はおおむね砂が混入したシルト質の土壤で、一部（11層）粘土質となっており、これらの層は古墳時代以前の層（Lトレンチ）を削った後に堆積したものである。プラント・オパール分析はこれら10試料について下記の方法にしたがって行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスピーブ（直径約40μm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱水機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波モジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10μm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスピーブが300個に達するまで行った。

#### ②分析結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピーブ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（Tab.73）、それらの分布をFig.186に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、全試料よりイネのプラント・オパールが検出された。最も多く得られたのは6層試料

Tab.73 試料1g当たりのプラント・オパール個数

試料番号	イネ (個/g)	イネ網状片 (個/g)	キヤウダ網型 (個/g)	タケノコ網型 (個/g)	他のタケ系科 (個/g)	サヤメカグサ属 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ属 (個/g)	ウシクサ属 (個/g)	不明 (個/g)
3	15,500	0	17,400	2,700	0	0	1,800	1,800	3,700	4,600	6,400
4	29,400	2,800	17,500	2,800	2,800	0	3,700	1,800	3,700	11,000	12,900
5	43,300	8,000	24,900	5,900	1,900	0	5,900	0	4,900	8,900	20,700
6	81,800	6,100	24,200	7,100	1,000	0	3,000	0	8,100	17,200	22,200
7	22,300	5,800	26,100	5,800	2,900	0	3,900	0	2,900	17,400	21,300
8	10,400	900	28,400	10,400	1,900	0	8,500	0	0	15,100	20,800
9	7,200	0	17,200	5,400	0	0	3,600	0	1,800	3,600	14,500
10	21,700	0	22,600	4,300	900	0	8,700	0	0	7,000	19,100
11	22,000	1,000	31,000	12,000	0	1,000	10,000	0	4,000	26,000	12,000
12	7,200	0	27,900	8,300	2,100	1,000	24,800	0	1,000	20,700	18,600

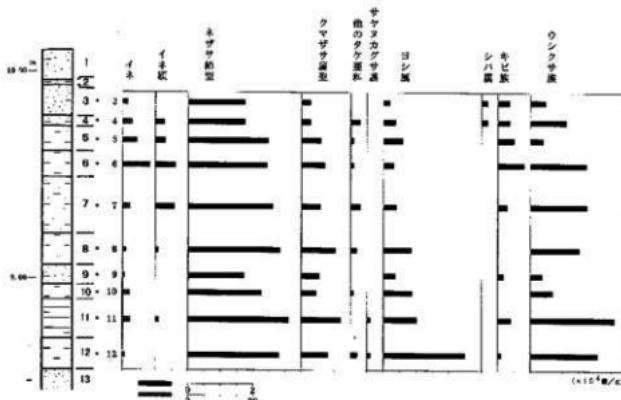


Fig. 186 Cトレンチのプラント・オパール分布図

の約82,000個で、少いのは9および12層試料の約7,000個である。また、イネの穎に形成される珪酸体の破片も少量ながら半数を越える試料において観察され、イネ型の単細胞珪酸体も5、6層試料において若干認められる(Ph.137参照)。

イネ以外ではネザサ節型が20,000個前後を示してイネに次いで多く、さらにウシクサ族が10,000個前後、クマザサ属型が6,000個前後でつづいている。ヨシ属も全試料より得られ、特に下部試料で多い傾向が認められ、最下部では約25,000個、その直上が10,000個とヨシ属としては非常に高い検出個数を示している。その他、キビ族多くの試料より3,000個前後検出され、サヤヌカグサ属は下部試料より、シバ属は上部試料より若干得られている。

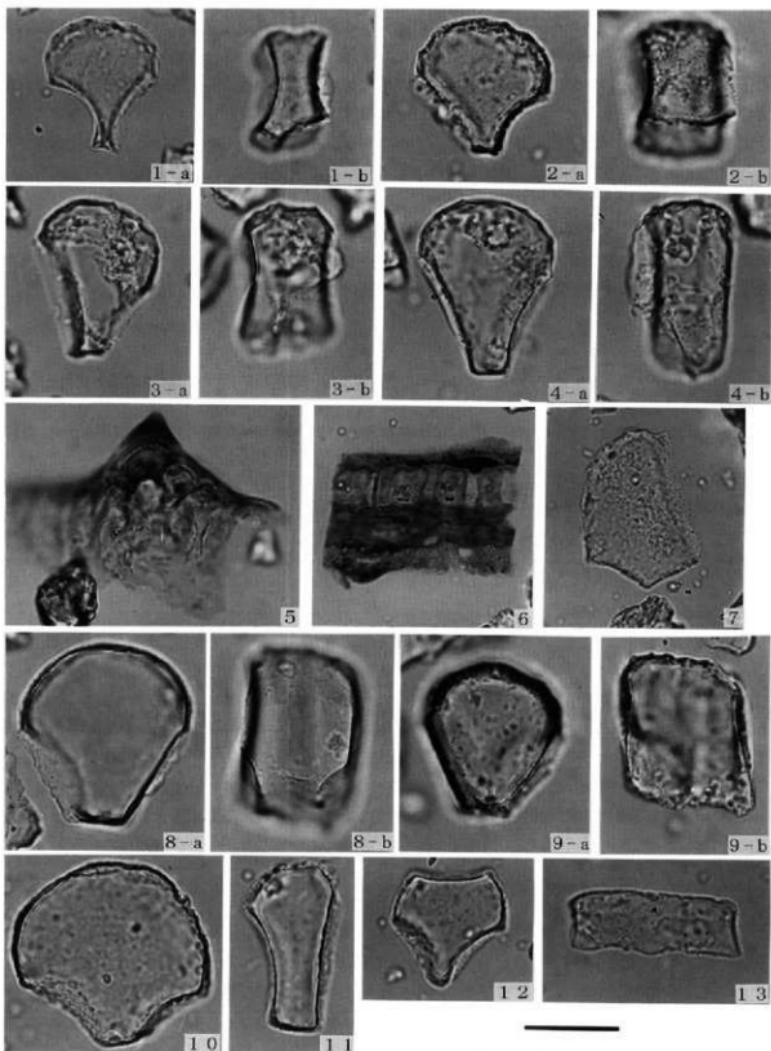
#### ③ 稲作について

上記したように、全試料よりイネのプラント・オパールが検出された。検出個数の目安として水田址の検証例を示すと、イネのプラント・オパールが試料1g当たり5,000個以上という高密度で検出された地点から推定された水田址の分布範囲と、実際の発掘調査とよく対応する結果が得られている(藤原 1984)。こうしたことから、稲作の検証としてこの5,000個を目安に、プラント・オパールの産出状態や遺構の状況をふまえて判断されている。今回の試料においては全試料この5,000個を越える個数が得られており、検出個数だけからみると稲作が行われていた可能性は高いと全層を通して判断される。また、同試料を用いて行われた花粉分析結果をみるとイネ科花粉が高い出現率を示し、水田雑草を含む分類群であるオモダカ属やミズアオイ属、キカシグサ属なども観察されている。こうしたことからCトレンチの各層においては水田稲作が行われていた可能性は非常に高いとプラント・オパール分析からは判断される。

#### ④ 遺跡周辺のイネ科植物

ヨシ属が下部試料で多産し上部に向かい減少する傾向が認められる。これはヨシやツルヨシなどのヨシ属やサヤヌカグサ属(アシカキなど)が生育していた低地部を切り開き水田稲作が行われるようになり、その後の水田の広がりや整備などでヨシ属は次第に縮小したものと思われる。また、ノシバなどのシバ属は水田の畔などに生育していたものとみられる。

ネザサ節型が多く検出されており、このネザサ節型のササ類(ゴキダケ、ケネザサ(ミヤコネザサ)



Ph.137 立花寺B遺跡のプランクトン・オパール (scale bar: 30μm)

- 1～4：イネ (a : 背面, b : 側面) 1 : C-4, 2 : C-8, 3 : C-11, 4 : C-12  
 5 : イネ葉葉締片 C-7  
 6 : イネ葉葉締片断体 C-6  
 7 : クマゼサ属型 (側面) C-6  
 8 : ネズナ属型 (a : 背面, b : 側面) C-11  
 9 : 他のクマゼサ (a : 背面, b : 側面) C-7  
 10 : ハシダ (a : 背面, b : 側面) C-5  
 11 : ウシタサ根 (側面) C-4  
 12 : シバ属 (側面) C-3  
 13 : キビ属 (側面) C-3

など）については日のあたる開けたところでの生育が考えられ、周辺丘陵部に成立していた照葉樹林（花粉分析の節参照）の林縁部や河川および溝の土手部、上記した水田稻作地の周辺に生育していたと推測される。また、ウシクサ族（スキ、チガヤなど）も同様の所での生育が予想され、ネザサ節型のササ類とともにケネザーススキ群集といった草地的景観をみせていただのであろう。一方クマザサ属型のササ類（チシマザサ、チマキザサ、ミヤコザサなど）については、主に林下での生育が予想され、遺跡周辺に一部みられた落葉広葉樹林の下草の存在で生育していたものと推測される。

なおキビ族については、その形態からアワ、ヒエ、キビといった栽培種によるものか、エノコログサ、スズメノヒエ、タイヌビエなどの雑草類によるものかについて現時点においては分類できず不明であるが、上記したように水田稻作地が予想されていることからここではエノコログサやタイヌビエなどの水田雑草類に由来するキビ族である可能性が高いと考える。

#### 引用文献

- 藤原宏志（1976）プラント・オバール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、p.15-29。  
藤原宏志（1984）プラント・オバール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—、考古学ジャーナル、227、p.2-7。  
藤原宏志・佐々木彰（1978）プラント・オバール分析法の基礎的研究（2）—イネ（*Oryza*）属植物における機動細胞珪酸体の形状—、考古学と自然科学、11、p.9-20。

#### （2）立花寺B遺跡の花粉化石

鈴木 茂（パレオ・ラボ）

福岡平野南東部、御笠川東岸の微高地上（標高11～13m）に立地している立花寺B遺跡（福岡市博多区西月隈4丁目）においてこれまで5回の発掘調査が行われ、平安時代の官衙的施設や中世の集落などが検出されている。今回行われた6次調査では古代の溝や井戸、古墳時代中期の堅穴住居（A-1区）、中世の溝や古墳時代と思われる掘立柱建物（C区）などが検出され、これまであまり知られていないかった古墳時代の遺構が発見されている。以下にはトレンチおよび溝断面より採取された土壤試料について行った花粉分析の結果・考察を示し、古墳時代における立花寺B遺跡周辺の植生について検討した。

##### ①試料

試料はC,L,Pの各トレンチより採取された28試料とSD14、SD52、SD304・333、SD340の4つの溝遺構より採取された17試料（Fig.17・18・21・94A-Bライン・117・162・181）の計45試料である。以下に各試料（各層）について遺構ごとに簡単に記す。なお各遺構の層名に対応関係は無い。

Cトレンチ（A-1区）：試料を採取した3層～12層はおおむね砂が混入したシルト質の土壌で、一部（11層）粘土質となっている。また上・下部は砂が卓越している。これらの層は古墳時代以前の層（Lトレンチ）を削った後に堆積したものである。

Lトレンチ（A-1区）：1、2層はシルト、3、4層は有機質の粘土、5層は砂質粘土、6層はやや砂混じりの青白色の粘土、7、8層は粗砂である。このLトレンチ1層上面は古墳時代（5世紀後半）の遺構検出面である。

Pトレンチ（C区）：試料を採取した5層～14層はおおむね砂が混入したシルトで、中央部では粘土質となっている。また最上部1層は砂礫が、また最下部15層は砂が卓越している。このPトレンチの下部はLトレンチと対応すると考えられている。

SD14（A-1区）：試料を採取した1～6層にはおおむね砂が混入しており、1層は炭化物を含むシルトである。2～5層は炭化物を含む粘土層で、最下部6層は砂礫が多く含む粘土層である。このSD14は古墳時代の河川で、多量の須恵器や土師器などが出土しており、水辺の祭祀が想定されている。

SD52（A-1区）：試料を採取した2、3、5層はともに砂を多く含むシルト層で、このSD52は古墳時代前期の浅い溝である。

SD304・333（C区）：試料15層は植物遺体や礫を少し含む砂質粘土、23層は砂質粘土、31層は砂質粘土～シルト、38層は砂質有機質粘土である。このSD304・333は古墳時代～古代の溝である。

SD340（C区）：試料11層は砂質シルト質粘土、45層は炭化物を少し、砂を多く含むシルト、53、55層は砂混じりのシルトである。このSD340は古墳時代の河川である。

## ②分析方法

上記した45試料について以下のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約4～6g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレバラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

## ③分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉57、草本花粉38、形態分類を含むシダ植物胞子4、藻類1の総計100である。また寄生虫卵が2分類群観察された。これら花粉・シダ植物胞子・寄生虫卵の一覧をTab.74（トレンチ試料）、Tab.75（溝試料）に、分布をFig.187（Cトレンチ）、Fig.188（Lトレンチ）、Fig.189（Pトレンチ）、Fig.190（SD14）、Fig.191（SD52）、Fig.192（SD304・333）、Fig.193（SD340）に示した。なお、分布図について、樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・胞子・寄生虫卵は全花粉・胞子総数を基準とした百分率で示したが、Fig.188、189、191においては樹木花粉の検出数が少なく樹木花粉を含め全花粉・胞子総数を基準として示した。また表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の差異を示している。

Cトレンチ（Fig.187）：分布図で示した試料5、6、8～11ではコナラ属アカガシ亞属とシイノキ属一マテバシイ属（以後シイ類と略す）の多産が特徴的であり、これら2分類群で樹木花粉の70～80%を示している。また分布図として示せなかった他の試料においてもこれら両分類群とも最も多く検出されている。その他ではコナラ属コナラ亞属が10%前後の出現率を示して次に多く得られているが、上部では少なくなっている。代わってマツ属複葉青木亞属（アカマツ、クロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）が上部でやや目立って検出されている。またイスノキ属が下部で連続して1%を越えて得られている。草本類ではイネ科が30～60%を示して最も多く、全体として上部に向かい増加している。次いで多いカヤツリグサ科の出現率は10%前後である。また低率ながら水生植物のオモダカ属（抽水植物）が多くの試料より得られており、同じ抽水植物のサジオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属なども若干検出されている。さらに上部試料ではソバ属も観察されている。

Lトレンチ（Fig.188）：全体に花粉化石の検出数は少なく、特に下部試料の5～8では胞子を含め

Tab.74 トレンチ試料の产出花粉化石一覧表

Volume 15 Number 1 • January 2007 • ISSN 1062-1024 • 87

Tab.75 濃試料の産出花粉化石一覧表

$T_1 = S \cdot \text{MaximalDepth} - \text{CurrentDepth} + \text{Bias}$

ても10個体前後であった。分布図として示した試料1～4について、上部に向かい減少するもののアカガシ亞属が少ないなか目立て検出されており、次いでシイ類、コナラ亞属となっている。草本類ではヨモギ属が試料4で40%近くを示すものの上部に向かい急減している。イネ科は20%前後を示し安定して検出されているが最上部では減少している。反対にシタ植物胞子が上部に向かい出現率を上げている。

Pトレンチ (Fig.189) : 本地点も花粉化石の検出数が少なく、特に下部試料においては胞子を含め少く分布図としては示せなかった。検鏡の結果、樹木類ではやはりコナラ亜属、アカガシ亜属、シイ類が目立ち、草本類ではイネ科が最も多く、上部に向かい急減している。その他アカザ科ヒュウ科、アブラン科、ヨモギ属などが検出されている。また本地点においてもシダ植物胞子が多く、上部に向かい出現率を上げている。

SD14 (Fig. 190) : アカガシ亜属とシイ類の優占で特徴づけられるが、シイ類は最上部で出現率を大きく下げている。次いでコナラ属となっているが最も高い出現率は約 8%である。また下部 2 試料においてノブドウ属が目立って検出されており、ブドウ属も最下部では 1%を越えている。草本類では最上部で 60%を越える出現率を示してイネ科が最も多く得られているが、他試料では 10%前後である。カヤツリグサ科は中央部でピークをつくるように増加・減少している。その他下部 2 試料においてクワ科、アブラナ科、バラ科が目立てて検出され、ギシギシ属も同様であり、アザケ科-ヒユ科、ヘクソカズラ属は最下部試料においてやや多く検出されている。また寄生虫卵もわずかではあるがこの 2 試料より検出されている。

SD52 (Fig. 191) : 本地点においては花粉化石の検出数が若干少なく、全出現率は花粉・胞子総数を基數として示した。樹木類ではやはりアカガシ亞属とシイ類が目立ち、次いでコナラ亞属となっている。草本類ではイネ科が最も多く得られているが出現率は10%前後とそれほど高くはない。その他カヤツリグサ科、ヨモギ属が全試料1%を越えている。

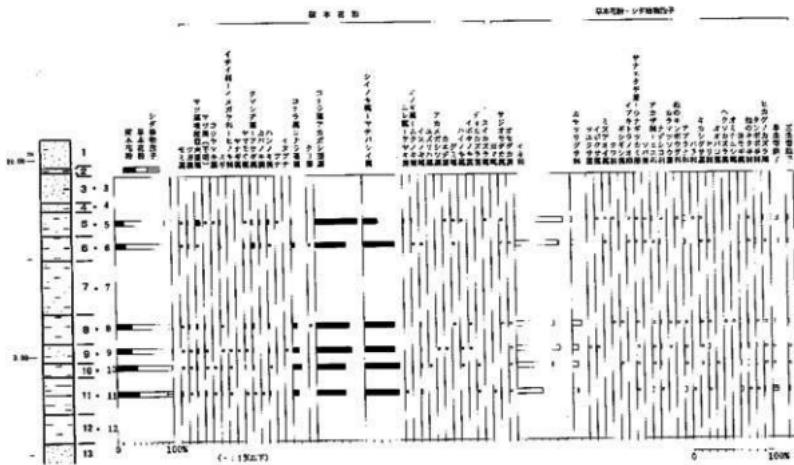


Fig. 187 C トレンチ試料の主要花粉化石分布図

SD304・333 (Fig. 192) : アカガシ亜属とシイ類の優占で特徴づけられるが、最上部の試料15ではやや減少し、エノキ属・ムクノキ属が突如として多産している。この試料15では他にニヨウマツ類やスギ、ヤナギ属が他の試料に比べやや高い出現率を示している。草本類ではイネ科が最も多く、試料31では10%弱と少ないが15と38では30%を越えている。次いでカヤツリグサ科、ヨモギ属となっており、試料15においてはソバ属や寄生虫卵（難虫卵）が若干検出されている。なお、試料23においては樹木花粉の検出数がやや少なく分布図としては示せなかったが、他の試料と同様にアカガシ亜属やシイ類、イネ科が目立って検出されている (Tab. 75)。

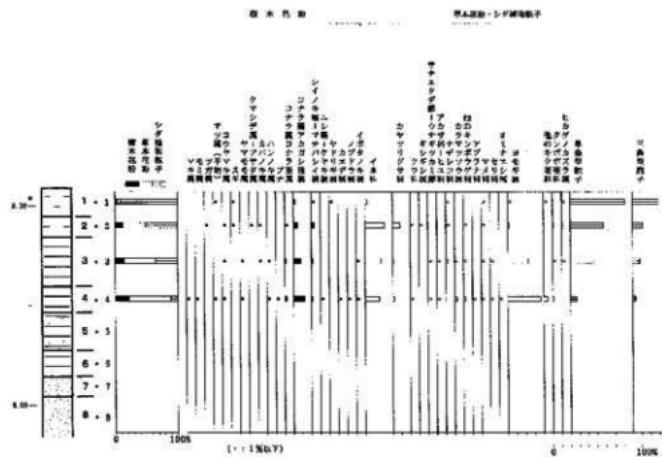


Fig. 188 Lトレントン試料の主要花粉化石分布図

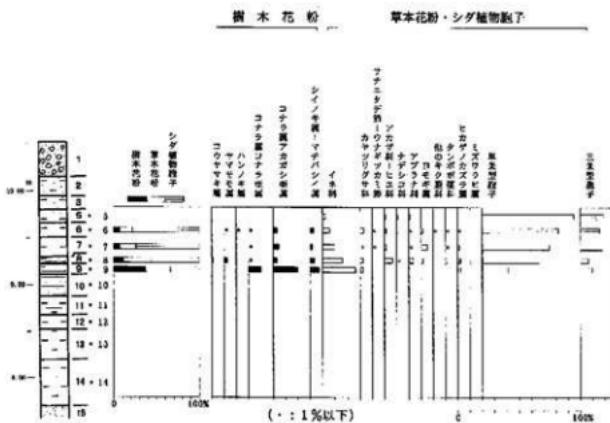


Fig. 189 Pトレントン試料の主要花粉化石分布図

SD340 (Fig. 193)：やはり本地点においてもアカガシ亜属とシイ類の多産が特徴であり、両分類群で70~80%を占めている。次いでコナラ亜属が多く、試料11ではスギやイスノキ属がやや目立って検出されている。草本類ではイネ科が最も多く検出されているが、試料11の約33%を除き他は10%前後である。次いで多く得られているのはカヤツリグサ科で、上部に向かいやすくなる増加している。その他アブラナ科、ヨモギ属が全試料1%を越えており、試料11では寄生虫卵の鞭虫卵が1個体観察されている。

#### ④遺跡周辺の古植生

SD304+333（古墳時代～古代）を除き多くは古墳時代と考えられており、この時期における立花寺B遺跡周辺の古植生について検討した。

上記したように各地点ともアカガシ亜属とシイ類の優占で特徴づけられており、古墳時代の遺跡周辺丘陵部には稲線部を主体にこれらの照葉樹林が広く分布していた。コナラ亜属やクマシデ属—アサ

樹木花粉

草本花粉・シダ植物孢子・寄生虫卵

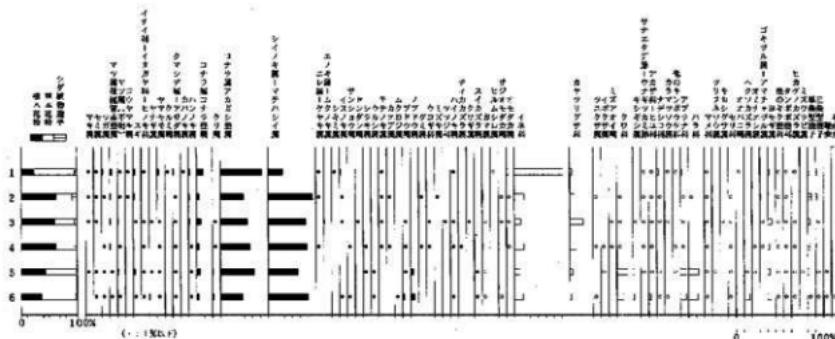


Fig. 190 SD14試料の主要花粉化石分布図

樹木花粉

草本花粉・シダ植物孢子

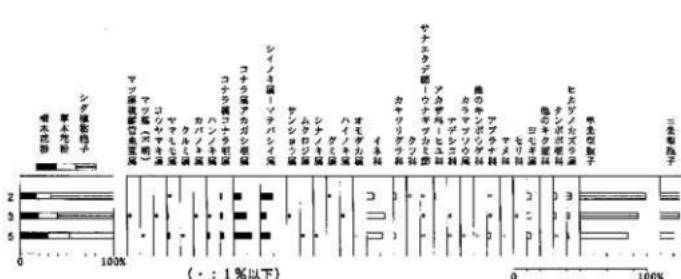


Fig. 191 SD52試料の主要花粉化石分布図

ダ属などの落葉広葉樹類は丘陵斜面部を中心に生育していた。またこのコナラ亜属は河川周辺などの微高地上にもみられたであろう。Cトレント試料においてはプラント・オバール分析も同試料を用いて行われ、大量のイネのプラント・オバールが検出されて稲作の存在が推測されている。同試料の花粉分析においてはイネ科花粉の多産が示されており、現在の水田で普通にみられるいわゆる水田雜草類（サジオモダカ、オモダカ、コナギ、キカシグサなど）を含む分類群（サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属など）も検出されている。こうしたことからCトレント付近において稲作が行われていたかどうかについては発掘調査の状況など総合的に判断されることが望まれるが、今回の分析からは少なくともCトレント周辺低地部においてはこの時期水田稲作が行われていた可能性は高いと判断されよう。またこのCトレント上部試料からはほぼ連続的にソバ属が検出されており（Tab.74）、この時期ソバも栽培されていた可能性が推察される。

またSD14の下部試料においてノブドウ属やクワ科、アブラナ科、バラ科、ヘクソカズラ属などが目立って検出されている。このSD14においては出土遺物（子持勾玉など）から水辺の祭祀が想定されて

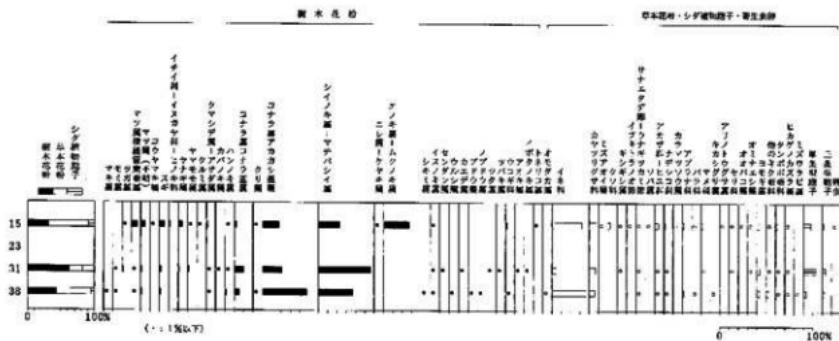


Fig. 192 SD304・333試料の主要花粉化石分布図

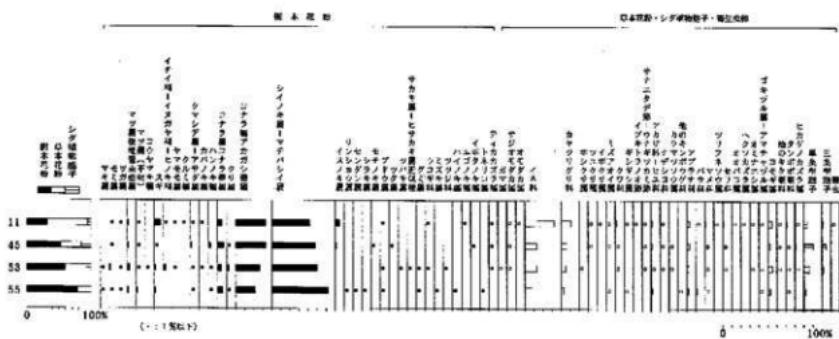
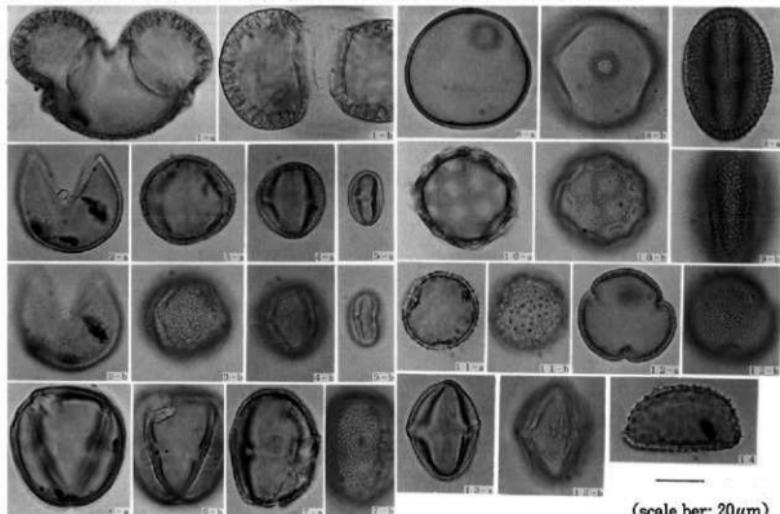


Fig. 193 SD340試料の主要花粉化石分布図

おり、人間活動の活発さがうかがわれる。東京都板橋区の舟渡遺跡（平安期の館跡）における溝内堆積物の花粉組成は約80%を草本花粉が占め、ヨモギ属のほか、ヘクソカズラ属やノブドウ、ブドウ属などつる性植物が目立ち、土手や屋敷周辺の植生が雑草一色に変貌したかがうかがわれる所以である（辻 1988）。SD14では加えてクワ科、アブラナ科、バラ科がやや多く検出されている。しかしながらこれらが雑草類に由来する花粉であるかについては現時点では分類できず不明である。このように下部試料において特徴的な産出を示す分類群すべてが雑草類であるかどうかは不明であるが、少なくとも人間の影響をうけた植生が土手などのSD14周辺に展開していたものと推察される。これは寄生虫卵の産出からもうかがわれよう。

その後これらの分類群は見られなくなり、SD14では抽水植物のオモダカ属が連続して検出されており、水辺にはこのオモダカ属をはじめガマ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属などの水生植物が生育していた。また土手にはイネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属、ゴキヅル属—アマチャヅル属などがあつら、同様の植生はSD340にも成立していた。

SD304・333の最上部試料15において突如としてエノキ属—ムクノキ属が多産している。SD304・333は古墳時代～古代の試料であり、他の古墳時代試料にはこのような特徴がみられないことから、おそらくは古代にはいってから溝周辺に急速に分布域を広げたものと推測される。また同試料においてはマツ属やスギも増加する傾向を示している。立花寺B遺跡においては先に平安時代の官衙の施設が検出されており、こうした建築材や農具などに堅いアカシヤ属やシイ類は有用材として利用されたことが推察される。こうしたことから遺跡周辺の照葉樹林は一部破壊され、跡地にニヨウマツ類やス



(scale bar: 20μm)

- |                               |                                 |                               |                             |
|-------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 1:マツ葉樹木花粉化石 PLC.35.2001 14-6  | 5:シイノキ属—マテバシイ属 PLC.35.2000 14-1 | 9:イネ科 PLC.35.2002 C-9         | 13:ヘクソカズラ属 PLC.35.2001 14-6 |
| 2:スギ PLC.35.2002 14-5         | 6:セイラン属 PLC.35.2003 30-55       | 10:ツバ属 PLC.35.2004 304-339-55 | 14:バラ科 PLC.35.2006 14-6     |
| 3:コナラ属コナラ花粉 PLC.35.2003 14-6  | 7:ノブドウ属 PLC.35.2001 30-6        | 11:サジオモダカ属 PLC.35.2005 14-4   | 15:ブコクサ属 PLC.35.2003 14-6   |
| 4:カナラ属アカシヤ花粉 PLC.35.2000 14-1 |                                 | 12:オモダカ属 PLC.35.2004 14-2     |                             |

Ph.138 立花寺B遺跡の花粉化石

ギが二次林として侵入したものと思われる。

なおトレンチ試料においては花粉化石の検出数が少なく、思うような結果は得られなかった。花粉は丈夫な外膜でおおわれているが、陸上に落下した花粉は紫外線や土壤バクテリアなどで酸化分解や食害をうけ容易に消失してしまう。一方、河川や溝など水域に落下した花粉は紫外線から保護され、土壤バクテリアもいないことなどから良好な状態で保存される場合が多い。今回のトレンチ試料がどのような環境のもと堆積したかについては不明であるが、おそらくは上記のようなことで多くの花粉化石は消失してしまったものと思われる。

#### ⑤まとめ

古墳時代の立花寺B遺跡周辺丘陵部では稜線部を中心に照葉樹林が広く成立しており、丘陵斜面部には一部落葉広葉樹類が生育していた。一方低地部ではプラント・オパール分析から水田稻作が行われていた可能性が高いと判断され、水田雜草のオモダカ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などが水田雜草として生育していたとみられる。また一部ではソバの栽培も予想される。

祭祀が想定されているSD14の下部では特徴的につる性植物やクワ科、アブラナ科、バラ科の産出が目立ち、寄生虫卵も検出され、人間の干渉をうけた植牛の展開が推測される。

河川や溝には水生植物のオモダカ属、ガマ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属などが、また土手部にはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ゴキヅル属—アマチャヅル属などが生育していた。

古代と推察される頃の河川や溝周辺にはエノキ属—ムクノキ属が急速に生育地を広げ、周辺丘陵部の照葉樹林は一部破壊され、ニヨウマツ類やスギの二次林が形成されるようになった。

#### 引用文献

- 辻 誠一郎 (1988) 花粉分析による人間と自然. 『通説朝日百科 日本の歴史・別冊 歴史の読み方 3 考古学への招待』、朝日新聞社、p.51-52.

#### (3) 堆積物中の珪藻化石群集

藤根 久 (バレオ・ラボ)

##### ①はじめに

珪藻は、10~500 μmほどの珪酸質殻を持つ单細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標とする珪藻種群が設定されている(小杉、1988; 安藤、1990)。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種(陸生珪藻)も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、立花寺B遺跡の古墳時代~古代の河川堆積物について、珪藻化石群集を調べ、堆積物の堆積環境について検討した。

##### ②試料の処理方法

試料は、古墳時代の河川SD14の6試料、古墳時代前期の浅い溝SD52の3試料、古墳時代~古代の

溝SD304・333の4試料、古墳時代の河川SD340の4試料である。

古墳時代の河川SD14の試料は、1層が灰褐色の雲母混じり砂質シルト、2層が灰色粘土、3層が暗灰色の草本遺体混じり粘土、4層と5層が暗灰色の植物遺体・雲母混じり粘土、6層が暗灰色の砂混じり粘土である。

古墳時代前期の浅い溝SD52の試料は、2層が灰色の細砂混じりシルト、3層が灰色の粘土、5層が灰色の砂質粘土である。

古墳時代～古代の溝SD304・333の試料は、15層が暗灰色の礫混じり砂質粘土、23層が黒灰色の粘土、31層が暗灰褐色の粘土、38層が暗黒灰色の砂混じり粘土である。

古墳時代の河川SD340の試料は、11層が茶灰色の粘土、45層が暗灰茶色の細粒雲母・砂混じり粘土、53層が暗灰茶色の粘土質砂、55層が暗茶灰色の雲母・砂混じり粘土である。

これらの試料は、以下の方法で処理し、珪藻用プレパラートを作成した。

(1) 湿潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロビペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥した。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作成した。

作成したプレパラートは顕微鏡下1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、珪藻化石が少ない試料は、プレパラート全面について精査した。

### ③ 硅藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉(1988)および安藤(1990)が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、海水～汽水種は不明種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。

以下に、小杉(1988)が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤(1990)が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

[外洋指標種群(A)]：塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

[内湾指標種群(B)]：塩分濃度が26～35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

[海水藻場指標種群(C1)]：塩分濃度が12～35パーミルの水域の海藻や海草(アマモなど)に付着生活する種群である。

[海水砂質干潟指標種群(D1)]：塩分濃度が26～35パーミルの水域の砂底(砂の表面や砂粒間)に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

[海水泥質干潟指標種群(E1)]：塩分濃度が12～30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

[汽水藻場指標種群(C2)]：塩分濃度が4～12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

[汽水砂質干潟指標種群(D2)]：塩分濃度が5～26パーミルの水域の砂底(砂の表面や砂粒間)に付着生活する種群である。

[汽水泥質干潟指標種群(E2)]：塩分濃度が2～12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

〔上流性河川指標種群 (J)〕：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらには *Achnanthes* 属が多く含まれるが、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがある。

〔中～下流性河川指標種群 (K)〕：中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

〔最下流性河川指標種群 (L)〕：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

〔湖沼浮遊生指標種群 (M)〕：水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

〔湖沼沼澤地指標種群 (N)〕：湖沼における浮遊生種としても、沼澤湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼澤湿地の環境を指標する可能性が大きい。

〔沼澤湿地付着生指標種群 (O)〕：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

〔高層湿原指標種群 (P)〕：尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを中心とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

〔陸域指標種群 (Q)〕：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

#### ④珪藻化石の特徴とその堆積環境

全試料から検出された珪藻化石は、海水～汽水種が3分類群3属3種、淡水種が126分類群30属102種6亜種それぞれ検出された。これらの珪藻化石は、海水～汽水種が2環境指標種群、淡水種が6環境指標種群に分類された (Tab. 76)。

これらの環境指標種群の出現傾向から、古墳時代の河川SD14が5珪藻帶、古墳時代前期の溝SD52が1珪藻帶、古墳時代～古代の溝SD304・333が3珪藻帶、古墳時代の河川SD340が2珪藻帶にそれぞれ分帶された。以下では、各河川跡あるいは溝遺構について、各珪藻帶に基づいて珪藻化石群集の特徴とその堆積環境について述べる。

##### 〔古墳時代の河川SD14 (Fig. 194)〕

###### D I 帯 (6層)

堆積物1g当たりの殻数は約 $2.32 \times 10^5$ 個、完形殻の出現率は約50%である。珪藻化石は、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* など、沼澤湿地付着生指標種群の *Eunotia praerupta var. bidens* など、湖沼沼澤地指標種群の *Melosira pensacolae* などが特徴的に出現した。

こうしたことから、比較的ジメジメとした沼澤湿地環境が推定される。なお、このI帯のほか他の珪藻帶において汽水種の *Achnanthes brevipes* が出現するが、他の汽水種を伴わないことから、塩類濃度が高いなどの原因が考えられる。

###### D II 帯 (5層)

堆積物1g当たりの殻数は約 $7.04 \times 10^5$ 個、完形殻の出現率は約54%である。珪藻化石は、湖沼沼澤地指標種群の *Melosira pensacolae* などが比較的多く出現し、中～下流性河川指標種群の *Achnanthes lanceolata* が特徴的に出現する。なお、沼澤湿地付着生指標種群の *Eunotia praerupta var. bidens* などや陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが含まれていた。

こうしたことから、河川の流れ込みのある沼澤湿地環境が推定される。

#### DIII带 (3・4層)

堆積物 1g当たりの殻数は約 $2.09 \times 10^6$ および $2.09 \times 10^6$ 個、完形殻の出現率は約43および61%である。珪藻化石は、中～下流性河川指標種群の *Melosira varians* や沼澤湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現する。

こうしたことから、河川の流れ込みのある沼澤湿地環境が推定される。なお、下位帯と比較した場合、環境指標種群の種類は異なっていることから、若干の環境変化あるいは時間間隔があることが予想される。

#### DIV带 (2層)

Tab.76 堆積物中の珪藻化石産出表その1 (種群は、小杉(1988)および安藤(1990)による)

分類群	種群	SD14					SD52			SD304-333					SD340				
		1	2	3	4	5	8	2	3	5	15	22	31	38	11	45	53	55	
<i>Hantzschia marginata</i>	E1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Achnanthes breviseta</i>	E2	4	5	2	4	2	6	4	6	4	6	45	-	2	6	6	2	-	
<i>Hantzschia padiformis</i>	E2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Achnanthes inflata</i>	N	-	1	-	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>A. lanceolata</i>	L	-	1	-	1	4	1	-	-	-	1	1	2	-	-	-	3	2	
<i>A. minutissima</i>	N	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>A. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Actinella brasiliensis</i>	O	-	1	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Amphora octostaurata</i>	Q	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>A. ovalis</i>	V	18	10	6	3	8	5	8	4	11	9	2	6	-	5	12	7	15	
<i>A. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Amphiblochys lindheimeri</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Bacillaria paradoxus</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
<i>Caloneis bacillina</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. lauta</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. schoederi</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. silicicola</i>	V	3	1	1	2	1	3	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Cocconeis elongata</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. planctonica</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	15	
<i>Cyclotella meneghiniana</i>	L	1	5	6	2	4	11	10	1	7	4	11	-	4	7	14	15	-	
<i>Cymbella acuta</i>	O	1	2	7	1	-	-	2	3	2	-	4	-	-	1	1	6	-	
<i>C. cassisoides</i>	W	1	1	-	-	-	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. obesa</i>	O	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. gracilis</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. sinuata</i>	W	14	5	2	6	7	3	3	-	2	-	-	-	-	1	4	4	4	
<i>C. sinuiciformis</i>	W	-	5	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. sinuata</i>	E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. subaequalis</i>	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. tenuis</i>	W	10	1	5	6	2	3	17	9	-	1	4	-	3	15	12	17	-	
<i>C. turridula</i>	W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>C. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	5	4	
<i>Diatoma hians</i> var. <i>quadratum</i>	Z	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Diploneis tincta</i>	Z	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>D. ovalis</i>	V	2	1	2	1	1	3	-	-	3	-	1	-	3	-	1	2	3	
<i>D. pseudotincta</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>D. spp.</i>	?	-	1	-	-	-	1	-	4	3	2	1	2	-	3	6	2	-	
<i>Epithemia obesa</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>E. turrida</i>	V	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>E. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Sinatia bilobata</i>	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. bilobata</i>	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. formica</i>	N	-	4	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	
<i>S. lamarckii</i>	N	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. undulosa</i>	N	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. pectinalis</i> var. <i>minor</i>	O	2	4	-	3	-	4	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. pectinalis</i> var. <i>undulata</i>	O	-	-	4	8	-	5	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. pensylvanica</i>	N	-	1	5	7	2	8	5	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. pensylvanica</i>	N	-	-	2	1	8	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. pensylvanica</i> var. <i>bidentata</i>	O	14	10	4	13	16	3	7	2	7	5	3	1	5	3	10	8	-	
<i>Fragilaria brevistriata</i>	Z	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>F. constrictria</i>	Z	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>F. ramosissima</i>	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>F. ramosissima</i> var. <i>saximontana</i>	O	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>F. vulgaris</i>	N	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>F. spp.</i>	?	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Gymnopagus acuminatus</i>	O	-	-	2	-	-	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>G. sugar</i>	N	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	2	
<i>G. contractum</i>	N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>G. gracile</i>	O	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>G. parvulum</i>	N	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	4	4	4	
<i>G. sphacrophorum</i>	V	-	1	1	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	
<i>G. truncatum</i>	V	-	1	1	1	2	4	3	5	5	3	5	-	-	-	-	-	1	
<i>G. spp.</i>	?	2	3	1	1	2	4	3	5	5	3	5	-	4	-	1	1	1	
<i>Gyrosigma spp.</i>	?	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

Tab.76 堆積物中の珪藻化石産出表その2 (種群は、小杉(1988)および安藤(1990)による)

分類群	種群	SD14						SD52			SD304-333						SD340					
		1	2	3	4	5	6	2	3	5	15	23	31	38	11	15	45	59	65			
<i>Bacchusia amphioxys</i>	Q	2	16	1	3	16	20	0	2	8	11	13	7	-	10	1	19	6	-	-	-	
<i>Holosira ambigua</i>	Q	1	3	2	5	11	4	1	3	2	1	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	
<i>H. distans</i>	?	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>H. granulata</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>H. ponsoculae</i>	Y	-	-	4	2	25	6	16	3	17	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	-	
<i>H. rovesciana</i>	Q	-	-	-	-	3	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	6	3	-	
<i>H. varians</i>	Q	-	-	2	8	3	1	-	-	-	3	-	1	-	24	-	-	-	-	-	-	
<i>H. spp.</i>	?	2	-	1	3	11	8	8	2	5	2	-	6	1	1	2	5	3	3	-	-	
<i>Meridictis circulata var. constricta</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Navicula americana</i>	Y	1	1	-	2	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. bacillum</i>	Y	1	3	2	1	2	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	4	-	
<i>N. capitata</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. confervacea</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. costata</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. curvata</i>	Q	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. elliptica</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. gesseriana</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. matthesii</i>	Y	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. placenta</i>	Y	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	3	-	
<i>N. populea</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. pusilla</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. radiosa</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. reinhardii</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	1	3	-	
<i>N. takayamensis</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>N. viridis</i>	Y	1	5	2	3	1	1	-	-	-	-	-	7	1	-	-	7	5	12	-	-	
<i>N. spp.</i>	?	1	1	1	4	4	1	-	-	-	1	2	1	-	-	5	-	-	-	-	-	
<i>Reidella effusa</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>R. horchestrion</i>	H	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>R. hirsutissima</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>R. iridis</i>	Q	4	5	6	5	1	4	-	-	-	5	3	3	3	-	3	-	4	3	-	-	
<i>R. spp.</i>	?	5	6	2	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Ritschelia amphibia</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>R. parva</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>R. sphaerula</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia acanthopora</i>	D	0	1	4	1	2	1	1	4	1	1	10	5	1	-	6	-	5	1	-	-	
<i>P. borealis</i>	Q	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	2	1	-	5	-	5	1	-	-	
<i>P. brasili</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>P. brasiliensis</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>P. cardinalisculus</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>P. divergens</i>	Y	2	3	6	3	3	6	5	3	2	-	-	2	1	-	2	-	1	-	-	-	
<i>P. gibba</i>	Q	4	3	3	3	1	1	1	1	1	1	6	1	1	-	2	-	2	1	-	-	
<i>P. heptaptera</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>P. interrupta</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>P. microstaura</i>	Y	11	11	1	3	5	1	-	-	-	1	6	-	-	-	1	6	1	3	2	-	
<i>P. nodosa</i>	Q	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>P. subcapitata</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	2	1	1	1	-	-	-	-	
<i>P. viridis</i>	Y	4	5	2	6	1	1	-	-	-	2	1	6	1	-	5	-	1	2	-	-	
<i>P. spp.</i>	?	48	17	29	15	17	21	43	33	47	10	53	38	4	25	19	28	18	-	-	-	
<i>Phaeocoelosphaera curvata</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Phaeotodia gibba</i>	Y	-	-	1	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>R. sibirica</i>	Y	1	-	7	4	4	3	-	-	-	2	1	6	4	-	2	1	4	2	-	-	
<i>R. quisumbingiana</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurosphaera acuta</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. phoenixana</i>	Q	18	12	15	8	5	4	10	7	6	-	-	2	1	-	4	2	1	-	-	-	
<i>S. smithii</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. surirensis</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. tezera</i>	Y	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. spp.</i>	?	3	5	2	2	2	2	-	-	-	1	-	3	2	-	3	-	3	2	-	-	
<i>Synedra acus</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. inaequalis</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. rompon</i>	Y	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>S. vicia</i>	Y	10	15	5	12	5	7	7	8	5	2	11	7	-	4	7	4	8	-	-	-	
<i>S. spp.</i>	?	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Tabellaria flocculosa</i>	Y	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Chahova	Y	3	4	3	5	6	8	7	3	9	11	2	9	-	4	-	6	2	8	-	-	
海水泥質干潟 (E)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
汽水泥質干潟 (E)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
汽水不定・不明確 (?)	4	4	5	4	2	6	4	6	6	6	25	-	2	8	8	8	8	8	8	8	8	
中～下流性河川 (K)	-	3	9	11	8	3	-	1	-	4	2	7	1	15	2	6	5	-	-	-	-	
疊下流性河川 (L)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
湖沼浮游生 (M)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
湖沼底付層生 (N)	1	5	7	8	37	15	11	6	19	1	2	4	-	3	2	7	4	-	-	-	-	
沼澤地付層生 (O)	39	44	50	52	22	34	20	12	17	14	31	31	16	2	16	16	16	16	16	16	16	
陸域 (Q)	4	17	33	3	16	35	12	3	11	27	14	11	-	12	-	3	17	6	-	-	-	
広 布 (W)	94	95	77	80	59	69	70	25	82	79	63	73	-	68	55	80	116	-	-	-	-	
淡水不定・不明確 (?)	81	45	37	49	53	54	91	55	58	62	80	78	6	45	30	80	81	-	-	-	-	
種 種 數 數	215	117	208	200	107	214	258	100	204	322	200	215	9	221	109	201	211	-	-	-	-	

堆積物 1 g 当りの殻数は約 $1.25 \times 10^4$ 個、完形殻の出現率は約40%である。珪藻化石は、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などや沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現した。

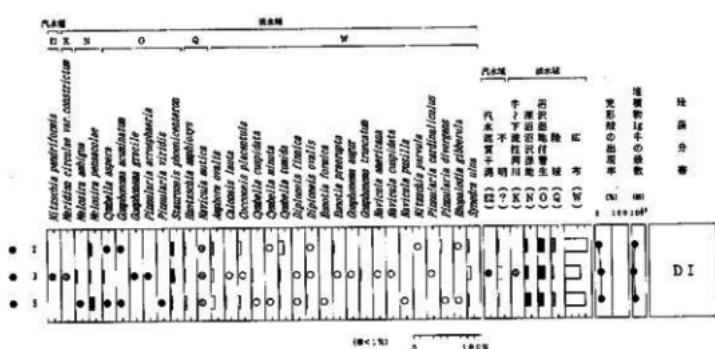
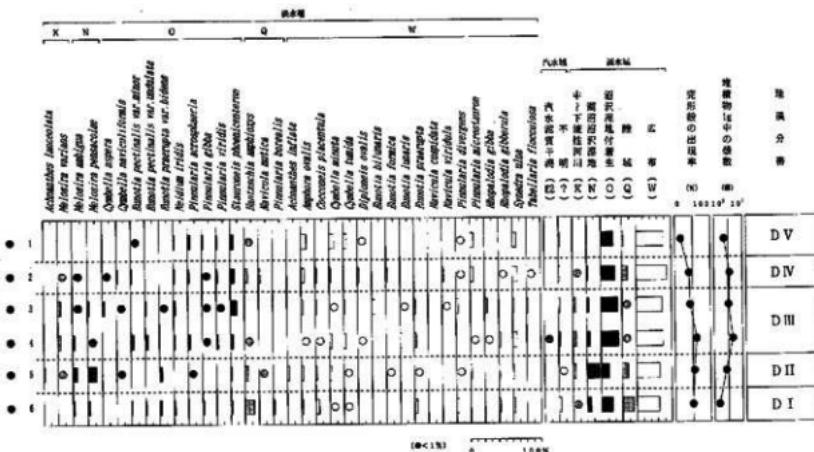
こうしたことから、ジメジメとした沼沢湿地環境が推定される。

#### DV 帯（1 層）

堆積物 1 g 当りの殻数は約 $5.38 \times 10^3$ 個、完形殻の出現率は約17%である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現する。

こうしたことから、沼沢湿地環境が推定される。

#### 【古墳時代前期の浅い溝 SD52 (Fig.195)】



### D I 带 (2・3・5層)

堆積物 1g 当りの殻数は約  $1.28 \sim 1.67 \times 10^3$  個、完形殻の出現率は約 12~18% である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などや湖沼沼澤湿地指標種群の *Melosira pensacolae* など、また、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが特徴的に出現した。

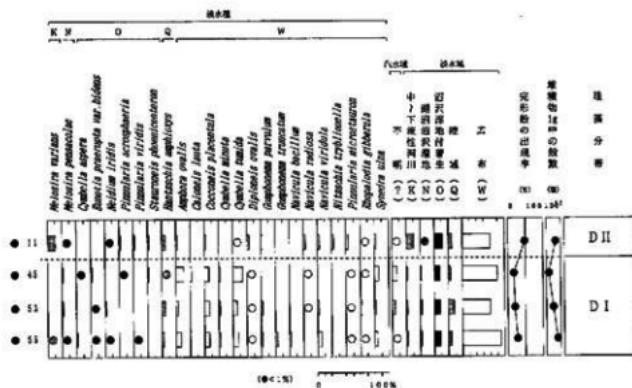
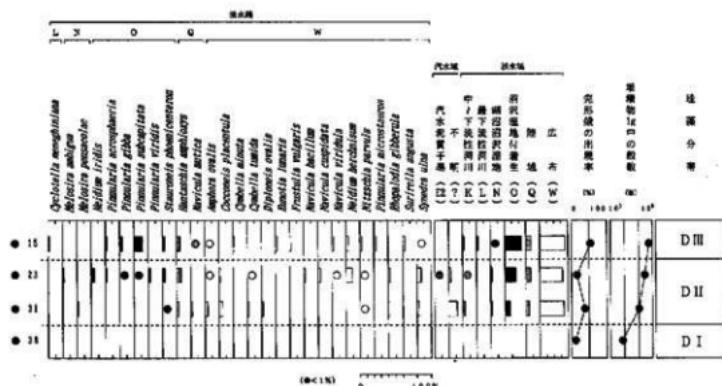
こうしたことから、概ねジメジメとした陸域を伴う沼澤湿地環境が推定される。

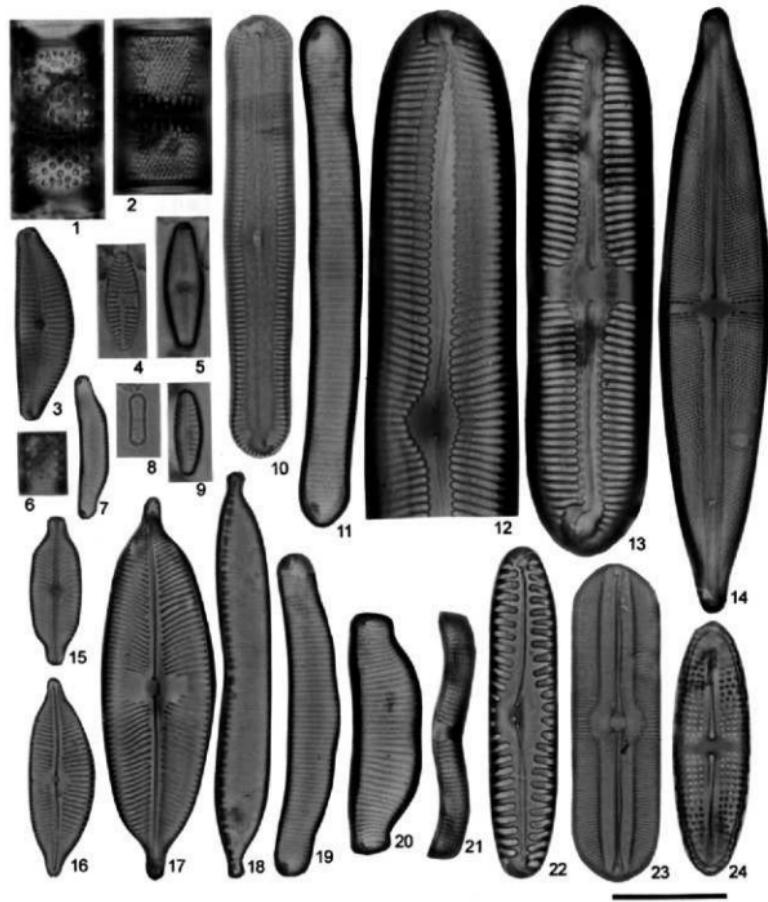
[古墳時代～古代の溝 SD304・333 (Fig. 196)]

### D I 帯 (38層)

堆積物 1g 当りの殻数は約  $7.28 \times 10^3$  個、完形殻の出現率は約 11% である。珪藻化石は、非常に少ない。

こうしたことから、堆積初期の堆積物であり、埋積が早いなどの原因により珪藻が生育できなかっ





Ph. 139 堆積物中の珪藻化石顕微鏡写真

(scale ber: 20μm)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| 1. <i>Melosira granulata</i> SD14-6                       | 2. <i>Melosira ambigua</i> SD14-5                      | 3. <i>Cymbella turgidula</i> SD14-3    |
| 4. <i>Achnanthes lanceolata</i> SD14-4                    | 5. <i>Navicula mutica</i> SD14-2                       | 6. <i>Melosira pensacolae</i> SD14-5   |
| 7. <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> SD14-4     | 8. <i>Navicula contenta</i> SD14-6                     | 9. <i>Cymbella sinuata</i> SD14-4      |
| 10. <i>Pinnularia acrosphaeria</i> SD14-3                 | 11. <i>Eunotia formica</i> SD14-5                      | 12. <i>Pinnularia viridis</i> SD14-4   |
| 13. <i>Pinnularia cardinaliculus</i> SD14-2               | 14. <i>Stauroneis phoenicenteron</i> SD14-4            | 15. <i>Navicula eliginensis</i> SD14-5 |
| 16. <i>Cymbella naviculiformis</i> SD14-2                 | 17. <i>Cymbella cuspidate</i> SD14-2                   | 18. <i>Hantzschia amphioxys</i> SD14-2 |
| 19. <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>undulata</i> SD14-4 | 20. <i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> SD14-4 | 21. <i>Achnanthes brevipes</i> SD14-1  |
| 22. <i>Pinnularia borealis</i> SD14-6                     | 23. <i>Navicula americana</i> SD14-4                   | 24. <i>Achnanthes inflata</i> SD14-4   |

たものと推定される。

#### DII带 (23・31層)

堆積物 1g 当りの殻数は約  $2.83 \times 10^3$  および  $1.09 \times 10^3$  個、完形殻の出現率は約 16 および 38% である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などや陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが特徴的に出現する。また、湖沼沼沢湿地指標種群の *Melosira pensacolae* や *Melosira ambigua* なども含まれていた。

こうしたことから、ジメジメとした場所を伴う沼沢湿地環境が推定される。

#### DIII带 (15層)

堆積物 1g 当りの殻数は約  $5.67 \times 10^3$  個、完形殻の出現率は約 54% である。

珪藻化石は、最下流性河川指標種群の *Cyclotella meneghiniana*、中～下流性河川指標種群の *Melosira varians*、沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* などが特徴的に出現する。

こうしたことから、比較的流れの緩やかな河川の流れ込みのある沼沢湿地環境が推定される。

【古墳時代の河川 SD340 (Fig.197)】

#### DI带 (45・53・55層)

堆積物 1g 当りの殻数は約  $1.45 \times 10^4$  ～  $5.92 \times 10^3$  個、完形殻の出現率は約 17 ～ 27% である。珪藻化石は、沼沢湿地付着生指標種群の *Eunotia praerupta var. bidens* など、陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* などが出現する。また、湖沼沼沢湿地指標種群の *Melosira pensacolae* なども随伴する。

こうしたことから、ジメジメとした沼沢湿地環境が推定される。

#### DII带 (11層)

堆積物 1g 当りの殻数は約  $4.42 \times 10^3$  個、完形殻の出現率は約 48% である。珪藻化石は、中～下流性河川指標種群の *Melosira varians* が特徴的に出現した。沼沢湿地付着生指標種群の *Stauroneis phoenicenteron* や陸域指標種群の *Hantzschia amphioxys* なども出現する。

こうしたことから、中～下流性河川が特徴的であり、ジメジメとした沼沢湿地を伴う環境と推定さ

Tab.77 立花寺B遺跡堆積物の堆積環境とその変遷

地 横	層位	堆積物の特徴		珪藻帯	堆積環境	その他の
		色および構成物	その他の			
SD14	1層	灰褐色の砂質シルト	露母混じり	D V	沼沢湿地	
	2層	灰色粘土		D IV	ジメジメとした沼沢湿地	
	3層	暗灰色の粘土	草本遺体混じり	D III	河川の流入を伴う沼沢湿地	
	4層	暗灰色の粘土	植物遺体・露母混じり			
	5層	暗灰色の粘土	植物遺体・露母混じり	D II	河川の流入を伴う沼沢湿地	ジメジメとした陸域を伴う
	6層	暗灰色の粘土	砂混じり	D I	ジメジメとした沼沢湿地	
SD62	2層	灰色のシルト	細砂混じり	D I	沼沢湿地	ジメジメとした陸域を伴う
	3層	灰色の粘土				
	5層	灰色の砂質粘土				
SD304 SD333	15層	暗灰色の砂質粘土	細混じり	D III	流れの緩やか河川を伴う沼沢湿地	ジメジメとした陸域を伴う
	23層	黒灰色の粘土		D II	ジメジメとした沼沢湿地	
	31層	暗灰褐色の粘土				
SD340	38層	暗灰褐色の粘土	砂混じり	D I	堆積が早い	
	11層	茶灰色の粘土		D II	中～下流性河川	ジメジメとした沼沢湿地
	45層	暗灰茶色の粘土	細粒雲母・砂混じり	D I	ジメジメとした沼沢湿地	河川の流れ込み
	51層	暗灰茶色の粘土	雲母・砂混じり			
	55層	暗茶灰色の粘土	雲母・砂混じり			

れる。

#### ⑤考察

Tab.77に、各遺構の堆積物の特徴とその堆積環境を示す。

古墳時代の河川SD14では、比較的ジメジメとした沼沢湿地から河川の流れ込みのある沼沢湿地へと変化し、河川の流れ込みのある沼沢湿地、比較的ジメジメとした沼沢湿地、沼沢湿地へと変化している。

古墳時代前期の深い溝SD52では、概ねジメジメとした沼沢湿地が安定して継続していたものと推定される。

古墳時代～古代の溝SD304・333では、当初比較的早い埋積が起った後、ジメジメとした場所を伴う沼沢湿地から比較的流れの緩やかな河川の流れ込みのある沼沢湿地に変化したことが推定される。

古墳時代の河川SD340では、ジメジメとした沼沢湿地から中～下流性河川が卓越する環境に変したことが推定される。

#### 引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理、42、73-88.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究、27、1-20.

#### （4）立花寺B遺跡 6次調査の堅穴住居出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

##### ①はじめに

当遺跡は、福岡市博多区に所在し、福岡平野の東南部を流れる御笠川の右岸に広がり、標高約12m前後の低地に立地している。当遺跡からは、当地周辺では今まであまり知られていない古墳時代中期（5世紀後半）の集落が検出された。ここでは、そのうちの堅穴住居跡SC26（35試料）とSC39（7試料）から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。当時の住居建築材に利用されていた樹種を明らかにして、当地での樹種利用をより明らかにしてゆくための資料とするものである。

##### ②炭化材樹種同定の方法

炭化材の3方向の断面を走査電子顕微鏡で拡大し材組織を観察して、その特徴をもとに樹種同定を行った。横断面（木口）は炭化材を手で割り新鮮な平滑面を出し、接線断面（板目）と放射断面（柾目）は片刃の剃刀を各方向に沿って軽くあて強くように割り面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子機器 JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。横断面は、材の伸長方向に直交する面である。接線断面は、年輪に接する縦方向の断面である。放射断面は、年輪に直交し樹芯を通る縦方向の断面である。

##### ③結果

樹種同定結果の一覧をTab.78に示した。使用当時の形状に近いと思われる試料については、断面の大きさや形状を記録した。

2件の堅穴住居跡からは、広葉樹材10分類群（アカガシ亜属・ツブライジイ・シイノキ属・クワ属？・クスノキ科・アワブキ・ツバキ属・モッコク・ヒサカキ・シャシャンボ）が検出された。クワ

属?・アワブキは落葉性で、クスノキ科は落葉性を含む可能性があるが、それ以外は常緑広葉樹であった。2件ともにシイノキ属が多く出土した。炭化材の形状は直径2~5cmの丸木が多く、樹皮が付いている炭化材もあった(SC26の6・13・24)。丸木で利用されていた樹種は、検出された分類群のすべてに及ぶ。割る・削るなどの加工をして使用していたと思われる炭化材は、アカガシ亞属とツブラジイを含むシイノキ属が多く、ほかにクワ属?とアワブキであった。

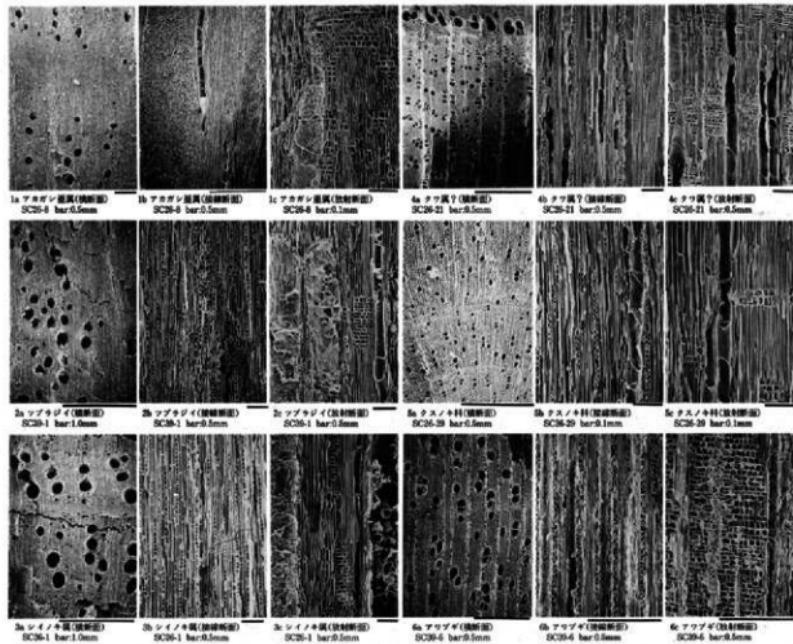
草本類が集積した塊は、主に単子葉類の細い茎(秆)であることが判りスキ属に類似したものも観察されたが、分類群を特定することは出来なかった。SC26-15では、同一方向に集積した層が約45度に向きを変えて重なっており、その中に直径5mmの当年枝の広葉樹材が散在していた。

以下に同定された分類群(樹種)の材組織を記載する。

コナラ属アカガシ亞属 *Quercus subgen. Cyclobalanopsis* プナ科 Ph.140 1a~1c (SC26-8)

集合放射組織を挟み中型~小型の管孔が単独で放射方向に配列し、接線状柔組織が顯著な放射孔材。道管の穿孔は單一。放射組織は同性、單列のものと幅の広い集合射組織があり、道管との壁孔は柵状・交互状で孔口は大きく開いている。SC39の試料4は、集合放射組織の幅は狭く分布も少ないのでマテバシイの可能性も考えられるが、十分な識別は出来なかった。

アカガシ亞属は常緑広葉樹で、いわゆるドングリをつけるカシ類である。



Ph.140 立花寺B遺跡 6次調査竪穴住居跡出土炭化材樹種

シイノキ属ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科 Ph.140 2a-2c (SC39-1)

やや楕円形で中型の管孔が間隔をあけて配置し3~4個が放射方向に分布し、その後は非常に小型の管孔が火炎状または散在している環孔材。年輪界は波状で、幅が狭く緩く集合した放射組織がある。道管の穿孔は単一である。

シイノキ属には、関東以西・四国・九州に分布するツブラジイ(コジイ)と、本州の福島県と新潟県佐渡以南・四国・九州に分布するスダジイがある。スダジイは樹芯部に限り集合放射組織が現れることがあり、ツブラジイは樹心以外でも現れる。当遺跡の試料は樹芯以外の部分で集合放射組織の存在が確認できたのでツブラジイと判断した。

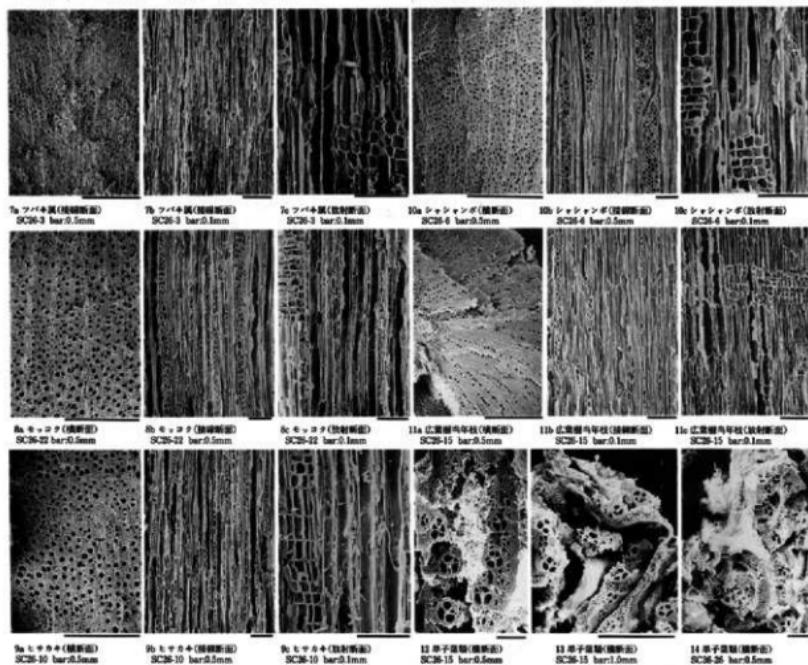
シイノキ属 *Castanopsis* ブナ科 Ph.140 3a-3c (SC26-1)

上記のツブラジイと同様の組織形態であるが、集合放射組織が見られなかったものである。

クワ属? *Morus*? クワ科 Ph.140 4a-4c (SC26-21)

年輪の始めに中型の管孔が配列し徐々に径を減じ、晩材部では非常に小型の管孔が斜状・放射状・塊状に集合して分布している環孔材。道管の壁孔は小さく交互状に配列、穿孔は単一、内腔には水平のチロースが多くみられる。放射組織は異性、主に平伏細胞から構成され、1~4細胞幅、細胞高が非常に高いものが多い。

温帯から亜熱帯の山中に広く分布するヤマグワの材組織と類似するが、小道管にらせん肥厚が見ら



Ph.141 立花寺B遺跡 6次調査竪穴住居跡出土炭化材樹種

れなかった。また晩材部の年輪界付近では放射方向に複合する小道管が目立つなど、クワ属と断定するにはやや疑問が残る。

クスノキ科 Lauraceae Ph.140 5a-5c (SC26-29)

小型の管孔が単独または2~4個が放射方向に複合し散在している散孔材。道管の穿孔は、單一と階段数の少ない階段状がある。放射組織は異性、1~2細胞幅、上下端に大きく膨らんだ油細胞がある。

管孔が大きく、油細胞の出現頻度の高いクスノキやタブノキなど以外の樹種であるがこれ以上は区別できなかった。

アワブキ Meliosma myriantha Sieb. et Zucc. アワブキ科 Ph.140 6a-6c (SC39-6)

小型で厚壁の管孔が単独または2~3個が複合し、柔細胞を介して放射方向に複合するものが見られる散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は單一と階段数が1~3本ほどの階段穿孔がある。放射組織は異性、1~3細胞幅、細胞高は非常に高く、放射柔細胞は薄壁で大きいため放射組織の全体は粗雑な印象をうける。周囲状柔組織が顕著である。

ツバキ属 Camellia ツバキ科 Ph.141 7a-7c (SC26-3)

非常に小型の管孔が散在し、年輪の始めの管孔はやや大きい。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が20本ほどの階段穿孔である。放射組織は上下端に方形・直立細胞がある異性、1~3細胞幅、膨らんだ油細胞を含み、道管との壁孔は交互状や階段状である。

モッコク Ternstroemia gymnanthera (Wright et Arn.) Bedd. ツバキ科 Ph.141 8a-8c (SC26-22)

多数の非常に小型の管孔が均一に分布する散孔材。道管の壁孔は雑然とした交互状から階段状、穿孔は横棒数が30本ほどの階段穿孔。道管と木繊維にらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~4細胞幅、单列は大きな直立細胞からなり、細胞高は高い。道管との壁孔は交互状である。

ヒサカキ Eurya japonica Thunb. ツバキ属 Ph.141 9a-9c (SC26-10)

非常に小型で多角形の管孔が均一に分布し、年輪界で径は減少する散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が30本以上の非常に多い階段穿孔、網状のらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~2細胞幅、道管との壁孔は主に交互状で一部階段状になる。

シャシャンボ Vaccinium bracteatum Thunb. ツツジ科 Ph.141 10a-10c (SC26-6)

極めて小型で多角形の管孔が均一に分布する散孔材。道管の壁孔は交互状で疎ら、穿孔は單穿孔と階段数が少ない階段穿孔や網状穿孔があり、水平ならせん肥厚が見られる。放射組織は異性、主に5細胞幅、縁辺部に直立細胞が目立ち、放射柔細胞は大型、細胞高は高く放射組織は大型である。

広葉樹(当年枝) broad-leaved tree Ph.141 11a-11c (SC26-15)

屋根材または壁材と思われるイネ科草本の稈が多数集積した層の中に、直径約5mmの細い枝材が所々に挟まっていた。保存がよく比較的大きな材の1点を選び観察した。

中心部に髓があり、2~数個の非常に小型の管孔が放射方向に複合して分布し、穿孔は單一、放射組織は異性で1~2細胞幅、年輪界はない当年枝である。各分類群の特徴的な材形質は、少なくとも2年目以降でなければ発現されないので、種類は特定できなかった。

単子葉類 Monocotyledoneae Ph.141 12-13 (SC26-15) 14 (SC26-26)

SC26の試料15・16・26に見られた草本の集積した層の断面を観察したが、分類群は不明である。比較的の形状の保たれたものについて記載する。維管束は、単子葉類に特有の不整中心柱であるが、大型の竹類に見られる非常に発達した鞘細胞は維管束の周囲に見られない。茎の断面は円形または円形が

潰れた状態が観察された。従って茎の断面が三角形であるカヤツリクサ科ではないことが判る。茎(桿)は中空ではなく、柔細胞で埋まっていたようである(写真12)、表皮下に配列する維管束は小さく厚膜の細胞層が発達していた。写真13は、折れ曲がった表皮系の内側に沿って維管束が配列しているが、桿の表皮下のように厚細胞層は発達していないので葉の断面かも知れない。写真14では、異なる種類または異なる部位の茎断面が見られる。なお節のある部分は見つからなかった。

住居の屋根材・壁材にはススキ類の利用が考えられ、写真12の組織はススキの断面に似るが、多くは組織的にススキ属と断定できるような状況ではなかった。

#### ④まとめ

古墳時代中期(5世紀後半)の2件(SC26とSC39)の竪穴住居から出土した炭化材からは、10分類群の広葉樹材が検出された。シノキ属が最も多く、このほかにもアカガシ亜属・ツバキ属・モッコク・シャシャンボなどの常緑広葉樹材が圧倒的に多く使用されていたことが明らかになった。これらは、直径2~5cmの丸木の形状で出土したものが多く、樹皮が付着していたものもあった。このことから、用途にあった太さの材を選別し伐採して使用したと予想され、その事が複数の樹種が使われていた事とも関連していると思われる。もっと太い材から加工(板状や分割材)して利用したと思われる形状の炭化材樹種は、やはり常緑広葉樹のシノキ属とアカガシ亜属が多く、このほかに落葉広葉樹のクワ属?とアワブキもあった。

屋根材や壁材あるいは敷き物であったのかもしれない草本類の塊は、主に単子葉類の茎(桿)が一定方向に集積した層が向きを変えて重なる構造が見られた。層と層の間には、細い当年枝の広葉樹が散在していた。経験的なことであるが、今までにも屋根材もしくは壁材と推定される試料には、草木類のほかに細い広葉樹材がしばしば混じっている事がほかの遺跡調査でもあった。今回、細い広葉樹材が草木類の層と層の間に挟まれて入っているのが確認できた。細い広葉樹材は単に混入したのではなく、構造の上で必要な部材であったのではないかと思われた。

Tab.78 立花寺B遺跡6次調査の竪穴住居(5世紀後半)出土炭化材樹種同定結果

竪穴住居 SC26		樹種		備考(大きさ・断面形状など)	
試料	樹種				
1	シノキ属				
2	シノキ属	φ 3cm	丸木		
3	ツバキ属	φ 5cm	丸木		
4	アカガシ亜属	幅8cm	分割材 マテバハイ属の可能性あり		
5	アワブキ	推定φ 6cm	4分割材		
6	シャシャンボ	φ 3.6cm	丸木 樹皮有り		
7	シャシャンボ	φ 1.5cm	丸木		
8	アカガシ亜属	幅4cm	分割材		
9	アカガシ亜属	幅8cm	板状		
10	ヒサカキ	φ 2cm	丸木		
	単子葉類		集積		
	シノキ属	φ 0.5cm	丸木		
11	アワブキ	幅8cm	分割材		
12	アワブキ	φ 8cm	芯持ち 半截		
13	ヒサカキ	φ 5cm	芯持ち 半截 樹皮付き		
14	不明		保存悪い		
15	単子葉類	径1~2mm	多数が同一方向に集積 集積層は向きを変えて互層		
	広葉樹	φ 0.5cm	当年枝		
16	単子葉類		集積した層の中に散在		
17	アワブキ	φ 3cm	丸木		
18	モッコク	φ 3.5cm			
19	シノキ属	φ 3.5cm	丸木		
20	アワブキ	φ 2.5cm	丸木		

竪穴住居 SC39		樹種		備考(大きさ・断面形状など)	
試料	樹種				
1	ツバキ属				
2	シノキ属			板状?	
3	シノキ属			分割材	
4	アカガシ亜属	φ 2.0cm		角形? 分割材	
5	アワブキ			芯持ち 半截	
6	アワブキ			分割材	
7	シノキ属			分割材	

## (5) 立花寺B遺跡出土初期須恵器の蛍光X線分析

三辻利一（大谷女子大学）

### ①はじめに

土器類には多数の元素が含有されていることは周知の事実である。仮に、これらの元素をすべて測定できたとしても、須恵器産地推定法は開発できるかどうかは疑わしい。その理由は須恵器窯が余りにも多過ぎるからである。多数の須恵器窯を窯群に整理できない限り、産地推定法は開発できないのである。分析元素の中から、少数の窯群に整理できるような特別な元素を探し出さなければならない。そのためには、実際に、全国各地の窯跡出土須恵器を大量に分析してみなければならない。こうした考え方で、20年を越える年月をかけて全国各地の窯跡出土須恵器が分析された。その結果、K、Ca、Rb、Srの4元素が有効な地域差を表す元素であることが見つけ出された。そうすると、須恵器産地推定とはこれら4元素を使って、指紋合わせの考え方で消費地窯跡出土須恵器を生産地である窯群に結びつけることである。そのため、これら4元素を指紋元素と呼ぶ。そして、消費地を生産地に結びつける方法として、2群間判別分析が適用されることになった。指紋元素と2群間判別分析が須恵器産地推定法の骨格をなす。上記4元素以外にも、特定地域の須恵器の特徴を表す元素はある。例えば、Na、Fe、Scなどである。しかし、これらの元素はK、Ca、Rb、Srほど普遍的な地域差を表さないので、現在、参考程度に使用されているに過ぎない。Si、Alも地域差を表すという報告もあるが、問題はこれら2元素が普遍的な地域差を表すかどうかである。もし、そうでないと、多数の窯を窯群に整理することは困難である。窯群に整理できずに、多数の窯をそのまま放りっぱなしにしておくと、その中から、生産地を選び出す作業は困難をきわめる。4元素が何故、指紋元素になりうるのかについては、例えば、日本列島の地質の基盤を構成する花崗岩類の広範囲にわたる分析化学的研究が必要である。このような視点から、筆者は全日本の花崗岩類も分析した。その結果、花崗岩類にも上記4元素によって、地域差があることがわかった。これに対応するようにして、窯跡出土須恵器にも地域差があることもわかった。その原因は花崗岩類中の主成分鉱物である長石類に起因するためであると考えられている。恐らく、カリ長石に富むアジア大陸の花崗岩類と、斜長石に富む太平洋底の玄武岩の狭間に介在する日本列島の位置がその背景にあるものと推察される。

開発された産地推定法を適用するうえに最も適用しやすい系が初期須恵器である。窯数が少ないからである。初期須恵器の窯の多くは和泉陶邑にあることは周知の事実である。地方窯は限られた地域に少数、見つけられているに過ぎない。須恵器生産の技法が朝鮮半島から伝えられたことを考えると、地方の初期須恵器の窯が朝鮮半島に近い福岡県内に多いことも理解できる。須恵器産地推定法はまず、福岡県内の初期須恵器の窯周辺にある古墳出土須恵器に適用された。その結果、地元、朝倉窯群の製品に混じって、多数の陶邑産の須恵器が出土することが判明した。それ以降、福岡県内の古墳出土須恵器の産地推定には地元産か、陶邑産かを問う2群間判別分析法が適用されることになった。その逆の、畿内の5世紀代の古墳出土須恵器の産地推定には陶邑産か、地方窯産かを問う2群間判別分析法が適用された。もちろん、母集団を入れ替えて、伽耶群や百濟群を母集団として2群間判別分析することもできる。その結果、畿内の古墳から地方窯産の製品は全く検出されておらず、朝鮮半島産の陶質土器もほとんど検出されていない。他方、地方窯周辺の古墳には地元産の須恵器に混じって、陶邑産の須恵器が続々と検出されてきた。陶邑産の須恵器は北は岩手県から南は鹿児島県に至るまで全国各地の古墳へ一方的に供給されていた事実が明らかになってきた。こうした背景をもって、本報告では立花寺B遺跡から出土した初期須恵器の蛍光X線分析の結果について報告する。

### ②分析方法

土器片表面を研磨し、胎土を粉碎したのち、高圧をかけて粉末試料を錠剤に固めることは従来と同じである。分析には奈良教育大学に設置されている波長分散型の完全自動蛍光X線分析装置（理学電機製、3270型機）を使用した。分析値は同時に測定した岩石標準試料、JG-1による標準化値で表示した。

### ③分析結果

分析値はTab.79にまとめられている。全分析値はJG-1による標準化値である。分析値のままで分析結果は理解し難いので、通常、まず、K-Ca、Rb-Srの両分布図を作成して、データ解析の糸口を掴む。Fig.198には両分布図を示す。ほぼ、3群に分かれて分布することがわかる。ここで、念のため、クラスター分析を試みた。その結果はFig.199に示されている。Fig.198からも予想されるように、3群に分類されている。こうしてまず、今回分析した試料は少なくとも、3ヶ所の生産地から供給されたものが混ざっていることが判明した。

つきの問題はこれらの生産地は何処かという座地問題である。初期須恵器であるから、地元生産地としては朝倉窯群、新貝窯、神籠池窯、重留窯が選択された。また、外部生産地としては陶邑窯群が選択された。判別分析を行うために、これら母集団からのマハラノビスの汎距離の二乗値がK、Ca、Rb、Srの4元素の分析値を使って計算された。その結果はTab.80にまとめられている。さらに、ここ結果を分かりやすくするために、陶邑群と朝倉群間の2群間判別図を作成した。その結果をFig.200に示す。陶邑領域と朝倉領域はそれぞれ、陶邑群の任意に選択された145点の試料を、また、朝倉群の109点の試料を使って求められた両群への帰属条件から描かれたものである。そうすると、今回分析した試料の中に陶邑産の須恵器が含まれておれば、その須恵器は陶邑領域に、朝倉窯群の製品が含まれておれば、朝倉領域に分布するはずである。そして、両群以外の生産地の製品が含まれておれば、不明領域に分布することになる。No.1、4、9、16の4点はTab.79に示すように、クラスター分析ではA群に分類された試料であるが、Fig.200の判別図では朝倉領域に分布することがわかる。さらに、No.5、7、8、10、11、13、14、15の8点はクラスター分析ではB群に分類された試料であるが、これらは陶邑領域に分布することがわかる。そして、C群に分類されたNo.3、6、12の3点は不明領域に分布し、陶邑群の製品でもなく、朝倉群の製品でもないことがわかった。問題はNo.2の試料である。クラスター分析ではC群に分類されているが、他の3点とは類似度は低く、大枝でむすびついているに過ぎない。しかし、Fig.200の判別図では陶邑領域の端に分布する。 $D^2(\text{陶邑}) < 10$ の帰属条件を単純に受け入れると、陶邑群と判断されるが、ここは要注意である。Fig.198の両分布図をみると、No.2は陶邑領域から明らかに離れて分布することがわかる。とくに、陶邑窯群の試料の中には、Kの分析値が0.60を越えるものはほとんどないので、この試料は陶邑産の可能性は低いとみられる。この両分布図からはNo.2は産地不明としておく。なお、不明領域に分布した3点の試料は統計計算の結果、 $D^2(\text{新貝}) < 10$ の帰属条件を満足したので、新貝窯産と推定した。神籠池窯、重留窯に帰属する試料は1点もなかった。

以上の結果、今回分析した試料のなかには、陶邑産が8点、朝倉群産が4点、新貝窯産が3点あることがわかった。

新貝窯、重留窯の試料は10点ほどしかなく、統計計算の母集団の試料数としては不足する。分析する機会があれば、試料数を増やしておきたい。

九州北部地域の初期須恵器の座地推定のデータは今後も、集積していくことは重要である。朝倉窯群も新貝窯、重留窯も操業期間はそれほど長くはなかったと推定される。陶邑産と推定される須恵器

との時期差の問題も次第に考察の対象として上がってくるであろう。また、陶邑から供給された須恵器の器種にも偏りがあるのだろうか、データが集積されるにつれて、次第に考古学の問題が浮上していくものと予想される。

Tab.79 立花寺B遺跡出土初期須恵器の分析データ

試料No	遺物No	出土遺構	器種	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類
1	86	SC26	杯身	0.388	0.388	2.31	0.301	0.320	0.222	A
2	126	SC32	杯蓋	0.576	0.232	2.36	0.703	0.604	0.392	C
3	135	SC33	杯蓋	0.596	0.375	2.09	0.696	0.897	0.637	C
4	140	SC34	盤	0.332	0.453	2.32	0.311	0.330	0.244	A
5	139	SC34	杯蓋	0.498	0.092	2.07	0.460	0.341	0.216	B
6	157	SC36	杯蓋	0.547	0.426	2.14	0.598	0.726	0.454	C
7	233	SC42	壺	0.511	0.093	1.96	0.497	0.274	0.098	B
8	321	SD14	無蓋高杯	0.395	0.054	2.24	0.526	0.208	0.101	B
9	326	SD14	無蓋高杯	0.342	0.500	2.32	0.317	0.355	0.257	A
10	314	SD14	高杯蓋	0.458	0.034	2.11	0.499	0.214	0.166	B
11	371	SD14	壺	0.471	0.084	2.95	0.487	0.325	0.275	B
12	322	SD14	無蓋高杯	0.536	0.447	2.10	0.624	0.704	0.466	C
13	312	SD14	高杯蓋	0.428	0.110	1.79	0.710	0.276	0.097	B
14	341	SD14	盤	0.529	0.159	1.87	0.581	0.374	0.431	B
15	319	SD14	有蓋高杯	0.533	0.019	2.08	0.571	0.241	0.211	B
16	305	SD14	杯身	0.345	0.443	2.28	0.307	0.345	0.282	A

Tab.80 各母集団からのD<sup>2</sup>値

試料番	遺物No	D <sup>2</sup> (陶邑)	D <sup>2</sup> (朝倉)	D <sup>2</sup> (新貝)	D <sup>2</sup> (神籠池)	D <sup>2</sup> (垂留)	推定産地
1	86	120	7.1	263	235	539	朝倉群
2	126	9.8	349	69.1	222	708	不明
3	135	40.0	936	50.5	181	388	新貝群
4	140	176	2.1	322	267	764	朝倉群
5	139	5.2	107	59.6	40.8	2500	陶邑群
6	157	42.9	441	1.0	61.3	624	新貝群
7	233	5.4	87.4	57.2	38.5	3890	陶邑群
8	321	1.5	197	139	123	7823	陶邑群
9	326	213	4.3	320	258	1357	朝倉群
10	314	4.5	121	81.2	67.1	6587	陶邑群
11	371	2.9	96.5	46.2	45.1	3517	陶邑群
12	322	54.1	369	4.8	102	440	新貝群
13	312	5.1	543	174	346	10000	陶邑群
14	341	2.4	133	35.4	58.1	2750	陶邑群
15	319	11.2	162	55.0	73.8	7529	陶邑群(?)
16	305	160	4.2	294	253	857	朝倉群

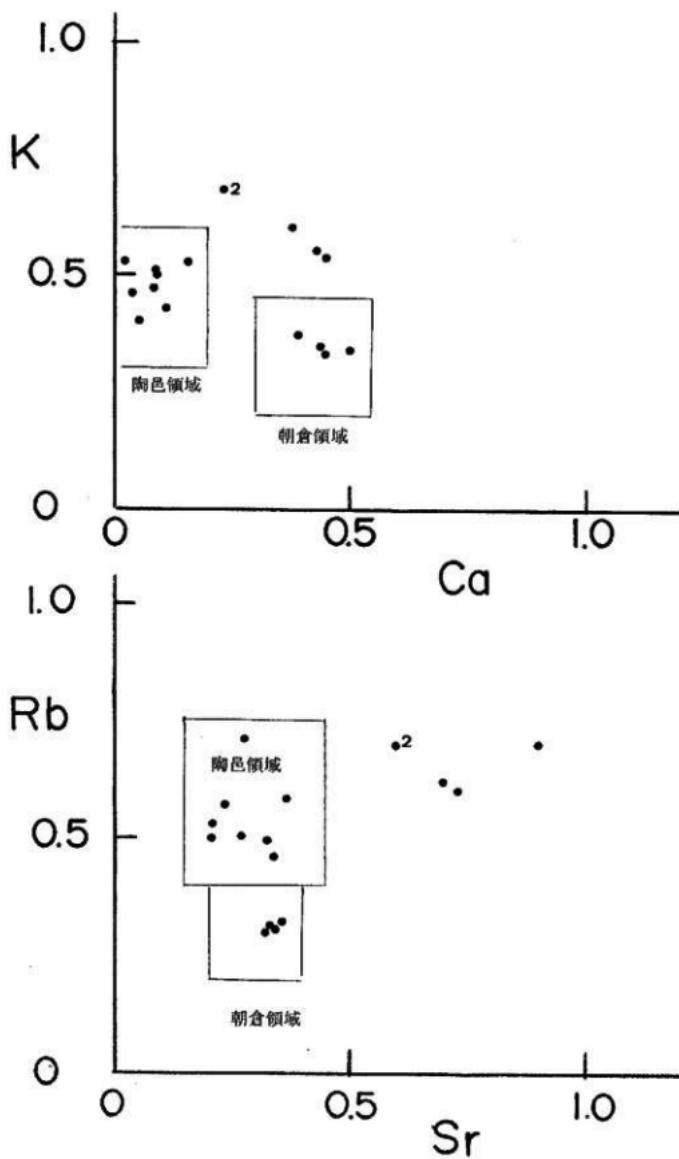


Fig.198 立花寺B遺跡出土初期須恵器の両分布図

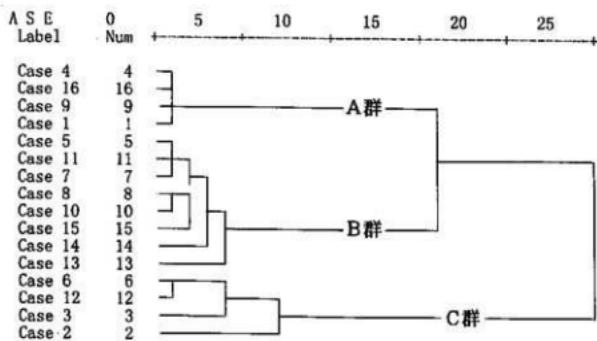


Fig.199 立花寺B遺跡出土初期須恵器のクラスター分析

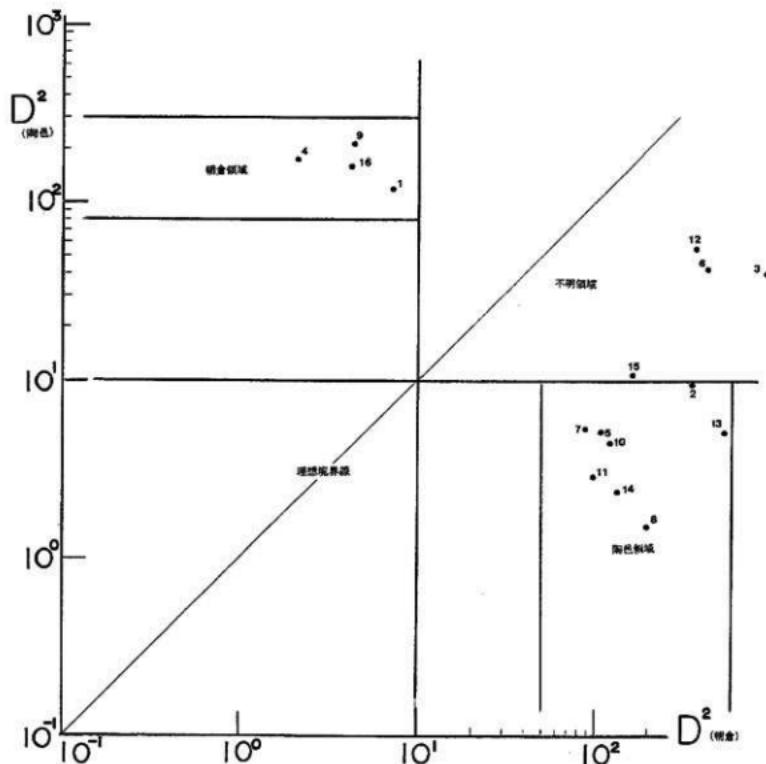


Fig.200 立花寺B遺跡出土初期須恵器の産地推定

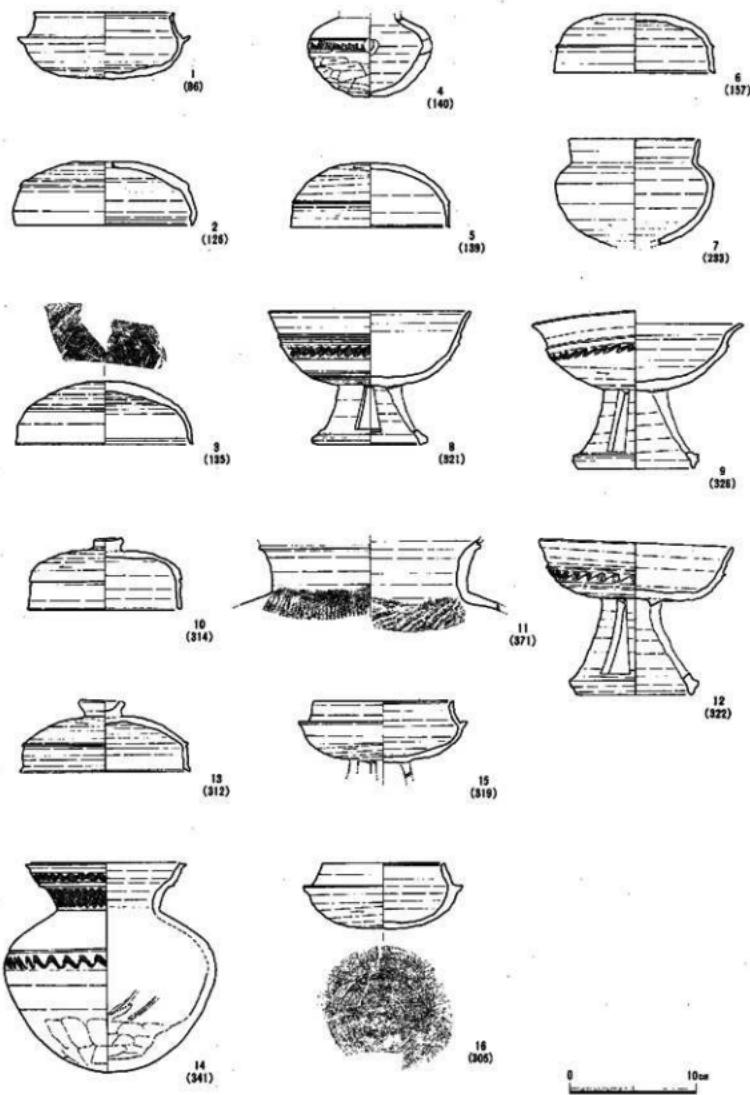


Fig.201 分析須恵器実測図 (1/4)

## V ま と め

最後に4次～6次調査のまとめを簡単にまとめておこないたい。今回の調査で立花寺B遺跡の南部の状況がかなりの部分わかつてきた。

まず、最大の成果は古墳時代中期末から後期初頭の集落の発見である。6次調査A-1区とC区西端に明瞭な遺構がみられた。これまでこの時期の集落は福岡市内では吉武遺跡群で調査されたのみであった。早良区有田遺跡群や博多区那珂・比恵遺跡群など弥生時代から古墳時代にかけて大集落であった場所でもこの時期の遺構はほとんど発見されていない。西区飯氏遺跡や博多区上月隈遺跡、東区三苦遺跡などで竪穴住居が発見されているが、発見されるのは数軒のみであり、福岡市内から一斉に人がいなくなったかのような状況であった。

そのような中で立花寺B遺跡において30軒の竪穴住居、8棟の掘立柱建物が発見されたのは驚きを超える衝撃的ですらあった。A-1区の2,500坪の中に河川があり、谷頭があり、30軒の住居があり、更に調査区外へ集落は続いている。

また、その規模の大きさとともに驚きなのがその立地であった。御笠川のほとんど川岸にあたり、現在でも水害の影響を受けやすい場所である。当時は自然堤防上と後背湿地にあたると思われるが、それまで暮らしていた台地からおりて、不安定な場所に移動するには何らかの原因があったと考えられる。それが自然的要因なのか、社会的要因なのか検討が必要であろう。この時期の集落が同様の立地をしているのが一般的であるとしたら、これまで発見されていない遺跡が、市内の低地部に眠っている可能性があり、今後注意を要する。

検出された住居は正方形～長方形のプランで、ほとんどが4本柱である。カマドを持つものもあるが、形をとどめるものがなく、痕跡を確認したのみであった。粘土で構築している。支脚は土製の専用のものを使用していたようである。

集落の存続期間は比較的短い。50年程度であろうか。調査時の切り合いの判断に間違いがあったとしても、同時存在が不可能な最大の重複は3軒(SC24・25・26とSC42・43・44)である。住居の覆土の堆積状況をみると焼失家屋のSC26以外は自然に埋没しており、洪水による一瞬の埋没はみられない。しかし、調査区の土層の形成から、かなりの部分が流失したと考えられ、洪水による廃絶の可能性もある。また、流失した部分で隔離されたため、A-1区とC区西端との関係は不明だが、同時存在とするなら竪穴住居中心のA-1区と、掘立柱建物中心のC区というように集落内の建物構成が異なっており、興味を引く。しかしながら今回調査した範囲内は一般集落的様相を示し、支配者の存在を示すような遺構・遺物は見あたらなかった。

今後、周辺の調査では、流失していない部分が島状に残っている可能性を考えつつ、下層まで掘り下げる必要がある。

出土した須恵器はI型式3段階からII型式2段階の定型化した初期のものが中心である。そのうちの一部、16点の蛍光X線による产地推定の結果、陶邑窯8点、朝倉窯4点、新貝(新開)窯3点、不明1点となった。出土遺構、時期、器種等を考慮に入れないランダムなサンプリングであったが、半数を陶邑窯の須恵器が占めることは、陶邑の生産量の多さと、大量の品物を運搬する技術、そして畿内勢力の影響が九州の一集落に及んでいることを示すものであろう。今後、更に分析数を増やし、出土遺構、時期、器種等を考慮に入れ、検討していきたい。

SD14、SX15からはミニチュア土器や滑石製品などの多数の祭祀品が出土した。どちらも涌水があ

り、水辺の祭祀がおこなわれていたことがわかる。祭祀品の中には滑石製子持勾玉が5点あり注目される。一地点でこれほど出土した例はあまり聞かない。なお、福岡市内の子持勾玉の発見は今回を含めて15点を数える（Tab.81）。

また、SD14から出土した木製鞍は国内最古級の一つである。我が国での初期の乗馬の形態がわかる重要な出土品であり、今後詳細な検討をおこなう必要がある。なお、福岡市内の木製鞍の出土はほかに3例ある。西区吉武遺跡群（未報告）からは5世紀中頃の前輪が、西区元岡・桑原遺跡群（未報告）からは7世紀中頃以前の居木が、東区香椎B遺跡（市報第673集）では14世紀末の井戸から前輪がそれぞれ出土している。

集落の生活基盤を支える生産地については、北側に接する下月隈C遺跡で検出されている水田をあてて良いであろう。現在大規模に調査が行われており、今後両遺跡を結びつける遺構や遺物が出土するのを期待したい。

古代については2次調査ほどの遺構・遺物がみられなかった。中心地から離れた縁辺部にあたると考えられる。しかし、6次調査A-1区の南側で井戸が掘削されているところをみると、遺構は残されていないが、広い範囲での活動が行われていたことが読みとれよう。また、6次調査C区SK323からの墨書き土器の出土や、B・C区での越州窯系青磁、邢窯系白磁、綠釉陶器などの出土は、これまで考えられてきた通り、立花寺B遺跡が官衙的性格を持っているということを補強するものといえよう。

中世期の遺構・遺物は非常に少なかった。中心地は今回の調査地点の北から東にかけて存在するようである。当地は6次調査A-1区でのプラント・オパール分析より、水田として利用されていたと考えられる。

以上をもって立花寺B遺跡4次～6次調査の報告を終わる。しかしながら今回の報告は事実記載にとどまり、古墳時代の集落変遷や須恵器、土師器の編年といった部分にまで考察が及ばなかった。今後の課題としたい。

Tab.81 福岡市内出土子持勾玉一覧

調査番号	遺跡名	所 在 地	出 壱 状 況	法量(cm)			報 告 書
				全長	最大	最大幅	
1	-	城南区梅林井の本	単独				
2	-	博多区比恵		[8.6]	[5.8]	2.2	
3	7701	久保園1次	博多区東平尾	住居	8.2	5.3	2.1
4	8415	古武5次	西区飯盛	上坑	6.4	2.6	1.0
5	8535	古武9次	西区吉武	河川			未報告
6	9011	拾六町平田2次	西区石丸	河川	7.3	4.5	2.4
7	9677	香椎B3次	東区香椎台	山塊(単独)	[8.6]	5.5	3.0
8	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	河川	11.1	5.9	2.4
9	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	河川	[8.1]	5.7	3.6
10	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	谷頭	9.0	5.1	2.1
11	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	谷頭	7.1	4.1	2.1
12	9915	立花寺B6次	博多区西月隈	谷頭	7.0	4.6	1.4
13	9906	那珂70次	博多区竹下	方形周溝墓溝上層	10.5	5.9	2.8
14	0001	元岡・桑原20次	西区元岡	谷頭			未報告
15	0015	三吉5次	東区三吉	住居内ビット			未報告

## 立花寺B遺跡 2

—都市高速道路5号線建設に伴う埋蔵文化財調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第702集

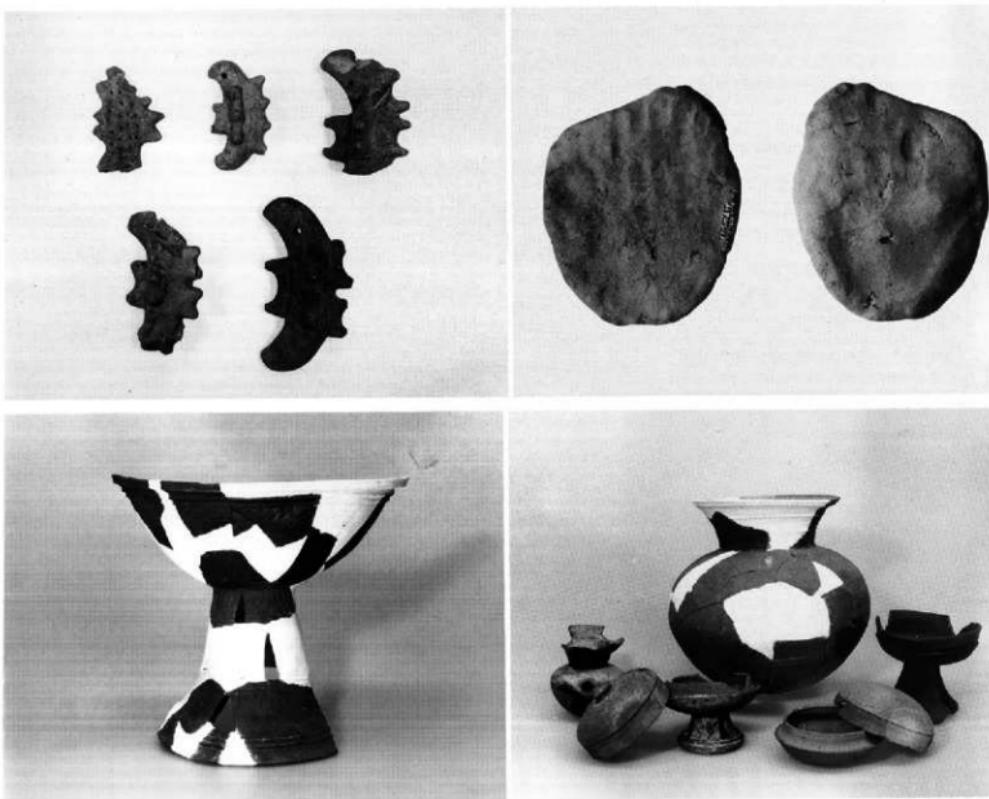
2002年3月5日

発 行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神一丁目8-1  
☎092-711-4667

印 刷 株式会社タマキ印刷  
福岡市中央区荒津1丁目4-27  
☎092-771-1551

# RYUGEJI B SITE 2

— Results of the excavation before construction of the Urban EXPWY R.5 —  
Report of Archaeological Investigations of Fukuoka city, Vol.702



2002

THE BOARD OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY